

(仮称)仙台市観光戦略2027(中間案)に関するパブリックコメント

ご意見(309件)

※実施期間:令和6年11月22日~12月23日

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
1	全体に関するご意見	口コミ獲得レースに勝つには、常設しつつも、仙台市民が仙台市内の施設を日々利用して口コミを増やすことがよいと思います。地元で愛され、日々利用していただける施設であることが必要であるように思います。仙台市民が地元で利用して、インバウンドで利用してほしい施設になることが、インバウンド需要を獲得できるのではないのでしょうか。	口コミを獲得することは、観光客の増加を図るために重要であると考えており、いつ訪れても楽しめる観光コンテンツの常設化に向けた検討を進めております。一方で、ご意見のとおり、市民の皆様も当該コンテンツ・施設を利用していただき、口コミで魅力を広げていただくことも重要な視点であると考えており、市民の皆様をはじめ、多くの方々にご利用いただけるよう情報発信の強化を図ってまいります。
2	全体に関するご意見	少子高齢化社会において、交流人口の拡大だけを目指しては仙台の都市力は下がっていくものと思えます。観光振興やまちづくりを契機に、定住・交流・関係人口を増やしていくことが重要と思えます。	観光振興を契機に、関係人口や定住人口の拡大につなげていく視点は重要であると考えております。いただいたご意見を踏まえ、地域の観光関連事業者の皆様との連携のもと、地域の観光資源の磨き上げを図り、持続可能な観光地域を目指してまいります。
3	全体に関するご意見	まず、仙台市の観光地としての認知度はまだまだ低いので、当たり前ですが仙台に観光に来る人を増やす必要があると思います。国内、インバウンド共に、仙台には歴史的なものから、SNS映えするものまで揃っているため、観客ターゲットをひとつの世代に絞るのではなく、広くそれぞれの好みを活かしたものを展開していけばいいと思います。今現状どれも中途半端になってしまっているの、歴史的なバルコヤアエルを年配の方や海外からの家族などが来やすいようにし、日本の仙台で話題のスイーツのようなものを海外の広告会社に流せば海外の若い観光客も来ると考えます。	本市の観光地としての認知度を高め、国内外から認知されることは重要な視点だと考えており、本観光戦略の推進にあたって重視する視点として、「来てもらう」という視点を位置付けております。いただいたご意見のとおり、本市は国内外に訴求し得る、多様な観光資源を有しているため、魅力ある資源を磨き上げ、有効活用しながら、6つの重点プロジェクトに基づき、施策を展開してまいります。
4	全体に関するご意見	コンテンツの創出はこれまでの観光資源の磨き上げや新たな価値創出などで一定の実績があるのではないかと思います。今後はこれらのコンテンツをどのように商品造成に繋げていくかが重要だと考えます。商品があればプロモーションを行う際にも誘客がし易い。仙台をベースに東北の周遊する方向は非常に有効だと思います。あとは商品が出来ても、収益化として自走することが非常に難しい。認知度が上がり一般の旅行者の集客力だけで成り立つ旅行商品になるまで、長めで支援を行っていく必要があると思います。	本市では、「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略」「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024」のもと、1000の体験プログラムの創出や、青葉山を活用した歴史コンテンツなど、様々なコンテンツの創出や観光資源の磨き上げを図ってまいりました。いただいたご意見のとおり、商品造成や収益化は重要な視点であり、仙台を起点とした東北周遊という方向性は有効であると考えております。重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信」では、仙台を拠点として東北を周遊する新しい旅行スタイルの提案などを施策の方向性として掲げており、県内外の自治体との連携を通して、東北一体となった広域観光を推進してまいります。
5	全体に関するご意見	SNS運用やプッシュ型の広告など、観光の広報面についての言及がインバウンド向けの発信に限定されているように感じました。すでに観光向けWEBサイトなどは充実している一方、元々リピーターになる素質を持った人(自分から情報を探索する人)にしか届かない情報にもなりうると感じます(参考資料36ページの「観光資源認知度」にもあるとおり)。より能動的に情報を届けに行く、ライト層にも届くような情報発信、ターゲットングを明確にした情報発信について注力するお考えはありますでしょうか。コンテンツの磨きこみと広報面はどちらかのみ進めても効果が薄くなってしまいうのではと感じ、戦略の両輪のように推進されていくことを期待しております。	コンテンツの創出とそのプロモーションは、両輪で取組を継続していかねければ、誘客に結びつかないものであると認識しております。重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に記載している、観光CRMの構築等を通して、ターゲットを明確にした情報の発信など、より能動的にアプローチしていく手法を増やし、プロモーションを強化してまいります。
6	全体に関するご意見	認知度に課題があるのであれば、コンテンツを増やすだけではなくプロモーションに力を入れるべきだと思うが、11ページにしか書かれていないし、外国人向けなので、国内向けにどんなプロモーションをしていくのか具体的な戦略を示してほしい。来てもらうためのセールスができれば、いつまでたっても認知度は上がらないと思う。	国外だけでなく、国内向けのプロモーションも重要であり、コンテンツとプロモーションの両輪で取組を継続していかねければ、誘客に結びつかないものであると認識しております。重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に記載している、観光CRMの構築等を通して、ターゲットを明確にした情報の発信など、より能動的にアプローチしていく手法を増やすなど、プロモーションを強化してまいります。
7	全体に関するご意見	仙台に住む大多数が仙台の観光地を問われると、自信を持って紹介できる場所がないと思っている。(知名度や魅力度が他都市と比べて大きなものがない)3行目の「あらゆる可能性を追究」するのは否定しないが、都市間競争が激化している時代にあつては、一つの価値を高める選択と集中が必要であることに加え、大上段にある計画で仙台の個性を伸ばすことが重要としているにもかかわらず、塵も積もれば山になる掲げる戦略は合っていない。もし内容は違うものであったとしても、趣旨にそのような表現があると、誤った先入観を持ってしまい、また市民の期待と違うように受け取られてしまう。「仙台の個性、仙台らしさを際立たせる」と言った文言を入れた方が良い。	中間案P.36の本市の観光資源の魅力・認知度調査では、本市の魅力度及び認知度が高い資源として「牛タン焼き」「仙台七夕まつり」「秋保温泉」「仙台城跡/青葉城址」などが挙げられる一方で、魅力度が高いにも関わらず、認知度が低い観光資源が存在しております。際立った訴求力のあるコンテンツの創出はもとより、既存の観光資源を活かしていく視点も重要だと考えており、仙台ならではの歴史、文化、自然といったコアとなる観光資源の磨き上げを図ってまいります。
8	全体に関するご意見	●カスタマージャーニー思考において、継続・新規の観光客の魅力ある来訪動機を創ることで、周知・関心・認知を通じて来訪につなげ、宿泊も含め滞在時間の拡大により消費を拡大し、再来訪につなげるファン化へ昇華させるCRMを掲げた3つの視点、6つの重点プロジェクトで680万人泊を実現する戦略としては相応しく、理にかなっていると思います。	3つの視点を踏まえた6つの重点プロジェクトに基づく各施策を展開することで、宿泊を含めた滞在時間の延長を図り、地域経済の発展につなげてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
9	全体に関するご意見	そもそもインバウンドで食べて行けるほど外国人も来ていない。そしてオーバーツーリズムが起きたとき、市民に大変迷惑を被るので観光を豊かする点については反対です。昨今外国人のマナー問題等は何も解決しておりません。仙台市はイベント等で市民が苦しんでいた姿を見て見ぬ振りをしているのでしょうか。本当に観光で食べていく、観光が儲かる天秤に測ってもむだです。	本市の外国人宿泊者数は、2023年に過去最高となる33万8,000人泊を記録したものの、東北六県の外国人宿泊者のシェアは1.3%と、日本全国と比較すると少ない現状があり、インバウンドの獲得に向けた施策を強化してまいります。大規模イベント等でオーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。
10	全体に関するご意見	このご時世SNS活用は観光促進において特に重要だと感じております。SNSがあることで、PRが一過性のものにならずアカウントが残る資産的な観光資源となります。さらに、こうしたアカウントの認知が拡大していくことで市民自身も仙台を紹介する際に「せんだい旅日和を見てみて」と、紹介がしやすくなると思っています。意見ではないのですが、こうした行政起点のSNS活用は今後も継続していただければともありがたいです。	観光情報の発信やプロモーションにおいて、SNSの活用は重要だと考えております。(公財)仙台観光国際協会では、観光情報サイト「せんだい旅日和」のアカウントとして、XやInstagram等を活用し観光情報を発信しております。また、外国人に向け様々なSNSを活用した情報発信を行っております。今後とも継続してSNSを活用した発信に力を入れてまいります。
11	全体に関するご意見	ナイトコンテンツに限ると「ルールを変えて進めるべき」はまさに自治体ぐるみで必要な取り組みだと思えます。	ナイトコンテンツの充実、来訪者の滞在時間延長や、宿泊に直結する重要な取り組みだと考えており、本観光戦略の中間案では、重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」に位置付けています。観光関連事業者の皆様からのご意見を伺いながら、庁内横断的により良いルールを運用できるよう取り組んでまいります。
12	全体に関するご意見	トレーラーハウスの取り扱いについて、他の都道府県の都市と見解が異なり、仙台市は、建築基準法に適用するなど仙台市特有の規制があり、他の都市と比べて厳しいです。他の都市では、建築基準法の規制はないようです。仙台市特有の規制のように思います。他の都市と同等水準の規制にとどめていただくことを期待します。	規制の緩和にあたり、事業者の方々からの意見を伺い、他都市の事例を参考にしながら、見直すべき点や緩和が可能な部分について庁内横断的に検討を進めてまいります。
13	全体に関するご意見	資料の文字が小さくて読めない。読んでもらう気がないと思う。字が小さく、文字数も多いので改善した方がいい。	いただいたご意見を参考にさせていただきながら、文字のサイズや文字数などを含めて見やすい観光戦略となるよう努めてまいります。
14	全体に関するご意見	文字が多すぎて読む気にならない。文字を減らせ	具体的な方針や方向性、取り組みの背景をしっかりと伝えることを優先し、必要な情報を盛り込んだ結果、このボリュームになっております。要点を整理し分かりやすく伝えるものとして概要版を作成しております。
15	全体に関するご意見	「来てもらう」と書いてあることに違和感。来ていただくという表記が正しい。選ばれる都市であるという前提に違和感。仙台市はダサイ	3つの視点は多くの方に伝わりやすいように「来てもらう」「泊まってもらう」「また来てもらう」という表現を使っております。都市間競争が激しさを増す中、国内外の方に訪れていただくことができるよう、観光施策を強化してまいります。
16	全体に関するご意見	タイトルが2027年になっている。今は2024年なので、2024に直した方がいい。令和6年は2024年ですよ。	本観光戦略は、2025年度から2027年度までの3か年を戦略期間としており、最終年度となる2027年を、本観光戦略のタイトルとして設定しております。
17	全体に関するご意見	観光を基軸とした成長戦略には多くの問題があります。特に、日本が直面している少子高齢化や増税の問題は、この戦略に対する重大な批判点となります。まず、少子高齢化について考えてみましょう。日本では高齢化が進み、労働力の減少と社会保障費の増加が深刻な問題となっています。観光業は一時的な雇用を創出する一方で、長期的な経済基盤を強化するには不十分です。観光業は季節性が強く、低賃金のアルバイトや契約社員が多いため、安定した雇用を提供するのが難しいのが現状です。観光業が盛んな都市でも、観光シーズンが過ぎると雇用は激減し、地域経済は一気に冷え込みます。このような状況では、少子高齢化に伴う労働力不足を補うことはできません。次に、増税の問題です。政府が財政赤字を解消するために増税を行う際、その影響を最も受けるのは一般市民です。観光業に依存する都市は、観光客からの税収に頼る一方で、地元住民の負担を増大させる可能性があります。観光客が増えれば、インフラの整備や公共サービスの充実が求められますが、その費用はしばしば地元の税収で賄われます。さらに、観光業は景気の変動に敏感であり、国際的な経済状況や突発的な災害、パンデミックなどの影響を受けやすいです。観光収入に過度に依存する都市は、これらのリスクに対して非常に脆弱であり、安定した税収を確保するのが難しくなります。増税が繰り返される中で、地元住民の生活負担は増し、社会的不満が高まる恐れがあります。また、観光業の成長は地元文化や生活にも影響を及ぼします。観光客を迎えるために、地域の伝統や文化が商品化され、商業的な側面が強調されることで、本来の姿が失われてしまうことがあります。また、観光地化が進むことで、地元住民の生活環境が変わり、生活コストが上昇するケースも少なくありません。(次ページへ続く)	少子高齢化や増税、環境、文化への影響など、観光を基軸とした経済成長には、多くの課題があることを認識しております。観光は地域経済の重要な柱の1つであると考えており、他都市の事例を踏まえ、そうした諸課題に対応し、地域全体が恩恵を享受することができるような持続可能な観光地域づくりを目指すとともに、他分野との連携や、多様な関係者の声を取り入れながら、地域が一体となった観光振興を推進してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
17	全体に関するご意見	人気観光地では物価や地価が上昇し、地元住民が住み続けることが難しくなることがあります。観光業の成長が地域コミュニティにとって真に利益をもたらすかどうかは慎重に検討する必要があります。環境への影響も見逃せません。大量の観光客が訪れることで、自然環境や文化遺産が損なわれるリスクが高まります。過剰な観光開発が進めば、自然景観が破壊され、生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。さらに、交通量の増加やゴミの処理問題など、観光業に伴う環境負荷も無視できません。観光業が持続可能であるためには、環境保護と経済発展のバランスを取ることが重要です。しかし、短期的な経済利益を優先するあまり、環境への配慮が後回しにされるケースが多々あります。これにより、地域の自然資源が枯渇し、観光業自体の存続が危ぶまれる事態にもなりかねません。観光を基軸とした都市の成長戦略は、一見すると多くのメリットをもたらすように見えますが、その裏には多くの課題とリスクが存在します。少子高齢化や増税の問題、地元文化や生活への影響、環境への影響など、多様な視点から総合的に評価する必要があります。観光業に依存するだけではなく、持続可能な経済基盤を築くためには、多角的な成長戦略が求められます。これには、教育や福祉、技術革新、環境保護など、幅広い分野での取り組みが必要です。観光業はその一部であり、バランスの取れた政策が不可欠です。したがって、観光を中心とした成長戦略に対しては、慎重な検討と多様な意見を尊重した議論が求められます。地域社会の持続可能な発展を目指すためには、観光業のみに頼ることなく、包括的なアプローチが必要です。これにより、現代社会が直面する様々な課題に対処しつつ、豊かで安定した未来を築いていくことができるでしょう。	(P2に記載)
18	全体に関するご意見	仙台市に観光に来る際、空港と松島が仙台市内に無いというデメリットが痛すぎる。早く市内に空港と松島を誘致して、実現してほしい。実現できないのならそういうことも戦略に載せた方が良いのでは	本市は、仙台空港や松島が近接しており、エリア一体として魅力を発信できるポテンシャルを持っていると認識しております。重点プロジェクト3の施策の方向性に掲げているとおり、本市だけでなく、近接する自治体との連携を図り、お互いの強みを活かしながら広域観光を推進してまいります。
19	全体に関するご意見	目指す姿は、市の観光業界を持続可能で魅力的なものにすることです。これは持続可能な観光プロモーションと質の高い観光体験を提供することを表しています。この目標に向けた基本姿勢として、環境への配慮、地元のコミュニティとの協力や文化と歴史の尊重を目標としていくべきであると思います。持続可能な観光は、環境への負荷を最小限に抑えつつ、地元経済と文化を盛り上げていく。誘客ターゲットは、文化愛好者などの文化を好んでいる人や、環境についてよく考えている旅行者、地元の食や文化を楽しむ人々に目標を定めるべきだと思います。これらの旅行者が仙台市を訪れることで、持続可能な観光産業が促進されます。この目標を達成するための戦略は、観光プロモーションのデジタル化、持続可能な観光スポットの開発、地元産業の促進、観光業者との協力強化です。これらの戦略を通じて、市は魅力的で持続可能な観光地としての地位を強化し、地域経済と文化に貢献できます。次年度の取組事例としては、持続可能な観光スポットの設計や地元産業のサポートプログラムの具体的な実施例を示し、これらが目標達成に向けた成功例であることを大きく見せていくべきだと考えています。	いただいたご意見のとおり、持続的な観光振興は、本市の地域経済の活性化において、重要な視点だと考えております。本観光戦略では重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」を掲げており、来訪者のだれもが安心して快適に観光することができる受入環境の整備や、DX、サステイナブルな取り組みなどを通して、持続可能な都市として魅力を強化してまいります。
20	全体に関するご意見	仙台観光の現状分析がない中で、本戦略がまとめられていることで、現状肯定を前提とした戦略となつていと感じる。	現行の観光戦略である「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024」の重点プロジェクトに基づく施策の実績とその課題について、中間案P.25からP.30に掲載しております。また、本市を取り巻く観光の実態データを、P.31からP.46に掲載しており、これらを踏まえて本観光戦略の中間案を策定しております。
21	全体に関するご意見	本市では、これまで「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024(2022年4月～)」のもと、旅行消費の拡大による地域経済の活性化と交流人口ビジネスの発展、経済循環・雇用創出を目的に様々な施策を推進してきました。現行の戦略が今年度をもって終期を迎えることから、これまでの取り組みを踏まえ、このたび、中間案を取りまとめましたので、市民の皆様からのご意見を募集します。この前回の戦略は失敗だったと思うのですが、失敗した原因や分析を述べてほしい	現行の観光戦略である「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024」のもと取り組んだ実績等については、中間案P.25からP.30に掲載しております。目標値として650万人泊を掲げておりますが、2023年は600万人泊を超え、外国人宿泊者数も過去最高を記録し、コロナ禍から順調に回復しているところです。現施策の振り返りなどを踏まえ、課題を分析し、新たな観光戦略として、3つの視点と6つの重点プロジェクトを設定しております。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
22	全体に関するご意見	<p>私は目指す姿に対して、仙台市は多様性あふれる魅力のあるまちづくりやグローバル都市としての競争力の強化などを挙げているが、仙台市は交通の便が発達しており世界中からさまざまなクルーズ船が寄港したり、海外との海運や航空での輸送の中心地となる都市であると考えているためグローバルでの競争力の強化や多様性溢れるまちづくりを行うことは多様性が重要視されている世界の流れに乗ることにより海外から仙台の存在感を示し、物流の拠点として今以上に海外との交流が増えることが期待される。しかしながら、この案にはいくつかの問題点が存在し、最終的には反対せざるを得ないと思う。</p> <p>まず、仙台市の現状を考えると、少子高齢化が深刻な問題として浮かび上がる。仙台市も例外ではなく、高齢化が進む中で労働力の確保が難しくなることが予想される。観光業や国際交流は一時的な経済効果をもたらすかもしれないが、長期的な雇用や経済基盤の強化には結びつかない可能性が高い。</p> <p>また、増税の問題も無視できない。観光客が増えることによってインフラ整備や公共サービスの需要が高まり、結果的に地元住民の負担が増大するリスクがある。観光業の収益は景気変動や国際情勢に大きく影響されるため、安定した税収を確保するのは難しい。増税が繰り返されることで、市民の生活への影響が懸念される。さらに、観光業の成長が地元文化や生活環境に与える影響も考慮する必要がある。観光地化が進むことで物価や地価が上昇し、地元住民の生活が圧迫されることがある。伝統的な文化や生活様式が商業化されることで本来の魅力が失われるリスクもある。</p> <p>環境への影響も重大な問題だ。観光客の増加による自然環境の破壊やゴミ問題は、仙台市の持続可能な発展にとって大きな障害となり得る。短期的な経済利益を優先するあまり、長期的な環境保護が疎かにされることは避けなければならない。</p> <p>以上の点を踏まえると、仙台市が観光を基軸とした成長戦略を採用することには慎重な検討が必要であり、現在の提案には反対せざるを得ない。持続可能な都市の発展を目指すためには、観光業だけでなく、多様な視点からバランスの取れた政策を推進することが求められる。</p>	<p>少子高齢化に伴う労働力の不足や、地元住民への負担、文化や生活環境への影響、さらには環境保護といった様々な課題についてご意見をいただき、今後の観光振興の参考にさせていただきます。労働力の不足については、宿泊事業者の人材確保支援を行うなど、経営基盤の安定化を支援するとともに、市民の皆様にも理解を得る取り組みを進めながら、地域の魅力を誇りに思える観光振興を推進してまいりたいと考えております。</p>
23	全体に関するご意見	<p>目標がわかりません。カタカナだらけの説明文。歴史のある物を守り、維持することを考えているのか？</p> <p>市民を大事にせず、観光客ばかり優遇するの</p>	<p>本観光戦略の目標は、本市の地域経済を持続的に発展させることを目指し策定するものであり、市内延べ宿泊者数680万人泊を達成目標に掲げております。歴史あるものを守る視点は重要だと考えており、重点プロジェクト「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」にて、本市はじまりの地である青葉山エリアの価値を新たに創出し、受け継がれてきた歴史・文化の魅力を次の世代に継承・発展させることで誘客を促進するとともに、市民の皆様と観光客の双方にとって、魅力的な都市をつくることのできるよう取り組んでまいります。</p>
24	全体に関するご意見	<p>均整の整った都市景観デザインや交通環境の向上。化石燃料に依存しないジェネレーター整備、水素燃料を基本とした都市交通の整備、水素バス・水素ライトレールの整備。米国シアトルを例として、通年で国際的なイベントを開催する企画の実施。英語対応が可能を基本とする観光ガイドの配置。</p>	<p>都市景観デザインや交通環境の向上、国際イベントの開催、英語対応観光ガイドの配置など、いずれも本市の持続的な観光地づくりにおいて重要な視点だと認識しており、今後の観光施策の参考にさせていただきます。</p>
25	全体に関するご意見	<p>仙台市に圧倒的に欠けているのは、訪れた人へのおもてなしです。</p> <p>例えば市民会話の評判についてはリサーチされているでしょうか。トイレが少ないため近隣施設を利用する人が多く、使用禁止のお達しが出ています。公演後のトイレ利用を禁じているためです。また会場からの動線についても多くの不満の声をXでも拝見しました。イベントでにぎわい創出は結構ですが、訪れた方々の顧客満足度を上げなくては、その前後の観光に繋がりません。また顧客満足度が高ければ、イベントがなくともリピーターを生みます。</p> <p>もちろん運営側の手配に問題はあるかと思いますが、長期的観点で述べている「しくみを創る」において、基準を設けるというのは含まれないでしょうか？</p> <p>例えば、参加予測人数に対しての設備数や、最寄り駅への動線の確保(警察等への申請を含む)といったインフラの一定の基準を仙台市独自に設けて建物建設の許可を出す。もう既にある建物で問題のある箇所では、動線となる道沿いに、災害時に活用出来るベンチやトイレを配置し、人々が休憩出来る空間を増やす。各地のイベント会場では、会場周辺に休憩可能な(待機時間を過ごせるような)休憩箇所がいくつもありません。正直、他都市はおもてなし度で言えば高かったです。例えば某球場など、2万人の方が訪れたイベントでしたが、待っている間は少しでも涼しい場所を求めて座り込む難民キャンプのような状態でした。スペースはあるのに座って休めるところがほぼ皆無。敷物必須の状態でした。(次ページへ続く)</p>	<p>本市へ来訪される方へのおもてなしについて、満足度の向上やリピーターの創出に向けて、受入環境の整備や訪問者の視点に立った取り組みは欠かせないものと認識しております。必要なインフラ面の整備など、快適な環境を提供することで満足度を高め、訪れた方に「また来たい」と思ってもらえることは、本市の観光振興の鍵となると考えており、今後の観光施策の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
25	全体に関する ご意見	同じ市内であるにも関わらず、移動と待機で疲労困憊となり、とても近隣店舗で飲食とはなりませんでした。時間に余裕があれば近隣の観光も考えますが、それには「イベント会場への動線」が大きく影響します。最寄り駅へのスムーズな動線や交通手段を確保出来ていなければ、その余裕は生まれません。仮に余裕がなかったとしても、気持ち良く行き来することが出来れば、改めて観光だけに来ようとなるはず です。 持続可能な取組として、リピーターを生み出すためにはインフラ整備は大変重要なポイントです。 仙台市の取組は残念ながらそのインフラ整備に力を入れていると思えません。新しい建物が出来て、いきなり不平不満ばかりが巻き起こるなど、おもてなしの気持ちを持ったインフラ整備をしていればありえない ことです。 ここんとこの考えをお聞かせください。	(P4に記載)
26	全体に関する ご意見	なぜ視点が3つしかないのか。 もっとやるべきことはあるでしょう。また重点プロジェクトも6つしか無いのは残念。 他は重点事項では無いということで、積極性に欠けるものとなっている。 いじめ問題や職員の盗撮なども取り上げないといけ無いものはたくさんある。 その他の欄いらないです	本観光戦略において、これまでの取り組みやデータを踏まえ、3つの視点とそれに基づき 重点的に取り組んでいく6つのプロジェクトにまとめております。本観光戦略のもと、観光 関連事業者をはじめとした多様な関係者の皆様からご意見を伺い、社会情勢や新たな ニーズなどにも柔軟に対応しながら、観光施策を推進してまいります。
27	全体に関する ご意見	私は、素案中の「目指す姿」において、地名や国名を具体的な目標として掲げることが必要だと考える。  この素案には仙台市がMICEを通じて今後目指していく姿が記載されている。そこには、観光業の興隆を 重点にした要素がまとめられていた。加えて、単なる観光事業にとどまらず、世界情勢に鑑みて持続可能な 社会を意識した取組も盛り込まれており、先進国としての資質を備えた素案だといえる。しかし、私はこの 素案が具体性を欠いていると考えた。特に、素案の中の「目指す姿」において具体性を欠くことは、素案段 階であることを考慮しても得策ではないと考える。なぜなら、具体的な目標が定められていない場合、取組 に対する意欲を醸成することが困難だからである。例えば、マラソンという競技には42.195kmという大 変長い距離が設定されているが、例年多くの人々が参加する人気スポーツになっている。では、マラソンに距 離の設定がなければいったい誰がこの競技に参加するのか。むしろ、ゴールのないマラソンは競技として破 綻しており、参加する意義を失っている。つまり、長期間かつ大規模な計画ほど、市民の協力を得るためには 具体的な目標設定が欠かせないといえる。データから推察すると、MICEに具体的な目標が定まっていな いことで、MICEがもたらしている効果と仙台市の発展に乖離が生じてしまい、MICEが寄与していない という結果になったといえる。さらに、同データには「どちらとも言えない」という層がほかのどのデータより も多く含まれている。このことから、MICEが目標設定と現実性を欠いているため、市民側の実感が薄い のだといえる。以上の点から、具体的な目標を掲げない場合、市民の協働意欲を醸成することができず、行 政がおよそ独断専行する形で戦略を実施する形式になってしまうといえる。無論、この戦略には市民ととも に創っていく旨が記載されているため、市民と行政の間に溝ができてしまっただけの本末転倒である。とりわ け、観光公害の側面を考慮すれば、市民と協働することは不可欠であるといえる。だからこそ、具体的な目 標設定をすることが、市民と観光MICE戦略を実施する上で欠かせないと考えた。具体的な地名の例とし てはシンガポールを挙げる。なぜなら、シンガポールは観光と経済が一体化しており、環境面でも両者とも に豊かな海洋を持っているため、現在の仙台と類似点を多く持っているからだ。また、人口や観光収入はシ ンガポールに軍配が上がるものの、仙台の将来像として位置付けるならば闇雲に計画を実行するよりも高 い効果が得られると考える。加えて、シンガポールは自然とも一体化しており、持続可能な社会の一端を 担っているといえる。このことから、SDGsに敏感な外国人観光客をターゲットにしている仙台市にとっ て、きわめて模範的な都市である。実際に、シンガポールを目標として設定するならば、その国で行ってい く観光推進事業は大きな経験値になる。さらに、シンガポールの目を引くような数々の建築物は、既にいく つかの象徴的なビルを持つ仙台市にとって新たなシンポールの参考となりえる。また、シンガポールの良い面 だけでなく失敗した点や改善点も得られる。以上の例を考慮すると、具体的な目標を設定することは市民 意識の醸成に加えて、事業実施における注意点や改善点を発見することに資する。このような点も含めて、 私はMICE戦略を実施する上で具体的な地名や国名を掲げることを提案する。	本観光戦略は、仙台ならではの特性を活かし、今後の目指す方向性を定めているもので す。目標値として680万人泊を掲げるとともに、様々なモニタリング指標を設定するほ か、個別の事業においてもデータなどを用いて効果を検証してまいります。ご提案をいた だいたシンガポールの事例については、今後の観光振興の参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
28	全体に関するご意見	仙台市の特徴は、松島、石巻などをはじめとした観光地が豊富であるという点である。これらの観光地を仙台市の目玉として、Instagramなどに掲載し、広く周知させることで、結果として観光客数が増え観光消費額を上昇させる事に繋がると考えられる。しかしながら現時点で、旅行者満足度の数値も約90%と、決して低い数値ではないと考える。つまり、既に観光都市としての実績は得られていると予想できる。したがって、今よりも視点を変えて観光客を増やす必要があると考える。それは、歴史の視点など様々である。一捻り加えることでさらに仙台市のポテンシャルを向上させられると考えている。	本市の旅行者満足度は76%(令和5年度仙台市観光実態調査)であり、さらに観光客の満足度を上げリピーターにつなげるためには、新たな視点での魅力発信が重要であると認識しております。新たな財源の活用なども通して、これまで実現することができなかった、訴求力のある観光コンテンツの創出や、誰もが快適に楽しむことができる受入環境の整備に取り組んでまいります。
29	全体に関するご意見	「美味しいものを食べたい」「可愛いものが欲しい」「買い物をしたい」「綺麗なトイレを使いたい」など、女性に優しいまちへの取組が必要。食の視点が無いのが残念。	今後の観光振興にあたり、ダイバーシティの視点から、様々な立場の方々からご意見を伺いながら、施策を検討してまいります。食の視点については、重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信にて、仙台・東北各地のグルメを活用したプロモーションなどにより東北各地への誘客を促進する施策を展開してまいります。
30	全体に関するご意見	私は今仕事のために仙台で一人暮らしをしているので仙台在住ではありませんが、仙台出身ではないため、その立場から意見すると、最近では仙台市は音楽ライブ会場が多く、実際それがきっかけで仙台市にきている遠方の友達が身近にいます。しかし度々地元の人達が遊びに泊まりに来ると、遊ぶのはほとんど室内です。他都市は話題のグルメとか有名なお店が集まっているので、他都市に行きます。なので仙台市がグルメの発信地になっていけばもっと観光客増加が見込めるのではないかと思います。	中間案P.36の本市の観光資源の魅力・認知度調査では、魅力度及び認知度が高い資源として「牛タン焼き」「ずんだ餅」「笹かまぼこ」が挙げられており、グルメの魅力が高いという結果が示されております。重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信のもと、仙台・東北各地のグルメを活用したプロモーションなどにより東北各地への誘客を促進する施策を展開してまいります。
31	全体に関するご意見	市内の道路が混んでいてバスが時間通りにつかず、観光ができない。 観光客を優先してほしい	市内道路の混雑により、観光を十分に楽しむことができないという指摘について、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。
32	全体に関するご意見	「進めます」や「図ります」など具体性や積極性がない。 具体的に何をするのか記載することが必要。 これで何を伝えたいのか意味不明。	本観光戦略は3つの視点と6つの重点プロジェクトに基づいた施策の方向性を示す内容となっております。現時点では3か年の策定期間における施策の方向性を示すものとなっております。具体的な事業の内容については、毎年度予算の中でお示ししてまいります。
33	全体に関するご意見	この概要版とは何か	概要版は、策定した戦略のポイントや方向性を簡単にまとめたものとして作成しております。
34	全体に関するご意見	仙台市の観光消費額を増加させるためには、観光客が滞在する時間を延ばし、消費単価を高め、再訪意欲を引き出すことが重要となる。そのための具体的な提言を以下に示す。 まず、滞在時間を延長する施策として、訪問客に「一泊以上滞在する理由」を提供する必要がある。これには、宿泊者限定の特別な体験プログラムを用意することが効果的だ。例えば、瑞鳳殿や青葉城跡での夜間限定イベントは、昼間とは異なる静謐な魅力を観光客に伝えることができる。プロジェクトマッピングやキャンドルライトを使い、政宗公まつわる物語を体感させることで、観光地の新たな価値を創出する。これに加え、広瀬川を活用した夜間のアクティビティ、例えばナイトカヤックやライトアップされた川沿いの散策ツアーなどを展開すれば、仙台ならではの体験を楽しむ機会が増える。 次に、消費単価を向上させるためには、高付加価値の商品やサービスの提供が求められる。仙台の特産品である牛たんや笹かまぼこを軸に、高級志向の商品を開発することが考えられる。例えば、地元の名産品を使ったプレミアムコース料理や、限定のクラフト食品を開発して観光地でのみ販売する。また、観光地と連動した体験型商品も有効だ。観光客自身が「手作り笹かまぼこ体験」や「牛たんを焼くワークショップ」に参加し、出来上がった商品を土産として持ち帰る仕組みは、観光体験と物販を結びつける優れたアイデアとなる。(次ページへ続く)	滞在時間の延長や消費単価の向上に向けては、仙台ならではの自然や歴史を活かしたコンテンツや体験の磨き上げ、高付加価値な商品の開発などについて検討を進めるとともに、デジタル技術の活用については、デジタルマーケティングの推進や、CRMの導入などにより、リピーターの獲得及び消費の拡大を図ってまいります。いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
34	全体に関するご意見	<p>また、観光客の消費意欲を引き出す仕組みとして、デジタル技術を活用したプロモーションが挙げられる。スマートフォンアプリを活用し、仙台市内の観光地や飲食店で使えるデジタルクーポンを発行する。クーポンには観光客の消費データを収集する機能を持たせ、分析結果を基に商品やサービスを改善する。このような仕組みは、観光地全体のマーケティング力を向上させると同時に、観光客が仙台での消費を楽しむきっかけにもなる。</p> <p>さらに、観光客にとっての「仙台ならではの」体験を強化することも重要だ。例えば、地元の酒蔵と連携した試飲ツアーや、伝統工芸品である堆朱(ついしゅ)の製作体験は、観光客にとって特別な思い出となり、高い消費意欲を促す。これらの体験を通じて得た作品や商品を購入する仕組みを整えることで、体験が直接的な売上増加につながる。</p> <p>再訪意欲を引き出すためには、観光客に「次回は別の季節に訪れたい」と思わせる工夫が必要である。仙台の四季折々の魅力を伝えるプロモーションを強化し、春には桜、夏には七夕、秋には紅葉、冬には光のページェントといった季節ごとのイベントをPRする。また、宿泊施設や飲食店が観光客のデータを活用し、訪問後にお礼メールや次回訪問時の割引クーポンを送付するなどのアフターフォローを行えば、仙台市への愛着が育まれ、再訪率が向上する。</p> <p>最後に、観光消費額を増加させるには、地域全体の連携も欠かせない。地元住民や企業が一体となり、観光資源を活用した新たなプロジェクトを共同で実施することで、地域全体が観光客を迎える体制を強化する。地元の商店街や農産物直売所と提携し、観光地から離れたエリアへの送客を促進する仕組みも重要だ。例えば、宿泊客限定で利用できるシャトルバスを運行し、市内外の観光資源を結びつけることが、消費エリアの拡大に繋がる。</p> <p>これらの施策を複合的に展開することで、仙台市は観光消費額を大幅に向上させることができるだろう。観光客一人ひとりの満足度を高めるとともに、地域全体がその恩恵を受取る持続可能な観光モデルの構築を目指すべきである。</p>	(P6に記載)
35	全体に関するご意見	<p>攻めの観光戦略を構築するためにはまず観光地としての魅力を最大化し地域を訪れる人々に独自の体験を提供することが不可欠である観光業の競争が激化している中で他の観光地との差別化を図り持続可能な形で観光業を発展させるためにはどのような戦略を採るべきかを考察することが必要だ観光地の成功は単に観光客を増加させることにとどまらず観光地に来ることで得られる価値や体験が観光客の記憶に残り再訪を促すことが重要となるそのためには攻めの観光戦略としての明確な方針を立てることが求められる攻めの観光戦略の第一歩として観光地のブランディングを行うことが挙げられる観光地のブランドはその地域における文化や歴史、自然環境を反映させたものであり他の地域とは異なる独自性を打ち出すことが成功への鍵となる観光客は単なる観光地としての美しさや楽しさを求めるのではなくそこにしかない特別な経験を求めているそのため観光地はその地域固有の魅力を最大限に活かし観光地としてのアイデンティティを確立することが求められる例えば地域独自の文化や食、イベントなどを前面に押し出し観光地の個性を強調することで観光客に対して強い印象を与えることができるまた観光地のブランディングにはデジタルメディアやSNSを活用した情報発信が欠かせない現代の観光はインターネットでの情報収集が主流となっているため観光地の魅力をオンラインでどれだけ効果的に伝えられるかが重要となる観光地としてのブランドを広めるためには高品質なコンテンツを作成しSNSやブログ、動画配信サイトなどを活用してターゲット層に向けて発信することが求められる次に攻めの観光戦略には観光インフラの整備が必要である観光地の魅力を高めるためには観光客が快適に過ごせる環境を提供することが不可欠でありこれには交通アクセスの改善や宿泊施設の充実、観光地内の案内標識の整備などが含まれる(次ページへ続く)</p>	<p>観光地のブランディングや、インフラ整備、地域住民との協力、観光体験の多様化、持続可能な観光の推進は、本市の魅力を最大限引き出し、誘客につなげるために重要な視点であると認識しております。地域のブランディングにおいては、西部・中心部・東部エリアの観光関連事業者の皆様と意見交換を行いながら、それぞれの地域の特色を活かした取り組みを進めているところです。また、本市全域における観光地のブランディングや、インフラの整備、観光施設のバリアフリー化など、いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
35	全体に関するご意見	<p>観光地にアクセスするための公共交通機関の充実や空港や駅からのアクセスの改善は観光客にとって重要な要素であり特に外国人観光客に対しては言語のバリアを取り払うために多言語対応を進めることが重要であるまた観光施設のバリアフリー化も観光地の重要な要素でありすべての人々が平等に観光地を楽しめる環境を整えることが求められる宿泊施設においても高級ホテルから手軽なゲストハウスまで幅広い選択肢を提供することが観光地の多様なニーズに対応するためには欠かせないさらに攻めの観光戦略として地域住民との協力が重要である観光業は地域の経済を支える重要な産業であり地域住民の協力を得ることが観光業の発展には不可欠である観光地の魅力を最大化するためには地域住民が観光客に対して親しみやすく温かい対応をすることが観光客の満足度を高めることに繋がるまた地域住民が観光業に参加することで観光地の発展に対する意識が高まり地域社会全体が観光業の利益を享受することができる例えば地元の特産品や工芸品を観光地の土産物として販売することで地域経済を活性化させるとともに観光客に地域の魅力を直接伝えることができる地域住民と観光業が連携することで観光地としての一体感が生まれ観光地の魅力がより強固なものとなるまた攻めの観光戦略には観光体験の多様化が必要である現代の観光客は単なる観光名所を訪れるだけでなく地域の文化や生活を体験したいと考えているそのため観光業は地域ならではの体験プログラムを提供することが求められる観光地においては文化体験やアクティビティ、地元の食文化を学べるプログラムを提供することで観光客の満足度を高めることができる例えば農業体験や漁業体験、地元の祭りや伝統的な工芸品作りを体験することで観光客はその地域の文化や伝統を深く理解することができるこれらの体験プログラムは観光客にとって魅力的であり地域経済にも貢献することができるさらに観光地の自然環境を活かしたアウトドアアクティビティやエコツーリズムの促進も有効な戦略である自然と触れ合うことで観光客はリフレッシュし地元の自然環境の大切さを実感することができるこれにより観光地としての魅力が一層高まり観光業が持続的に発展するための基盤を作ることができるまた観光業の拡大には外国人観光客の受け入れ態勢を整えることが重要である特に近年ではインバウンド観光が注目されており外国人観光客を迎えるためには文化の違いや言語の壁を乗り越える必要がある観光地は多言語対応の施設を整備し外国人観光客に対するホスピタリティを高めることが求められるまた外国人観光客のニーズを理解しそれに応える形で観光サービスを提供することが成功の鍵となる観光業は単なる経済活動にとどまらず文化交流の場でもあるため外国人観光客との交流を通じて地域の文化や伝統を伝えることができる観光地の国際化が進むことで観光業はさらに拡大し地域経済にも大きな恩恵をもたらすことになるだろう攻めの観光戦略を実行するためには持続可能な観光の実現が不可欠である観光業は地域経済の発展に貢献する一方で環境への負荷を与えることもあるそのため観光地においては持続可能な観光を推進することが重要である観光業の発展と環境保護のバランスを取るためにはエコツーリズムや再生可能エネルギーの活用、ゴミの削減など環境に配慮した取り組みを進める必要がある観光地の自然環境を守りつつ観光業を発展させるためには地域全体で環境保護の意識を高め観光客にもその重要性を伝えることが求められる持続可能な観光は観光業の長期的な発展を支える礎となるためこれにに取り組むことは観光地の未来にとって極めて重要である攻めの観光戦略を成功させるためには観光業を単なる収益源としてではなく地域の発展に繋がる重要な活動として位置づけることが大切である観光業は地域社会の文化や経済に直接的な影響を与えるため観光業の発展は地域全体の発展に直結する観光地の魅力を最大限に活かし持続可能な形で観光業を発展させるためには地域住民、観光事業者、行政が一体となって取り組むことが求められるこれらの取り組みを通じて観光業は地域の発展に貢献し観光地は未来に向けてさらに魅力的な場所となるだろう</p>	(P7に記載)
36	全体に関するご意見	<p>仙台市が観光客を引きつけるためには多角的な施策が必要である観光地としての魅力を最大限に引き出し地域経済を活性化させるためにはまず観光客が何を求めているのかを深く理解することが不可欠だ仙台市の自然や文化を活かし新しい観光体験を提供することが観光振興の鍵となるそのためには観光インフラの整備とともに観光地のブランディングを進める必要がある仙台市はその独自の歴史や食文化を強調することで他の都市との差別化を図ることができるまた地域の特性を活かし観光客が期待する体験を提供することが重要であるまず観光地として仙台市の強みをさらに引き出すためには「sustainable tourism」を意識した施策を講じることが必要だ仙台市の自然環境や伝統文化を大切にしながら観光客に新たな体験を提供することが持続可能な観光の発展に繋がるたとえば市内の「museums」や「historicsites」を活用して文化的な価値を提供することができるまた仙台の象徴的なイベントである「Tanabata」や「Aoba Festival」などを大々的にプロモートすることで観光客に地域文化の魅力を伝えることができるこれらの文化的イベントは観光客にとって特別な体験となり再訪を促す要因となるだろう</p> <p>次に「transportation infrastructure」の整備が求められる観光客は快適で効率的な移動手段を求めているため仙台市は公共交通機関の充実を図るべきであるまた観光地へのアクセスが容易であれば観光客は「exploration」の範囲を広げることができる観光地の多様性を楽しむことができる例えば仙台市内を巡る「bustours」や観光スポット間をつなぐ「bicyclerentals」などのサービスを充実させることで観光客に便利で快適な移動手段を提供できる(次ページへ続く)</p>	観光都市としての魅力を最大限に活かすためには、独自性を活かしたコンテンツや、受入環境の整備、デジタルマーケティングの強化が重要であると認識しており、地域経済の活性化に向けて、関係事業者や地域と一体となった観光地域づくりを進めてまいります。いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
36	全体に関するご意見	<p>さらに仙台市は「localfoodculture」を推進する施策を強化すべきだ仙台は「sushi」や「gyutan」などの特色ある料理が豊富にありこれらの地域特産品を観光資源として最大限に活用することで観光客に「gastronomicexperiences」を提供できる地元の「restaurants」や「foodstalls」を巡る食のツアーを提供することも有効な手段となる地元の食材を使った料理を楽しむことができる体験は観光客にとって仙台の魅力を感じる大きな要素となるだろうまた食文化を通じて地元の人々との交流が生まれ観光客と地域住民の結びつきが強化されることにも繋がる</p> <p>加えて仙台市の観光施策には「digitalmarketing」の強化が必要であるSNSやWebサイトを活用して観光地の魅力を効果的に発信することが重要な観光客は旅行の計画段階でオンライン情報を多く収集するため仙台市は魅力的なコンテンツを作成し「globalaudience」に向けて発信することが求められる特にSNSを活用した情報発信は視覚的な魅力を強調することができ観光地のイメージを向上させることができるまた観光イベントや新しい施策をリアルタイムで告知することで観光客の関心を引き寄せることができる</p> <p>観光業の活性化に向けた施策が進む中で重要なのは仙台市が持つ「communityspirit」を強化することである観光業は地域住民と観光客との相互作用を生み出す産業であり地域社会が丸となって観光業を支えることが重要だ地域住民が観光客を歓迎し協力することで観光地の魅力は一層高まる例えば観光地で働く地元「hospitalityprofessionals」や観光案内所で働くスタッフが親しみやすく温かい対応をすることで観光客は仙台での滞在を楽しむことができる地域の人々の「warmth」や「kindness」を感じることであれば観光客の満足度も高まりその後の「word-of-mouthpromotion」へと繋がるだろう</p> <p>しかしながら仙台市の観光業には改善が求められる点もある中でも市職員の不祥事については深刻な問題として取り組むべきである観光振興のためには地域全体の信頼が不可欠であり市職員の不祥事はその信頼を大きく損なう要因となる市民や観光客が感じる不信任や失望感は観光業の発展に悪影響を及ぼす可能性がある観光業を推進する立場にある市職員が公私混同や不正行為を行うことは許されることではないしそのような問題が発生した場合には迅速かつ透明な対応が求められる市民や観光客に対して誠実に説明し再発防止策を講じることで信頼回復に努める必要がある市職員の不祥事が観光業の発展に与える影響は計り知れないためその問題を真摯に受け止め改善策を講じることが求められる</p> <p>市職員の不祥事が発生した場合の対応としてはまず市民や観光客に対する謝罪が必要であるそしてその後は問題がどのように発生したのかを明確にしその原因を突き止め再発防止策を講じることが重要だ具体的には監査機能の強化や内部通報制度の導入、職員教育の充実などを行い職員一人ひとりの意識改革を図ることが必要だまた不祥事の対応には透明性を持たせることが信頼回復のためには不可欠であり市民や観光客が納得できるような説明と対応を行うことが求められる市職員の不祥事を防ぐためには日頃から倫理観や透明性を持った運営を行うことが大切であり観光業を支えるために市の体制がしっかりと整備されていることが前提である仙台市が観光業を発展させるためには観光客にとって魅力的な目的地となることが重要だがそのためには市職員の不祥事を防ぐための体制強化と市民や観光客に対して誠実な対応を行うことが不可欠である観光業を活性化させるためには地域全体が丸となり観光客を迎える準備を進め市職員自身も観光振興のために尽力することが求められる</p>	(P8に記載)
37	全体に関するご意見	日本語版しがなく、読むのが大変。広東語も作ってほしいです。	本観光戦略は、地域の観光事業者や市民の皆様と共有することを目的としており、現在日本語での策定を予定しております。観光情報の発信などについては、多言語による発信に努めてまいります。
38	全体に関するご意見	<p>私は日本に来て1年が経ち、これまでの経験を通じて日本の地域経済と観光業について深く考えるようになりました。観光業は日本の地域経済にとって重要な産業であり、観光地の活性化は地域全体の経済発展に大きな影響を与えることを実感しています。観光業の成長は地域経済の発展と密接に関連しており、観光地の魅力を最大限に引き出すことが、地域全体の経済的な成長に繋がることを理解しています。</p> <p>地域経済の活性化は、地元の産業や雇用の創出、さらには地域文化の発展に直結する重要な要素です。観光業は其中で、特に地域経済に対する影響が大きい分野の一つです。観光業が発展することにより、観光地周辺の商業やサービス業、交通インフラの改善など、地域の経済活動が活性化します。観光客が訪れることにより、宿泊施設、飲食店、土産物店などの需要が増加し、地元の企業は売上を伸ばし、雇用機会が増えます。また、観光業の成長は、地域資源や文化の活用にもつながり、地域の独自性を発信する手段として重要な役割を果たします。</p> <p>さらに、観光業の発展は地域ブランドの確立にも寄与します。観光地が国内外で認知されることで、地域の特産品や伝統文化が注目を集め、その価値が高まります。地域経済の活性化と観光業の発展は、互いに好循環を生む関係にあると言えるでしょう。</p> <p>日本はその豊かな自然景観や文化遺産、美食、伝統行事など、観光資源に恵まれた国です。近年では外国人観光客の増加が見られ、観光業は日本経済における重要な役割を果たしています。しかし、観光業の発展にはいくつかの課題が存在しています。(次ページへ続く)</p>	観光を基軸とした地域経済の活性化や、持続可能な観光地域づくりの両立は、重要な課題であると認識しております。一方で外国人が多く来訪している日本の各観光地では、住民の交通や環境などに影響を及ぼすオーバーツーリズムが発生していることも承知しております。オーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。本市において、インバウンドの獲得に向けては、重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信」を掲げており、ご指摘の東京・大阪・京都などのいわゆるゴールデンルートとは異なる、食文化や精神文化、自然など、地域性あふれる魅力を体感していただく施策を展開してまいります。また、DMOである(公財)仙台観光国際協会とともに、地域と一体となった観光地域づくりを推進してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
38	全体に関するご意見	<p>観光地の過密化がその一つです。特に東京や京都、大阪などの都市圏には観光客が集中しており、観光地の過密化が問題となっています。観光地の混雑は観光体験の質を低下させ、地域住民との摩擦を生む原因となります。観光地が過密化すると、インフラの負担が増し、地元住民の生活にも影響を与えることとなります。観光地の過密化を解消するためには、観光客を地域全体に分散させる必要があります。特に、地方の魅力を再評価し、未開拓の観光資源を発見することが重要です。地域ごとに特色のある観光プランを提供することで、観光客が都市部以外の地域にも足を運ぶよう促すことができます。また、観光ルートを多様化し、地域間での移動を促進することで、観光地の分散を図ることができます。</p> <p>また、地域間の観光格差も課題の一つです。観光業の発展が都市部に偏りがちな一方で、地方都市や離島などでは観光客の集客に苦労している現状もあります。この地域間の観光格差は、地域経済における不平等を生む原因となります。地方都市の観光業を活性化させることは、地域経済の均衡を保つためにも重要な課題です。観光業の発展には、地方の特性や魅力を発信し、都市部以外の地域に注目を集めることが不可欠です。</p> <p>さらに、持続可能な観光への関心が高まっています。観光業の発展が環境や地域社会に与える影響を最小限に抑えることが求められています。観光地での過剰な開発や自然環境の破壊が進む中で、持続可能な観光の推進が急務となっています。持続可能な観光を推進するためには、観光業の発展と自然環境、地域社会の保護を両立させる必要があります。観光地の開発においては、環境への配慮が重要です。例えば、エコツーリズムを推進することで、自然資源を守りながら観光業を発展させることができます。また、観光業従事者の地域社会への貢献を促進し、地域住民との共存を図ることも重要です。</p> <p>地域経済の活性化を進めるためには、観光業の適切な管理と発展が欠かせません。観光業の発展は、地域経済を活性化させると同時に、地域独自の魅力を発信する手段となります。地域資源を活用した観光業の発展、観光地の分散化、持続可能な観光の推進、インフラ整備の強化など、さまざまな施策が必要です。私は留学生として日本の地域の魅力を深く感じ、観光業の発展を通じて地域経済が活性化することを願っています。地域の特色を大切にしながら、持続可能で魅力的な観光業を築いていくことが、地域経済の持続的な成長に繋がると信じています。</p>	(P9に記載)
39	全体に関するご意見	<p>仙台の歴史と文化を尊重した新しいコンテンツの創出歴史と文化を土台にした体験型コンテンツ仙台の豊かな歴史や文化を基盤に、観光コンテンツを開発する。</p> <p>「仙台の誇り」をテーマにした新しいイベントの開催仙台の地元住民にとって誇りとなるようなイベントを企画。地元の伝統や文化を反映した祭りや展示を新たに作り、仙台の魅力を深く掘り下げたコンテンツを提供する</p> <p>地元の方々の参加と誇りを育む</p> <p>地元住民の積極的な参加観光業に従事する地元の人々を対象に、仙台の歴史や文化を学ぶ勉強会や研修を実施。観光業従事者が観光客に対して仙台の深い魅力を伝えられるようにする。</p> <p>地域住民との協力</p> <p>地元の商店や住民と連携し、観光イベントや体験プログラムに参加してもらうことで、地域全体が一体となって観光振興に貢献できるようにする。また、地元の伝統を守る活動に住民を巻き込むことで、観光業への理解と誇りを育てる。地域の誇りを深めるための活動地元住民自身が「仙台の魅力」を再認識し、誇りを持つような体験を提供。例えば、地元の伝統行事や文化を直接体験する機会を設け、住民がその価値を再確認できる場を作る。一時的な交流人口を増やすだけでなく、深い「中身」を提供</p> <p>大型イベントの質の向上観光客を一時的に集客する大型イベントも重要だが、その「中身」が薄ければ短期的な効果しか得られない。仙台ならではの文化や歴史に根ざしたイベントにすることで、来訪者が仙台に深い印象を持つようにする。(次ページへ続く)</p>	<p>「歴史や文化を尊重した新しい観光コンテンツの創出」や「地元住民の参加と誇りの醸成」は重要な視点だと考えており、重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」や、重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に記載の施策の方向性として掲げております。また、観光客に深い満足度を与える「中身のある体験」の提供や、再訪問につながる持続可能な観光の実現も重要だと認識しており、いただいたご意見は、今後の観光施策の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
39	全体に関するご意見	<p>持続的な魅力の提供 一過性のイベントに頼るのではなく、地元住民と連携した持続可能な観光プログラムを提供する。観光客が帰る際に「また来たい」と思えるような深い体験を提供し、その後も仙台の魅力語り継いでもらえるようにする。</p> <p>地域全体で観光を支える仕組みを構築 地域全体での情報共有と協力 地元の観光事業者や住民が連携し、観光情報や体験プログラムを共有する仕組みを作る。観光施設や宿泊施設のスタッフが仙台の魅力をしっかり伝えられるような研修を実施。</p> <p>観光業の人材育成と雇用創出 地元住民を観光業に積極的に参画させるための雇用促進や、観光業のスキルアップを支援するプログラムを提供する。これにより、観光業における人手不足を解消し、地域全体で観光の質を高める。</p> <p>仙台の観光をさらに発展させるためには、歴史や文化を尊重した新しい観光コンテンツを作り、地元の住民が参加し、誇りを持って仙台の魅力を広めることが不可欠だと思います。また、短期的な集客に頼るのではなく、深い体験を提供することで、観光客に持続的な魅力を感じてもらい、再訪問を促進する仕組みを作り、地元と観光業の連携を深め、観光の質を高めるための取り組みが重要だと思います。</p> <p>いくらトップの方々が頑張ってもその下の方々に伝わってないと意味がないと思います。</p>	(P10に記載)
40	全体に関するご意見	<p>会議の議事録を読んだが、これまでのパブリックコメントについて、言及したものが見当たりません。意見を吸い上げるだけで、検討などはしていないようだ。</p> <p>パブリックコメントで反対意見があるならば、内容を変えなければならない。</p>	<p>令和6年2月から3月にかけて実施した、今後の交流人口拡大施策及び財源確保の方向性(案)に係る市民意見募集(パブリックコメント)においていただいたご意見と、それに対する本市の考え方については下記のページに掲載しております。</p> <p><a href="https://www.city.sendai.jp/contentsoushutsu/kouryuujinkoukakudai_public_comment.html">https://www.city.sendai.jp/contentsoushutsu/kouryuujinkoukakudai_public_comment.html</a></p> <p>いただいたご意見を踏まえて、宿泊税の制度設計や宿泊事業者の皆様への負担軽減策を検討してまいりました。</p>
41	全体に関するご意見	<p>「ベースキャンプ」は反対。</p> <p>拠点という言葉には、しばしば物理的な場所や戦略的な意味合いが込められています。これまで「ベースキャンプ」という表現が広く使われてきましたが、今回はその言葉に代わる表現について考え、具体的な例や適用方法を提案しながら、途中で白滝の良さも織り交ぜていきます。私たちが拠点という概念にどのようにアプローチできるのか、そしてその背後にある文化的・精神的な意味をどのように捉えるべきかを深掘りしていきます。拠点という言葉を使う際、その定義をしっかりと把握することが重要です。拠点とは、物理的な位置に限らず、特定の目的を達成するための出発点や集結点、または活動を行うための中心的な場所を指します。ここでは、その概念を深く掘り下げ、日常生活やビジネスにおける「拠点」の重要性を再確認し、その新たな呼び方を模索することに意義があります。現在、「ベースキャンプ」という言葉が多く使われていますが、これはもともと登山や探検などの活動において、主要な拠点となる場所を指す言葉でした。この言葉には、挑戦的な精神や大きな目的に向かっての出発地点という意味合いが込められています。しかし、日常的な使用においては、少し硬い印象を与えることがあります。そのため、もっと柔軟で親しみやすい表現を用いることが求められる場面も多くなっています。代わりに使用できる表現として、以下のような言葉が考えられます。「起点」</p> <p>この言葉は、物事を始める場所としての意味を持つとともに、過去から未来へと繋がる時間的・場所的なつながりを強調します。拠点が「集結する場所」であるのに対し、起点は「出発する場所」に焦点を当てる点で少し異なります。しかし、起点もまた「拠点」と同じく、活動を進める上での重要な意味を持つ場所です。例えば、ビジネスにおいて、新たなプロジェクトやキャンペーンが開始される場所は、まさに「起点」と言えるでしょう。(次ページへ続く)</p>	<p>仙台を拠点に、県内や東北の観光地を巡る旅行スタイルの確立を目指し、「ベースキャンプ」という表現を用いております。いただいたご意見につきまして、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
41	全体に関するご意見	<p>この表現は、積極的な行動のスタートを示唆し、挑戦的な側面を強調しつつも、柔軟で親しみやすい印象を与えます。「拠点地」「拠点地」という表現も有効です。この言葉は、拠点の意味をそのまま活かしながら、地理的な位置を強調することができます。特に地元企業や地域に根ざした活動を行う場合、拠点地という言葉は地域密着型の印象を与えるため、親近感を持たせやすいです。企業活動やプロジェクトの中心地として使うことで、その場所に対する愛着や誇りが感じられる表現となります。</p> <p>「ハブ」「ハブ」という言葉も、現代のビジネスや交通の中心地を指す際に使われることが多い言葉です。交通機関の中で「ハブ空港」や「ハブ駅」など、乗客の乗り換え地点を指す場合に使われることが一般的ですが、ビジネスやコミュニティの活動においても、重要な結節点を指す際に適しています。これにより、「ベースキャンプ」のように硬い印象ではなく、現代的でスピーディーな印象を与えることができます。</p> <p>「シンクタンク」「シンクタンク」は、本来は政策や経済戦略などを考える集まりの場所を指す言葉ですが、その意味を広げることで、活動の集結地点として用いることができます。この表現は特に、クリエイティブで戦略的な考えが求められる場所を指す際に適しています。具体的には、新しいアイデアや創造的な取り組みを生み出す場として使うことができ、ビジネスやプロジェクトが集中的に進められる場所としても機能します。</p> <p>これらの言葉はすべて「拠点」の意味を強調しつつも、「ベースキャンプ」に代わる表現として適しており、より柔軟で現代的なニュアンスを持っています。しかし、どの表現を選んでも重要なのは、それが活動における中心的な場所であり、個々の目的を達成するために必要不可欠な拠点であるということです。</p> <p>次に、白滝の良さを取り入れて、この「拠点」という概念の中に新たな意味を加えていきます。白滝という言葉は、日本の自然の美しさを象徴するものであり、その清らかな美しさと静けさが心を落ち着かせ、瞑想的な空間を提供します。白滝の流れは、しばしば心の中に静寂をもたらし、日常の喧騒から解放される瞬間を提供してくれる場所です。この静けさと調和の取れた場所こそが、拠点が持つべき姿勢ともいえるでしょう。つまり、ただ単に物理的な場所を指すのではなく、精神的な安定をもたらす場所としての「拠点」を考えることが重要です。白滝が流れる場所に身を置くと、私たちはただの休息ではなく、心の深い部分でリフレッシュされ、活力を取り戻すことができます。これは、拠点が物理的な作業や活動の場であるだけでなく、精神的な再生の場でもあることを示しています。例えば、ビジネスの拠点を設定する際に、その場所がどれほど「白滝」のように穏やかな環境であるかが重要です。急速に変化する社会の中で、静けさと調和の取れた環境がどれほど大切であるかは計り知れません。</p> <p>拠点が白滝のような場所であるならば、その場に集まる人々はリフレッシュされ、心を新たに活動に挑むことができるのです。このような場所こそ、持続可能な活動やクリエイティブな発想が生まれ、豊かなアイデアや解決策が次々と生まれることでしょう。</p> <p>結論として、「ベースキャンプ」に代わる表現として、「起点」「拠点地」「ハブ」「シンクタンク」などの言葉が有効であり、それぞれが持つニュアンスに応じて使い分けることができます。また、拠点という場所が白滝のような精神的な清らかさを持つことで、その場所で行う活動がより充実し、参加者全員にとって心地よいものとなります。このように、物理的な拠点到精神的な側面を加えることで、より深い意味を持つ場所として、その存在が際立つこととなります。拠点は、単なる出発地点や集結点にとどまらず、その場で得られる精神的な平和や活力、そして再生の力を象徴する場所であるべきです。そのような拠点到こそ、人々が集まり、共に歩み、成長していくことができるのです。</p>	(P11に記載)
42	全体に関するご意見	<p>観光戦略と観光の計画を立てる際の共通点と注意点は以下の通りです。</p> <p><b>共通点</b>  <b>目標設定:</b>両者ともに明確な目標を設定することが重要です。観光戦略では地域や国全体の観光振興を、観光計画では特定の地域や施設での観光施策を具体的に定めます。</p> <p><b>ターゲット層の特定:</b>どちらもターゲット層を明確にすることが求められます。観光戦略では大規模なターゲット(国内外の旅行者)を対象にするのに対し、観光計画ではより詳細なターゲット(例えば特定の年齢層や興味を持つ旅行者)を設定します。</p> <p><b>資源の活用:</b>観光資源(文化遺産、自然環境、施設など)の活用方法について計画を立て、資源の効率的な運用を目指します。</p> <p><b>持続可能性の重視:</b>観光戦略も観光計画も、持続可能な観光を推進することが重要です。環境負荷を減らし、地元住民と観光客が共生できるように工夫します。</p> <p><b>ステークホルダーとの協力:</b>観光業に関わるさまざまな関係者(地元自治体、宿泊業、観光施設、交通機関など)との連携が不可欠です。戦略と計画は協力して実行されるべきです。</p> <p><b>市場調査:</b>観光戦略も観光計画も市場の動向や旅行者のニーズを把握するための調査が基盤となります。データを収集してそれに基づく施策を立案します。(次ページへ続く)</p>	<p>本観光戦略では、参考資料にお示しているデータをはじめ、仙台観光DMPIによる動態データの分析や、観光情報サイトのアクセス解析、アンケートに基づく観光実態調査の結果など、様々なデータを活用しております。施策の推進にあたっては、そうした様々なデータを有効に活用することで、実施状況を検証するとともに、その結果を今後の観光施策の取り組みに反映してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
42	全体に関するご意見	<p><b>注意点</b>            実現可能性の確認:目標や計画が現実的かどうか、実行可能なリソースがあるかを慎重に見極めることが重要です。            柔軟性の確保:市場や社会の動向は変化するため、戦略や計画に柔軟性を持たせ、必要に応じて修正できる体制を整えておくことが必要です。            過度な依存の回避:特定の観光資源やイベントに過度に依存することはリスクを伴います。多角的なアプローチが求められます。            地域社会とのバランス:観光客の誘致に力を入れすぎて地域社会との関係が希薄にならないよう、住民の意見やニーズを反映させることが大切です。            地域特性の考慮:各地域には独自の魅力や特性があるため、地域に即した戦略や計画を策定し、他の地域との競争優位性を確立します。  <b>戦略の必要性</b>            観光戦略は、観光業の全体像を把握し、長期的な視点で目指すべき方向性を示すものです。短期的な成功だけでなく、持続的に観光産業を発展させるためには、戦略的な計画が不可欠です。観光戦略を持つことによって、地域や国全体の資源を効果的に活用し、競争力を高めることができます。また、観光に関わる全ての関係者が同じ方向に進むための共通のビジョンを提供し、リソースを無駄なく活用することが可能となります。戦略があることで、観光地は訪れる人々に魅力的な体験を提供でき、経済効果や社会的効果を最大化することができるのです。</p>	(P12に記載)
43	全体に関するご意見	<p>観光産業は、世界中で経済的にも社会的にも大きな影響を持つ分野であり、地元の文化や経済の発展に貢献する重要な要素です。観光地の発展や新しい観光資源の開発には、十分な資金と戦略的な投資が求められますが、その投資にはリスクも伴います。ここでは、観光分野における思い切った投資の必要性和、同時にリスクを分散する重要性について考え、さらに観光がもたらすワクワク感がどれほど重要であるかを探ります。  <b>思い切った投資の必要性</b>            観光業が地域経済に与える影響は非常に大きく、適切な投資を行うことが観光地の発展にとって欠かせません。観光地のインフラ整備や施設の改善、新たな観光資源の開発、マーケティング活動の強化など、観光産業に対する投資は観光地の魅力を高め、集客力を向上させる重要な要素です。特に、他の地域や国と競い合う中で注目されるためには、思い切った投資が必要です。            例えば、観光施設の新規開発やリニューアル、公共交通機関の整備、宿泊施設の増加など、観光地の快適さやアクセスの良さを向上させるためにはかなりの資金が必要です。これらの投資は一時的には高額の支出を伴いますが、長期的には観光客の増加や滞在時間の延長に結びつき、観光業を活性化させるための重要な資源となります。また、観光業の発展には新しいアイデアや創造性が求められます。新たな観光体験を提供するためには、思い切った発想とそれに伴う投資が不可欠です。例えば、アドベンチャーツーリズムやエコツーリズム、文化的な体験を重視した観光など、既存の枠組みを超えた新しい観光の形態を提供するには、試験的な投資を行うことが重要です。こうした挑戦的な取り組みが、観光地の個性や競争力を高め、他の観光地との差別化を図るための鍵となります。<b>観光業のワクワク感</b>            観光の魅力の一つは、旅行者が得ることのできる「ワクワク感」にあります。旅行は新しい経験や発見の連続であり、訪れる場所での未知の文化、風景、人々との出会いが旅行者に大きな興奮と喜びを与えます。観光地が提供する体験がユニークで感動的であるほど、旅行者の満足度は高まり、再訪や口コミによる宣伝が期待できます。ワクワク感を提供するためには、観光地側が旅行者にとって魅力的なプログラムやイベントを用意し、期待を超える体験を提供することが必要です。このためには、ただ単に観光施設を増やすだけではなく、訪れる人々が驚きや感動を覚えるような新しい体験を提案することが求められます。例えば、地元の文化や歴史を深く知るツアー、自然の中での冒険、地元の食文化を体験できるイベントなど、観光地がユニークで魅力的な体験を提供することで、観光のワクワク感を生み出します。            観光がワクワク感を生み出す要素の一つに、旅行者の期待を超えた驚きが挙げられます。例えば、旅先で偶然出会う地元の人々や、予期しない美しい風景、新たな文化や食べ物に触れることは、旅行者にとって特別な体験となります。こうした体験が旅行者の記憶に残り、次回の旅行先としてその場所を選ぶ要因となります。  <b>リスク分散の重要性</b>            観光業はその性質上、非常に多くの外的要因に影響されやすい産業です。自然災害、政治的な不安定さ、世界的な経済の変動、社会的な変化など、さまざまな要素が観光客の動向に直接的な影響を与えるため、思い切った投資には必ずリスクが伴います。たとえば、過度に特定の観光資源に依存している場合、その資源に問題が生じると観光業全体が影響を受ける可能性があります。(次ページへ続く)</p>	<p>本観光戦略では、これまでの枠に捉われない「攻めの観光」を推進し、中長期的な視点のもと、新たな観光コンテンツの創出や多彩な資源の磨き上げを行い、旅行者が訪れる度にワクワクする、魅力溢れる過ごし方を提案することで、観光を基軸とした仙台の成長を目指し策定を進めております。歴史・文化資源の活用や、東西に広がる多様な自然資源を活かしたコンテンツの創出など、方向性の異なる6つの重点プロジェクトに基づき施策を推進してまいります。また、いただいたご意見のとおり、ターゲット市場の多角化など、リスク分散の視点も踏まえながら誘客促進に取り組んでまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
43	全体に関するご意見	<p>そのため、リスク分散は非常に重要です。観光業への投資においては、単一の観光資源や施設に依存せず、多様な観光プログラムや施設、マーケティング戦略を取り入れることが大切です。例えば、アクティブツーリズムや歴史・文化ツーリズム、食文化ツーリズムなど、さまざまなジャンルに分散した投資を行うことで、万が一特定のジャンルが影響を受けた場合でも、他のジャンルでカバーすることが可能になります。</p> <p>さらに、観光地が特定の国や地域からの旅行者に依存しすぎることを避けるため、ターゲット市場を広げることも重要です。例えば、訪日外国人に依存する地域であれば、国内観光客や他国からの旅行者をターゲットにした施策を取り入れることがリスク分散に繋がります。また、季節による偏りを防ぐために、四季を通じて楽しめる観光資源やイベントを提供することも、リスク分散の一つの方法です。</p> <p><b>戦略的な投資とリスク管理</b>  観光業においては、戦略的な投資を行うことが成功の鍵となります。しかし、どんなに魅力的な観光地や資源があっても、その投資が一過性のものでなく、持続可能である必要があります。したがって、投資にあたっては十分な市場調査を行い、将来の変動や外的要因を予測することが必要です。また、投資のタイミングや規模、リスクヘッジ策をしっかりと考慮した上で実行することが求められます。</p> <p>リスク管理においては、過去のデータやトレンドを分析し、観光業における外的要因の影響を最小限に抑えるための備えをすることが重要です。また、観光業界全体での連携や協体制度を築き、リスクに対応できる柔軟な体制を整えることが、持続可能な発展を支える大きな柱となります。</p> <p><b>結論</b>  観光分野における思い切った投資は、観光地の発展において欠かせない要素であり、観光業の競争力を高めるために重要です。しかし、その投資にはリスクが伴い、そのリスクを管理し分散することが成功の鍵となります。多様な観光資源やターゲット市場を確保し、持続可能な観光地を作り上げるためには、リスク分散の重要性を理解し、それに基づいた戦略的な投資が必要です。さらに、観光のワクワク感を提供することが観光地の魅力を高め、観光客の満足度を向上させる重要な要素となります。このような戦略的な投資とリスク管理のバランスを取ることによって、観光業の持続的な成長を実現することができるでしょう。</p>	(P13に記載)
44	全体に関するご意見	<p>観光客が増えることは、地域経済にとっては非常にありがたいことだ。特に観光業が主力産業の場所では、その流れに乗ることができれば、町の発展に大きく貢献する。しかし、そんな美しい光の裏には、少し影の部分も見えてくるのが現実というものだ。今日はその、ちょっと怖いけれど笑える話をしようと思う。</p> <p>観光客の増加と共に、我々の生活にも変化が現れる</p> <p>さて、観光地に足を運ぶ人々が増えれば、当然、商店街も賑やかになり、観光地も人で溢れかえる。お土産を買うために立ち寄る人々、地元の料理を堪能するために訪れる観光客、その光景は本当に賑やかで楽しい。しかし、これはあくまでも表向きの姿だ。</p> <p>裏で何が起きるか。それは、もちろん悪いことではないのだが、どうしても気になるのは、観光地の魅力を狙った、ちょっとした犯罪だ。これまで平和だった町に、ちょっとした「悪党」が紛れ込むことになるからだ。</p> <p>まずは財布の盗難から始まる</p> <p>観光地には観光客が持つ財布がある。その財布は地元民からすると、ある意味「観光地の宝物」みたいなものだ。財布の中身がどれだけ重要か、観光客にとってはもちろん大切だが、地元の「達人」にとってはまさに「金の卵」である。</p> <p>「観光客のバッグ、軽いなあ」「ちょっと目を離した際に……」「あれ、財布がない！」</p> <p>こんな会話が観光地のあちこちで繰り返されるわけだが、なんともこれが笑ってしまうポイントでもある。財布を盗られた瞬間、観光客の顔はどうなるだろうか。まるでカメラの前でドタバタするコメディ映画のシーンのような、そんな顔をすることに違いない。(次ページへ続く)</p>	観光客の増加に関するご意見として、承ります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
44	全体に関するご意見	<p>しかし、これを見た地元の「達人」は、すでに次のターゲットに向かっている。そして、また別の観光客が同じように財布を落とす…。これ、まるで連鎖反応だ。</p> <p>次は観光地の「イタズラ」事件  財布を盗まれるのが最初のステップなら、次は観光地での「イタズラ」の話だ。観光地で増えてくるのは、物理的な犯罪だけではない。ここで起きるのは、ちょっとした笑い話のようなイタズラが増えるということだ。たとえば、観光名所の近くで記念撮影をしているカップル。カメラを構えた瞬間、どこからともなく「おばちゃん」が現れて、突然、「なんでそんな顔してるんだよ！」と言いながら、写真を撮りたくなる。「え？写真は撮らないで！」と叫ぶカップル。周りの観光客は笑いながらその様子を見守る。これ、笑えない？結構観光地では頻繁に起こる出来事だ。でも、実際にはこれも一種の犯罪なのだ。犯罪というか、「人のフラストレーションを引き出して楽しむ遊び」なのだろう。</p> <p>さて、こんなイタズラの一部は、観光客の増加がもたらす「注意散漫」の結果として発生する。しかし、観光地には楽しさがいっぱいだからこそ、そんな小さな不満や悲しみを乗り越えて、観光を楽しむ気持ちが勝つわけだ。</p> <p>次に気になるのは「マナー違反」問題  観光客が増えることによって、どうしても心配なのが「マナーの悪さ」だ。観光地でありがちなことに、ゴミをその辺に放置して帰る人々が増える、という事態だ。目の前にゴミ箱があっても、わざわざそこに捨てず、手軽に足元の空き缶を放り込む人々の姿。これを見て、地元の人々は「どんなに観光地が賑わっても、心の中でその人たちに『ダメだろ』って思っちゃう」というのだ。</p> <p>まあ、観光地にはいろんなタイプの人がいるものだ。地元の人々からすれば、「マナーも守らず観光するな」という心情があるわけだが、観光客にはそれが伝わらない。とはいえ、目の前でゴミを散らかされるのは、やっぱり少し嫌だ。</p> <p>観光地の「ゴミ問題」は、もはや犯罪の一部と言っても過言ではない。これは観光地に足を運んだことのある人なら一度は経験したことがあるはずだ。</p> <p>そして最後に「奇妙な観光地のサプライズ」  観光地が賑わうと、時には奇妙な「サプライズ」が待ち構えていることがある。それが犯罪であれ、単なるドタバタであれ、観光地でありがちな事態だ。例えば、観光地で急に「無許可のコスプレ大会」が開かれ、まったく知らない人々がコスプレで集まる。もちろん、これは犯罪でも何でもない。ただの「サプライズ」だが、突然そのような集団に遭遇すると、観光客は「あれ、どうしたの？」と顔をしかめてしまう。</p> <p>このようなサプライズが観光地の魅力として捉えられることもあるだろうが、そうでない人々には「何かが起こった！」と不安に感じることもある。犯罪のように見えても、実はただの“観光地の笑い話”である。</p> <p>最後のオチ  さて、観光客が増え、犯罪も増えるという懸念をここまでお話したが、実はこの全てが一つの笑い話に過ぎないことを気づいてほしい。</p> <p>観光地のすべての出来事、何もかもが、ある意味「ストーリー」を作り出している。旅行者にとって、ちょっとしたトラブルがあっても、それも一つの思い出だ。財布を盗まれたとしても、「ああ、あの町では気をつけなきゃいけないんだよな」と言いながら話のネタにできる。イタズラやマナー違反も、実は観光地のユニークなエピソードとなり、帰る頃には笑い話に変わってしまうのだ。</p> <p>最終的には、どんなに観光地での犯罪やトラブルが増えても、それすらも観光の一部として楽しむことができるということをお忘れてはいけない。それこそが、観光の持つ本当の魅力だ。</p>	(P14に記載)
45	全体に関するご意見	<p>地域経済の活性化を図るための視点は、非常に多岐に渡ります。これから述べる視点は、地域の特性や資源を最大限に活用する方法を中心に議論を進めます。その過程で、観光における滞在時間の延長や消費促進のための施策について強く批判し、地域経済活性化にはもっと根本的かつ持続可能なアプローチが必要だということを強調したいと思います。</p> <p>地域経済の活性化に向けて、まず理解すべきことは「経済活動の多様化」と「持続可能性」の重要性です。地域経済の健全な発展は、特定の産業や観光活動に依存しないことが理想です。それでは、具体的にどのような視点が必要かを詳しく見ていきましょう。</p> <p>地域経済活性化のための基本的視点</p> <p>1. 地域資源の最大活用</p> <p>地域経済の活性化には、まずその地域が持つ固有の資源を最大限に活用することが重要です。これには自然資源、文化、歴史、地元の食文化、技術力などが含まれます。例えば、農産物や特産品、地域で生産されるものを活用した商品開発やブランド化が考えられます。また、地元の伝統や文化を生かした観光資源やイベント、地域独自の体験プログラムなどもその一環です。(次ページへ続く)</p>	<p>本観光戦略は、市内外の様々な主体と連携し、新たな観光コンテンツの創出や多彩な資源の磨き上げを行い、旅行者が訪れる度にワクワクする、魅力溢れる過ごし方を提案することで、地域経済の持続的な発展を目指し策定を進めております。本市が持つ歴史・文化資源や、食、自然など、多様な資源を活かしたコンテンツを創出し、方向性の異なる6つの重点プロジェクトに基づき施策を推進してまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
45	全体に関する ご意見	<p>2.多様な産業の育成と支援</p> <p>地域経済は、観光業だけで成り立つものではありません。農業や漁業、製造業、IT産業など、地域ごとに強みを持ったさまざまな産業を育成し支援することが重要です。特に、地域内での雇用を創出し、住民が地域内で経済活動を行える環境を整えることが、地域経済の安定と成長につながります。産業ごとの特色を生かし、地域に根差した雇用の創出を図ることが大切です。</p> <p>3.地元教育機関との連携</p> <p>地元の学校や大学、職業訓練機関などとの連携も不可欠です。地域経済に必要な人材を育成し、地域内で仕事が創出されるような仕組み作りが求められます。例えば、農業や地元企業に必要なスキルを持った若者を育てるために、学校と企業が連携して実習やインターンシップの機会を提供することが考えられます。また、地域独自の産業に関する専門的な知識を深めるカリキュラムの開発も重要です。</p> <p>4.地域外とのネットワーク形成</p> <p>地域経済の活性化には、地域内の経済活動だけではなく、地域外とのネットワーク形成も大切です。特に、他の地域や国との連携を深め、外部の資本や市場とつながりを持つことが、地域経済の成長に繋がります。観光業においても、地域外の旅行代理店や観光協会と連携し、効果的なプロモーション活動を行うことが重要です。</p> <p>滞在時間を延ばすことに対する批判</p> <p>観光業を中心に地域経済を活性化しようとする際、よく語られるのが「滞在時間の延長」や「消費の促進」です。確かに、観光客が長く滞在し、多くの消費をすることは、短期的には地域経済に貢献するよう思えるかもしれませんが、これには多くの問題点が含まれています。</p> <p>1.無理に滞在時間を延ばすことが持つ弊害</p> <p>観光業において、観光客の滞在時間を無理に延ばすための施策は、必ずしも地域経済にとって最良の方法とは言えません。滞在時間を延ばすために、観光地に対して無理な追加のアクティビティや消費促進策を強制的に提供することは、観光客にとって負担になり、結果的に観光地への印象を悪化させることがあります。滞在時間を無理に長くしても、観光客が楽しめなければ、その地域に対する評価は低くなり、リピーターが増えない可能性が高くなります。</p> <p>2.消費促進の過剰な依存</p> <p>消費を促進するために、観光地での買い物を積極的に促す施策も、必ずしも地域経済の健全な発展には繋がりません。観光客が地元の物を購入することが重要であることは否定しませんが、それがあまりにも強制的であったり、消費を過度に求められたりすると、観光客のストレスとなり、最終的には地域経済への悪影響を及ぼす可能性があります。観光を楽しむことが本来の目的であり、消費があくまでその一部であるべきです。</p> <p>3.一時的な経済効果と長期的な持続可能性</p> <p>滞在時間の延長や消費促進によって得られる経済効果は、一時的なものである場合が多いです。観光地での消費が一定の規模を超えてしまうと、観光業に依存する地域経済は非常に脆弱になります。観光業の成長に注力するあまり、地域の他の産業が育たず、観光業が衰退すれば、地域経済全体が困難な状況に直面する可能性があります。このため、滞在時間や消費を延ばすことだけを目的とするのではなく、地域経済全体を支えるための多角的なアプローチが求められます。</p> <p>持続可能な地域経済のために</p> <p>地域経済を活性化させるためには、観光業だけに依存することなく、地域内での多様な経済活動を支えることが必要です。具体的には、以下のような施策が有効です。(次ページへ続く)</p>	(P15に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
45	全体に関するご意見	<p>1.エコツーリズムの推進 観光業において持続可能な方法を採用することが重要です。エコツーリズムは、環境や地域文化を守りながら観光を楽しむ方法です。観光客には、地域の自然や文化を尊重しながら、その土地の魅力を堪能してもらうことが求められます。こうした取り組みは、観光地の長期的な魅力を保ちながら、地域経済にも貢献します。</p> <p>2.地域内のリソースを最大化する 地元で消費される製品やサービスを強化し、地元の人々が地域経済に直接的に参加できる仕組み作りが大切です。地元の農産物や工芸品などを活用したマーケティング活動を通じて、地域全体の経済を支えることが可能です。</p> <p>3.地域の特徴を生かした持続可能な産業の育成 観光業に頼ることなく、農業、製造業、IT、エネルギー産業などを地域内で育て、外部市場との連携を強化することが重要です。地域にあった産業の多角化は、経済の安定と持続可能な発展を支えるための鍵となります。</p> <p>結論 地域経済を活性化するためには、滞在時間を延ばすことや消費促進に頼るのではなく、地域資源を最大限に活用し、多角的な産業育成と持続可能な経済成長を目指すべきです。観光業を発展させることは大切ですが、それだけに依存しない強い地域経済を作り上げることが、最も重要であると考えます。</p>	(P15に記載)
46	全体に関するご意見	<p>私は愛宕山のスズメのストラップが気に入って、仙台＝スズメのストラップを見せたい。若い人達は「可愛い」「映え」にも集まって来ます。歴史的な所のおみくじなども「可愛い」「映え」が必要ではないでしょうか。</p> <p>先日ある市の観光案内所で地図を貰ったら「美術館」「お城見学」など観光地の割引券が付随してありお徳感がありました。そういう工夫も大事ではないでしょうか。仙台駅前のお寿司屋さんにも若い人は集まっています。札幌空港や駅前市場など各市の食べ歩きも盛んです。牛タン以外にも発信して欲しいです。</p> <p>又、ベンチを増やし、歩いて疲れたら休むという工夫も必要ではないかと思えます。食べ歩きのゴミや歩いてのトイレの場所案内も必要だと思えます。そういう意味では地下鉄のトイレの案内は良かったと思えます。欧米の人は昼間軽い食事をしますので食べ歩きに群がっています。</p> <p>仙台は比較的気温が落ち着いていて雪が降らないので関東、関西のように何時でも来れます。こらはメリットと考えて閑散期は飛行機など安く、安い飛行機を使って高齢者や若い人は歩いてきます。日本の酒も魅力的なので米＝良質の酒のアピールも必要。アジアの平均賃金は安いのでなるべく富裕層に来て貰うような発信も必要。定義さんへのバスの便をもっと便利にして貰う事も必要。</p>	割引券の付与などの周遊促進策や、ベンチなどの環境整備により、来訪者が快適に旅行できる環境づくりは重要であると考えており、重点プロジェクト4「+」(プラス)観光の推進」や、重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」のもと、各般の取り組みを進めてまいります。いただいたご意見は、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。
47	全体に関するご意見	<p>●3つの視点のまたきでもらうためにも仙台ファンを持続的に獲得していく、エンゲージメントを育成していくためにもOne2ONEマーケティング機能を許可していくための機能も強化すべきと考えます。東北では青森県がファンサイトを拡充したり、全国的にも基礎自治体のみならず、観光客の目線でエリアを主語としたポータルサイトを運営している地域も増えてきていることから、東北・宮城のハブである仙台市の取り組みに注目しています。</p>	視点3「また来てもらう」ために、ファンを獲得し、One to Oneマーケティングを活用した個別対応型の情報提供機能の整備は重要な視点だと考えております。重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に記載している、観光CRMの構築によりブッシュ型の情報提供を検討するなど、再訪意欲を高める取り組みを推進してまいります。
48	全体に関するご意見	<p>1.ユネスコの無形文化財に「伝統的酒造り」の登録が決定したことに伴い、宮城の酒造りの歴史や美味しさをPR。 酒造めぐりや体験型コンテンツを合わせて国内外の観光客を誘致。</p> <p>2.仙台空港が就航している人気都市(広島・神戸など)とタイアップし、周遊コースの提案やキャンペーンの実施。</p> <p>3.インバウンドの誘致はもちろんのこと、インターネット環境、多言語表示等の環境整備は急務。</p> <p>4.民泊の活用。空き家を宿泊施設として有効活用することで、空き家問題の解決にも貢献。</p> <p>5.富裕層向けの体験型コンテンツ等の充実。</p>	ご例示のような仙台・宮城の観光資源を活かした体験型コンテンツの創出や、インバウンド向けの環境整備の視点は重要であると考えており、本観光戦略の各プロジェクトに基づく施策の方向性においても、その要素を盛り込んでいくところです。いただいた具体的なご意見につきましては、今後の観光施策の推進に向けて参考にさせていただきます。
49	全体に関するご意見	重点プロジェクトが具体的で明確となっており、非常に頼もしい。	6つの重点プロジェクトのもと、効果的な施策を推進してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
50	全体に関する ご意見	<p>私は市民の一人として、仙台市が開催した観光戦略検討ワークショップに招待されていないことに対して強い不満を抱えています。観光戦略は私たちの地域経済や生活に大きな影響を与える重要な問題です。それにもかかわらず、このような重要な会議が一部の関係者だけで行われ、一般市民が参加できない形で進められていることに疑問を感じざるを得ません。</p> <p>まず、なぜ私はこのワークショップに招待されなかったのでしょうか。私たち市民は、この地域の住民であり、観光戦略が私たちの生活にどのように影響を与えるのかについて、意見を持つ権利があります。私たちが日常的に経験する問題や期待は、観光戦略を形成する上で非常に重要な情報であると考えます。市民の意見を無視したまま、観光戦略を策定することは、市民の声を反映しない不完全な戦略になってしまう可能性があります。</p> <p>また、このワークショップが公開されない形で行われていることにも批判的です。観光戦略は地域全体の利益に関わるものであり、その策定過程は透明であるべきです。しかし、今回のワークショップは公開されおらず、どのような議論が行われ、どのような結論が出されるのかが市民には全くわかりません。このような閉鎖的なプロセスでは、市民の信頼を得ることはできません。</p> <p>観光戦略の策定過程は、地域社会全体が関与し、協力して進めるべきです。一部の関係者だけが集まって議論を行うことで、特定の利害関係者の意見が過度に反映されるリスクがあります。観光業界の代表者や行政関係者だけでなく、地域住民や地元の商店主、学生、シニア世代など、多様な視点を持つ人々が参加することで、よりバランスの取れた、現実的な観光戦略が策定されるはずです。</p> <p>さらに、市民の意見を反映しない観光戦略は、実施段階で多くの問題を引き起こす可能性があります。市民のニーズや期待に応えない戦略は、地域住民からの支持を得ることが難しく、実施段階での協力も期待できません。結果として、観光戦略がうまく機能せず、地域経済の活性化や観光客の増加といった目標が達成されないリスクがあります。</p> <p>また、観光戦略の策定過程に市民を参加させることは、地域社会の結束力を強化するためにも重要です。市民が自分たちの意見が反映された政策に対しては、より強い支持と協力を示すものです。市民参加の機会を提供することで、地域全体が一体となって観光戦略を推進することができ、その結果として地域社会の結束力も高まるでしょう。</p> <p>公開されない形でのワークショップの開催は、市民に対する透明性の欠如を示しています。透明性の確保は、信頼関係を築くための基本です。観光戦略の策定過程が透明であることで、市民はそのプロセスを理解し、自分たちの意見がどのように反映されているかを知ることができます。これにより、市民の信頼を得ることができ、観光戦略の実施に対する支持も高まるでしょう。</p> <p>さらに、公開されない形でのワークショップ開催は、情報の独占や不公平な意見の反映を助長する可能性があります。特定の関係者だけが情報を持ち、議論を主導することで、公正な議論が行われないリスクがあります。多様な意見が反映されない戦略は、その有効性に疑問が生じるだけでなく、地域全体の利益を損なうこととなります。</p> <p>市民として、私は観光戦略の策定過程において、透明性と市民参加の重要性を強調します。ワークショップは公開された形で開催されるべきであり、市民が自由に参加し、意見を述べる機会が提供されるべきです。これにより、観光戦略が地域のニーズと期待に応えるものであり、実効性の高いものとなるでしょう。</p> <p>具体的な提案としては、まずワークショップの開催情報を広く周知し、市民に参加を呼びかけることが必要です。オンライン参加の機会も提供し、多様な方法で市民が参加できるようにすることが重要です。また、ワークショップの議事録や資料を公開し、議論の内容や結論が透明に示されるようにすることも必要です。さらに、定期的に市民フォーラムを開催し、観光戦略の進捗状況や課題について市民と共有することも重要です。市民からのフィードバックを受け付け、それを元に戦略を見直すプロセスを確立することで、地域全体が一体となって観光戦略を推進することができます。</p> <p>最後に、市民の声が戦略に反映される仕組みを構築することが重要です。市民代表を選出し、観光戦略の策定委員会に参加させることで、市民の意見が直接反映されるようにします。これにより、観光戦略が地域全体のニーズに応えるものであり、実効性の高いものとなるでしょう。</p> <p>以上の点から、私は観光戦略検討ワークショップに市民が招待されていないこと、そして公開されない形で戦略が作られることに強く反対します。市民の声が反映され、透明性のあるプロセスを通じて観光戦略を策定することが、地域全体の利益を最大化するために不可欠です。市民としての意見を尊重し、より公正で透明なプロセスの実現を強く求めます。</p>	<p>戦略の策定にあたり、合計3回懇話会を開催し、テーマごとに参加者を変えて、観光・宿泊事業者、経済関係団体代表などの様々な関係者にお声かけし、意見交換を実施するとともに、それらの皆様が一室に関する形で、戦略の素案をもとにワークショップを開催いたしました。市民の皆様からは、本パブリックコメントを通じて、ご意見を頂戴し、観光戦略の策定や、今後の観光振興の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
51	全体に関するご意見	<p>私は市民の一人として、仙台市が説明資料にオレンジ色を使用することに強く反対します。色の選択は単なるデザインの問題ではなく、市民の感情や認識に大きな影響を与える重要な要素です。特にオレンジ色は、多くの人々にとって強烈で不快な印象を与える場合があります。この色が持つ影響について深く理解し、慎重に選択することが求められます。</p> <p>まず、オレンジ色は視覚的に非常に強烈な色です。この色は目を引くために効果的に使用されることが多いですが、その一方で視覚的な疲労やストレスを引き起こす可能性もあります。説明資料は、多くの情報を視覚的に提供するものであり、その内容を理解しやすくするためには、視覚的な快適さが重要です。オレンジ色の使用は、資料を読み解く際に不必要なストレスを与え、情報の吸収を妨げることがあります。</p> <p>さらに、オレンジ色は心理的な影響も持っています。心理学的には、オレンジ色はエネルギーや興奮を象徴する色とされていますが、一方で不安や緊張感を引き起こすこともあります。特に、説明資料のような公式な文書においては、読者に安心感や信頼感を与えることが重要です。オレンジ色の使用は、逆に不安感や緊張感を煽る結果となり、市民に対するメッセージの伝達を妨げる恐れがあります。</p> <p>また、オレンジ色は文化的にもさまざまな意味を持ち、地域や個人の背景によってはネガティブな印象を持つことがあります。例えば、一部の文化ではオレンジ色が警戒や危険を示す色として認識されている場合があります。市の説明資料は、幅広い市民に向けて発信されるものであり、その色の選択には文化的な多様性や個々の感情を考慮することが求められます。オレンジ色の使用は、一部の市民にとって不快感を与え、メッセージの受け取り方に偏りを生じさせる可能性があります。</p> <p>さらに、オレンジ色は特定の政治的・社会的なシンボルとも関連付けられることがあります。例えば、オレンジ革命など、歴史的な出来事や社会運動において使用された色として認識されている場合があります。このような背景を持つ色を公式な説明資料に使用することは、市民に誤解を招く恐れがあります。色の選択には慎重を期し、特定のイメージやシンボルと結びつかない中立的な色を使用することが望ましいです。</p> <p>市の説明資料において、情報の正確な伝達と市民の理解を促進するためには、色の選択が極めて重要です。オレンジ色は、その視覚的・心理的な特性や文化的な意味から、多くの市民にとって不快感を与える可能性が高いです。そのため、市の説明資料にオレンジ色を使用することは避けるべきです。</p> <p>市の説明資料に使用する色としては、より中立的で視覚的に快適な色を選択することが推奨されます。例えば、青色や緑色は視覚的に安定感を与え、心理的にも安心感や信頼感を促進する効果があります。また、白色や灰色などのニュートラルな色も、情報の伝達を妨げず、視覚的な疲労を軽減する効果があります。市の説明資料において、視覚的な快適さと心理的な安心感を重視し、市民全体が理解しやすい色を選択することが重要です。</p> <p>最後に、市の説明資料に使用される色の選択には、市民の意見やフィードバックを取り入れることが重要です。市民が日常的に触れる資料や情報は、私たちの生活に直接関わるものであり、その内容やデザインについての意見を反映させることは、市民参加の一環として重要です。市民アンケートや公開討論会などを通じて、色の選択についての意見を募り、市民全体の合意を得ることが望まれます。</p> <p>以上の理由から、私は仙台市が説明資料にオレンジ色を使用することに強く反対します。オレンジ色の視覚的・心理的な影響、文化的な意味、そして市民の理解と快適さを考慮し、中立的で視覚的に快適な色を選択することを強く求めます。市民の意見を尊重し、より良い情報提供を実現するために、色の選択には慎重を期していただきたいと考えます。市の説明資料が市民全体にとって理解しやすく、快適なものであることを強く願います。</p>	<p>いただいたご意見を参考にさせていただきながら、色味を含めて見やすい観光戦略となるよう努めてまいります。</p>
52	全体に関するご意見	<p>中間案を作る過程が見えない。 透明性が確保されていない。 宿泊税反対</p>	<p>中間案を策定する過程として、公開で観光戦略検討懇話会を開催するとともに、参考資料としてその際に寄せられたご意見などを掲載しております。それらの取り組みや個別の観光関連事業者の方々との意見交換も踏まえ、中間案を取りまとめております。宿泊税の導入については、仙台市交流人口拡大推進検討会議における報告書のもと、宿泊事業者の方々との意見交換を踏まえて制度設計等を行い、令和6年第3回定例会において導入に係る条例案が可決されたものです。</p>
53	全体に関するご意見	<p>リピーターなどのカタカナ語は意味がわかりません。ニッポン語を使ってわかりやすく書いてください</p>	<p>一度訪れた後に再度訪れる来訪者のことをリピーターと呼んでおります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
54	全体に関するご意見	富谷市にある明石台も無視しないでもらいたいと思います。	本市に隣接する自治体との連携を通じた観光資源の開発等は、仙台市域の面的な魅力の発信に重要な取り組みだと考えており、いただいたご意見は今後の観光振興の参考にさせていただきます。
55	全体に関するご意見	全体を通して子ども・若者の文脈が薄いように感じました。	本観光戦略は、今後の観光振興の方向性についてお示ししているものであり、子どもや若者などのターゲットについては、今後の観光施策の推進に向けて参考にさせていただきます。
56	全体に関するご意見	パブリックコメントは案を市民に広く知らせなければならない。宿泊税は市民や事業者の意見を無視して、職員の費用に当てられている。まずはパブリックコメントを実施して欲しい。パブリックコメントを行う前に戦略案を作成することは、透明性と市民参加の観点から問題があると考えます。この手法は、市民の意見を反映させるべきプロセスを形骸化させ、市民の信頼を損なう恐れがあります。まず、戦略案を先に作成することで、市民の意見が考慮される余地が制限されます。戦略案がすでに決定されている状態でパブリックコメントを求めることは、形式的に市民の意見を聴取するだけであり、実質的な意見反映の機会を奪っています。このような手法では、市民は自分たちの意見が真摯に受け止められていないと感じ、行政への不信感が増す可能性があります。次に、市民参加のプロセスが形骸化することは、民主主義の基本原則に反します。パブリックコメントは、市民が政策決定に参加する重要な手段であり、その意見が実際の政策に反映されることが求められます。戦略案が先に作成されていると、市民の声が真剣に考慮されることなく、形式的な手続きだけが行われているように見えます。さらに、透明性の欠如は、市民の信頼を損なう要因となります。行政が戦略案を先に作成し、その後にパブリックコメントを求めることは、透明性が不足していると受け取られます。市民は、行政がすでに方向性を決めており、自分たちの意見が無視されるのではないかと感じるでしょう。パブリックコメントは、市民が直接行政に対して意見を表明し、それが政策に反映されるプロセスです。戦略案を先に作成することで、このプロセスの意義が損なわれ、民主的な政策決定が実現されない危険性があります。したがって、戦略案を作成する前に市民の意見を聴取し、その意見を反映させる形で戦略案を策定することが重要です。これにより、透明性と市民参加を確保し、信頼される行政運営を実現することができるでしょう。	本パブリックコメントは「(仮称)仙台市観光戦略2027(中間案)」に対して、ご意見を募集するものあり、お示ししている観光戦略は策定途中の中間案となっております。宿泊税の活用を含めて、広くご意見をいただき、その内容を反映させた上で最終的な観光戦略を策定してまいります。また、宿泊税の収収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。
57	全体に関するご意見	ベトナム語で作ってください読めません	本観光戦略は、地域の観光事業者や市民の皆様と共有することを目的としており、現在日本語での策定を予定しております。観光情報の発信などについては、多言語による発信に努めてまいります。
58	全体に関するご意見	ベトナムへのリスバクトが感じられません。	本観光戦略は、地域の観光事業者や市民の皆様と共有することを目的としており、現在日本語での策定を予定しております。観光情報の発信などについては、多言語による発信に努めてまいります。
59	全体に関するご意見	ワークショップやパブリックコメントの内容を公表してください。アプリが全然見つかりません。	観光戦略検討ワークショップでいただいた主なご意見については、中間案P.22～P.24に掲載しております。また、本パブリックコメントの結果についても同様に公表いたします。
60	全体に関するご意見	地域経済の発展には、安心・安全な環境の確保が欠かせません。近年、闇バイトが犯罪の温床となり、地域社会や経済に悪影響を及ぼす事例が増えています。こうした問題を解決するためには、行政、企業、地域住民が協力し、効果的な防止策を講じる必要があります。本稿では、闇バイト防止の観点から、地域経済の活性化を目指す具体的な取り組みを提案します。	安心・安全な環境の確保の視点も踏まえ、観光振興を進めてまいります。
61	全体に関するご意見	私が住んでいる仙台市が夜景のランキングから漏れていた。情けない。なんのための観光戦略や計画なのでしょう。この戦略の存在意義が問われています。	SENDAI光のページは、『第10回イルミネーションアワード』のイルミネーション部門ランキングにて、全国第6位を受賞しております。そうした本市の魅力的な夜景の活用も踏まえたナイトコンテンツの充実を図ることで、来訪者の滞在時間延長や、宿泊へとつなげます。
62	全体に関するご意見	3つの視点と6つのプロジェクトがわかりやすくして良い。	3つの視点を踏まえた6つの重点プロジェクトに基づく各施策を展開することで、魅力あふれる観光地づくりを推進し、地域経済の発展につなげてまいります。
63	全体に関するご意見	視点1の「来てもらう」はそのとおりだと思います。観光目的で仙台に来ようと思う人は、まだ少ないと思うので、旅の目的となるような観光スポットやグルメなどをつくって、それを認知してもらうことが大切だと思います。	本市の観光地としての認知度を高め、国内外から認知され、まずは「来てもらう」ことが重要だと認識しており、本観光戦略では3つの視点のうち1つ目として位置付けております。際立った訴求力のあるコンテンツの造成や、仙台ならではの歴史、文化、自然、食などの観光資源を活かし、訪れたい都市を目指す。
64	全体に関するご意見	視点2の「泊まってもらう」ことも重要だとおもいました。泊まらざるを得ない状況をつくる必要があると思いました。仙台は東京からのアクセスがいい分、21:00くらいまで飲んでも問題なく帰れてしまうので。夜景とか今の時期にやってるページがいつでも見れたりするといいのかなと思います。	宿泊は滞在時間の延長や、それに伴う地域消費の拡大に直結するため、3つの視点の2つ目として位置付けております。滞在時間の延長につながるナイトイベントの長期開催や常設化の支援などを通して、宿泊者を増やし、地域経済の活性化を目指します。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
65	全体に関するご意見	現行の観光戦略の実績や課題を踏まえた施策が考えられており、良いと思う。もっと観光客をふやして仙台が観光都市として盛り上がりやすい	中間案P.5「現戦略の振り返りとデータから見る本市の現状の整理」により、現行戦略の実績と課題を分析しているほか、本市を取り巻く現状データを踏まえて、新たな観光戦略を策定しております。3つの視点を踏まえた6つの重点プロジェクトに基づく施策を展開しながら、さらなる交流人口拡大を図り、地域経済の活性化につなげてまいります。
66	全体に関するご意見	「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」について、優先度は低くていい。ハイキューはたしかに人気があるが、今更に取り組むのか？という疑問がある。聖地である仙台市体育館も大規模改修工事に入るため、ファンがどう楽しめるのかが気になる。そして「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」にナイトコンテンツのロングランを掲げているが、それよりもスライド12にある「閑散期における来訪のインセンティブを与える取り組み」が重要だと思われる。例えば、「平日観光」する人には、観光施設やお店で平日割引があるとか、月曜休館の観光施設を減らす(動物公園のように水曜休みに変更するなど)とか、メリットを増やす。平日に観光できる人は限定的でターゲットは「ひとり旅」とかなり絞られるかもしれないが、宿泊につながるのであれば、それで全く悪くないと思う。「混雑を避けた節約志向の旅行者」にも多く来てもらうことで、閑散期を埋める効果につながるかもしれない。最後に全体的に感じたことが、「新しい取り組み」に焦点が当てられすぎていて、肝心の「昔から抱えている課題」に全く向き合っていないのがひどい。改めて、宿泊事業者だけでなく、飲食・小売・交通事業者、観光案内所が感じている問題点を吸い上げてから、取り組みを議論すべきだと思う。	『ハイキュー!!』を活用した観光振興として、本市ではこれまで、仙台観光特使の委嘱や、就任を記念したモニュメントの設置などに取り組んできたところであり、カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)の改修期間中も、ファンの方々が楽しめる企画を検討してまいります。また、閑散期の誘客策としてご提案いただいた「平日観光」へのインセンティブなどは、有効な施策だと考えており、重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」に掲げる施策の方向性のもと、地域の消費を促す特典の付与など、宿泊・連泊につながる取り組みを展開してまいります。今後も、観光関連事業者の皆様との意見交換を行いながら、現場の課題に即した観光施策を立案・実施してまいります。
67	全体に関するご意見	インバウンド消費を目指すことに関して。今月に入り、中国SNSへの児童下校時の盗撮や食品工場のつまみ食い投稿など、治安や衛生面での大きな不安が市民の間で広がっております。地元ルールがわからない県外住民・観光客等による強い不信感を覚えるを得ません。そのなかで観光客を呼び込むことに対して、警備巡回の強化や安全管理徹底を強く求めます。青葉山周辺開発については、仙台市の一番の目玉であるはずの仙台城址の石垣及び周辺道路はまだまだ復旧していません。観光に力を入れるのであれば、修復中や建設途中など、未完成のものをみせることで観光の満足度は大きく減少します。仙台市民及び観光に訪れる方々の為に早期復旧を望みます。また、今後青葉山が開発の重要拠点として発展していくことへの懸念として、野生動物との共存があげられます。青葉山はじめ仙台市内では、近年クマの出没やイノシシ被害が目立つようになってきています。野生動物と人との距離をどう保つかが重要と考えます。青葉山の魅力のひとつである豊かな生態系をいかに保全しつつ、観光ルートを確保していくかが青葉山開発の鍵となると考えます。杜の都仙台と新たな付加価値をお互い損なうことなく両立させていくことを望みます。仙台市営バス運営は赤字が深刻化しています。バス本数の減少とともに、公共交通利用が観光の選択肢として挙げられなくなるのではと考えます。ルール以外のバス本数も維持していくことを望みます。また、観光地区独自のコミュニティバス創設なども考えていく必要があると思います。アニメによる地域振興について。ポケモンイベントや八木山ベニーランドのVtuberコラボイベント等、大盛況になったと思います。しかし、予想を上回る人出により、交通の混雑や駐車場の問題等が発生し市民活動が阻害されることも考えられます。なるべく公共交通で周遊できるように臨時増便を確保するか、シャトルバス運行などにより早期混雑解消を目指すようお願いいたします。また、コラボすることにより、仙台市のイメージが損なわれるものを慎重に議論していくべきです。公序良俗に反するようなコンセプトのキャラクターとのコラボは断固反対します。とくに、市議会でとりあげられました、仙台発祥変態キャラクター「きつこうちゃん」は、定禅寺ストリートジャズフェスティバルや東北六魂祭とのコラボ商品展開を行っています。インバウンド需要の拡大を考えるのであれば、このようなキャラクターとのコラボは、仙台市としてふさわしいと考えられるのでしょうか。表現の自由を突き進むのではなく、一定の品格ある都市を目指して欲しいと思います。財源について。「国の補助金等を積極的な獲得」とあり、これは補助金頼みの案であるように感じます。宿泊税について、反対意見を押し切って採用したのであれば、その範囲内で効率よくできることを考えていくべきかと思えます。例えば、バス本数を減らさない代わりに振り分けを精査する。具体的には観光先のイベント開始や会場時刻前に集中するなどです。財源が厳しい事は重々承知しておりますが、今一度予算について精査していくべきです。観光戦略検討懇談会の意見について。「キラーコンテンツ不足」を指摘しているのは、そう思うのだが、少ないその数が近年減少しているようにも思えます。例えば、光のページェントは目玉観光の一つであったが、物価高と飲食業界をはじめとした周辺商店街の景気の悪さが深刻化しているように感じます。そういった伝統あるイベントは今後も残して欲しいと思っています。(次ページへ続く)	市民が安心、安全に暮らすことができるような体制を整えることが重要であると認識しております。誰もが快適に観光し、過ごすことができるよう、持続可能に観光地づくりを進めます。また、青葉山エリアについて、現在通行止めとなっている市道仙台北城跡線については、復旧作業を行っております。青葉山エリアの自然を活用しながら、中長期的な目線で、新たな観光資源の開発や二次交通の充実など、受入環境整備にも努めてまいります。次にキャラクターとのコラボレーションについては、その表現が地域や市民のイメージに与える影響を十分に考慮し、議論を重ねたうえで、市民の理解と共感を得られるよう、慎重に判断します。SENDAI光のページェントをはじめとする本市のまつりやイベントは、仙台の貴重な財産であると考えております。収益力の向上などを旨とし、持続可能に開催ができるよう、継続的に支援します。また、大規模イベント等でオーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。令和7年より仙台国際センターの大規模改修がはじまりますが、複数の施設を利用して開催されるMICEへの助成制度を拡充し、分散開催を支援するとともに、アフターMICEにおける回遊性を向上することで、地域経済への貢献につながるよう取り組みます。リピーターの獲得については、重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」にて、ビジネスや出張、友人・家族訪問で来訪した方への観光を促すことで、宿泊や連泊、地域での消費拡大につなげてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
67	全体に関するご意見	国際センター改修工事に伴う代替イベントホールについて。例えば、市内の空きテナントやギャラリーを活用し、貸しビル等や周辺飲食店等、積極的に民間へお金が落ちるような取り組みもしていいのではないかと考えます。また、居酒屋等の営業時間前(会議など日中行う場合が多いので)などを借りていくの事もありませんかと思う。以前、緑彩館で行われた「みちのく妖怪めぐり」では、子ども達が楽しく探していました。新寺界隈は寺と緑が多く、周遊するにはいいのではないかと思います。学校の怪談など怖い話は、子ども達に鉄板の人気コンテンツです。妖怪×寺や神社×ウォーキングなど合わせれば、結構良いイベントとして観光客だけでなく、市民も楽しめるものになるかと思えます。リピーターに関して。仙台市は多くの企業の支店や営業所があります。それに伴い、転勤や出張等で来仙される方が多いことでしょう。その方たちに観光目的でリピートしてもらおう戦略の方が、広報活動のコスパを抑えられるのではないのでしょうか。寄り道ついでに気軽に旅行できるような提案もできるようなといいと思います。	(P21に記載)
68	全体に関するご意見	今の戦略の内容と仙台市のデータから現状を把握したうえで分析し、3つの視点を導き出しており、わかりやすくなっている。	中間案P.5「現戦略の振り返りとデータから見る本市の現状の整理」により、現行戦略の実績と課題を分析しているほか、本市を取り巻く現状データを踏まえて、新たな観光戦略を策定しております。3つの視点を踏まえた6つの重点プロジェクトに基づく各施策を展開しながら、さらなる交流人口拡大を図り、地域経済の活性化につなげてまいります。
69	全体に関するご意見	「ベースキャンプ」という言葉はまさにその通りだと思います。仙台は東北のゲートウェイであり、仙台周辺のエリアには魅力ある観光地が多々あります。松島や銀山温泉、平泉などの観光地に行くと仙台に泊まることも考えられます。市内での観光だけでなく広域で捉え、面的に魅力を発信してください！	仙台を拠点に、県内や東北の観光地を巡る旅行スタイルの確立を目指し、「ベースキャンプ」という表現を用いております。県内外の自治体との連携を通して、東北一体での広域観光を推進してまいります。
70	目標値の設定と達成に向けた考え方	680万人泊の実現は、しっかりとした根拠があるのであれば、800万などの到底無理な目標を掲げるよりはよほど地に足がついていて良いと思う。	本観光戦略の達成目標である680万人泊は、人口減少が進み、国内宿泊者数が将来的に減少していくことが予測される中、これまでの宿泊者数の推移や今後の具体的な観光施策の効果などを踏まえて設定したものです。6つの重点プロジェクトに基づき、魅力ある観光地域づくりを推進することで、680万人泊の実現を目指します。
71	目標値の設定と達成に向けた考え方	680万人という数字は、あまりに低い目標。現状に比べると目標値は低すぎて誰もその目標に向かおうと思わない。仙台市は政令都市の中でも観光が弱いという印象であり、他都市のベンチマークをおくべきである。 他都市との比較がないことや、旅行以外の仕事や冠婚葬祭でくる人が入っているか不明なため、意味合いが理解できない。	本観光戦略の達成目標である680万人泊は、人口減少が進み、国内宿泊者数が将来的に減少していくことが予測される中、これまでの宿泊者数の推移や今後の具体的な観光施策の効果などを踏まえて設定したものです。6つの重点プロジェクトに基づき、魅力ある観光地域づくりを推進することで、680万人泊の実現を目指します。今後の観光振興にあたりまして、他都市の動向や取り組みを参考にするとともに、宿泊者の個別の目的については、毎年度実施する観光実態調査の中で把握してまいります。
72	目標値の設定と達成に向けた考え方	これまでの投資(事業費)に対する収益(GDP?)はどうだったのかが見えない。もう少し民間企業の目線で取り組まないと、これまでと何も変わらない。個々の実績や観光消費額の一人当たりの平均金額では、総体としての判断はできない。客観的なデータでしっかりと分析、検証を行い、それをプランに生かすことが必要ではないか。それをせずに、新たな戦略では、効果が期待できない。特に、振り返り(その他の施策)を見ると、取り組みの実績からどのように課題が出てきたのかが全く理解できない。戦略に入りたい要素を課題と言って書き出したようにも見える。	裾野の広い観光産業において、戦略を踏まえた産業全体の収益や効果を詳細に検証することは難しいですが、達成目標である延べ宿泊者数の実現に伴う経済効果等については、分析を進めてまいります。また、事業ごとの費用や経済効果を把握し、観光関連事業者の皆様と効果検証を行いながら、今後の観光振興に活かしてまいります。
73	目標値の設定と達成に向けた考え方	私は目標についての部分で観光消費額を増やすという部分が大事になってくるなど感じました。仙台市には沢山の場所から様々な人が訪れていることもあるので外からのお客さんにも経済を回すことに協力してもらおうのはありだと思いました。子供が遊べるような場所を増やしてみたり、一日いても飽きないような施設を今よりもさらに増やしてみたり、また仙台にはサッカーチームや、野球チームが本拠地として活動しているのもあるのでそういったチームのファンの方にも楽しみながら喜んでお金を使ってもらえるようにしたら観光消費額も上がっていくのではないかと考えました。	本観光戦略では、宿泊者が増えることで、地域内での消費が拡大し、多方面での経済波及効果を期待することができるため、達成目標として、延べ宿泊者数を掲げております。観光消費額につきましても、地域経済への影響を測る重要な指標であり、今後、モニタリング指標等として設定してまいります。
74	目標値の設定と達成に向けた考え方	宿泊者数の達成目標以外に来訪や宿泊につながるようなリピーター率や満足度、宿泊施設の稼働率などを設けるとより良いと思う。	宿泊者数以外にも、ご例示の指標などについてモニタリング指標として定めながら、戦略を推進してまいります。
75	目標値の設定と達成に向けた考え方	統計的に妥当性のある効果検証は現実的には難しいと思います。市では、どのようにデータを集め、効果検証を行うのでしょうか。そもそも、その本戦略における効果の定義は何でしょうか。	本観光戦略では、宿泊者が増えることで、地域内での消費が拡大し、多方面での経済効果を期待することができるため、達成目標として、延べ宿泊者数を掲げております。また、参考となる観光関連の指標をモニタリングするとともに、各プロジェクトに基づき実施する観光施策についても、人流データやその時の宿泊者数に関するデータ、観光関連事業者の方の声などを踏まえ、検証を行いながら、観光施策に活かしてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
76	目標値の設定と達成に向けた考え方	2024年度見込みの650万人泊の場合、宿泊施設の部屋の稼働率はどのくらいでしょうか。また2027年度の680万人泊達成の際の、宿泊施設の総部屋数と稼働率の見込みをお示しいただくことは可能でしょうか。	一定期間における宿泊者数を、その期間の総収容人数で除して算出した数値である、定員稼働率でお示した場合、令和5年の定員稼働率は46.5%です。680万人泊を実現するには、50%を超える定員稼働率を実現する必要があります。
77	目標値の設定と達成に向けた考え方	本戦略において主語が明確ではない。特に市の役割として、「どのような財源措置をして」「何を」「いつまでに」実施していくのかについて言及されていないため、この戦略を成果に繋げることができるかが疑問である。	本観光戦略は、市が主語ですが、関係団体や観光関連事業者の皆様とともに戦略期間中の3か年に取り組み施策の方向性を示しております。財源については、従来の観光予算である一般財源に加え、宿泊税の税収約10億円を活用することとしております。具体的な事業及び事業費の内容については、毎年度予算の中でお示してまいります。
78	目標値の設定と達成に向けた考え方	人泊という単位の意味がわからないので説明が必要。なぜ今後も増えるという目標が立てられるのか。考え方を示してほしい。増税する場所には観光しない	「人泊」とは、延べ宿泊者数のことであり、1日単位でみた本市に宿泊した人数を指します。中間案P.32に掲載している、「本市の国内宿泊者数の将来推移」では、日本の少子高齢化に伴う人口減少により、国内宿泊者数は将来的に減少していくことが予測されます。人口減少が加速し、都市間競争も激しさを増す中、新たな財源も活用し、思い切った施策を行うことで、魅力あふれる観光地域づくりを推進してまいりたいと考えております。
79	目標値の設定と達成に向けた考え方	誘客ターゲットは国内外の観光消費が高い層としており、そこに挙げられている仙台の観光資源や強みと合致する層、MICEの参加者、スキー客これら3つは観光消費が高くそして国内外の客層が多いと考えられる。これらの誘客はインバウンド効果もあり、とても仙台経済の活性化に役立つと感じるが、国内の誘客が主になるものが子育てファミリー層の一つしか無いことが不安に感じた。インバウンド効果による経済効果は素晴らしいが、そこに依存した経済戦略は危ないということは近年のコロナによる影響で痛いほど日本国全体が感じたと思うので、誘客ターゲットとしてはもっと国内の誘客が欲しいと感じる。そこが増えくるとインバウンド効果が仮に得られなくなってきた時の保険としてあることで安心できるMICE全体の戦略基本になると思われる。	本観光戦略では、達成目標として、延べ宿泊者数を680万人泊と設定しており、国内宿泊者数を610万人泊、インバウンドを70万人泊としております。そのため、いただいたご意見のとおり、インバウンドのみならず、国内の誘客強化の視点も重要だと認識しており、重点プロジェクト4「+（プラス）観光の推進」のとおり、MICEの拠点としての機能強化や、地域消費の拡大に向けた取り組みを推進してまいります。
80	目標値の設定と達成に向けた考え方	2027年680万人泊という目標値を達成するうえで、宿泊事業者誘致や民泊事業者の参入促進など、宿泊キャパを増加させる具体的な取り組みは検討されているのでしょうか(あるいはキャパは足りているのでしょうか)。現状繁忙期はビジネスホテルであっても、非常に宿泊料が高騰している状況から、宿泊事業者の客室稼働率は高いかと推察していましたが、年間を通してどのような傾向があり、どのように施策を打って宿泊事業者を支援していくのか興味があるため、合わせて公開していただけるとありがたいと思います。	宿泊事業者の誘致や、民泊事業者の参入促進などは、宿泊者数を増やし、消費を拡大させる上で重要な視点だと考えており、具体的にどのようなことが可能か関係部署と連携して検討を進めてまいります。本市宿泊施設の客室稼働率は、観光庁のデータより、令和4年は60.7%、令和5年は69.8%と推移しております。冬季が閑散期であり、夏季が繁忙期となっており、閑散期対策を行いながら、年間を通して平準化できるよう誘客を進めてまいります。
81	6つの重点プロジェクト全体	10ページおよび13～20ページに記載されている5つの重点プロジェクトが丁寧に記載されており、仙台市の目指すべき方向が明確に打ち出されている。しっかりとエリア分けを行い、インバウンドやMICEに正対することが明記され、事業者連携にまで言及している。 今後、重要なのは、このプロジェクトをいかに具現化していくことかと考える。様々な障壁があらうかとは思いますが、各プロジェクト毎に課題の抽出や実現に向けてのより詳細な実行計画の立案などが必要である。観光の再生に取り組むとともに、交流人口のさらなる拡大に向け、国内外の旅行者から選ばれる仙台・東北を目指したアクション実現に向け、今後の状況推移を注視していきたい。	本観光戦略の6つの重点プロジェクトは、3か年の策定期間における施策の方向性を示すものとなり、具体的な事業及び事業費の内容については、毎年度予算の中でお示してまいります。また、各プロジェクトに基づき実施する観光施策についても、人流データやその時の宿泊者数に関するデータ、観光関連事業者の方の声を踏まえ、検証を行いながら、観光施策に活かしてまいります。
82	6つの重点プロジェクト全体	観光戦略が市の計画上どのような位置づけなのかかわからないが、宿泊者の数値目標を達成するために何でもかんでもやる風に見える。仙台が観光地としてどのような都市になりたいのか、将来像がわかりにくいと感じた。「心弾むエモーショナル都市」なのか、「アーバンリゾート」なのか、「アナザー・ジャパン」なのか、仙台はどのようなブランディングをして売り込んでいくのか。東京にも京都にも大阪にもない、仙台だけが独り勝ちできる分野に投資をしてほしい。	本市では、旅行者が訪れる度にワクワクする、魅力あふれる過ごし方を提案し、国内外の方々に惹きつけることができる都市を目指しております。その実現に向け、異なる切り口の6つの重点プロジェクトをお示しており、その中では、仙台の歴史・文化資源が集積する青葉山エリアの磨き上げや、仙台ゆかりの漫画・アニメを活用した企画の実現、温泉地の整備や自然資源の活用など、来訪者が様々な楽しみ方ができるよう、コアとなるコンテンツの整備を進めながら、誘客を強化してまいります。
83	6つの重点プロジェクト全体	戦略となっていますが、大きな方向性のみが示されると感じます。具体的な戦術はこれから示されていくのでしょうか。	本観光戦略の6つの重点プロジェクトは、3か年の策定期間における施策の方向性を示すものとなり、具体的な事業及び事業費の内容については、毎年度予算の中でお示してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
84	6つの重点プロジェクト全体	<p>テレビや新聞で宿泊税のニュースをよく見るのでこちらも読んでみました。私はずばり観光業という仕事ではないですが、いち市民として仙台の観光の今後に興味があって意見しています(地域経済の一員として大いに関係があると思っています。)。まず、「3つの視点」についてはごく当たり前の内容ですが、その通りだなと思って読みました。</p> <p>ただ、6つのプロジェクトについては全体的にふわふわしているというか、地に足がついていないように見えました。横文字が多いからかもしれませんが、具体的方策があまり見えないこともあるんだと思います。ちょっと心配なのは旅館やホテルさん、旅行会社の人たちにはしっかり話を聞いているのかなということです。宿泊税に関して、私はどちらかといえば賛成ですが、これのせいで仙台市との関係性が少し悪くなったことも原因としてあるのかなと思います。私もコンサルのような仕事をしていたことがあるので、利害関係者との調整が難しいことは承知していますし、市役所の皆さんは大変だと思いますが、もう少し関係性を改善すること、特に市長がしっかり向き合っていないように見えるのでもう少し直接声を聴くようにするといんじゃないでしょうか。まちづくりはじめ、地域の方々と組んでやっていくのであれば、行政の独りよがりでは上手くいきません。</p> <p>でも、もっと気になるのはホテルさん達の姿勢です。宿泊税はホテルさんが徴収するということなので大変なんだと思いますし反対するのもわかります。私も最初は同情的に見ていました。ですが、徐々に反対の仕方が過激なのではないかというように考え方が変わりました。</p> <p>一部だと思いますが、感情的に反対し、話を聞く姿勢を取らない方がいるのはちょっと残念です。例えば、新聞などを見ると「オーバーツーリズムではないから導入すべきでない」という意見が出ているようですが、仙台市の会議の報告書を読んでどこにもそんな目的は書いてませんし、また「宿泊税のせいで宿泊取りやめをする人がいる」と言われているようですが、そんなはずありません。旅先はそこへ行く目的があっていくのであって、1泊数百円の安さを求めて宿泊地を変えることは普通に考えたらありえません。こういう意見を言う方は、本当に旅行者から話を聞いているのか疑問になるほどです。「部外者に言われたくない」と言われるかもしれませんが、もう少し理性的に話し合うべきじゃないかと私は思います。</p> <p>また、市役所が意見を聞く対象が、旅館やホテルの社長さんなど高齢の方が多いのも気になります。これからの社会を担うのはもう少し若い世代(20～40代、10代の意見ももちろん大事)ですし、高齢で地位のある方はどうしても現状維持を意識すると思います。これからの仙台市を盛り上げるには若者の考え方、積極的な投資が必要なんだと思いますので、ちょっとズレてるんじゃないかなと思います。今後は国を挙げてインバウンドの取り込みを目指すとのことですから、これを積極的に取りにいかない手はありません。</p> <p>長文になってしまい申し訳ありません。仙台市のより良い未来を作り上げていただきたいと思います。応援しています。</p>	<p>本観光戦略は、年代も様々な宿泊・観光関連事業者の皆様から、多様な形でご意見を伺いながら、策定を進めており、その中で、「来てもらう」「泊まってもらう」「また来てもらう」の3つの視点のもと、異なるアプローチから、6つの重点プロジェクトに基づいた施策の方向性としてお示ししております。</p> <p>具体的な事業及び事業費の内容については、毎年度予算の中でお示しするとともに、各プロジェクトに基づき実施する観光施策についても、人流データや宿泊者に関連するデータ、多様な宿泊・観光関連事業者の皆様のご意見などを踏まえ、効果検証を行いながら、観光施策に活かしてまいります。</p> <p>宿泊税の導入に向けましても、事業者の多様な皆様のご意見を、制度の運用や使途の検討に活かす仕組みを構築してまいります。</p>
85	6つの重点プロジェクト全体	<p>6つのプロジェクトのところは1から6にしない。</p> <p>0とか意味わからん。</p> <p>0から5なら「5つのプロジェクトではないか」</p>	<p>重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」は、本観光戦略期間の3年で完結するものではなく、伊達政宗公没後400年となる2036年など、中長期的な視点を持って施策を展開していくため、他のプロジェクトとは異なる位置付けの「0」と定めています。仙台城大手門の復元、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備など、中長期的にトピックスが続く本市の文化観光の重要なエリアとして、次の世代に継承・発展させながら、誘客を図ってまいります。</p>
86	6つの重点プロジェクト全体	<p>・6つの施策のうち、どれに最も力を入れる予定か、あるいは、すべての施策に財源やマンパワーをバランスよく注ぐ予定なのかを明確にすると、より実現性の高い観光戦略になるのではないかと感じました。&lt;ご質問事項&gt;・6つの各施策同士の連関や相乗効果について、何か見込みのある組み合わせはあるでしょうか。・6つの施策のうち、最も有益な効果が得られる可能性を感じているものは何でしょうか。</p>	<p>施策の連携については、重点プロジェクト5「持続可能な観光地域づくりの形成」を基盤とし、観光関連事業者の方々との連携を強化しながら、0から4の重点プロジェクトに掲げる施策の方向性に沿った取り組みを進めてまいります。また、各プロジェクトで創出する観光コンテンツについては、重点プロジェクト3のインバウンドの獲得や重点プロジェクト4の観光以外の目的で訪れた方にも訴求するよう取り組んでまいります。</p> <p>各プロジェクトに基づき実施する観光施策については、人流データやその時の宿泊者数に関するデータ、宿泊・観光関連事業者の皆様の声などを踏まえ、効果検証を行いながら、観光施策に活かしてまいります。</p>
87	重点プロジェクト0	<p>●青葉山は、仙台市のシンボルであり、歴史のいにしえ、宝でもありますが、安易なイベント実施に留まらないよう唯一無二の資源として磨き上げることが重要と考えます。旧来のおもてなしだけでは都市間競争にも勝つことは難しいことから新しい感動を与えるような取り組み、特に立体的な地形を生かしたサービスを期待いたします。</p>	<p>青葉山エリアは、本市を代表する観光地であり、集積する歴史文化資源をさらに活用することで、より一層交流人口の拡大につながるものと考えております。新たな観光コンテンツの整備やナイトイベントの開催など、仙台城跡から仙臺緑彩館など一帯を活用することで、訪れる方の満足度向上につなげてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
88	重点プロジェクト0	「様々な年代の方が楽しむことができる空間の創出」にはユニバーサルデザインの考え方、具現化が必要だと思います。  足腰に不安のある方やハンディキャップのある方が、坂の多い青葉山エリアを周遊できるようソフト面ハード面での受け入れ態勢が構築できれば、高齢化の進む国内需要を取り込む武器になり、仙台市のステータス向上に繋がると思います。	すべての人が利用しやすい環境やサービスを提供するユニバーサルデザインの考え方は、観光振興においても重要な視点であり、移動手段の充実やバリアフリー化の推進などにより、快適に旅行できる環境づくりを推進してまいります。
89	重点プロジェクト0	「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」に期待します。しかし、周遊バス一がる仙台は1方向しかなく、博物館や緑彩館を訪れた方が「瑞鳳殿に行きたい」という場合、現状では徒歩30分か、タクシー会社の電話番号をご案内することしか出来ません。電動キックボードと伊達バイクは、高齢者にはハードルが高く、途中の経路は道幅が狭く、坂もあり、お勧めできません。また、地下鉄東西線国際センター駅は、大橋側の通りに表示が一つもなく、国際センターや展示棟の建物で駅舎が隠れて見えないため、緑彩館から駅までの道を尋ねる方が、たくさんいらっしゃいます。車からでも見えるような地下鉄駅の表示が必要ではないでしょうか。それから、緑彩館と博物館を間違える方もとても多く「博物館はどこですか」と毎日2、3回尋ねられます。公共交通を降りた後「博物館はこちら」という案内サインが一つもない仙台は、観光都市としては不親切です。これからは、各国語併記も必要だと思いますが、デザインだけではなく、大きくて誰もがわかりやすい、おもてなし感のある、サインや表示が増えることを希望します。	青葉山エリアにある観光資源をつなぎ、長く滞在していただくために、交通アクセスの充実が重要な視点だと考えており、重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」のもと、青葉山エリア内や中心部での回遊を促進する二次交通の検討を進めてまいります。また、案内サインや多言語表記についても、重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に位置付けているとおり、快適に観光できるよう努めてまいります。
90	重点プロジェクト0	現戦略の振り返りで「コアとなる観光資源の形成」とあるが、何をやってどのような成果が得られたのかが市民には見えない。牛タンや七夕、秋保温泉を例示しているが、何か力を入れたのか。またこれらの成果を検証できているのか。単なるメジャーな名前を挙げただけの、意図も何も込められていないように見える。知名度の高いものを挙げるよりも、最も成果の見える取り組みである仙台城跡、青葉山公園を取り上げた方がよい。白Aや伊達武将隊、VRなど仙台はじまりの地の知名度をもっと上げるべきである。この戦略は誰に向けたものなのか、よく考えるべき。	中間案P.36に記載の本市の観光の実態データに、本市の魅力度及び認知度が高い観光資源として「牛タン焼き」「仙台七夕まつり」「秋保温泉」「仙台城跡/青葉城址」を挙げております。仙台城跡や青葉山公園をはじめとした青葉山エリアは、重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」に記載のとおり、本市を代表する観光地であり、当該エリアで活動される観光事業者の皆様との連携を図りながら、より一層魅力を高めてまいります。
91	重点プロジェクト0	仙台城跡などの既存の観光資源の磨き上げやそれに伴う新たな価値創出は、地域の歴史に興味のあるターゲットにとってはとても関心を集められる良い戦略だと感じました。しかし、歴史や文化遺産等への関心層となると、観光客全体として見ると数が限られてくる可能性も感じました。より多くの観光客をターゲットにできるような多角的な価値創出を行うことが有用かと思いました。	仙台城跡を含む青葉山エリアは、本市を代表する観光地であり、重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」のもと、各施設を訪れる方々の満足度を高めるため、各般の取り組みを進めてまいります。また、歴史等への関心がある層へのアプローチといたしましては、仙台ゆかりの漫画・アニメの活用や温泉地の魅力向上、ナイトコンテンツの充実など他のプロジェクトのもと、多角的に魅力を高め、様々なターゲットに訴求するよう努めてまいります。
92	重点プロジェクト0	重点プロジェクト「0」とありますが、あまり聞き慣れない表現だと思います。どういう意味・意図があるのでしょうか。	重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」は、本観光戦略期間の3年で完結するものではなく、伊達政宗公没後400年となる2036年など、中長期的な視点を持って施策を展開していくため、他のプロジェクトとは異なる位置付けの「0」と定めています。仙台城大手門の復元、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備など、中長期的にトピックスが続く本市の文化観光の重要なエリアとして、次の世代に継承・発展させながら、誘客を図ってまいります。
93	重点プロジェクト0	仙台市の観光戦略を進化させるために、新たな観光の目玉として城を建設することをお勧めします。以下に、その理由と期待される効果について説明いたします。まず、城は観光地として非常に高い魅力を持っています。多くの人々にとって、城は歴史や文化、ロマンティックなイメージを喚起する象徴です。城を訪れることで、観光客はその地域の歴史や伝統に触れ、特別な体験をすることができます。特に、現代の都市生活から離れ、過去の時代に思いを馳せることができる場所は大変魅力的です。また、城の建設は地域経済に大きな貢献をもたらします。建設段階では多くの雇用が生まれ、地元経済活性化に寄与します。その後、城が観光地として機能することで、観光客の流入が増え、地元の商店や宿泊施設、飲食店などの関連産業にも波及効果が期待できます。観光客が増えることで、地域全体の経済が活性化し、持続可能な発展が可能となります。さらに、城は教育的価値も高いです。歴史教育の一環として、学校や教育機関が城を訪れることで、生徒たちは実際の歴史的遺構に触れながら学ぶことができます。また、城内に博物館や展示施設を併設することで、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供できます。このように、城は観光地としての魅力だけでなく、教育的価値も備えているのです。環境への配慮も重要です。城の建設にあたっては、周囲の自然環境を考慮し、持続可能な設計を取り入れることが求められます。これにより、環境負荷を最小限に抑えつつ、美しい景観を保つことができます。また、城の周辺に公園や緑地を整備することで、地元住民も楽しめる憩いの場を提供することができます。最後に、城は地域のシンボルとなり得ます。独自のデザインや歴史的背景を持つ城は、その地域のアイデンティティを象徴するランドマークとなり、観光客にとっても印象深い訪問先となります。このように、仙台市に新たな城を建設することで、地域全体の魅力を高め、多くの観光客を引き付けることができるでしょう。仙台市の未来を見据えた観光戦略として、城の建設をぜひご検討いただければと思います。あなたはこの提案についてどう考えますか？	仙台城の整備が実現すれば、ご指摘のとおり、観光振興に寄与するものと考えますが、その実現には整備費用をはじめとする様々な課題がございます。今後の観光施策の参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
94	重点プロジェクト0	<p>青葉山は仙台における始まりの地であり、100万都市にしては珍しく手付かずの自然が駅から3km以内に存在している稀有な、まさに「仙台ならではの」場所といえます。しかし、仙台城～大日本帝国軍司令部～GHQ司令部～東北大学等が置かれた歴史的経緯もあり、飲食施設等がほとんどない等、観光面で十分活かされていない部分があると感じます。仙台城址が仙台市と護国神社と東北大学で分断して土地を持っていることが様々な進みにくい理由の一つかと存じます。管理を仙台市に一括する等、見直しを図り、民間に指定管理を委託する等して、もう少し民間テイストを盛り込んだ魅力的な場所にする必要があると感じています。人を集客するには飲食施設の充実は必須と感じます。</p> <p>また、ATを泉ヶ岳・・・という表記もありましたが、御裏林、青葉山緑地や竜の口溪谷、等自然豊かな部分を活かした、ATコンテンツを造成するのも必要と感じています。</p> <p>特に御裏林は歴史的価値があるのに市民にもほとんど知られず、(東北大学植物園管理下のため)自由に訪問しにくくてもったいないと感じています。竜の口溪谷も、昔は自殺の名所等のイメージがありますが、化石の発掘等学術的にも価値が高く、あれだけ見事な溪谷は絶対に観光に活かすべきと感じています(※竜の口溪谷トレッキングツアー等)。</p> <p>八木山ベニランド～仙台城址間をスーパーZIPラインをつなぐ等すると話題性が大きく高まるように感じております。</p>	<p>青葉山エリアは、ご指摘のとおり、飲食店が少ないという課題があり、今後の観光振興においてどのような形で充実させることができるか検討を進めてまいります。また、広瀬川をはじめ、御裏林、青葉の森緑地や竜の口溪谷などの自然資源も多く存在しており、いただいたご意見も踏まえ、観光関連事業者等との連携のもと、そのポテンシャルを活かす視点についても検討を進めてまいります。</p>
95	重点プロジェクト0	<p>青葉山エリアを宿泊しながら周遊できるよう、官民連携が必要と思います。</p>	<p>青葉山エリアの魅力向上に向けて、観光関連事業者の方々との連携を図り、ナイトコンテンツの常設化や中心部商店街との連携など宿泊につながる取り組みを進めてまいります。</p>
96	重点プロジェクト0	<p>仙台城には天守閣や御殿がなく、がっかりスポットでした。</p> <p>2度と仙台市に行くことはありません。</p>	<p>仙台城跡には天守閣や御殿は存在していませんが、伊達政宗公ゆかりの歴史的な地として、騎馬像をはじめ、宮城縣護國神社、青葉城資料展示館などがあり、仙台市街を一望できる景観を楽しむことができます。本観光戦略においても、重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」のもと、青葉山エリアの新たな観光資源の整備・検討を進め、新たな魅力を創出してまいりたいと考えております。</p>
97	重点プロジェクト0	<p>青葉城の石垣が崩落し現在通行止めとなっている道路の活用方について。一般道路として復旧を目指すのか、観光用の道路(通路)として活用を目指すのか。現状、迂回路の利用で日常生活に不便は生じていないように感じます。青葉城址への誘客の為に、二次交通の強化と観光地整備を行い様々な年代が楽しむことができるエリアとしてほしい。</p>	<p>現在通行止めとなっている市道仙台城跡線については、復旧作業を行っております。通行止めが解消された際には、るーぶる仙台により仙台城跡への送客を行うことが基本となりますが、さらなる二次交通の充実に向けての検討も進めてまいります。</p>
98	重点プロジェクト0	<p>青葉山エリアの資源として、博物館、美術館、青葉山の自然環境(植物園)なども、有効な観光資源だと思えます。また、四季折々の風景、七夕時期の花火大会などのイベントも重要な要素かと思えます。</p>	<p>青葉山エリアは、ご例示のように歴史・文化・学術・自然など様々な魅力ある資源が集積しており、それらのスポットと連携した取り組みを進めるとともに、イベントの会場としてのさらなる活用も図ってまいります。</p>
99	重点プロジェクト0	<p>日本の歴史を外国人観光客に理解してもらうためには、観光ガイドツアーの設置が非常に重要であることは言うまでもありません。特に、伊達家と上杉家の歴史は日本の戦国時代や江戸時代において極めて重要な役割を果たし、その軌跡を学ぶことは日本史の理解を深める上で欠かせません。これらの歴史的背景を外国人観光客に伝えることができれば、日本の文化や歴史に対する深い理解を促進し、観光業の発展にも寄与することができます。以下では、伊達家と上杉家の歴史的な背景を用いて、観光ガイドツアー設置の必要性を説明します。外国人観光客に向けた観光ガイドツアーを設置することで、日本の歴史がどのように伝わりやすくなり、外国人観光客が日本の文化や歴史をより深く理解することができるのかを考察していきます。</p> <p>伊達家の歴史 伊達家は、戦国時代の東北地方において最も有力な大名の一つであり、特に仙台藩の藩主として名高いです。伊達政宗がその代表的な人物であり、彼の政治手腕や軍事的な活躍は、日本史において非常に注目されています。政宗は、戦国時代を生き抜き、家族を守りながらも、時には冷徹な決断を下し、領土を拡大していきました。その一方で、政宗は文化的な側面にも力を入れ、京都や江戸の文化を取り入れ、また、キリスト教に興味を示すなど、非常に多面的な人物でした。伊達家の歴史を外国人観光客に伝えるためには、まず政宗の生き様に焦点を当てるのが有効です。政宗がどのようにして戦国時代を生き抜いたのか、また彼が築いた仙台藩の特色や文化について詳しく解説することが必要です。政宗の生涯を通じて、日本の戦国時代における戦争の影響や、当時の社会構造を理解することができるでしょう。特に、彼の名古屋や江戸における文化的な貢献、そしてその後の仙台藩の発展について詳しく説明することで、観光客は伊達家の歴史的な意義を深く理解できるはずです。</p> <p>また、伊達家の歴史的遺産を訪れることができる場所として、仙台城跡や伊達政宗の廟所などが挙げられます。これらの場所では、政宗がどのように地域社会に影響を与え、また彼の死後の伊達家の発展にどのような役割があったのかを学ぶことができます。(次ページへ続く)</p>	<p>ガイドツアーの設置などを通して、本市の歴史や文化を深く理解していただくことは、外国人観光客等の満足度の向上へ、大きく寄与するものだと考えております。重点プロジェクト0「次代につなぐ青葉山エリアの価値の深化」は、中長期的な視点のもと、歴史・文化の魅力継承・発展させ、誘客の促進を目指すものであり、地域の歴史や文化をより深く体感していただける機会を提供することで、本市ならではの観光コンテンツの磨き上げを図ってまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
99	重点プロジェクト0	<p>これらの観光地を巡ることによって、観光客は伊達家の歴史に対するより深い理解を得ることができるでしょう。</p> <p>上杉家の歴史</p> <p>一方、上杉家は、戦国時代におけるもう一つの重要な大名家であり、その代表的な人物は上杉謙信です。謙信は、戦国時代の名将として広く知られ、その忠義や戦略家としての才能が評価されています。謙信の戦歴は、越後の国を中心に展開され、特に武田信玄との戦いが有名です。謙信は、戦国時代における多くの戦で勝利を収め、彼の死後も上杉家は一時的にその領土を維持しましたが、最終的には江戸時代における政治的変動の中で徐々に力を失っていきました。上杉家の歴史を外国人観光客に理解してもらうためには、まず謙信の戦いの詳細を伝えることが重要です。特に謙信と信玄の戦いに焦点を当て、戦国時代における大名同士の争いがどのように展開していたのかを説明することが有効です。また、謙信の忠義心やその武士道精神を強調することで、観光客は日本の武士道精神についても深く学ぶことができます。</p> <p>上杉家の歴史的遺産を訪れる観光地としては、上越市にある上越城や、謙信の廟所である春日山などがあります。これらの場所では、上杉家の歴史を追いなら、謙信の戦略や政治的な影響力を学ぶことができます。観光ガイドツアーを通じて、これらの場所を訪れ、上杉家の歴史を実際に体験することは、観光客にとって非常に貴重な経験となるでしょう。</p> <p>伊達家と上杉家の歴史を通じた日本史理解</p> <p>伊達家と上杉家の歴史は、戦国時代の日本を代表する家系であり、その相互関係や歴史的背景は、外国人観光客が日本の歴史を理解する上で非常に重要な要素となります。これらの家系を通じて、日本の戦国時代における大名同士の争いや、政治的な背景、さらには文化や思想の発展について学ぶことができます。</p> <p>観光ガイドツアーを通じて、これらの家系の歴史を詳しく解説することは、外国人観光客に対して日本の歴史を深く理解してもらうための有効な手段です。例えば、伊達政宗の功績や上杉謙信の忠義心について語り、それらがどのように後世に影響を与えたのかを説明することで、観光客は日本の戦国時代について深い理解を得ることができるでしょう。また、観光ガイドツアーでは、これらの家系に関連する史跡や遺跡を訪れることができ、実際にその地で歴史を感じることができます。仙台城や上越城を巡ることによって、観光客は日本の歴史をより身近に感じることができ、その知識を深めることができるでしょう。</p> <p>観光ガイドツアーの必要性</p> <p>観光ガイドツアーを設置することの必要性は、歴史的な理解を深めるだけでなく、外国人観光客に対して日本の文化や価値観を効果的に伝えるためにも重要です。日本の歴史や文化は非常に奥深く、外国人にとっては難解に感じられることもあります。そこで、専門的な知識を持ったガイドがいるツアーに参加することで、観光客は日本の歴史に関する誤解や誤った認識を解消することができ、より充実した旅行を楽しむことができます。特に、伊達家と上杉家のように、異なる地域や時代背景を持つ大名家に関する理解は、観光ガイドツアーを通じて一層深まります。ガイドがその地域の歴史的な背景や文化を説明し、観光客が現地で直接その歴史を感じることができれば、観光地の魅力を最大限に引き出すことができます。</p> <p>結論</p> <p>日本の歴史を外国人観光客に理解してもらうために、観光ガイドツアーの設置は非常に重要です。伊達家と上杉家の歴史を通じて、日本の戦国時代や江戸時代の背景を学ぶことは、観光客にとって非常に有意義な経験となるでしょう。観光ガイドツアーを活用することで、観光客は日本の歴史を深く理解し、またその地域の文化や価値観を感じることができます。これにより、日本の観光業はさらに発展し、観光客が増加することが期待できます。</p>	(P26に記載)
100	重点プロジェクト1	<p>漫画やアニメのコンテンツ活用に賛成です。1回きりの来訪で終わらず継続性を持たせること、周遊を促すなどして面での広がりを持たせることが重要だと思います。また、来訪者が周辺観光をしやすいよう、イベント専用LPに観光情報をひも付けるなど、線で情報発信をすべきだと思います。</p>	<p>漫画・アニメコンテンツの活用にあたり、常設のコンテンツを創出することや継続性のある取り組みを行うことで、リピーターの獲得につながるものと考えております。また、それらを目的に訪れた方々の周遊を促し、消費拡大につなげる視点は重要であり、来訪者への情報発信についても工夫してまいります。</p>
101	重点プロジェクト1	<p>ハイキューを載せてるのはなぜか。 ワンピースやポケモン、ジョジョなど漫画、アニメはたくさんある。 全く公平でない</p>	<p>『ハイキュー!!』をはじめ、仙台市にゆかりのある漫画・アニメ作品と連携した取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>
102	重点プロジェクト1	<p>漫画などの活用やイベントの誘致は借リ物的な印象を受けます。重要なのは一度仙台を訪れた人に仙台を好きになってもらい、イベントがなくてもまた来てもらえるように印象付けることだと思いますので、借リ物で終わらないようなディープな取り組みのアイデアを盛り込んでいただきたいです。</p>	<p>重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」に記載のとおり、仙台ゆかりの漫画・アニメのコンテンツの活用や、イベントの開催・誘致強化など、国内外の方々から訴求する取り組みを進めるとともに、仙台を代表する観光地である青葉山エリアの魅力向上や、温泉地の環境整備、中心部におけるナイトコンテンツの充実など、観光関連事業者の方々からアイデアも活かしながら、多角的な魅力の創出に取り組んでまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
103	重点プロジェクト1	来年オープン予定の国際基準を備えたスケートリンクは世界中からファンを呼び込める強力なコンテンツとなり得る。市民も巻き込んで盛り上げていけるとよい。光のページェント延長のためのCFは呼びかけ方に工夫が必要。市民の情熱にきちんと訴えられていなかった。せっかくの企画だったのもったいない。独眼竜政宗に続く、例えば支倉常長や和久宗などをフィーチャーした大河ドラマや、宮城を舞台とした次の朝ドラも期待する。宮城がロケ地になっている全国公開の映画は地元応援として必ず観ている。	現在整備が進められているスケートリンクは、仙台ならではの訴求力のある観光資源になり得ると認識しており、関係事業者との連携のもと、地域一体となって十分活用されるよう取り組んでまいりたいと考えております。SENDAI光のページェントにつきましては、継続に向け、ふるさと納税の活用も図っておりますが、今後も、様々な手法で支援を検討してまいります。また、重点プロジェクトQに記載のとおり、中長期的な視点のもと、大河ドラマの誘致に向けた機運醸成を図りながら、本市が誇る歴史・文化の魅力を発信してまいります。
104	重点プロジェクト1	ナイトコンテンツの拡充のために、受入施設の設備投資・改修も必要かと思えます。コンテンツを造成・拡充するとともに、受入側も発展していかなければなりません。そちらの補助や助成をお願いしたいです。	ナイトコンテンツの充実には、コンテンツの開発とともに、設備投資も必要になるものと考えており、観光関連事業者の皆様との意見交換を行いながら、その支援のあり方について検討を進めてまいります。
105	重点プロジェクト1	ナイトコンテンツ事業は、青葉山も良いが食事をしてすぐに行ける街中にあった方がインバウンドの方は行きやすいと思えますので、是非検討して頂きたいです。	青葉山エリアだけでなく、中心部エリアも含めて、ナイトコンテンツの創出や長期開催に取り組み、国内外からの来訪者の誘客促進や宿泊の増加につなげてまいります。
106	重点プロジェクト1	1.心弾むエモーショナル都市の創造まつり・イベントの魅力向上と冬季の新たな大規模ナイトイベントの造成 につきまして→光のページェントの規模縮小が懸念されている中、冬季の大規模ナイトイベントの造成は非常に重要だと思えます。これは今あるもの(光のページェント)を活かした形での造成なのか、全く新しいものを造成するので、市民の方のご意見(賛否)が変わってくるのか、と感じました。イベントを続けていく上で市民の方の賛同・支援は重視する必要があります。理由や具体案を提示することで、よりそれらを得られるのではないかと感じました。	SENDAI光のページェントをはじめ、本市を代表するお祭りや大規模イベントの継続及び魅力向上に向けた支援を検討するとともに、冬季の新たな大規模ナイトイベントについては、観光関連事業者の皆様との意見交換を行いながら、市民の皆様にも楽しんでいただけるコンテンツとなるよう検討を進めてまいります。
107	重点プロジェクト1	・新規イベントコンテンツも大事だが、既存のイベントコンテンツを見直すのも大事だと思う。例を挙げると、昨年、七夕まつりの七夕飾りの縮小、光のページェントの縮小などは、昔のイベントを知っていることもあり、大変寂しく思っております。持続可能なイベント運営が出来るように見直したほうが良い。経費の見直しは大前提で行った上で、案1出来るか分かりませんが、イベントを市民参加型にする。現在は1本10万円する七夕飾りだが、1~2万円程度の予算のミニ七夕を作り、七夕期間中に自分の七夕を飾ることが出来る。など光のページェントも同様のことが出来ると思う。	仙台七夕まつりやSENDAI光のページェントをはじめ、本市を代表するお祭りや大規模イベントの収益力及び魅力の向上に向けた支援の検討を進めてまいります。いただいたご意見は、関係者と共有するとともに、今後の観光施策の参考にさせていただきます。
108	重点プロジェクト1	大手企業にしか出来ないこと、地元企業にしか出来ないことがあると思う。しかし、持続可能なイベント作りは、地元企業が潤わないと継続できない。上手く使い分けをして欲しい。	持続可能な観光地づくりのためには、地元企業が潤うことが不可欠であると認識しており、地元企業が持つ資源やノウハウを活かしながら、関係団体とも連携を図り、持続可能なイベントづくりなど地域経済の活性化につながる施策を推進してまいります。
109	重点プロジェクト1	東北、関東圏からみた仙台と仙台に求めるものの違いは重要だと思います。北東北の出身ですが、仙台は都会的な観光を求めて何度も来ています。(光のページェントもそうでした)冬季のナイトコンテンツも東北圏の観光者からの注目が高まりそうだと感じます。	仙台市観光実態調査では、本市の観光目的として、県内・東北地方からの来訪者はショッピングなどの都市型観光を求めて来訪し、一都三県からの来訪者はグルメや温泉、自然を求めて来訪している傾向がございます。冬季のナイトコンテンツの創出をはじめ具体的な事業を実施する際には、訪れた方の属性なども分析し、プロモーションやその後の施策形成に活かしてまいります。
110	重点プロジェクト1	宿泊施設や夜でも営業しているお店が多数あることを活かし市内の回遊につながる施策(夜景周遊・ナイトコンテンツ体験ツアーなど)の実施で仙台へ宿泊することに対する価値を高める。	ナイトコンテンツの充実は、宿泊の促進や消費拡大につながる重要な視点であると考えております。現在、夜間や早朝に営業している店舗などを紹介するポータルサイトを運営しているところであり、今後ともさらなるナイトコンテンツの創出や情報発信の強化に取り組んでまいります。
111	重点プロジェクト1	国分町エリアの治安悪化の情報がある。観光客含めて地元客も近づくようになってきている。国分町を周遊できるナイトコンテンツがあれば導入して欲しい。	ナイトコンテンツの充実、宿泊の促進や消費拡大につながる重要な視点であると考えており、国分町を含め、安全安心に楽しむことができるコンテンツの創出や周遊につながる取り組みについて、関係事業者の皆様のご意見を伺いながら、検討してまいります。
112	重点プロジェクト1	スケートは、国際アイススケートトレーニングセンターを設けて、世界のスケート虎の穴になって欲しい。もちろん、センター長は羽生弓弦さん、副センター長荒川静香さん、その他仙台ゆかりのオリンピックに協力してもらって、トレーニング模様も有料で公開すれば外貨稼げ、インバウンド来てくれませんか	本市は日本フィギュアスケート発祥の地であり、現在、国際規格に対応した通年利用できるアイススケートリンクの整備が進められております。いただいたご意見については、今後の観光施策の参考にさせていただきます。
113	重点プロジェクト1	羽生結弦さんの銅像を作って欲しいです。	オリンピックで金メダルを獲得された功績を称え、地下鉄東西線国際センター駅にモニュメントを2基設置するとともに、羽生さんには、本市の観光PRのため、仙台観光アンバサダーに就任いただいているところです。いただいたご意見については、今後の観光施策の参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
114	重点プロジェクト1	アニメ利活用に関して、ハイキュー!!が3年、呪術廻戦も3年程度で完結する作品です。そのため、現在の作品の利活用を版權理解の上で進めていくことは重要ですが、次の世代の作品を作る作家支援も必要ではないでしょうか。文化面の原作者支援になる取り組みだけではなく、アニメーションスタジオ誘致など経済部との連携が確実に実行頂かないと、作品の旬が過ぎれば、徐々に集客力は下がります。市庁舎内の連携でぜひ良い方向性へもって行って頂きたいですが、庁舎内連携はいかがでしょうか。また、中国富裕層1千万人は魯迅を知っていても、仙台の関係を知らない中国人は多いようです。この1%を誘致しても10万人です。ぜひご検討を!!	仙台ゆかりの漫画・アニメは、本市のプロモーションにもつながる可能性があることから、引き続き仙台ゆかりの作家や作品について情報収集を行うとともに、アニメーションスタジオの誘致については関係局と情報共有を図ってまいります。また、本市の中国への情報発信について、海外向け観光情報ホームページ「DISCOVER SENDAI」やSNSの活用を通じたプロモーションの強化を行ってまいります。
115	重点プロジェクト1	仙台駅前が廃墟ビルが多く中心部の魅力が少ないと思います。数年前にエデン前で学生さん達が頑張った様なイベント(キャンプだったりランウェイだったり)など、駅前を盛り上げる予定はありますか?イベントを開催しても騒音問題で中々出来なかったり中止になったり等がありますが、仙台市から後押しして頂くなどはありませんか?ハロウィンの時も各地盛り上がっているのに仙台市の過度な呼び掛けで中々盛り上がらない街になってしまうように思えますが…。	駅前エリアの開発は本市の重要な課題だと認識しており、当該エリアの魅力向上に資する取り組みが企画される場合には、庁内横断的に後押しができないか検討を進めてまいります。
116	重点プロジェクト1	連泊などを広げるためには、周辺自治体の観光地域との連携なども、より強化が必要になると考えるが、イベント規模なども、仙台市予算と、他地域イベントでは、かなり差があると感じる。例えば、ナイトイベントなども、他自治体地域のイベントと連携し、広域での周遊滞在を強化する様な取り組みは検討されてますでしょうか?	連泊を促進するためには、広域的な連携が不可欠であると考えており、重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信のもと、関係市町村とともに国内外から東北への誘客を促進するのみならず、仙台を拠点に、県内や東北の観光地を巡る旅行スタイルを確立させるなど、多様な連携を推進してまいりたいと考えております。
117	重点プロジェクト1	ハイキューは絶対活用したほうがいい!	本市では令和5年度より『ハイキュー!!』のキャラクターを仙台観光特使に委嘱し、記念モニュメントを設置しており、今後も、関係事業者と連携のもと、来訪者が楽しめる企画やコンテンツの検討を進めてまいります。
118	重点プロジェクト1	観光コンテンツの造成としてハイキュー!!のパネルモニュメントが設置されました。カメイアリーナ見学者の受付をアリーナ担当者が担っています。観光課が連携して問い合わせの補助をしないと、アリーナ担当者の本来業務の負荷が高いため、縦割りではなく横のつながりをもつことが可能であれば…。見学会一日160人前後、そのうち外国人2~3割ほど(全く日本語を話せない人が増えている)。軽米町との交流を持って、盛り上げられると良い(軽米町への来訪者が多い)。見学者にSNS発信や感想等を促している。	カメイアリーナ仙台の運営者や関係課とは、『ハイキュー!!』関連の取り組みなどを実施するにあたり、意見交換を行っており、今後も職員の負担なども考慮しながら、企画を進めてまいります。いただいたご意見は、今後の観光施策の参考にさせていただきます。
119	重点プロジェクト1	光のページェントももともと出来ないのに、観光なんてできるわけがない。職員の給与を上げるのではなく、光のページェントの資金にすることが先ではないか。観光税ではなく、不祥事だらけの役所職員の給与を増やさず充てられたい。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものでございます。SENDAI光のページェントの開催に向けましては、本市としても負担金の支出のほか、ふるさと納税の活用など多面的に支援を行っているところであり、今後とも、光のページェントをはじめ、仙台を代表するお祭りやイベントの支援のあり方について、継続的に関係者と意見交換を行いながら、検討を進めてまいります。
120	重点プロジェクト1	ナイトイベントの造成を行うとあるが、創成の間違いでないか。 書き直し	いただいたご意見は、観光戦略策定の参考にさせていただきます。
121	重点プロジェクト1	「心弾むエモーショナル」という表現を別の言い回しにすると、以下のような表現が考えられます: 1.感情が高揚する 2.心が躍る 3.ワクワクする 4.胸が高鳴る 5.夢中になる 6.期待で胸がいっぱいになる 7.情熱が湧き上がる 8.感動で胸が震える 9.心が温かくなる 10.嬉しさが込み上げる 11.心が満たされる 12.ドキドキする 13.興奮が抑えきれない 14.心が震えるほど感動する 15.心が弾けるような気持ちになる これらの表現は、それぞれ感情や心の動きを強調する形で、「心弾むエモーショナル」という意味合いを持っています。	重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」は、訴求力のあるコンテンツの充実やイベント開催などにより、一年を通して心がワクワクする魅力あふれる都市を目指すための取り組みを位置付けたものです。いただいたご意見を参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
122	重点プロジェクト1	<p>「冬季の新たな大型ナイトイベントの造成…」とありますが、新規イベントを告知認知させるには大きな時間と労力とそれに伴うお金がかかります。すでに長年実施し、認知度もある「仙台光のページェント」をブラッシュアップする方がいいのでは？と感じています。</p> <p>年々予算不足でページェント部分が短くなっているのが非常に残念です。</p> <p>時期を長くする、定禅寺通り以外にも装飾する…等は難しいのでしょうか。</p>	<p>SENDAI光のページェントの開催に向けましては、本市としても負担金の支出のほか、ふるさと納税の活用など多面的に支援を行っているところであり、今後とも支援のあり方について、継続的に関係者と意見交換を行いながら、検討を進めてまいります。</p>
123	重点プロジェクト1	<p>ナイトコンテンツの導入には大いに賛成です。ナイトコンテンツは観光地の魅力を大幅に向上させる素晴らしい手段です。夜間に提供されるエンターテインメントやアクティビティは、観光客にとって特別な体験を提供し、滞在時間を延ばす効果があります。例えば、イルミネーションイベントやナイトマーケット、夜景ツアー、ナイトクルーズなど、多様なナイトコンテンツが考えられます。これにより、観光客は昼間だけでなく、夜間も楽しむことができ、地域経済の活性化に大いに寄与するでしょう。</p> <p>一方で、宿泊税の導入には反対します。宿泊税は観光業界にとって大きな負担となり得ます。宿泊施設の運営コストを増加させることで、宿泊料金が上昇し、観光客の数を減少させる可能性があります。特に、予算旅行者や家族連れの観光客にとって、追加の税金は旅行計画を再考させる要因となり得ます。これにより、観光地の経済が打撃を受けるリスクが高まります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。</p> <p>また、宿泊税の導入は行政の負担も増加させます。税の徴収、管理、運用に関するコストが発生し、行政のリソースを圧迫することになります。特に小規模な自治体にとって、宿泊税の導入は財政的な負担を増やすだけでなく、効果的な運用が難しい可能性もあります。</p> <p>さらに、宿泊税の収益がどのように使用されるかについても議論が必要です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、透明性や公正性が確保されない場合、不正な利用や無駄な支出が発生するリスクがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に、国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。</p> <p>ナイトコンテンツの導入は、観光業の振興に大いに役立ちますが、宿泊税の導入はその逆効果をもたらす可能性が高いです。観光客にとって魅力的な体験を提供する一方で、追加の税金による負担を避けるためには、宿泊税以外の手段での財源確保や観光業の振興策を検討する必要があります。観光業全体の収益を増やすためのプロモーション活動や、地域資源を活用した新たな観光商品の開発など、多角的なアプローチが求められます。</p> <p>仙台市が観光業の持続可能な発展を目指すためには、ナイトコンテンツの導入を積極的に進める一方で、宿泊税の導入には慎重な姿勢を取るべきです。観光業の競争力を強化し、地域全体の経済活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが重要です。宿泊税に頼らず、持続可能な観光業の発展を目指すための多様なアプローチを模索することが求められます。</p>	<p>ナイトコンテンツの充実、来訪者の滞在時間延長や、宿泊に直結する重要な取り組みだと考えており、重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」に位置付け、今後強化してまいります。</p> <p>また、宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。制度が導入された際には、宿泊事業者の皆様との意見交換等を継続的に実施して、その影響や負担について意見交換を行い、適宜対策を検討するとともに、使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
124	重点プロジェクト1	<p>ナイトコンテンツは観光地の魅力を高める素晴らしい手段ですが、昼間のイベントも同様に重要です。昼間のイベントを充実させることで、観光客は一日中楽しむことができ、地域の経済効果を最大化することができます。以下に、昼間のイベントを盛り上げる必要性について説明します。</p> <p>まず、昼間のイベントは幅広い年齢層や興味を持つ観光客にアピールすることができます。ファミリー向けのアクティビティ、文化体験、スポーツイベントなど、多様なプログラムを提供することで、多くの観光客を引き付けることができます。例えば、地元の特産品を使った料理教室や、伝統工芸のワークショップ、自然散策ツアーなど、観光客が地域の魅力を体験できる機会を増やすことが重要です。</p> <p>さらに、昼間のイベントは地域の文化や歴史を紹介する絶好の機会でもあります。地元の祭りや歴史的なパレード、文化展示会などを開催することで、観光客に地域の豊かな文化遺産を伝えることができます。これにより、観光客は地域に対する理解を深め、より深い交流を楽しむことができます。</p> <p>昼間のイベントを盛り上げることで、観光客の滞在時間を延ばし、地域全体の消費を促進する効果もあります。観光客が昼間も楽しめるイベントに参加することで、宿泊施設の利用が促進されるだけでなく、地元の飲食店や小売店、観光施設への支出が増加します。これにより、地域経済の活性化が図られ、観光業の持続可能な発展につながります。</p> <p>また、昼間のイベントは地元住民にも利益をもたらします。観光客だけでなく地元の人々も楽しめるイベントを開催することで、地域コミュニティの活性化にもつながります。地元の人々が観光客と交流する機会が増えることで、地域全体の一体感が高まり、観光業の支援が得られやすくなります。</p> <p>一方で、宿泊税の導入には反対します。宿泊税は観光業界に大きな負担をかける可能性があり、観光客の数を減少させるリスクがあります。特に予算旅行者や家族連れの見学客にとって、追加の税金は旅行計画を再考させる要因となり得ます。これにより、観光地の経済が打撃を受ける可能性が高まります。宿泊税の導入は宿泊施設の運営にも影響を及ぼします。宿泊施設の運営コストが増加することで、宿泊料金が上昇し、競争力が低下するリスクがあります。特に中小規模の宿泊施設にとって、追加の税金は経営の持続可能性を脅かす要因となります。</p> <p>また、宿泊税の導入は観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。これにより、地域全体の経済効果が低下するリスクがあります。</p> <p>以上の理由から、ナイトコンテンツの導入に加えて昼間のイベントを盛り上げることが観光業の発展にとって非常に重要であり、宿泊税の導入には慎重な検討が必要です。観光業の持続可能な発展を目指すためには、多角的なアプローチが求められます。あなたはこの問題についてどのようにお考えですか？</p>	<p>本市の宿泊者及び観光客を増やし、消費を拡大するためには、夜間だけでなく、日中のイベントや観光コンテンツを充実させることも重要だと考えており、ご例示のような仙台ならではの歴史や文化、自然などを活用したアクティビティを体験していただけるよう、関係団体や事業者と連携を図りながら、新たなコンテンツの創出を図ってまいります。</p> <p>また、宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>
125	重点プロジェクト1	<p>私は市民の一人として、最近よく耳にする「エモーショナル」という言葉の意味が分からず、困惑しています。特に、仙台市がこの言葉を使って政策や施策を説明する際に、私たち高齢者には理解しづらいことが多いです。市の説明が分かりやすく、誰にでも理解できるようにしていただきたいと強く願います。</p> <p>江戸幕府の時代には、政策や施策が庶民に分かりやすく伝えられていました。例えば、江戸時代の法令やお触れは、庶民が理解しやすい言葉で書かれており、町奉行所や村役場などで掲示されていました。これにより、庶民は自分たちの生活に関わる重要な情報を容易に得ることができました。仙台市も、このような分かりやすい情報提供を見習っていただきたいと思えます。</p> <p>具体的には、市の広報や説明会で使用される言葉や表現を、もっと分かりやすくしていただきたいです。特に、高齢者や英語に不慣れた市民にとって、専門用語やカタカナ英語は理解しづらいことが多いです。市の施策や政策について説明する際には、簡単な日本語で説明し、必要に応じて図やイラストを用いることで、誰にでも理解できるようにしていただきたいです。</p> <p>また、市のホームページや広報誌にも、分かりやすい言葉で情報を提供することが重要です。江戸時代のように、庶民が日常的に目にする場所に情報を掲示することで、市民全体が情報を共有しやすくなります。(次ページへ続く)</p>	<p>「エモーショナル」とは、人の心を動かしたり、感動を引き起こすという意味があり、心に響くワクワクする都市を創造するという思いで表現しております。用語の定義を説明する資料を作成することで、文脈や内容がより分かりやすく伝わるよう努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
125	重点プロジェクト1	例えば、地域のコミュニティセンターや図書館、公民館などに情報を掲示し、市民が気軽にアクセスできるようにすることが考えられます。 さらに、市の職員や関係者が市民と直接対話する機会を増やすことも重要です。江戸時代の町奉行所や村役場のように、市民が直接質問や意見を述べる場を設けることで、市民の声を反映した施策が実現しやすくなります。市民との対話を通じて、施策の内容や意図を分かりやすく説明し、市民の理解と協力を得ることが大切です。 仙台市が「エモーショナル」という言葉を使って政策を説明する際には、その意味や意図を分かりやすく説明することが求められます。市民全体が理解しやすい言葉で情報を提供し、江戸幕府のように庶民に寄り添った情報提供を行うことで、市民の信頼を得ることができると良いでしょう。市の施策が市民にとって分かりやすく、理解しやすいものであることを強く願います。	(P31に記載)
126	重点プロジェクト1	仙台市が音楽とエンターテインメントの分野で目指す姿は、魅力的なエンターテインメントの都市としての確立です。音楽イベントやエンターテインメントが市のアイデンティティの一部として認知され、国内外から多くの訪問者を引き寄せる姿を目指すべきです。音楽とエンターテインメントを重要な観光資源と位置づけ、その振興に積極的な姿勢をとるべきです。アーティストやエンターテイナーの支援、音楽フェスティバルやエンターテインメントイベントの促進、多様な音楽文化の尊重など、基本姿勢を強調すべきです。音楽とエンターテインメント分野での目標は、年間のイベント数や観光収益の増加、国際的な認知度の向上など、具体的に数値的に測定可能な目標を設定するべきです。音楽とエンターテインメントを楽しむ幅広い層を誘客ターゲットとして考えるべきです。国内外の音楽ファン、家族連れ、若者、エンターテインメント愛好者など、異なるターゲット層に対応したプログラムやイベントを提供することが大切です。音楽とエンターテインメントの振興に向けた戦略として、国際的なアーティストの招聘、地元の才能の発掘と育成、イベント施設の整備、プロモーション戦略の強化などが考えられます。また、地元コミュニティとの協力や文化交流を推進し、地域経済と観光産業の発展に寄与する戦略が必要です。音楽とエンターテインメントの分野での振興は、仙台市の観光業と地域経済に大きな潜在力を秘めています。そのため、適切な戦略の実行が成功につながるでしょう。	音楽やエンターテインメントを観光資源として位置付けることは、楽都仙台として、重要な視点だと考えており、重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」のもと、音楽などの集客性のあるイベントの開催・誘致強化や、街中を舞台にした賑わい創出を進めてまいりたいと考えております。いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。
127	重点プロジェクト1	冬の観光客が少ない&ナイトコンテンツが必要と記載があるのに、光のページェントを規模縮小しているのは矛盾しているのではないかと。？だけの計画はいろいろな。	SENDAI光のページェントの開催に向けましては、本市としても負担金の支出のほか、ふるさと納税の活用など多面的に支援を行っているところであり、今後とも支援のあり方について、継続的に関係者と意見交換を行いながら、検討を進めてまいります。
128	重点プロジェクト1	大学生は、時間を気にせず遊べる年齢である。しかし、仙台で夜から朝まで遊ぼうといっても遊べる場所がない。夜どこか行くとすると、松島や石巻の方に行くことがほとんどである。松島には島があり、石巻には、港がある。仙台といえば、仙台駅しかない。それは、昼に賑わっているだけである。よって、仙台にも、夜でも遊べるスポットが必要であると考えます。そうすることで、より仙台の魅力が増えていくと考えます。	ナイトコンテンツの充実、来訪者の滞在時間延長や、宿泊に直結する重要な取り組みだと考えており、重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」に位置付け、ナイトイベントの長期開催や常設化支援、周遊につながるナイトコンテンツの造成などに取り組んでまいります。
129	重点プロジェクト1	芸術・文化にも力を入れて取り組んでいただきたい(スポーツや音楽に偏り過ぎない)。イベント情報などはもっと仙台市民にもわかりやすくPRして、市民の参加をもっと促していただきたい。	重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」のもと、アートなどの芸術も活用した賑わい創出に取り組むこととしております。また、市内のイベントなどの情報発信についても、より多くの方に参加いただけるよう強化してまいります。
130	重点プロジェクト1	市内にある芸術文化団体への支援策をお考えいただけるといいかと思えます。市内にも良質な公演等企画をしている団体はあります。仙台は大型なもの、著名な人のものに、目が向いているように感じます。	地域に根差し活動されている市内の文化芸術団体への支援は重要な視点だと考えており、いただいたご意見は、今後の文化振興の参考にさせていただきます。
131	重点プロジェクト1	なぜ光のページェント短いのでしょうか。	SENDAI光のページェントは、SENDAI光のページェント実行委員会や市民ボランティアの力で開催され、その経費の大半は、企業や市民からの寄付や募金で賄われており、物価高騰などの影響により、予算不足で、点灯区間が短くなったと伺っております。
132	重点プロジェクト1	仙台駅周辺に仕事で泊まろうと考えたとしても、夜に出向く場所がないので、それなら日帰りでいいや、となってしまうがちです。ライトアップとか夜しか体験できないが街なかでやって、歩いて行けるとか、青葉山でもプロジェクションマッピングがやってたりしますが、あそこまでは旅行や出張の人は気軽には行けないので、るーぶる仙台を夜間もやるとか、そういった工夫がいると思えます。そういった意味では「二次交通の充実」は温泉地はもちろん、街なかでも確かに大切だと思いました。	るーぶる仙台については、仙台七夕まつりのナイトイベントや秋の紅葉の時期などに合わせて、夜間運行を行っているところでございます。こうした取り組みも踏まえつつ、重点プロジェクト0「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」のもと、ナイトコンテンツの創出と合わせて、青葉山や中心部の回遊性の向上に向けた二次交通の検討を進めてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
133	重点プロジェクト1	<p>冬季の集客・ナイトイベントとして、スケートリンクを提案します。これまでは、光のページの開催期間だけ、勾当台公園市民ひろばに、リンクが設けられていましたが、しばらくの間工事で勾当台エリアは使えません。そこで、青葉山公園追廻地区に設置するのがいいのではないのでしょうか。周辺にはフィギュアスケート発祥の地・五色沼があり、地下鉄国際センター駅の前には、荒川静香選手と羽生結弦選手のモニュメントがあります。金メダリストを二人排出し、さらに若手スケーターも育っている仙台を「スケートの街」として印象付けてはどうでしょうか？インバウンドの羽生ファンも、数多く訪れていますし喜ばれると思います。イマドキは、氷ではなく、電気や熱源のいらぬエコ樹脂素材リンク等もあり、スケートゆかりの地の屋外リンクで手軽に滑れることは、仙台だけの魅力です。駐車場もあり、公共交通でも来られること。仙台城の麓で広瀬川を臨み、騎馬像や本丸会館見学の後に徒歩でも来られ「仙台らしさ」を強く感じられ場所であることは、強みです。羽生選手が思い入れがあり、誇らしく思っているエリアでもあります。靴の貸出しや夜間照明、イルミネーション等、多少のお金と手間はかかるとは思いますが、全てを市の予算でやらなくても、企業協賛やクラウドファンディングで、賛同をいただける内容ではないでしょうか。是非、検討していただきたいです。</p>	<p>青葉山公園追廻地区は、ご指摘のとおり、日本フィギュアスケート発祥の地である五色沼があり、最寄りの地下鉄東西線国際センター駅には羽生結弦さんと荒川静香さんのモニュメントが設置されている。スケートゆかりの地であると認識しております。スケートリンクの設置については、費用や立地上の制約があり、困難ですが、ご指摘の魅力を活かした取り組みを検討してまいりたいと考えております。いただいたご意見については、今後の観光施策の参考にさせていただきます。</p>
134	重点プロジェクト1	<p>ナイトイベントの重要性をアッラーの教えを元に考察する際、イスラム教における夜の時間の特別な意味と、それをどのように活用するべきかを深く理解する必要があります。イスラム教では、夜の時間は精神的な成長、祈り、瞑想、そしてアッラーとの絆を深めるための重要な時期とされています。夜の活動、特にナイトイベントが地域社会や個人にとって果たす役割を、イスラムの教えを基盤に説明し、それがいかに人々の生活に恩恵をもたらすかを探ります。</p> <p>夜の重要性とイスラムの教え クルアーンには夜の時間について特別な言及があります。たとえば、以下のような章句があります：</p> <p>「夜を安息の時とし、昼を生業の時としたのはあなたの方のためである。」(クルアーン78:10-11)この章句は、昼と夜が人間の生活において異なる役割を果たしていることを示しています。昼は働き、生産し、コミュニティの発展に貢献する時間であり、夜は休息し、瞑想し、スピリチュアルな成長を遂げる時間です。しかし、夜は単なる睡眠の時間ではなく、信仰を深め、知識を探索し、社会とのつながりを強化する活動を行うための貴重な機会でもあります。</p> <p>イスラム教では、夜の祈り(タハジュード)は非常に重要な行為とされています。タハジュードは、アッラーとの個人的な関係を深めるための特別な祈りであり、精神的な浄化と近づくための手段とされています。この教えを社会活動に適用するならば、ナイトイベントは地域社会や個人にとって、単なる娯楽以上の意義を持つものとなります。</p> <p>ナイトイベントと地域社会の絆 ナイトイベントは、地域社会の絆を深める重要な機会です。例えば、イスラム教では、集団で行う礼拝(サラート・アル=ジャマア)が奨励されています。同様に、夜間に行われるイベントや活動も、地域社会が一体となるための手段と考えることができます。</p> <p>夜の静寂な時間帯に行われるイベントは、日中の忙しさや雑踏から離れ、人々がリラックスして心を通わせる絶好の機会となります。</p> <p>イスラムの教えでは、隣人を大切にし、困難な人々を助けることが奨励されています。ナイトイベントを通じて、地域内での相互理解や連帯感を育むことができます。例えば、慈善活動や教育的なイベントを夜間に開催することで、多くの人が参加しやすくなり、地域全体の発展に寄与することができます。これは、預言者ムハンマド(平安と祝福がありますように)の以下の言葉にも合致します：</p> <p>「隣人に優しくしなさい。彼らの幸福を気にかけてください。」ナイトイベントを通じて、隣人同士が集まり、互いに助け合い、知識や経験を共有する場を提供することは、イスラム的価値観に非常に適しています。</p> <p>ナイトイベントと精神的成長 ナイトイベントは、精神的な成長を促進するための絶好の機会でもあります。イスラム教では、アッラーを覚えること(ズィクル)が非常に重要視されており、夜間はこの行為に集中できる時間帯とされています。地域社会でのナイトイベントが、精神的な内容を含むプログラムを提供するならば、それは参加者に深い影響を与えるでしょう。</p> <p>たとえば、イスラムの教えに基づいた講話、クルアーンの朗誦、スーフィー音楽の演奏などは、参加者が精神的な安らぎを得るための機会を提供します。このような活動は、日常生活の中でのストレスや不安を軽減し、心の平穏を取り戻す助けとなります。</p> <p>また、夜間に知識を深める活動は、イスラムの歴史においても重要視されてきました。多くの学者や知識人が、夜の静寂な時間帯を活用して研究や学びに励んでいたことが記録されています。ナイトイベントが教育的な内容を含む場合、それはイスラム的な学びの伝統を継承するものとも言えます。(次ページへ続く)</p>	<p>ナイトイベントの活用は、宿泊者数の増加や滞在時間の延長、経済の活性化に重要な視点だと考えております。その他、宗教上の観点など、ご意見として承ります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
134	重点プロジェクト1	<p>アッラーの教えに基づくナイトイベントの在り方 ナイトイベントを成功させるためには、それがアッラーの教えに基づいた内容であることが重要です。以下は、その具体例です:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 礼拝と瞑想の時間を含むプログラム: ナイトイベントの中に、礼拝やズィクルの時間を設けることで、参加者が信仰を深める機会を得られるようにします。</li> <li>2. 教育的な要素: クルアーンの解説、イスラムの歴史や教えに関する講話など、参加者が知識を深められる内容を提供します。</li> <li>3. 慈善活動: 夜間のイベントを通じて、地域内で困難な状況にある人々を助けるための募金活動や物資配布を行います。</li> <li>4. 家族やコミュニティの絆を深める活動: 家族全員で参加できるイベントを計画し、地域社会の一体感を高めます。</li> </ol> <p>ナイトイベントの注意点 ナイトイベントを計画する際には、いくつかの注意点があります。まず、夜間の時間が乱れ、参加者が適切な休息を取れなくなることを避ける必要があります。イスラム教では、体の健康を保つこともアッラーへの責任とされています。そのため、イベントが深夜まで続く場合でも、健康を害することのないように配慮が必要です。</p> <p>また、イスラムの教えに反する内容も避けることも重要です。音楽やエンターテインメントを含むイベントであっても、その内容がイスラム教における倫理に反しないよう注意する必要があります。</p> <p>結論 ナイトイベントは、イスラムの教えを基盤としながら、個人と社会の両方に多大な恩恵をもたらす重要な取り組みです。夜間はアッラーとの絆を深め、精神的な充実を得るための時間であり、その教えに従って企画されたイベントは、地域社会の結束や信仰の深化に寄与します。</p> <p>クルアーンや預言者ムハンマド(平安と祝福がありますように)の教えに基づき、夜の時間を最大限に活用することで、ムスリムはより良い人生を築くことができます。ナイトイベントはそのための素晴らしい手段であり、適切に計画・実行されれば、地域社会全体にアッラーの祝福をもたらすことができるのです。</p>	(P33に記載)
135	重点プロジェクト1	<p>ポケモンGOfest2024が仙台で開催されたことは、確かに喜ばしい出来事です。ポケモンは世界中で愛されているキャラクターであり、そのイベントが仙台市で開催されることは、多くのポケモンファンにとって夢のような体験となりました。ポケモンのキャラクターたちは、世代を超えて多くの人々に愛され、友情や冒険、協力といったテーマを通じて、ポジティブなメッセージを発信し続けています。このようなイベントが仙台市で行われたことは、地域にとって大きな恩恵であり、観光客の誘致にも大きな影響を与えたことでしょう。</p> <p>しかしながら、仙台市がこのイベントの開催を自分たちの実績として誇ることにについては、慎重な視点で考える必要があります。ポケモンGOfest2024は、主にポケモンという人気コンテンツの力によって成功したイベントであり、仙台市の努力や施策が主な要因であったわけではありません。この点を見過ごしてしまうと、市としての本来の課題や目標が曖昧になり、住民に対して誤ったメッセージを送る可能性があります。</p> <p>まず第一に、ポケモンGOfestのような大規模イベントは、確かに地域経済に一時的な活性化をもたらすかもしれませんが、その効果は短期的です。イベントが終了すれば、多くの観光客は去り、地域経済は再び通常の状態に戻ります。これを仙台市の実績として誇ることは、市の長期的な発展や持続可能な経済成長に対する真の貢献を示すものではありません。市が目指すべきは、一時的なイベントに頼るのではなく、地域全体の経済を持続的に活性化させるための戦略を構築し、実行することです。(次ページへ続く)</p>	<p>2024年に開催された「Pokémon GO Fest 2024:仙台」は、本市において誘致を行い、主催者と連携の下、大きな経済波及効果が生まれたものであり、今後も同様の大規模イベントの誘致に取り組んでまいりたいと考えております。一方、ご指摘のとおり、恒常的に人を呼び込む施策も重要であると考えており、大型イベントの開催・誘致強化だけでなく、6つの重点プロジェクトに掲げる施策の方向性のもと、新たな観光資源の整備やナイトコンテンツの充実、閑散期対策など、一年を通して、人を呼び込み、地域経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
135	重点プロジェクト1	次に、ポケモンGOfestが仙台市に誘致された背景には、ポケモンというブランドの圧倒的な影響力があることを忘れてはいけません。このイベントが仙台市で開催されたのは、ポケモンが持つ巨大なファンベースとそのプロモーション力が主な要因です。仙台市が特別な努力をした結果ではなく、ポケモンという既に確立されたブランドの力によって実現したものであることを理解する必要があります。このような状況で、仙台市がイベントの成功を自らの手柄とするのは、市民に対して誤解を招く恐れがあります。さらに、仙台市がポケモンGOfestの成功を誇る一方で、地域の他の重要な課題が置き去りにされる可能性も懸念されます。地域のインフラ整備や教育、医療、福祉など、住民の生活に直結する重要な問題についても、同様に注力する必要があります。これらの課題は、一時的なイベントの成功以上に、地域社会の持続可能な発展にとって重要な要素です。ポケモンGOfestの成功を誇ることは十分に終始してしまうと、本来の地域課題に対する取り組みが疎かになる危険性があります。また、ポケモンGOfestのようなイベントは、多くの人々にとって魅力的であり、参加すること自体が楽しい経験となります。しかし、その背後には多大な準備やコストがかかっていることも忘れてはいけません。仙台市がこのイベントのために費やしたリソースが、本来の地域課題に対してどれだけ有効に使われたかを検証することが重要です。例えば、イベントのための一時的なインフラ整備やプロモーション費用が、地域住民の生活環境改善や経済的な支援にどれだけ寄与したのかを明確にする必要があります。さらに、ポケモンGOfestが仙台市にとって大きな成功だったとしても、それを市の手柄として誇る事が正当化されるわけではありません。市としての本来の役割は、住民の生活の質を向上させ、地域全体の発展を促進することにあります。そのためには、短期的なイベントの成功に頼るのではなく、持続可能な経済成長や地域課題の解決に向けた具体的な施策を執行することが求められます。ポケモンGOfest2024が仙台で開催されたことは確かに喜ばしい出来事ですが、仙台市がこのイベントの成功を自らの実績として誇ることにについては慎重に考えるべきです。地域経済の持続的な発展や住民の生活の質向上を目指すためには、一時的なイベントの成功に依存するのではなく、地域全体の課題に対する具体的な取り組みを重視することが重要です。仙台市が真に誇るべきは、住民の生活を豊かにし、持続可能な発展を実現するための実績であり、そのためには、市民の声に耳を傾け、透明性のある施策を執行することが求められます。	(P34に記載)
136	重点プロジェクト1	朝から夜まで消費者側もそうではない側も人が集まり、そのあたりの活性化につながるのではないかなと思う反面、夜まで楽しめる、の夜までが何時ごろまでにされるのかが気になる所でした。夜になればなるほど人のテンションのタガがお酒や脳疲労等から外れ治安維持に差し支えることが起きる可能性は多くなり、事件、事故等が増えるのではないかと、またそれをいかにして抑え、安定した治安を維持するかが大切になると考えた。実際に警察がその場にいることで治安維持がなされるかといえば多少の安心感や監視の目があるという緊張感があり効果があるように思えるが楽しむ場でそれが常に脳裏にあるのは楽しむことの邪魔をすることの難しさがあると思う。	ナイトタイムエコノミーは、概ね18時から翌朝6時までの時間帯に提供される飲食や娯楽などのコンテンツを充実させることで、地域経済の活性化につながる取り組みであると認識しております。ナイトタイムにおいて、来訪者が安心・安全に楽しむことができる環境を整えることは、重要な視点であると考えており、ご指摘の治安の維持と娯楽の両立については、関係局や関係団体などと意見交換を行いながら、取り組んでまいりたいと考えております。
137	重点プロジェクト1	コロナが以前と比べて落ち着いてきてお店の営業時間の延長の推進等による滞在環境の整備やナイトクルージング、ナイトツアーの拡充、ウォーターフロントを生かしたマーケットの定期開催や、まちぐるみでのイルミネーションの展開などにより夜も満喫しやすくなるまちへ変わっていった。また、朝からウォーターフロントでのランニング等のスポーツ・ウェルネス環境の向上により運動する人も増えている印象にある。コロナ自粛から少し落ち着いたときに仙台が楽しめるようにイベント主催者や飲食店、商業施設、宿泊施設等の多様な主体の連携があったり、多くの人が足を運んでくれて、来てくれた人の意見をもらえたことで、楽しいと思えるまちづくりになったと考える。	本市においては、ナイトイベントの開催やナイトコンテンツを創出する事業者への支援などを実施しておりますが、宿泊促進や消費拡大に向けて、より一層ナイトコンテンツの充実を図る必要があると考えております。本観光戦略のもと、観光関連事業者をはじめとした関係者の皆様からご意見を伺い、地域の多様な主体との連携を強化しながら、観光施策を推進してまいります。いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。
138	重点プロジェクト2	仙台には都心部でのショッピングや街歩きが楽しめる一方で、東部の海辺ならではの自然や震災遺構、西部では温泉や自然があるなどバリエーションにとんでいる。そういった意味でアーバンリゾートという表現は良いと思う。	本市の中心部エリアでは、街歩きやショッピングなどのいわゆる都市型観光が楽しめる一方で、温泉地や魅力ある自然が広がる西部エリアと、沿岸部ならではの自然やコンテンツが存在する東部エリアの双方を有しております。重点プロジェクト2では、そうした都市的な面を有しながら、西部と東部エリアの温泉や自然の豊かさに触れながら「resort」のような過ごし方ができる環境の魅力をさらに高めていきたいという意味を込め、「Sendai Urban Resortの推進」というプロジェクト名にしたものです。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
139	重点プロジェクト2	プロジェクト名と施策の方向性が合致していないと思う。 urban:都会的な、都市的な resort:行楽地 都市型観光が主となっている仙台市で、都会的な行楽地という言葉から湧くイメージは、都心部で静養できる、ゆったりできる空間があると思われ、そのギャップを戦略に位置付けることの大胆さに驚いたが、方向性を見ると都会的な要素は何もなく、むしろ海や山が豊富な他都市に劣るようなものをアーバンリゾートと銘打つのはいかなかなものか。仮組み自体は否定しないが、シティブロモーションを行うには弱く、体外に打ちすには斬新さ、魅力度は弱い。	本市の中心部エリアでは、街歩きやショッピングなどのいわゆる都市型観光が楽しめる一方で、温泉地や魅力ある自然が広がる西部エリアと、沿岸部ならではの自然やコンテンツが存在する東部エリアの双方を有しております。重点プロジェクト2では、そうした都市的な面を有しながら、西部と東部エリアの温泉や自然の豊かさに触れながら「resort」のような過ごし方ができる環境の魅力をさらに高めていきたいという意味を込め、「Sendai Urban Resortの推進」というプロジェクト名にしたものです。
140	重点プロジェクト2	●秋保地区においては、熱海や道後温泉等女性に焦点を絞ったコンセプトの変更や街づくりによるブランディングで成功している地域も参考に、様々なステークホルダーを巻き込んだ面的な取り組みに期待いたします。やや宿泊施設間、並びに食事・観光・土産施設との連携、運輸機関や他の手段を活用した二次交通対策などに根深い課題があるのではと想定され、合意形成の元打破していくことが急務かと思われます。●一番関心が高いのが、海の手エリアです。個人的には、大学生の娘がNPOで活動している荒井地区を含めた地下鉄東西線やJR中野栄駅を拠点として人流創出を震災以降の念願でもあります。被災地が年々賑わいを取り戻していく姿は地元住民にとっても嬉しいことですし、魅力があれば年間通じて足を運びますし、観光客におい（※原文のとおり）	・本市及び(公財)仙台観光国際協会では、「秋保クラフトバレー～Craftsmanship & Nature～」というブランドコンセプトのもと、工芸などの手仕事や秋保大滝などの自然を活かしたブランディングに取り組んでいるところです。いただいたご意見のとおり、他都市の状況も研究し、関係団体や地域の事業者等と連携を図りながら、エリアの魅力づくりや二次交通対策に取り組んでまいります。 ・海手(仙台市東部)エリアにおいては、様々な集客施設の立地が進む中、令和5年度より、「せんだい海手線ループバス」運行による二次交通対策などを通して、エリアの周遊を促し、賑わいの創出を図ってまいりました。今後も、関係団体や地域の事業者等と連携を図りながら、海辺ならではのコンテンツの創出や周遊促進に取り組んでまいります。
141	重点プロジェクト2	西部エリアの豊かな環境資源を生かした観光スポットの整備について、明るく好印象なアクセス道路創りを目指して欲しいと考えます。現在は少しずつ改善して頂いている事は承知しておりますが、まずは道路の環境整備をお願いしたいと存じます。上部に向かう程道路わきの雑草量の多さ、樹木の枝払い、継ぎはぎの多い路面も含め整備が必要と考えます。また例として挙げられておりますが、二次交通の充実も是非。(集客力のある観光事業者→泉パークタウン、イオン中山エリア、泉ヶ岳などを結ぶ周遊BUS等の構築を是非)現存している泉ヶ岳周辺の各観光事業者の宣伝、告知を行政の力をお借りし、お願いしたい。特に夏場の自然アクティビティがある事を知らない市民もいらっしゃるのでは認知度を高める事に注力を。体験型の自然アクティビティは弊社はもちろん、それぞれの事業者でも保有、現存しています。	泉ヶ岳周辺をはじめ、西部エリアのアクティビティは、本市の重要な観光資源であると認識しております。当該エリアの観光関連事業者と連携を図りながら、市民の皆様を含め、情報発信の充実に取り組むとともに、市内においても連携を図りながら、より魅力あるエリアとなるよう諸課題に取り組んでまいります。
142	重点プロジェクト2	アドベンチャーツーリズム×温泉、アドベンチャーツーリズム×復興ツーリズム、ガストロノミーツアー×ウォーキングイベント(みちのく潮風トレイル等の活用)などツーリズムやイベントと親和性が高い観光資源、コンテンツを掛け合わせることで魅力が向上し、ターゲットを拡大させることができる。	様々なツーリズムと親和性の高い観光資源を掛け合わせることは、これまでにない魅力を創出し、異なるターゲットへの訴求を図ることができるため、重要な取り組みだと考えております。いただいたご意見は、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。
143	重点プロジェクト2	プロジェクト2<仙台都市保養地>秋保町<秋保温泉郷>観光振興について I.大滝周辺エリアを活用した賑わい創出実証事業<テロワー・ジュマルシエ> ①今年、初めて開催された。地元の参加事業者が少なかった。ここで開催されると観光客が秋保町内の各店舗に訪訪される事となり、地元ではから、馬場地区でイベントを開催の希望があった。スタンプラリー等で効果の実証が求められる。開催時期が紅葉と園まつりと重なり植物園から1300M程の大渋滞を招いた。町民と観光客(野尻新そば祭り)に影響を与えた。今後開催時期の検討必要あり。 ②大滝賑わい創出 市の観光実態データでは魅力度の高い処であり、今年県内の訪日人気観光地ランキング30以内に入っている。ここは伝統寺院もあり大滝周辺の植生・植物の管理手入れも含めて文化庁と協議し庭園として滝壺まで周遊性を高めればランキング上位の可能性あり。<参考:島根・足立美術館の庭園は四季を通じて美しく「また、来たい」処である。同美術館は海外庭園雑誌で20年連続ランキング1位> II.観光地として秋保温泉郷<温泉街から大滝まで>の景観保全維持 秋保町の人口減少<1990年5100人が2024年-24%減 2050年-46%減推測>となり町全体が過疎化・限界集落化象徴的に大部分の既存商店がシャッター通り。温泉街西側から田畑が耕作放棄地が増えており美しい田園風景・寂しい街並み集落化し観光客にも目に不快感を与えている。各集落、総合支所、市役所等を含めて議論対策が求められている。(次ページへ続く)	I 令和6年度に開催した、秋保大滝テロワー・ジュマルシエは、秋保大滝周辺エリアを活用した賑わい創出の実証事業として実施したものであり、11月1～3日に開催し、約2,700人が来場いたしました。開催時期や実施内容など、いただいたご意見を踏まえて、今後の大滝周辺エリアの賑わいの取り組みを検討してまいります。 また、秋保大滝エリアは、仙台市観光実態調査においても認知度、魅力度ともに高い結果が出ております。いただいた例を参考にしながら、さらなるエリアの面的な魅力向上について検討を行ってまいります。 II 秋保地域の活性化に向けて、観光と地域の持続性の両面を見据えた取り組みは重要であるとと考えております。関係人口や定住人口の増加を意識しながら、観光を基軸とした交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげることができるよう取り組んでまいります。また、例示いただいた内容を参考にしながら、関係事業者との連携を強化してまいります。 III 秋保ビジターセンターについて、大規模改修を契機に、西部エリアの魅力発信機能を強化したところです。自然観光資源をより多くの方に楽しんでいただけるよう、ガイドの充実の視点を含め受入環境の充実を図ってまいりたいと考えております。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
143	重点プロジェクト2	これからは地域の持続可能な観光町づくりとして関係人口・定住人口を意識した生活観光が求められる。 <参考:世界遺産・石見銀山群言堂の活動が知られる> Ⅲ.自然観光のさらなる創出 今年、秋保ビジターセンターは美しく改装されました。秋保町の観光の大きな柱の1つが警司岩・大東岳などの奥山の自然の魅力です。国立公園にも指定され知って頂き、また来たいと思える処です。そのために魅力を紹介案内する常設ガイドは必要条件です。館のソフトの充実が求められる。 ※ここ10年程で、この町は温泉地から多様な観光ジャンルが増え、観光地に変貌しようとしている。	(P36に記載)
144	重点プロジェクト2	作並地区については、48号線沿いの景観をなんとかできないものかと、いつも思います。具体的には、岩松旅館前の廃墟の早期撤収(雰囲気が悪い)、荒廃農地の利活用(そばを栽培する等)、ラサントの活性化にどう取り組むかがガキになると思います。 廃墟を撤収して跡地に毎週末に市を出すとか、、、	廃墟の撤収やラサントの活性化等の作並地区における諸課題への対応について、いただいたご意見を参考に、地域の事業者の皆様との連携を図りながら、検討を進めてまいります。
145	重点プロジェクト2	貞山運河は、非常にポテンシャルが高い仙台のコンテンツの一つだと感じています。 1)伊達政宗が命じて造成が始まった等歴史的ストーリーがしっかりあること 2)阿武隈川河口から石巻まで「日本一の長さの運河」であったこと。日本一はインパクトがあります。 3)震災で被災して復興途上であること 4)運河上に仙台空港があり、交通アクティビティ等の可能性があること。 (仙台空港から船で閉上や仙台市東部、仙台港エリア等に航行ができる可能性がある) 運河の底が浅い、水質があまりよくない、水門等の管理等課題は多いと思いますが、これらを踏まえ段階的にアクティビティを含むコンテンツ造成を行っていただきたいです。 「日本一」の部分で磨き上げるのであれば、他市町とも積極的に広域連携協業して取りこんでいただきたいです。その音頭を仙台市に担っていただきたいです。	貞山運河は、その歴史的な意義や価値、自然資源としての魅力から、本市にとって重要な観光資源であると考えております。このような認識のもと、重点プロジェクト2「Sendai Urban Resortの推進」において、貞山運河を活用したアクティビティの創出を図ること、新たな体験コンテンツの創出や滞在環境の充実を図ることとしております。また、広域連携による関係自治体との連携可能性に関するご意見につきましても、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。
146	重点プロジェクト2	「2.Sendai Urban Resortの推進」東部沿岸エリアの新たな体験コンテンツの創出 につきまして→東部沿岸エリアは、震災で大きな被害を受け、その名残が残っている施設も多くあります。ですがそれは震災後の姿であって、震災前のそのエリアにどのような暮らしや街並みがあったのかを示す仕組みはほとんどありません。過去にどんな街並みがあって、被害があったあとにどのように立ち上がってきたのか、ストーリー性を持って町を感じ、学べる仕組みや観光資源の造成が必要かと思えます。	東日本大震災前の街並みや復興に向けたストーリーを学びにつなげる視点は、東部エリアならではの資源の活用として、重要だと考えております。震災遺構仙台市立荒浜小学校や、蒲生なかの郷愁館、せんだい3.11メモリアル交流館等の活用を図りながら、防災環境都市として、教育旅行の誘致や復興ツーリズムの推進を図ってまいります。
147	重点プロジェクト2	意見というよりも質問なのですが、秋保温泉と作並温泉の認知率と訪問率の差が大きい理由をどう分析されていますか。この差を埋めることができれば、温泉旅館に泊まる人も増えると思いますので、この点を改善していただきたいです。	秋保温泉と作並温泉の認知率や訪問率の差は、宿泊施設数や周辺の店舗の立地状況、交通アクセスなどが主な要因ではないかと考えております。重点プロジェクト2「Sendai Urban Resortの推進」のもと、作並温泉エリアの観光関連事業者の皆様と連携を図りながら、二次交通の充実を含め、温泉や定義地区などの資源を十分活かすことができるよう取り組んでまいります。
148	重点プロジェクト2	仙台市にスキー場があるのに、仙台市以外のひとが知らないのではないのでしょうか。	本市には中心部より車で約40分とアクセスしやすい泉ヶ岳にスキー場があります。重点プロジェクト2「Sendai Urban Resortの推進」に掲げる、泉ヶ岳をはじめとした西部エリアの自然の魅力をさらに高めるため、アクティビティを体験できるアドベンチャーツーリズムを推進し、新たな魅力を創出し域外に発信することで、国内外からの誘客を促進してまいります。
149	重点プロジェクト2	温泉地の整備を掲げているが、どういう温泉地にしていきたいというイメージがあるのか教えていただきたい	温泉地の様々な資源をつなぎ合わせることで面的に魅力をさらに高めることができると考えており、それぞれのエリアの二次交通の充実を図った上で、自然資源を活かしたフックとなるコンテンツづくりやソフト面の取り組みなど、自然や四季を感じながら温泉を楽しむための環境整備を進めていきたいと考えております。
150	重点プロジェクト2	八木山エリアに住んでいますが、標高日本1の地下鉄駅があったり、蒲生には日本1低い山がありますが、これら含めてアピールが足りません。	標高日本一の地下鉄駅である八木山動物公園駅や、日本一標高が低い日和山などは、本市が誇る仙台「ならでは」の観光資源だと考えております。そうした仙台「ならでは」の資源を、観光情報サイト「せんだい旅日和」などの活用を通して、より多くの方へ情報が届くように発信力を強化してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
151	重点プロジェクト2	アーバンリゾートの意味を教えてください。	本市の中心部エリアでは、街歩きやショッピングなどのいわゆる都市型観光が楽しめる一方で、温泉地や魅力ある自然が広がる西部エリアと、沿岸部ならではの自然やコンテンツが存在する東部エリアの双方を有しております。重点プロジェクト2では、そうした都市的な面を有しながら、西部と東部エリアの温泉や自然の豊かさに触れながら「resort」のような過ごし方ができる環境の魅力をさらに高めていきたいという意味を込め、「Sendai Urban Resortの推進」というプロジェクト名にしたものです。
152	重点プロジェクト2	そぞろ歩きとは何か。 歩きスマホを推奨するのは危険なのでやめてほしい	「そぞろ歩き」は、自然や街並みなどの風情を楽しんでもらうために、ゆっくりとエリア内を歩いていただきたいという意味で用いております。「そぞろ歩き」を楽しんでもらう際には、安全に配慮しながら過ごしてもらうことが前提となると考えており、いただいたご意見は、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。
153	重点プロジェクト2	都会の喧騒から逃れたいと願う人々にとって、アーバンリゾートは一種のオアシスだ。高層ビルの中に広がる緑の庭園、空を映し出すインフィニティプール、目を閉じれば鳥のさえずりや水の音が聞こえてくるようなスパ。これらの空間は、現代のストレス社会において心と体を癒す役割を果たしている。しかし、もしその癒しの空間に乳牛がのんびり草を食む牧歌的な風景があったらどうだろう。都市と自然、そして動物が調和する全く新しいリゾート体験を想像してみてください。 このアーバンリゾートでは、施設内に小さな乳牛牧場が併設されている。その牧場は、ビルの屋上に作られた特別なスペースで、土や芝が敷き詰められ、まるで本物の牧場のような雰囲気を実現している。乳牛たちは最新の都市型農業の技術によって健康的に育てられ、訪れる人々を温かく迎える存在となっている。ここでは牛たちに直接触れたり、飼育員のガイドで牛乳を搾る体験をすることができるのだ。その牛乳は、新鮮な状態で施設内のカフェやレストランで提供され、クリーミーな味わいが多くのゲストを魅了している。特に人気を集めているのは、搾りたての牛乳を使ったスイーツメニューだ。牛乳プリン、リコッタチーズのパンケーキ、さらにはずんだ餅も提供されている。このずんだ餅はただのデザートではない。牧場で生まれたフレッシュな牛乳で作られた濃厚なクリームが添えられており、枝豆の風味と相まって絶妙なハーモニーを奏でる一品だ。その口当たりの優しさは、まるで自然そのものが舌の上に広がるような感覚をもたらす。このアーバンリゾートは、単に滞在中の癒しを提供するだけでなく、訪れる人々の心に「自然への感謝」を芽生えさせる場でもある。乳牛の存在は、人間と動物が互いに支え合って生きていることを思い出させてくれる。そして、リゾート内で過ごす時間を通じて、多くの人が自然の恵みの大切さを再認識するのだ。そんな体験をしたゲストの中には、「ここで過ごした時間をもっと日常に取り入れたい」と考える人も多い。都会に住みながらも自然と触れ合う生活を望む声は日に日に高まり、施設は新たなプロジェクトを立ち上げることとなった。それは、都市の一部を丸ごと牧場に変えるという壮大な計画だった。高層ビルの谷間や屋上を利用し、そこに牛が放牧される緑地を作り出す。この「都会の中の牧場」は、単なるリゾートの延長ではなく、都市住民の生活そのものを変える動きの始まりとなるだろう。 計画が進む中、リゾートの一角では、子供たちが乳牛に草を与えたり、搾りたての牛乳を使ったスイーツを楽しむ姿が見られる。大人たちは仕事の合間にこの牧場を訪れ、自然に囲まれた空間でリフレッシュする。やがて、ここで生まれたミルクや農産物は地域の市場に出回り、都市全体が自然と共生する一大モデルとなる。ずんだ餅を片手に、穏やかな風景を眺める人々の笑顔が広がる街。それは、都会のど真ん中に作られた牧場が紡ぐ、癒しと感謝の物語だ。	アーバンリゾートに関するご意見として、承ります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
154	重点プロジェクト2	個人的に観光で松島や秋保に行くことがあります。建物やオブジェのサビや、ドライブ中に生えっぱなしでポロポロになっている木が放置されていたり、メインじゃないところの老朽化が気になります。例えば、定規山の五重塔や三角上げなどのメインの建物やお店は物凄くきれいなのですが、そこじゃないお店の看板の文字が外れていたり、なまめになっていたり…(「おにぎり」の「に」の文字が外れて「おぎり」になっているなど、) 松島や秋保もところどころそういうところが見受けられました。 また、東京や大阪、福岡京都などの都市と比較すると全体的に規模が小さく感じます。 新しくできた「とみやど」もとても楽しみに行ったのに5分もすれば渡りきれてしまって、しかもその周りに観光できる場所が特になく… ジェラートやはちみつはとても美味しかったのですが、楽しくはないかなあ…という印象でした。 松島も観光名地と謳っている割には小規模に感じます。 新しいものを小規模でたくさん作るよりも、松島や秋保など、元々ある観光地の美化や、拡大に努めていただけると嬉しいです。	訪れていただいた方に満足していただくためには、景観や看板などの環境整備は重要であると考えており、本市が設置している看板や市有地の除草及び清掃は計画的に実施しているところです。仙台を訪れていただいた方にご満足いただけるようなコンテンツの整備やエリア一帯を楽しむことができる環境づくりに向けて、地域の観光関連事業者の皆様との連携を図りながら取り組んでまいります。
155	重点プロジェクト2	キラークンテンツの不足→冬期の雪は立派なキラークンテンツ。(弊社はスキー、スノーボードはもちろん、雪遊びもできます。)常設のコンテンツもございませう。(夏冬同様)ナイトコンテンツについては弱いと感じておりますので、現在泉区まちづくり推進課との協議を進めている所ですが、巨大クリスマスツリーの常設、クリスマス終了後はもみの木のイルミネーションとして展示する等形態を変えて展示する等の意見も出ています。イルミネーションはどうゆう形であれ、人を呼ぶ力があるので有効かと考えます。また冬は弊社はナイター(夜営業)を行っているので、夕食後に市内各宿泊地からバスで雪を見に来るオプションを発売するとお客様にとっては有意義な旅行の思い出創りのお手伝い出来ると考えます。夜間もそりレンタルも可。	雪はインバウンドにも訴求する魅力的なコンテンツであると考えており、冬季のプロモーションや広域観光推進の際に活用を図ってまいりたいと考えております。また、イルミネーションの新たな企画など、ナイトコンテンツやナイトイベントの充実を図るとともに、情報発信を強化しながら、宿泊者や観光客の増加につなげてまいりたいと考えております。
156	重点プロジェクト2	仙台の誇るべき西部エリアの自然や文化を用いた観光コンテンツの充実はとても魅力的だと思います。しかし、地域の関連事業者との連携や協働事業においては、事業者とうまく意見が合致しなかったり、議論が円滑に進まなくなる可能性も否めない懸念を感じました。そこで、比較規模の大きな民間企業や教育・研究機関との連携も同時並行で行いながら、プロジェクトの後ろ盾を確立し、関係者との利害関係を守ることも重要かと思いました。	本市においては、(公財)仙台観光国際協会との連携を図り、西部地域の様々な事業者の皆様との意見交換を行う体制を構築しながら、ブランディングや魅力づくりなどに取り組んでいるところです。今後とも地域の観光関連事業者や教育機関の持つ知見やノウハウなどを活かし、多角的な視点を持って、魅力ある観光地域づくりに取り組んでまいりたいと考えております。
157	重点プロジェクト3	アナザージャパンという表現はとても良いと思う。まさに東北、仙台にしかない魅力をこれから発信していくことで、国内外の観光客を惹きつけることができる。	重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信は、国内外の方々に東京・大阪・京都などのいわゆるゴールデンルートとは異なる、食文化や精神文化、自然など、地域性あふれる魅力を体感していただきたいという思いを込めて名付けたものであり、仙台・東北の資源を十分に活かしながら、誘客に取り組んでまいりたいと考えております。
158	重点プロジェクト3	「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」はやめて欲しい。自己満足の言葉選びにしか思えない。伝えたい相手がいる、その相手が即座にかつ直接的に読み取れることが重要であり、相手方に本文や施策の内容から意味を探らせるようなことは不要であり、無駄な労力をかけさせることになる。福岡市を参考にしてほしい。	重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信は、国内外の方々に東京・大阪・京都などのいわゆるゴールデンルートとは異なる、食文化や精神文化、自然など、地域性あふれる魅力を体感していただきたいという思いを込めて名付けたものであり、仙台・東北の資源を十分に活かしながら、誘客に取り組んでまいりたいと考えております。
159	重点プロジェクト3	小規模宿泊事業者です。旅館さんやホテルさんとは違いお客様との距離感が近くお客様の声がよく感じます。日本人53%海外からのお客様47%仙台市でお迎えしております。海外からのお客様の印象は、日本人のお客様と比べて、仙台の魅力の感じ方が違う様に感じます。新しく作りあげたものよりも、例えば田代島や文化横丁といった他の世界の何処にも無いようなオリジナリティに魅力を多く感じてる様に感じます。その反面ポケモンゴロのイベント反響が凄かったです。海外のお客様を呼び込むイベントは何かお考えでしょうか。	ご意見のとおり、海外の方の視線を認識した上で、観光コンテンツの創出やプロモーションに取り組むことは重要であると考えており、海外向けの観光情報サイトのアクセス状況や実際に本市を訪れた外国人の方へのヒアリングを通してニーズなどを把握しているところです。昨年本市で開催した「Pokémon GO Fest 2024:仙台」においては、多くの方にご参加いただいております。継続的に大規模イベントの誘致や漫画・アニメの活用などに取り組んでまいりたいと考えております。
160	重点プロジェクト3	デイトリップについて、仙台駅からの直接アクセスも重要(特に最近増加のインバウンド対策も含めて、海外で雪のコンテンツに興味がある泉ヶ岳へ行く為の手段、アクセスを聞かれ説明をするが、少々困難であるというゼスチャーを受ける事が多かった)で現在は乗り継ぎである(地下鉄→バス)特にインバウンドは雪に触れる事でも満足度が高い。気軽にできるそり遊びだけでも満足度は高い。グリーンシーズンが閑散期について→弊社で実施しているジップラインアドベンチャーは最近インバウンドもFITで増加している。(香港台湾シンガポールが多い)	香港や台湾、タイ、シンガポールなど雪が降らない地域からの観光客は、雪を見る、触れることに対するニーズが高いことを承知しており、これまでも仙台市内にあるスキー場について、公共交通機関やタクシー等によるアクセスなども含めPRを行っているところです。引き続きグリーンシーズンの魅力の発信も含めPRしてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
161	重点プロジェクト3	<p>「SNS等による情報発信を行う」とあるが、SNSはアカウントがないと閲覧できないため、基本的に「誰でも閲覧できる公式観光ウェブサイトによる情報発信」に力を入れるべき。現在の公式観光ウェブサイトは情報が乏しく古い内容も含まれているため、役に立たない魅力的な発信ではないから行きたいと思えない人が多い印象。一から作り直す際も、観光案内所でどんなことを訊かれているのかを把握した上で、情報収集し、毎年または2年ごとに内容を確認したほうが良い。モデルコースもあまりないため、100ぐらいのモデルコースを作って、こんな楽しみ方があるというのを伝えたい。またはDXを活用して、興味・宿泊数・宿泊時期を入力することで自動的に参考モデルコースをいくつか提案できるのが望ましい。</p> <p>「欧米豪市場を主なターゲット」とあるが、「多言語対応」がコロナ前と比べてもまだまだ少ない。特にヨーロッパの人には英語が通じやすいということでも未だに英語の地図・パンフレットだけでなく、他都市ではほとんど「フランス語」「スペイン語」も当たり前のように用意されている。(それ以上に用意している) なぜなら、その2言語は母国語としている国が多いからだ。英語をわかってくれるから用意しなくて大丈夫、という考えは古すぎるし、せめて仙台の歴史や文化をしっかりと伝える上では非常に重要だと思う。(対面のコミュニケーションは英語対応に集中して良いと思う)</p> <p>また「タクシーやレストランの予約が英語対応されていない」のも大きな問題である。特にタクシー会社ぐらいは、運賃が一律なのであれば、しっかりと多言語対応の予約フォームを用意すべき。日本語だけのフォームが多く、行政からの補助金で翻訳費にかけるなど、なんとかしてほしい。</p>	<p>SNSだけではなく、公式観光ウェブサイトにも力を注ぎ、情報発信を強化する必要があると考えております。本市観光情報サイト「せんだい旅日和」における情報の充実や、魅力的なモデルコースの増加、DXを活用した自動提案機能の導入などについても検討してまいります。</p> <p>また、インバウンドを獲得する上で、多言語対応などの取り組みは不可欠だと考えており、いただいたご意見を参考にさせていただき、関係機関や事業者の皆様との連携を図りながら、訪れた人が快適に観光することができる環境の整備を進めてまいります。</p>
162	重点プロジェクト3	<p>インバウンド観光客を呼び込むうえで、市民の理解認知も必要だと思いました。仙台市は現在インバウンド観光客が30数万人とお聞きし、70万人を目指すなら倍の数値になります。現在国内様々な地域で訪日外国人のマナーによるトラブルが続出しております。仙台でも、PokemonGOFesta開催時に「外国人のマナーが悪い」という声を聞きました。ただ、だから「外国人を呼ぶな」という話では決してありません。仙台の魅力が国外に届くことで仙台全体の経済的・文化的発展につながると思います。勝手ながら私が懸念しているのは「外国人に来て欲しい」という行政の意見と、「外国人に来てほしくない」という市民の意見が衝突関係になってしまうことです。市民に「外国人が来ること」を受け入れてもらうには様々な障壁があると思いますが、まず最初に取り入れられるのは「コミュニケーションの是正」かと感じました。外国人の方と関わりを持つ「市民」や「サービス提供者」に対して基本的に使う英語の会話例などの浸透や、市民に対して「仙台多文化共生センター」の認知を広め外国人の方に対してそちらへ案内ができるような指導など、「外国人の方が来てもらってあえず話せる」という環境づくりがあれば制度的な外国人受け入れ体制だけでなく、市民全体が外国人を歓迎する空気を創出できると感じております。もちろん全てを反映することは難しいとは思いますが「市民も一緒に外国人を歓迎する空気づくり」に対してご検討をいただければ幸いです。</p>	<p>本市では、2023年の外国人宿泊者数が33万8,000人泊と過去最高を記録しました。本観光戦略では、2027年までの外国人延べ宿泊者数を70万人泊としており、2023年の倍以上の数値を達成目標として設定しております。ご指摘のとおり、インバウンドの誘客促進のためには、市民の皆様の理解や認知を進めることが重要な視点だと考えております。一方、国内の様々な地域で外国人のマナー違反等をはじめとする地域住民への悪影響が問題となっております。特に、訪日外国人を歓迎したい行政の思いと、日常生活に影響が及ぶことを懸念する市民の声との間に、溝が生じることは問題であり、この状況を改善するためには、互いの理解を深めるためのコミュニケーションの環境を整えることが必要不可欠です。いただいたご意見を踏まえ、地域の声を大切にしながら、持続可能な共生の在り方を模索し、具体的な施策を進めてまいります。</p>
163	重点プロジェクト3	<p>●東北・仙台において全国に比べて劣っている訪日外国人の来訪を増やすことは自明の理ですが、まだまだ受け入れ側の覚悟・必然性を感じえないシーンも多分に見受けられます。脆弱な施設も多く、各施設が出来る範囲でおもてなしをする機運、一方で尖ったコンテンツを生み出す取り組みの両面の活動がまずは必要かと感じています。その上で重点方面、クラスターに対する様々な媒体を活用した有効なプロモーションを展開することも肝要と思います。</p>	<p>訪日外国人の増加にあたっては、市内事業者の受入対応強化も重要であると認識しております。引き続き、外国人対応セミナーの開催や個別の伴走支援など、事業者の外国人観光客対応力向上に向けた取り組みを行ってまいります。また、対象となる国別の状況に応じて、効果的なPRを行ってまいります。</p>
164	重点プロジェクト3	<p>海外からの学生も留学を機に多く来る都市だと思います。一度住んだ外国の方がきっかけとなって、「また来てもらう」という取り組みができるといいかと思っています。</p>	<p>「学都」と呼ばれる本市には、世界最先端の研究で知られる東北大学をはじめとした数多くの高等教育機関が集積し、市内に住む外国人住民は留学生が最多となっています。重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信に掲げるように、留学生や移住者への情報発信を強化し、VFRと呼ばれる友人・家族訪問を促進するほか、一度住んだことがある外国人が、誇りや愛着を持ち、再度本市を訪れていただけるような魅力のある環境づくりにも力を入れてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
165	重点プロジェクト3	私は中国人留学生で、日本に留学してくる前に日本を旅行したことがある。その時に、日本の有名な都市を思い浮かべてみたが、やはり皆さん最初に思い浮かんでいたのは東京で、そして大阪、京都、北海道であった。仙台って聞いたら、やはり知らない人が多かった。現在、私自身は仙台に住み、毎日仙台の魅力を感じている。私はアジアの国々の来日リピーターをターゲットに誘客プロモーションを強化する、という点について、とても良いと思っている。来日リピーターでは仕事のためによく両国を行ったり来たりする人たちでも、日本の文化や景色が好きな人たちでも、何らかの要因で必ず日本に来て滞在する。仙台は関東の東京や関西の大阪、京都と比べて、確かにそんなに優れているわけではない。商業化は東京と差があり、歴史的な文化は京都との差もある。港があっても、来日旅行者では普通に買い物や経験者から伝えられた有名な観光スポット以外には、わざと仙台に来て、秋保の方に行く人はなかなかいないと思っている。このような来日リピーターをターゲットとして彼らに仙台を宣伝すれば、仙台の知名度をある程度上げることができる。また、自分の国に帰って、周りの友達や同僚に仙台の良さを伝えてもらえれば、まずより多くの人に仙台というところのイメージを残すことができ、さらに伝えられた人がネットで調べ、「あっ、仙台が隣にあり、東京に行ったら、仙台の素晴らしい景色も見に行こう」という考えを持つようになるのだろう。	(公財)仙台観光国際協会の調査によると、仙台に来訪した外国人のうち約8割が訪日リピーターでした。また、観光庁の調査によると訪日リピーター層は地方への訪問希望が高いという結果も出ているため、本市としても訪日リピーターを中心としたプロモーションを推進してまいります。
166	重点プロジェクト3	「仙台は食材の供給地が近い」これは、大きな仙台の武器(強み)になると感じています。 農業振興課で取り組んでいる「取れたて仙台プロジェクト」等は食の強みとして観光面にも大きく展開(食のPR、食農体験観光等)できるものだと感じています。是非連携して食強化の一要素として取り組んでいただきたいです。	観光誘客において食は有力なコンテンツの一つと認識しております。関係部局との連携を通して、観光の視点からも食の魅力の強化に取り組んでまいります。
167	重点プロジェクト3	東北の広い範囲だけでなく、名取・岩沼・多賀城など隣接する自治体と連携して仙台エリア全体での一体となった観光資源開発と周遊ルートの整備、プロモーションの実施。	国内外からの誘客を図るためには、東北エリアにおける広域観光のほか、本市に隣接する自治体との連携も重要であると考えており、これまでも近隣自治体も含め市内外の観光資源の紹介等を行ってきております。引き続き関係自治体との連携も図りながら、回遊性の向上を図ってまいります。
168	重点プロジェクト3	インバウンド増加は観光地整備も大事ですが、時間がかかりすぎインバウンドに乗遅れます。まずはきて頂くための空港及び観光地のライフライン整備により、現状の観光地使ったり整備が必要と思いますがいかがでしょうか?	インバウンドのさらなる増加に向けては、将来的な観光地整備とともに、既存の観光コンテンツのさらなる掘り起こしやPRの強化、外国人が快適に観光を楽しめる環境の整備が重要と認識しております。引き続き、様々な取り組みを推進しインバウンドの増加に努めてまいります。
169	重点プロジェクト3	宿泊者数を上積みするためには、インバウンドの獲得は重要だと思います。戦略では「Another JAPAN, SENDAI」の発信というプロジェクト名になっていますが、そのような名称にした意図を教えてください。	重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信は、国内外の方々に東京・大阪・京都などのいわゆるゴールデンルートとは異なる、食文化や精神文化、自然など、地域性あふれる魅力を体感していただきたいという思いを込めて名付けたものであり、仙台・東北の資源を十分に活かしながら、誘客に取り組んでまいりたいと考えております。
170	重点プロジェクト3	隣県に行ってもらわなければならない必要が皆無です。仙台市は自分勝手な背策をすぐにやめて、助け合う方向に進んでください。	国内外から人を呼び込み、長く滞在していただくためには、東北との連携を図りながら、周遊観光に取り組むことが重要であると考えております。重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信では、東北各地の市町村と連携した新しい旅行スタイルの提案や、グルメを活用した東北各地の誘客の促進などに取り組むこととしており、仙台・宮城・東北一体となって、エリア全体の魅力向上とプロモーションに取り組んでまいります。
171	重点プロジェクト3	誘客ターゲットについて、私は外国人、主にウクライナの方々に重きを置いて誘客を行うのがいいと思います。なぜならウクライナの経済成長はめざましく、近年観光客による「爆買い」が問題となる時期もありました。その理由は日本製品の品質の良さ故だと私は考えます。またその品質の高いものなどの観光地で販売することが出来ればさらなる誘客効果を期待することができ仙台という地域の活性化及び経済的な成長を見込めると思いました。	インバウンドのさらなる誘客に向けて、新たなターゲット層に目を向けることは、戦略の推進において重要な視点だと認識しております。一方で、ターゲット国の選定にあたっては、訪日旅行者の動向を慎重に分析することが必要だと考えており、戦略的に新たな市場へのアプローチを進めてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
172	重点プロジェクト3	<p>東京・大阪・京都などのいわゆるゴールデンルートとは異なる景色や新たな魅力には、日本各地の地域独自の自然、文化、歴史が深く関わっています。これらの都市は確かに日本を代表する観光地ですが、その他の地域にも訪れる価値のある魅力が多くあります。以下に、ゴールデンルートとは異なる地域の特色や魅力を紹介します。</p> <p>1. 地方の美しい自然景観  ゴールデンルートに比べて、地方には圧倒的な自然景観が広がっている場所が多くあります。例えば、北海道の大雪山や富良野のラベンダー畑、山梨県の富士山周辺、長野県の上高地など、四季折々の風景が楽しめます。これらの地域では、都市の喧騒から離れ、静かな自然の中で心を癒すことができます。また、海岸線が美しい地域も多く、福井県や鳥取県、和歌山県などの海の魅力を堪能できる場所もあります。</p> <p>2. 地方の伝統と文化  京都や大阪には日本の伝統文化が色濃く残っていますが、地方にも独自の伝統や文化が息づいています。例えば、岐阜県の飛騨高山では江戸時代の町並みが残り、伝統的な建物や町家の雰囲気を感しながら観光ができます。青森県ではねぶた祭りが有名で、伝統的な祭りや地域の人々との交流を楽しむことができます。さらに、島根県の出雲大社や、広島県の宮島など、地方の神社や寺院には歴史や神話が深く関連しており、それらを学ぶことができる点も魅力的です。</p> <p>3. 歴史的な魅力  地方にはゴールデンルートにはない独自の歴史的背景を持つ場所もあります。例えば、奈良や京都に次いで古代の歴史が息づく場所として、福岡県の太宰府や、石川県の金沢の兼六園、また、徳島県の阿波踊りなどがあります。これらの地域では、伝統的な文化に触れることができるとともに、歴史的な背景や地元の人々とのつながりを感じることができます。</p> <p>4. 独自の食文化  地域ごとの食文化は日本の魅力の一つです。例えば、北海道では新鮮な海産物や乳製品が豊富にあり、特に札幌のラーメンや函館の朝市などが人気です。広島のお好み焼き、岡山の桃やマスカット、長崎のちゃんぽんなど、地方ならではの料理を楽しむことができます。これらの食文化は、その土地ならではの味わいを提供しており、食べることでその地域の風土や歴史を感じることができます。</p> <p>5. 温泉地の多様性  日本全国には、温泉地も豊富にあります。箱根や伊豆といった観光地に加え、地方には特色ある温泉地が数多く存在します。例えば、北海道の登別温泉、群馬県の草津温泉、兵庫県の有馬温泉、そして、九州の湯布院や別府温泉などはそれぞれ独自の泉質や温泉街の雰囲気が魅力です。これらの温泉地では、自然の中でのおんびりと温泉につかりながら、リラックした時間を過ごすことができます。</p> <p>6. 少人数の観光体験  ゴールデンルートは多くの観光客で賑わっていますが、地方では比較的少人数で落ち着いた観光体験ができる点も魅力です。観光客が少ない場所では、地元の人々とゆっくりと交流する機会も多く、特に地方の小さな町や村では、観光地でないところにも温かいおもてなしを感じることができます。</p> <p>7. 地域との深い関わり  観光地として名高い都市とは異なり、地方では観光とともに地域とのつながりを深めることができる場所が多いです。例えば、福島県の会津地方では、地元の文化や歴史を学びながら、地域の人々と一緒に農作業や伝統工芸体験をすることができます。このような地域との深い関わりを通じて、より身近にその土地を感じることができます。</p> <p>これらの地域は、東京や京都、大阪などのゴールデンルートとは異なり、少し足を延ばすことで発見できる新しい魅力を提供してくれます。都市の喧騒を離れ、自然や歴史、文化、食、温泉など、地域ごとに異なる体験を楽しむことができるため、旅行者にとって新たな発見と感動が待っています。</p>	<p>ゴールデンルートとは異なる、仙台や東北ならではの独自の文化や歴史などの特色を活かし、新たな魅力を提案することは重要な視点だと認識しており、いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。</p>
173	重点プロジェクト3	<p>アジア地域を対象とした航空会社とあるが、アジア以外は受け入れないのか。人種差別は受け入れてはいけない。</p>	<p>仙台国際空港と直行便が就航している地域として「アジア地域を対象とした航空会社との連携」と記載しております。また、欧米豪市場も新たなターゲットとして開拓することとしており、戦略的にインバウンドの獲得に取り組んでまいりたいと考えております。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
174	重点プロジェクト3	<p>東北を「TOHOKU」と英語表記する自治体の試みについて、私は懸念を抱かざるを得ません。確かに、国際的な観光客を惹きつけるために英語表記を活用することは重要かもしれませんが、地域名において「TOHOKU」と表記することが果たして地域の文化や歴史にどれほど相応しいのか、その意図と影響について再考する必要があると考えます。</p> <p>まず、東北地方は日本の独自の文化や歴史を色濃く持つ地域であり、その名前に込められた意味や誇りを尊重することが大切です。「東北」という表記は、長年にわたり地域住民のアイデンティティや誇りを象徴してきました。地域名を「TOHOKU」と英語表記にすることで、地域の伝統や風土を無視し、単なる観光地としての側面だけが強調されてしまうのではないかと懸念が生じます。</p> <p>さらに、英語表記が広まることで、観光客には地域名が日本語の発音や意味を持つ固有名詞であるという認識が薄れ、観光地としての「消費」の対象になりかねません。地域名が英語表記になれば、外国人観光客が東北を訪れる際に「TOHOKU」という名称だけが印象に残り、その地域が持つ独自の魅力や物語が薄れてしまう危険性があるのです。</p> <p>地域名に関する表記変更は、単に観光戦略としての効果だけでなく、その地域が持つ文化的価値や精神的なつながりにも深く影響を与えるものです。だからこそ、自治体が英語表記を選ぶ理由として、地域住民の意見や地域に根付いた文化を十分に反映させる必要があります。「TOHOKU」という表記が本当に地域の誇りやアイデンティティを適切に表現しているのか、その決定に対する納得のいく説明を求める声は高まるべきです。</p>	<p>「TOHOKU」の表記は、「Another JAPAN」のタイトルに合わせて、ローマ字表記といたしました。</p> <p>東北には各地域において独自の文化や歴史など、魅力的なコンテンツが多数あるものと認識しております。</p> <p>東北の各自治体との連携のもと、各地域のご意見もお伺いしながら、東北の魅力を活用し、東北全域での交流人口の拡大を目指して様々な施策に取り組んでまいります。</p>
175	重点プロジェクト3	<p>ゴールデンルートに愛知や奈良が入っていないのはなぜか。少なくとも奈良は入れようと思う。</p>	<p>ゴールデンルートの一例として、東京・大阪・京都を挙げさせていただいております。</p>
176	重点プロジェクト3	<p>がすとろのみ一つりずむとはなにか。</p> <p>仙台市民の税金で東北各地域の誘客をすると記載があるが、なぜ市税である必要があるのか。</p> <p>市内のことだけやれば良い。無駄な事業にはお金を使わないでくれ。</p>	<p>ガストロノミーツーリズムとは、その土地の気候風土が生んだ食材や習慣、歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的とした観光のことです。また、本市は東北地方におけるゲートウェイとしての機能を有しており、各地域との連携を強化することで、本市への宿泊や消費額の増加を図ることができるものと考えております。</p>
177	重点プロジェクト3	<p>680万人泊また、将来の700万人泊について、インバウンドを引き込む魅力ある宿泊先の誘致が必要と感じます。</p>	<p>達成目標の実現に向けて、訪日外国人を引き込む魅力ある宿泊施設は重要であると考えており、いただいたご意見については、今後の観光振興の参考にさせていただきます。</p>
178	重点プロジェクト3	<p>仙台市だけでなく、名取市や石巻市など他市町村のことも記載してください。仙台市だけで成り立っているわけではありません。</p>	<p>国内外からの誘客を図るためには、東北エリアにおける広域観光のほか、本市に隣接する自治体との連携も重要であると考えており、これまでも近隣自治体も含め市内外の観光資源の紹介等を行ってきております。引き続き関係自治体との連携も図りながら、回遊性の向上を図ってまいります。</p>
179	重点プロジェクト3	<p>(仮称)仙台市観光戦略2027(中間案)において、「線」としてつなげ、「面」としての広がりを持たせていくという記述がありますが、県内の市町村との連携についてさらなる強化を検討いたします。</p> <p>ゲートウェイとしての仙台の機能を活用すべきという記述にもありますとおり、仙台を拠点にしつつ松島など他のエリアに泊まっていたりするような周遊コンテンツを推進することで、滞在時間の延長にともない、宿泊や地域の消費に繋がるかと思えます。</p> <p>また、今年度本町では、日本遺産構成市町である仙台市様、多賀城市様からご協力をいただき、日本遺産を軸としたバスツアーを造成・実施しました。</p> <p>仙台市様では仙台市文化財課様のご協力のもと、青葉城址での体験型コンテンツ及びガイドを実施いただき、参加者より大変好評いただきました。</p> <p>広域周遊を目指すことにより、お客様に様々な宮城の魅力に触れていただく中で、仙台市様からも近隣市町村の観光資源を活用したツアー造成や送客にご協力いただければと思います。</p>	<p>国内外からの誘客を図るためには、本市に隣接する自治体との連携も重要であると考えており、これまでも近隣自治体も含め市内外の観光資源の紹介等を行ってきております。引き続き関係自治体との連携も図りながら、回遊性の向上を図ってまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
180	重点プロジェクト3	<p>私はインドネシアから来た留学生として、仙台市が観光を促進し、特に留学生をターゲットにした施策を展開するためには、彼らが仙台を訪れることで得られる具体的なメリットや特典を提供する仕組みが必要だと考えます。以下に、留学生が仙台市を観光する際に得をするような具体的な提案をいくつか挙げ、それぞれを詳細に説明します。留学生向けの割引バスと無料チケットの提供留学生に対して、仙台市内の観光スポットや公共交通機関で使用できる割引バスや無料チケットを提供することは、彼らの観光意欲を高める大きな要因となります。具体的な例として、以下のようなものが考えられます。仙台観光バスの導入仙台市内の主要な観光地や博物館、美術館、温泉施設などで利用できる仙台観光バスを発行します。このバスは留学生に対して特別価格で提供され、数日間有効なものとする。観光バスを持っている留学生は、特定の施設に無料で入場できるだけでなく、特定のレストランやカフェでの割引も受けられるようになります。これにより、留学生は仙台市内を自由に観光し、多くの魅力を体験することができます。無料公共交通バスの提供留学生が仙台市内を移動する際に、公共交通機関の利用が無料となる特典を提供します。例えば、市内のバスや地下鉄を利用するための留学生無料交通バスを発行し、一定期間内に限り無料で利用できるようにします。これにより、留学生は移動コストを気にせずに観光を楽しむことができ、観光地へのアクセスが容易になります。留学生向けの観光ガイドツアーの実施仙台市内の観光スポットを巡るガイドツアーを、留学生向けに特別にアレンジして実施することも効果的です。以下に具体例を示します。留学生専用ガイドツアーの企画仙台市内の主要な観光スポットや歴史的な場所を巡るガイドツアーを、留学生専用で企画します。ツアーガイドには英語やその他の外国語が堪能なスタッフを配置し、留学生が言語の壁を感じることなく観光を楽しむことができるようにします。また、ツアーの内容には、仙台市の歴史や文化、地元の特産品についての説明を含めることで、留学生が仙台の魅力や魅力を深く理解する機会を提供します。インターナショナルツアーの開催留学生だけでなく、外国人観光客全般を対象としたインターナショナルツアーを定期的に開催します。このツアーでは、仙台市内の観光スポットを巡るだけでなく、地元のイベントや祭りに参加する機会も提供します。ツアーの参加者には、地元の伝統的な工芸品作りや和食の料理教室など、ユニークな体験プログラムも組み込むことで、仙台市の魅力を多角的に楽しんでもらうことができます。留学生コミュニティの活性化と交流イベントの開催留学生が仙台市で観光を楽しむためには、地元の人々との交流が重要です。そこで、留学生コミュニティを活性化し、地元の人々との交流イベントを開催することが考えられます。留学生交流イベントの企画定期的に留学生交流イベントを開催し、地元の住民と留学生が交流する機会を提供します。イベントの内容としては、料理教室やスポーツイベント、伝統文化体験など、様々なアクティビティを企画します。特に、地元の祭りやイベントに参加することで、留学生が仙台市の文化や風習に触れる機会を増やし、地域社会とのつながりを深めることができます。留学生ネットワークの構築仙台市内の大学や語学学校と連携し、留学生のネットワークを構築します。このネットワークを通じて、観光情報やイベント情報を共有し、留学生同士の情報交換や交流を促進します。さらに、市内の観光スポットやレストラン、カフェなどで特典が受けられる留学生特典プログラムを導入し、ネットワークを活用して留学生が得する仕組みを整えます。留学生向けのインフォメーションセンターの設置留学生が観光情報や必要なサポートを受けやすするために、留学生向けのインフォメーションセンターを設置することも重要です。以下に具体例を示します。留学生インフォメーションセンターの設立仙台市内の主要な観光スポットや大学近くに留学生インフォメーションセンターを設置します。このセンターでは、多言語対応のスタッフが常駐し、観光情報や市内のイベント情報、公共交通機関の利用方法など、留学生が必要とする情報を提供します。また、センター内には観光パンフレットやマップ、割引クーポンなども常備し、留学生が自由に利用できるようにします。留学生サポートデスクの設置留学生サポートデスクをインフォメーションセンター内に設け、留学生が観光に関する質問や困りごとを相談できる場を提供します。例えば、観光地へのアクセス方法やおすめ観光ルート、イベント情報など、留学生が観光を楽しむために必要なアドバイスを提供します。また、観光だけでなく、日常生活に関するサポートも行い、留学生が安心して仙台市での生活を楽しむことができるよう支援します。デジタルプラットフォームの活用現代の留学生は、デジタルツールを積極的に活用して情報収集を行っています。仙台市もデジタルプラットフォームを活用して、留学生に向けた観光情報を効果的に発信することが重要です。留学生向け観光アプリの開発仙台市内の観光スポットやイベント情報、公共交通機関の情報を提供する留学生向け観光アプリを開発します。このアプリでは、多言語対応の機能を備え、留学生が言語の壁を感じることなく情報を得られるようにします。また、アプリ内には観光ルートの提案やAR(拡張現実)機能を利用した観光ガイド、オンラインチケットの購入機能などを搭載し、留学生が観光をより便利に楽しめるようにします。留学生向けSNSアカウントの運営仙台市の観光情報を発信するために、留学生向けのSNSアカウントを開設し、定期的に情報を更新します。InstagramやFacebook、Twitterなどのプラットフォームを活用して、観光スポットやイベントの写真や動画、キャンペーン情報などを発信し、留学生にアピールします。また、SNS上で留学生同士のコミュニケーションを促進し、観光情報の共有や意見交換を活性化させることができます。留学生向けの特別プログラムの導入留学生が仙台市を訪れる際に特別な体験を提供するために、留学生向けの特別プログラムを導入します。以下に具体例を示します。伝統文化体験プログラム仙台市の伝統文化を留学生に体験してもらうための特別プログラムを企画します。例えば、茶道や花道、和菓子作り、着物の着付けなど、日本の伝統文化に触れることができる体験プログラムを提供します。これにより、留学生は仙台市の文化や歴史を深く理解し、特別な思い出を作ることができます。以上のような取り組みを通じて、仙台市は留学生にとって魅力的な観光地として選ばれるようになるでしょう。留学生が得をする仕組みを整えることで、(※原文のとおり)</p>	<p>本市では東北大学の国際卓越研究大学の認定により、留学生を含め外国人住民が増加すると考えており、重点プロジェクト3「Another JAPAN, SENDAI, TOHOKU」の発信のもと、そうした方々への情報発信などにより、VFR(友人・家族訪問)などの促進に取り組んでまいります。新たな発見や違った楽しみ方ができるような仙台ならではの取り組みを実施し、本市の魅力を発信していきたいと考えており、いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
181	重点プロジェクト4	●国際センターの改修が始まりますが、東北大学を有する仙台市としてMICE需要を拡大していくことは国際都市として相応しく、経済効果も高いものです。そのためのユニークバニユーの開発に力を入れて欲しい。	本市は、2015年に観光庁からグローバルMICE都市に選定されており、仙台市実施計画においてもMICE推進を重点事業に掲げ、大規模学会や政府系会議の誘致などに取り組んでおります。取り組みの一つとして、ユニークバニユーを含め、エクスカージョンやテクニカルビジットなどのMICEコンテンツの開発を進めておりましたが、引き続き国内外からの参加者に、「仙台ならではの魅力ある体験を提供できるよう、様々なMICEコンテンツの開発を強化してまいります。
182	重点プロジェクト4	何度かNanoterasuを見学しました。 最先端の次世代放射光施設であるNanoterasuを観光を含む人流への活用や企業向けのプログラム造成には大変すばらしい取組方針と思います。 現状では、Nanoterasuの視察内容が素人には難しすぎる部分があるため、Nanoterasuを利用すると結果何ができるのか、どんなことが判明できたか、等の結果の方をわかりやすく展示説明した方が素人には伝わりやすいと感じました。 まだ稼働したばかりで、利用企業等の結果がそれほどないから展示等ができないのだと思いますが、実施事例も増えたら、是非この素晴らしい施設を観光・視察等への応用展開を期待します。 企業に関しては、「視察」需要には適していると思いますが、「報奨旅行＝インセンティブ」には(難しすぎ専門的すぎ)向いてないと思います。 また教育旅行には非常に関心が高いと思いますので、こちらへも力を入れてほしいです。	NanoTerasuは、世界最高水準の分析能力を有する次世代放射光施設であり、いただいたご意見を参考に、重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」の視点のもと、企業向けのプログラムの充実を図ってまいります。また、インセンティブ旅行に関しては、専門性の高さから、特性を踏まえたプログラムの検討が必要だと考えております。いただいたご意見を踏まえ、本市の魅力をさらに発信できるよう努めてまいります。
183	重点プロジェクト4	仙台は支店経済と言われ、人口の30%が支店経済に従事する人だと仮定する。その方の地元、出身地からの誘客策、特典をつけるとか、アイデアがあっても良い気がします。	重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」につきましては、観光客だけではなく、ビジネスによる来訪も多い、ご指摘の支店経済としての本市の特性も踏まえたプロジェクトでございます。いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。
184	重点プロジェクト4	2年前に縁あって都内から仙台市内に越してきました。外から見ていたときは、あまり仙台市で何か観光をするというイメージがなく「牛タン」「笹かまぼこ」「伊達政宗」程度の知識しかありませんでした。ところが実際に住んでみると季節ごとに多くのイベントがあり、食も豊富で、近くに温泉もあり、たくさんの人に何度も訪れてほしい街だと感じました。1月2月が閑散期ということで資料にありましたが、東京の友人を冬の仙台に誘ったら確かに寒いから暖かくなってからといわれてしまいました。でもその時期こそおいしいものが盛りだくさん(牡蠣やセリ鍋等々)で温泉も良い時期だと思っておりますので、「冬にこそ食」についてPRやイベントなどに改めて力を入れてみるのはいかがでしょうかと感じました。仙台にビジネスで訪れる方も多いため、その方々をターゲットに今度は家族や友人と温泉に泊まってもらえるような施策もリピート層の獲得には有効ではないかと素人ながら考えます。	本市には、四季折々の賑わいを創出するまつりや、魅力あるグルメ、歴史ある温泉地など、数多くの観光資源があります。閑散期である1,2月は、ご例示のようなその時期ならではのグルメもあり、また、冬季の大型イベントなども検討していくことから、いただいたご意見は、今後の閑散期対策の参考にさせていただきます。また、重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」につきましては、観光客だけではなく、ビジネスによる来訪も多い本市の特性も踏まえたプロジェクトであり、ビジネスで訪れた方にも観光の魅力を知っていただき、次の来訪につながるような取り組みを推進してまいりたいと考えております。
185	重点プロジェクト4	●野球、サッカー、バスケットなどのプロスポーツチームとの連携、アリーナの利活用による賑わい創出、特に泉エリア、長町エリアの活性化、地下鉄利用促進による派生効果は街づくりの観点でも有益だと考えます。	プロスポーツチームとの連携やアリーナの利活用は、本市の賑わい創出や活性化において重要な視点だと考えております。また、泉エリアや長町エリアの活性化は、地域経済の発展に大きな効果があると認識しており、重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」のもと、スポーツ観戦等で来訪した方へ観光を促すことで、試合観戦だけでなく、周辺地域での観光を楽しんでいただき、消費の拡大につなげる取り組みを推進してまいります。
186	重点プロジェクト4	来訪のインセンティブとなるいわゆる旅行支援のような枠組みをぜひ手厚く実施・発信していただきたいと感じます。リピーターの獲得のため、コト・トキ消費に費用を抛出してもらうためには宿泊費や交通費など固定の部分の負担を軽減することが非常に有効と感じます。旅行支援の適用条件などで各エリアでテーマを付与するなど、動線の誘導や回遊性向上にも一役買うことができるのではと考えます。	旅行支援などの宿泊促進キャンペーンは、来訪を促す直接的な要因となり、閑散期の宿泊の底上げや、再度の来訪を促す重要な施策の一つと認識しております。重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」のもと、宿泊事業者や観光関連事業者等の意見を伺いながら、手法や実施などについて検討してまいります。
187	重点プロジェクト4	スポーツの写真にラグビーの写真が使われているが、仙台市はラグビーの試合誘致に力を入れていない(明らかに開催回数が少ない)のに、この写真を使う意図は何か。これから楽天やベガルタ、89ersの加え、ラグビーの拠点性も高めようとしているのか。そうであれば嬉しいが、そうでないならば例示としても写真の選び方を考えるべきであり、ラグビーを冒険している行為である。	掲載している画像は、7月13日にユアテックスタジアム仙台にて開催された、リポビタンDチャレンジカップ日本代表対ジョージア代表の試合の様子として使用しております。令和6年に本市にて開催された国際試合として、市民のみならず県内外からの観戦者が来訪したものであり、重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」の趣旨に合致するものの一例として掲載しております。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
188	重点プロジェクト4	首都圏の小中高への就学旅行は北は「日光」泊まりです。どうやって北へ向けるのか。要PR。インバウンドの方々への災害時(地震、津波etc)の対応を要検討。	教育旅行の誘致は、平日の来訪など誘客促進に重要であると考えております。本市には、東日本大震災の経験から防災や減災を学ぶことができる様々な資源があり、それらを活かしながら、東北一体の魅力を通して教育旅行の誘致を推進してまいります。また、災害時の対応について、仙台駅における帰宅困難者を想定した訓練の実施や観光情報サイトでの情報発信などを想定しているところですが、ご意見を参考にさせていただきながら、さらに対策を検討してまいります。
189	重点プロジェクト4	プロスポーツチーム(野球、サッカー、バスケットボール)が揃っている都市であることも魅力の一つであると思います。	東北楽天ゴールデンイーグルスや、ベガルタ仙台、マイナビ仙台レディース、仙台89ERSなど、本市にはプロスポーツチームが多数存在し、県内外から多くの観戦者が来訪します。重点プロジェクト4「+(プラス)観光の推進」のもと、スポーツ観戦等で来訪した方へ観光を促すことで、試合観戦だけでなく、周辺地域での観光を楽しんでいただき、消費の拡大につなげる取り組みを推進してまいります。
190	重点プロジェクト5	「ダイバーシティまちづくりの視点のもと」と掲げているのに、一切「バリアフリー対策」のことが盛り込まれていないのが非常に残念で、結局のところ言葉だけなんだと強く感じる。仙台では「車椅子・ベビーカー」の方でも楽しめる観光スポットや店が少なすぎて、案内が難しい。車椅子でなくても、「ひざが悪い高齢者」「旅行中に足を怪我してしまい歩行が困難な人」も実際にいる。また、「多目的トイレ」の需要も多いのに対して、中心部でも気軽に使える店や施設が圧倒的に少ない。生理的なことなので最寄りの多目的トイレがわかるよう、この点も地図などで可視化して積極的に情報発信するべき。介護をしている家族が抱えている問題のひとつである。「乳幼児」がいる家族も授乳できる場所が必要なので、その点も考慮したほうがいい。あとは、「タトゥーOKの温泉施設」もかなり少なくて困る。貸切風呂でもお断りされる温泉施設がある。外国人にとってタトゥーはファッションなので、それもダイバーシティ的に理解が必要。	「ダイバーシティまちづくり」を掲げるにあたり、来訪者が安心して快適に過ごすためには、バリアフリーなどの視点が重要であると考えており、いただいたご意見を踏まえ、関係者とも連携を図りながら、受入環境の整備を図ってまいりたいと考えております。
191	重点プロジェクト5	戦略中間案全体を通して、コンテンツの造成後、それを請け負っていく人材育成について触れられていない点が気になりました。どんなコンテンツを作ったとしても、必ずオペレーションをしていく人間が必要になるかと思えます。(ガイドなどは特に…)そういった仙台の観光を担う人材(今後も見据えて若い世代)の育成にも力を入れていくべきなのではないかと感じました。	新たなコンテンツを創出すること、それを活用する人材を育てていくことは、両輪で考えていくべきであり、重要な視点だと認識しております。重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に掲げる、観光関連事業者の支援やガイドの育成等を行い、持続可能な観光地としての基盤を強化してまいります。
192	重点プロジェクト5	市内にコインロッカーが少ない。あと公衆トイレも少ない。増やしてほしい。	コインロッカーや公衆トイレは観光客や市民の皆様にとって重要な設備であると認識しており、快適な環境を提供することで満足度を高め、訪れた方に「また来たい」と思っていたことは、本市の観光振興の鍵となると考えております。いただいたご意見を参考に、だれもが快適に過ごすことができる環境づくりに努めてまいります。
193	重点プロジェクト5	ホテルや旅館への支援が多すぎる。観光はいろんな業種がかかわるのに、いつも旅館ばかり支援。コロナのときもさぞ税金をもらっている。なぜそこまでホテルと旅館が優遇されるのか。当たり前じゃないと思います。よく考えてください。	地域の魅力を高め、観光産業全体を発展させていくためには、来訪者の受け入れ先となる宿泊事業者を含め、観光関連事業者への支援が欠かせないと考えております。関係局との連携を図りながら、各プロジェクトのもと、観光関連事業者の皆様へのニーズに沿った支援や施策を検討してまいりたいと考えております。
194	重点プロジェクト5	宿泊施設を増やすことは、将来の大震災時における臨時避難場所や復興支援者に対する宿泊施設の提供などに活用されるものと思います。観光だけでなく、災害時の機能としての宿泊施設の在り方を、考えていただければと思います。	宿泊施設は東日本大震災の際にも、被災者の受け入れ先として大変協力していただきました。持続可能な観光地域づくりのためには、観光危機管理マニュアルの発信やBCP策定支援などを通して、観光関連事業者の強靱性の向上を図るとともに、関係局と連携を図りながら、来訪者の安全安心の確保に努めてまいりたいと考えております。
195	重点プロジェクト5	観光事業者だけでなく、町内会や商店街への支援もお願いします。	地域全体の活性化には、町内会や商店街の皆様様の活動が欠かせないものと考えており、区役所や関係局と連携を図りながら、地域一体となった賑わいの創出に取り組んでまいりたいと考えております。
196	重点プロジェクト5	都市に近く自然豊かな西部エリアでアドベンチャーツーリズムを始めとした自然や景観を楽しめるコンテンツやステイ環境を整備・提供して行きたいと考えております。観光戦略に沿った一定の条件下での規制の緩和や財務面へのご支援をご検討をお願いします。	アドベンチャーツーリズムは、重点プロジェクト2「Sendai Urban Resortの推進」に位置付けているとおり、滞在時間を充実させる重要なコンテンツであると考えております。また、観光施策を推進していく上で、事業者の方々が積極的に事業に取り組みやすい環境を整えることは重要な視点であり、規制の緩和について庁内横断的に検討を進めるとともに、財政面については、観光関連事業者の皆様のご意見を伺いながら、毎年度予算編成の中で具体的な支援策を検討してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
197	重点プロジェクト5	「市民が地域に誇りや愛着を持つことができる取り組みの推進」・とても大切だと思います。それには、教育もとても大事。自分たちが住んでいるまちが「誰かに語りたくなる」素敵なまちだったら、それだけで、市民一人一人が仙台のセールスポモーター！現状では、せっかく仙台に来られた方を「仙台は特に、何もありません。お城もないし、松島にでも行く？」と他市町村に送り出してしまっている人のなんと多いことでしょうか。長く住んでいても、広瀬川に行ったことがない、メディアテークに入ったことがない、10BOXで何？という市民も、少なくありません。滞在・体験して、楽しい・美味しい・嬉しいが増えるよう、まず市民から、が大事かな？市民が、自ら知り合いに口コミやSNSへ発信してくれるようになれば、観光戦略の大きな力になるに違いありません。	市民の皆様が地域に誇りや愛着を持ち、来訪者へその魅力を伝えたいとなるような環境を醸成することは、観光振興を図るうえで重要な視点であると考えております。観光客へ訴求するためには、まず市民の皆様が体験し、楽しさや感動を感じることで、口コミやSNSでの発信が促され、さらなる誘客につながります。重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」のもと、市民の皆様が地域に対する誇りや愛着を育む取り組みを検討するとともに、本市の観光情報についても幅広く発信してまいります。
198	重点プロジェクト5	国が示すようなDMOが仙台があればよいのと思っていますが、現在は物足りません。DMOの強化とは、具体的には何でしょうか。	令和6年9月に登録DMOに登録された(公財)仙台観光国際協会について、民間企業のノウハウも取り入れ、観光の専門人材の育成を図るなど、組織体制の強化を図りながら、体験プログラムの磨き上げや旅行商品の造成などにさらに力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。
199	重点プロジェクト5	持続可能な観光地域の形成の視点はとても重要です。観光庁は日本版持続可能な観光地域づくりガイドラインをつくり、国をあげて取り組みを進めようとしています。仙台市でもこれに沿った取り組みやロゴマークの取得を考えると良いのではないのでしょうか。	観光庁が掲げる、「日本版持続可能な観光ガイドライン」に沿った取り組みは、持続可能な観光地域づくりを進めるにあたり重要な指針になると考えております。いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。
200	重点プロジェクト5	観光の面から歴史・文化などの資源の価値を保全とは、どのような施策が想定されるのか。文化財担当が実施しているものを書いているだけのものか、それとも観光の視点で新たに取り組んでいくのか。既に実施している取り組みを書いただけのものであれば、戦略とは言わないのでやめていただきたい。次世代に継承する仕組みづくりの推進も、歴史や文化を保全するために取り組んでいる地域の方々にも助成するなどのこれまでとは違う行政からの支援が頭に浮かんだが、地域の方々の努力で進めようとする他力本願な施策であれば、戦略に位置付けても実にならないため、地域の方々の声をちゃんと聞いて、行政としてできることを記載していただきたい。	重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」のもと、市民の皆様が地域に対する誇りや愛着を育む視点も踏まえながら、地域の歴史文化などの発掘・情報発信に取り組んでいきたいと考えており、関係局とも連携を図りながら、仙台の歴史・文化資源のさらなる活用を図ってまいりたいと考えております。
201	重点プロジェクト5	ムスリムの方が、礼拝する場所を、ネットで探せるマップを、仙台市でウェブ公表してはいかがでしょうか。各大学や民間施設を統合して、対外公表することは行政としてはよい試みかと存じます。	ダイバーシティまちづくりの視点のもと、だれもが快適に観光することができる受入環境の整備は重要だと考えており、今後の観光施策の参考にさせていただきます。
202	重点プロジェクト5	MICE事業者です。観光との様々な連携が必須と考えます。DMOの強化ではどのような具体的な目標や施策をお考えでしょうか？	令和6年9月に登録DMOに登録された(公財)仙台観光国際協会について、民間企業のノウハウも取り入れ、観光の専門人材の育成を図るなど、組織体制の強化を図りながら、体験プログラムの磨き上げや旅行商品の造成などにさらに力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。
203	重点プロジェクト5	北九州市ではマクドナルドで中学生の刺殺事件が起きている。大変痛ましい事件だ。仙台市でもマクドナルドに防護用のまな板を配備し、観光客の安全対策に努めてほしい。	観光客の安全対策は重要な視点だと考えており、いただいたご意見を参考に観光振興を進めてまいります。
204	重点プロジェクト5	るーぶる仙台の本数が少ない。観光客がバス停に取り残されている。もっと増便してほしい	るーぶる仙台は現在全日20分間隔で運行しておりますが、仙台駅西口バスターミナル乗り場等におけるお客様の並び具合から判断し、「仙台北城跡までの臨時便」を運行しております。引き続き、観光客を始めとした利用者の方々へ快適に観光していただける環境づくりに努めてまいります。
205	重点プロジェクト5	ここで言う「市民」とは、「観光・MICEを支える人」「仙台に関わる多様な“ひと”」のことであり、仙台に住み/営業し/働く市民のことではないようだ。	本観光戦略における「市民」とは、本市に暮らすすべての住民を指しております。具体的には、本市で生活を営む方々を対象としており、子どもから高齢者まで、幅広い世代を含んでおります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
206	重点プロジェクト5	<p>キャッシュレス決済の普及は、観光産業に多くの影響を与えている。特に近年のデジタル技術の進展や国際観光客の増加に伴い、現金以外の決済手段が求められるようになった。これは観光客や事業者の利便性を向上させる一方で、新たな課題を生むこともある。ここでは、キャッシュレス決済の普及が観光に及ぼすメリットとデメリットを5つずつ挙げ、その影響を考察する。キャッシュレス決済がもたらす最も大きな利点の一つは、観光客の利便性向上である。現地通貨の用意や両替が不要になり、旅行中の煩わしさが軽減される。特に外国人観光客にとって、異なる通貨を扱う不安が解消されるのは大きな魅力だ。また、クレジットカードやモバイル決済を利用することで、現金の不足を心配する必要がなくなり、観光をより自由に楽しむことができる。さらに、キャッシュレス決済は観光客の消費を促進する役割も果たす。現金の制約がないため、高額商品やオプショナルツアーなどの購入に対する心理的なハードルが低くなり、観光地の経済効果を高める可能性がある。また、キャッシュレス決済は事業者にとっても大きな利点をもたらす。現金管理の負担が軽減され、釣り銭の準備や売上の集計作業が効率化される。また、現金を扱わないことで盗難リスクが低減し、治安の向上にも寄与する。特に人手不足が深刻化している観光業界において、業務効率化は重要な課題であり、キャッシュレス決済はその解決策となり得る。さらに、決済データを活用した顧客分析が可能になる点も見逃せない。顧客の消費行動を可視化することで、観光地や店舗はマーケティングの精度を高め、ターゲットに合わせたサービスの提供が可能となる。安全性の向上もキャッシュレス決済のメリットの一つである。現金を持ち歩かないことで、盗難や紛失のリスクが軽減され、観光客に安心感を与える。特に治安が不安定な地域では、観光客の利用意欲を高めるための重要な要素となる。</p> <p>また、事業者にとっても現金強盗や不正利用のリスクが低減するため、安全な経営環境の構築に寄与する。一方で、キャッシュレス決済の普及にはいくつかのデメリットも存在する。その一つが、システムトラブルのリスクである。キャッシュレス決済はインターネットや電源に依存しており、これらのインフラが不安定な地域では、利用が困難になる場合がある。停電や通信障害が発生した際には決済が行えず、観光客や事業者に大きな混乱をもたらす可能性がある。また、中小規模の観光地や店舗にとって、キャッシュレス決済の導入にはコストがかかる点も課題である。端末の導入費用や決済手数料が負担となり、特に収益が限られている事業者にとっては導入を躊躇する要因となり得る。さらに、デジタル機器に不慣れな層への対応も重要な課題である。観光地では高齢者を含む幅広い世代が訪れるため、全ての利用者にとって快適な環境を整える必要がある。完全なキャッシュレス化が進むと、一部の観光客にとって利用しにくい環境となる恐れがある。また、プライバシーの懸念も無視できない。キャッシュレス決済では購買履歴や個人情報記録されるため、そのデータが悪用されるリスクや、プライバシー侵害の可能性を不安視する観光客がいる。最後に、観光地の特色が失われる可能性についても考えるべきである。ローカル市場や伝統的な屋台など、現金取引が主流であった文化的な場所がキャッシュレス化することで、観光客が感じる独自性や地域の魅力が薄れる恐れがある。このような変化は、観光地の魅力そのものを損ねる可能性があり、導入の進め方には注意が必要だ。以上のように、キャッシュレス決済には多くのメリットがある一方で、観光地や事業者の対応次第ではデメリットが顕著化する可能性もある。特に観光業界では、多様な顧客層や地域の特性に応じた柔軟な対応が求められる。現金とキャッシュレス決済の併用や段階的な導入が、双方の利点を活かしつつ課題を最小限に抑える鍵となるだろう。キャッシュレス決済が観光業界に与える影響を考えると、その導入には慎重な検討が必要である。しかし、利便性や安全性を考慮すると、積極的に導入を進める価値もあるように思われる。ここで皆さんに聞きたい。キャッシュレス決済の普及を進めることで観光地の未来はより良くなるのか、それとも従来の現金文化を守るべきなのか？あなたならどう選択するだろうか。</p>	<p>キャッシュレス決済は、観光地としての利便性向上や新たな価値創出の可能性を広げる一方で、ご例示のような課題があるものと認識しております。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
207	重点プロジェクト5	<p>請願趣旨 現在、全国的にキャッシュレス決済の普及が進む中で、多くの市町村が観光振興や地域経済の活性化を目的としたキャッシュレス化の戦略を掲げています。しかしながら、その戦略には具体的な施策や導入例が欠如しており、市民や事業者にとってその効果や影響を判断する材料が不足しています。その結果、市民生活や地域経済に混乱や不公平感をもたらすリスクが高まっている状況です。本請願では、仙台市が示すキャッシュレス決済に関する戦略の具体性を欠く現状を批判し、具体的な施策や対象事例を示すよう求めます。</p> <p>請願理由 1.具体例の欠如による市民理解の欠落 市町村が策定する政策や戦略は、市民や事業者がその内容を理解し、納得した上で協力し合うことによって初めて成功に繋がります。しかし、仙台市が掲げるキャッシュレス決済の戦略には、「どのような場面で」「どの事業者や業界に向けて」「どの程度の規模で」導入を進めるのかといった具体例が全く示されていません。例えば、市内の観光地や商業施設、公共サービス窓口でのキャッシュレス化を想定しているのか、それとも市全体で一律のキャッシュレス化を目指しているのか、全く不明瞭な状態です。 このような抽象的な戦略では、市民や事業者がそれをどのように受け止めるべきか判断することができず、誤解や不安を招くばかりです。具体例がないため、市民からは「一部の事業者だけが恩恵を受けるのではないか」「中小規模の商店が取り残されるのではないか」という声も上がっており、キャッシュレス化の推進が地域社会の分断を招く可能性があります。</p> <p>2.キャッシュレス導入に伴うコスト負担が示されていない キャッシュレス決済の導入には、専用端末の購入や運用コスト、手数料などが発生します。特に中小規模の事業者にとっては、これらのコストが経営の大きな負担となる可能性があります。仙台市の戦略にはその負担をどのように軽減するのかといった具体策が全く示されていません。例えば、他の自治体では導入費用の補助金制度を設けたり、キャッシュレス決済事業者と連携して手数料を軽減する取り組みを行っているケースもあります。こうした事例と比較しても、仙台市の戦略には明確な支援策が含まれておらず、単に「キャッシュレス化を進めるべきだ」との主張に終始している印象を受けます。このような状況では、市内の事業者が戦略に賛同することは難しく、むしろ反発を招く恐れがあります。</p> <p>3.高齢者やデジタル弱者への配慮が不十分 キャッシュレス化の推進には、高齢者やデジタル機器の利用に不慣れな市民に対する十分な配慮が必要です。しかし、仙台市の戦略では、高齢者がキャッシュレス決済をどのように利用できるようなのか、具体的な支援策やフォロー体制が明記されていません。例えば、他自治体では高齢者向けのキャッシュレス講習会を開催したり、分かりやすい利用マニュアルを配布する取り組みを行っていますが、仙台市にはこうした取り組みが見られません。このまま具体策が示されない状態でキャッシュレス化を推進した場合、高齢者が現金派として取り残される事態が懸念されます。また、地域社会の分断を防ぐためにも、高齢者を含めた全市民が公平に利用できる環境を整備する必要があります。</p> <p>4.プライバシー保護の観点が不足している キャッシュレス決済の利用に際しては、利用者の購買履歴や個人情報が記録されるため、これらのデータが適切に管理される必要があります。しかし、仙台市の戦略にはプライバシー保護の具体的な施策が記載されていません。観光地や地域店舗でのキャッシュレス化が進む中で、利用者が安心して利用できる環境を整えることは重要です。例えば、他自治体では決済データの取り扱いについて市がガイドラインを策定し、事業者がそれに従う形で運用するケースも見られますが、仙台市にはこうした取り組みが欠けています。プライバシー保護が不十分な状態でキャッシュレス化を進めることは、利用者の不信任を招き、結果的に普及を妨げる要因となります。</p> <p>5.観光地の特色を損なう可能性がある キャッシュレス化が進むことで、地域特有の文化や伝統が失われる可能性もあります。例えば、現金取引が主流であった地元の市場や屋台がキャッシュレス化することで、観光客が感じる「地元らしさ」や「ノスタルジー」が薄れる恐れがあります。仙台市が戦略を掲げるにあたり、こうした地域文化への影響をどのように考慮しているのかが明確に示されていません。</p> <p>市町村が地域文化を守りながらキャッシュレス化を進めるためには、観光客の利便性と地元の特色の両立を図る必要があります。そのためには、具体的な事例を挙げながら、地域の声を反映した施策を打ち出すべきです。</p> <p>請願事項 1.仙台市が示すキャッシュレス決済に関する戦略について、具体的な施策や導入事例を明記してください。 2.中小事業者や高齢者を含むデジタル弱者への支援策を検討し、公表してください。 3.プライバシー保護に関する具体的なガイドラインを策定し、市民に周知してください。 4.地域文化への影響を考慮した上で、観光地や商業施設へのキャッシュレス化の進め方を見直してください。 以上の事項を早急に実施するよう求めます。ご検討のほど、よろしくお願ひ申し上げます。 署名者一同</p>	<p>キャッシュレス決済は、経済産業省が策定した「キャッシュレス・ビジョン」に基づき、全国的にも普及が進んでおり、本市においても「仙台市DX化推進計画2024-2026」を策定し、証明書発行窓口におけるキャッシュレス決済を導入しております。 キャッシュレス決済は、観光地としての利便性向上や新たな価値創出の可能性を広げる一方で、ご例示のような課題があるものと認識しており、具体の取り組みを進める際には、関係局・関係機関等ともその点について留意してまいります。また、プライバシーの保護については、外部の専門家の知見も取り入れながら、情報セキュリティの強化に努めてまいります。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
208	重点プロジェクト5	地域DMOの意味を教えてください。 専門用語ばかり使って、市民に意見を求める姿勢に甚だ疑問を感じる。 意見させる気がないのでは。	DMOとは、「Destination Management/Marketing Organization」の略で、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら地域全体の観光マネジメントを担う組織です。本市では、(公財)仙台観光国際協会が令和6年9月に登録DMOに登録されています。用語の定義を説明する資料を作成することで、文脈や内容がより分かりやすく伝わるよう努めてまいります。
209	重点プロジェクト5	持続可能な観光地域の形成がもたらす地球環境への悪影響について議論する際には、「sustainable tourism」という概念自体が、時に「矛盾」を内包していることを理解する必要がある。観光の持続可能性を追求する過程で、いかにして地域経済を支えるかつ環境負荷を抑えるかが課題とされているが、実際には「観光産業を維持するために必要な開発行為」そのものが環境に与える影響を完全に排除することは不可能である。 例えば、「エコツーリズム(ecotourism)」を推進するためには、観光客が訪れる自然地域を整備する必要がある。この整備にはトレイル(hiking trails)の建設、ビジターセンターの設置、宿泊施設の拡充などが含まれる。これらの活動は一見、自然環境を保護するために必要な措置のように見えるが、実際には生態系に影響を及ぼす。たとえば、トレイルの整備に伴う森林伐採、建設中の重機による土壌へのダメージ、さらに観光客の増加に伴う踏み荒らしやごみ問題などが挙げられる。これらの影響は、結果的に自然環境を「守る」ための行為が「破壊」を引き起こすというパラドックスを生む。 また、観光客が利用する交通手段も地球環境に大きな負荷を与える要因である。特に航空機やクルーズ船の使用は、CO2排出量の増加につながる。観光業が地域経済の柱となっている場合、持続可能性を確保するために観光客を制限するのは現実的ではない。その結果、観光地が求める「低環境負荷」なイメージとは裏腹に、温室効果ガスの排出が拡大し続けるという矛盾に直面する。 さらに、観光地が持続可能性を標榜しつつ、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼすケースもある。たとえば、観光需要の高まりに応じて地域内でのインフラ開発が進むと、その影響で生活用水の供給が圧迫される場合がある。 水資源が不足する地域において、大型リゾートや観光客用施設が地元住民よりも優先される状況は、環境的・社会的な不均衡を引き起こす。これは「environmental justice(環境正義)」の観点から問題視されるべきである。 これらの環境悪影響を解決するためには、観光地自体が「犠牲」を払う覚悟が求められる。その一つは、観光客数の制限である。観光収入の増加を追求するのではなく、「適正な収容能力(carrying capacity)」を設定し、これを超えない範囲で観光地の利用を制御する必要がある。この施策には当然、観光収入の減少という犠牲が伴う。特に観光産業に依存する地域では、収入減少による経済的打撃が懸念されるが、長期的には観光資源の保全が地域の持続可能性を高めることにつながる。 さらに、観光地へのアクセス手段を制限することも考えられる。たとえば、自家用車の乗り入れを禁止し、代わりに公共交通機関や環境に優しいモビリティ(electric shuttlesなど)のみを利用可能にする。この施策は観光客に不便を強いるだけでなく、地元住民の交通手段にも影響を及ぼすため、抵抗が予想される。しかし、排出ガスの削減や地域内の交通渋滞緩和といった効果が期待できるため、こうした犠牲を受け入れることが不可欠である。 また、観光業を支えるエネルギー供給を再生可能エネルギーに転換することも重要である。これには初期投資やインフラ整備が必要であり、地域の財政に負担がかかる。一方で、長期的には観光地の環境負荷を大幅に軽減し、「低炭素観光地(low-carbon tourism destination)」としてのブランド価値を高めることが可能となる。 さらに、観光客自身にも犠牲を求めるべきだろう。具体的には、観光地でのプラスチックごみの削減やリサイクルへの協力を促すため、環境保全に対する追加料金(ecosurcharge)を導入する。このような措置は観光客の財布に負担を与えるが、観光客自身がその行動の影響を意識する契機となり得る。 最終的には、観光地、地域住民、観光客の三者がそれぞれ何らかの犠牲を分かち合い、妥協点を見つけることが求められる。「sustainable tourism」の実現は、必ずしもすべての関係者にとって完全に満足のいく結果をもたらすわけではないが、地球環境の持続可能性を担保するためには不可欠である。このプロセスを通じて得られる教訓は、観光に限らず、他の経済活動にも適用可能であり、地球全体の環境負荷を削減するための指針となるはずである。	「持続可能な観光地域の形成」がもたらす矛盾や課題について、重要な視点として受け止めており、いただいたご意見を参考に、環境負荷の軽減と地域の観光価値の維持・向上の両面から、持続可能な観光の在り方を検討してまいります。
210	重点プロジェクト5	バス路線を路面電車(LRT)化することで観光しやすい・住みやすい魅力的な街にする。	ご意見として承ります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
211	重点プロジェクト5	<p>皆様、お疲れ様です。この度、私からは観光危機管理マニュアルに関しまして、いくつかの重要な点についてお伺いさせていただきます。まず、観光危機管理マニュアルの現状について確認させていただきます。このマニュアルは、我が国の観光業界が直面するさまざまな危機に対して、どのように対応するべきかを明確に示したものと認識しております。しかし、具体的な危機シナリオや対応策について、現状どのような内容が含まれているのか、詳しく教えていただけますでしょうか。次に、観光危機管理マニュアルの実効性についてお聞きしたいと思います。このマニュアルは、実際に活用される際に、どの程度の効果が期待できるのでしょうか。また、過去にこのマニュアルが適用された具体的な事例があれば、それについてもご教示いただければと思います。さらに、観光危機管理マニュアルの見直しについても伺います。このマニュアルは、定期的に更新され、最新の情報やリスクを反映するようにしていると理解しております。現在、どのような基準やプロセスで見直しが行われているのか、具体的にお聞かせください。最後に、観光危機管理マニュアルの普及と教育についてもお伺いします。このマニュアルが効果的に機能するためには、観光業界の関係者全員がその内容を理解し、実践できるようになることが必要不可欠です。そのために、どのような取り組みがなされているのか、また、今後どのような方策を講じる予定であるのか、詳細に説明していただきたいと存じます。</p> <p>以上の点について、関係者の皆様からのご回答をお待ちしております。私たちが共に協力し、観光業界の安全と安心を確保するためには、観光危機管理マニュアルの充実と実効性が非常に重要であると考えております。何卒、よろしくお願い申し上げます。</p>	<p>「仙台市観光危機管理マニュアル」は、災害の発生により旅行者等や観光事業者等に大きな影響が生じた場合に、本市が対応する事項について整理したものです。危機発生時、旅行者等には土地勘や災害への備えがないため、早期の移動・帰国ができるよう支援してまいります。現場で対応する事業者等が適切に対応できるよう、関係機関と連携して必要な情報を迅速に発信します。外国人旅行者に対しては、必要に応じて、各国大使館等とも連携しながら帰国に向けた情報提供や国際空港までの移動手段の手配も想定します。</p> <p>本マニュアルは2024年10月に作成されました。実際の災害ではまだ活用されていませんが、同月に実施した帰宅困難者対応訓練において、外国人旅行者等への対応の有効性を確認したところです。</p> <p>こうした訓練の結果や観光産業の状況の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行っていく予定です。</p> <p>本マニュアルでは、旅行者等の安全・安心とともに、観光関連事業者の事業継続に向けた早期の復興を支援することとしております。事業者向け防災ワークショップや訓練等を通じて周知しており、引き続き、機会を捉えて普及・広報に努め、事業者がそれぞれの実態に即した災害対策を実施できるような支援も検討し、本市の観光分野における災害対応能力向上に努めてまいります。</p>
212	重点プロジェクト5	<p>文化と観光を一緒にすることにはいくつかの批判があります。まず、文化の商業化という問題があります。観光客に魅力的に映るように、伝統的な文化や風習が過度に演出されたり、簡略化されたりすることで、文化の本来の意義や価値が失われる恐れがあります。このような観光資源としての利用は、地域のアイデンティティの喪失や文化の希薄化を招くことがあります。</p> <p>次に、地元住民と観光客の間に摩擦が生じる可能性があります。観光地化が進むことで、観光客が増加し、地元の生活環境や日常生活に影響を与えることがあります。騒音や混雑、ゴミの増加などが問題となり、地元住民の生活の質が低下することがあります。また、観光客が地元の文化や習慣を理解せずに行動することで、誤解や不快感が生じることもあります。</p> <p>さらに、観光による経済依存の問題も指摘されています。観光業が地域経済の主要な収入源となると、観光客の数が消費動向に経済が大きく左右されることとなります。特に、自然災害や国際的な経済危機、パンデミックなどによる観光客の減少が大きなリスクとなり、地域経済が不安定になる可能性があります。これらの批判に対する対策として、まず地域文化の保護と適切な活用が重要です。文化資源を観光に利用する際には、地域の歴史や伝統を尊重し、その本来の姿を保つよう努める必要があります。観光客に対しても、地域文化や習慣についての教育を行い、理解を深めてもらう取り組みが求められます。</p> <p>また、地元住民の生活環境を守るための対策も重要です。観光客の増加による影響を最小限に抑えるために、インフラの整備や観光地の管理が必要です。例えば、観光客専用の施設やルートを設けることで、地元住民の生活圏との分離を図ることができます。</p> <p>最後に、経済の多様化を図ることも重要です。観光業だけに依存するのではなく、地域の他の産業や新しいビジネスチャンスを活用して、経済基盤を強化することが求められます。これにより、観光業のリスクを分散し、地域経済の持続可能性を高めることができます。</p> <p>文化と観光を融合させることは可能ですが、その際には地域文化の保護や地元住民の生活環境の維持、経済の多様化といった側面を考慮し、バランスの取れた政策が求められます。あなたはこの問題についてどのようにお考えですか？</p>	<p>文化と観光の融合に関しての課題について、文化の商業化や地域住民との関係性、観光業への経済依存といった課題に十分留意しながら、持続可能な観光地域づくりを進めて行く必要があると考えております。また、日本の各観光地では、住民の交通や環境などに影響を及ぼすオーバーツーリズムが発生しております。他都市の事例などを踏まえ、適切な対策を検討してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
213	重点プロジェクト5	<p>観光地のトイレに男女兼用トイレを新設してほしいという要望について、私はその必要性を多角的に検討し、最終的には宿泊税を導入せずに既存の財源で実現すべきである理由を述べたいと思います。この提案は、観光地の利用者の利便性を向上させるため、また社会的なニーズに応えるために不可欠であると考えています。具体的には、観光地におけるトイレの整備状況の現状と問題点を分析し、それに対する改善策として男女兼用トイレを新設する意義を明確にし、最終的にその実現のために既存の財源を活用する必要性について述べます。観光地の魅力の一つは、訪れる人々が快適に過ごせる環境を提供することです。観光地には、自然の美しさや歴史的な価値、文化的な特性を持つ場所が多く存在しますが、そこを訪れる観光客が直面する問題の一つが、公共施設、特にトイレの整備状況です。トイレは、観光客が移動中に必ず利用する基本的な施設であり、その利用状況が快適でなければ、観光地自体の印象も悪化してしまう可能性があります。現在、観光地に設置されているトイレの多くは、男女別に分かれたものが一般的です。これには一定の利便性があるものの、近年の多様化する社会において、男女別に分けるといった仕組みが必ずしも最適とは言えない場合もあります。例えば、女性専用のトイレに長蛇の列ができる一方、男性用のトイレが空いているというような状況はよく見受けられます。こうした状況は、観光地のトイレにおける効率性や利便性を低下させ、観光客のストレスを増大させる原因となります。さらに、近年ではジェンダーに対する認識が大きく変わり、男性と女性だけでなく、LGBTQ+の人々を含むすべての人々が平等に利用できる施設が求められるようになってきました。従来の男女別トイレでは、このような多様なニーズに対応することが難しい場合があり、特に観光地においては、すべての訪問者が快適に過ごすことができる環境を整備することが不可欠です。そのため、男女兼用トイレの新設は、観光地におけるトイレの利用者の多様化に対応するための重要な一歩となります。</p> <p>男女兼用トイレを新設することによって、以下のような利点が期待できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. トイレの効率的な使用: 男女別トイレが分かれている場合、ピーク時に特定のトイレが混雑し、他のトイレは空いているという非効率的な状況が発生しやすくなります。しかし、男女兼用トイレを導入することで、男女問わず利用できるため、混雑を緩和し、トイレの使用効率を向上させることができます。</li> <li>2. 多様なニーズへの対応: 男女別トイレでは、特にジェンダーに関する多様な認識に対応することが難しい場合があります。例えば、トランスジェンダーの人々や、性別に関係なく共用で利用したいという人々にとっては、男女別のトイレでは不便を感じることもあるため、男女兼用トイレの設置はそのニーズに応える重要な一歩となります。</li> <li>3. 観光地のイメージ向上: 観光地としての魅力を高めるためには、来訪者に配慮した施設を提供することが求められます。男女兼用トイレの導入は、観光地が現代の多様性や共生の価値観に対応していることを示す一つのシンボルとなり、観光客の満足度を向上させることができます。また、観光地がこうした社会的な変化に対応している姿勢を示すことが、地域のブランディングにも寄与する可能性があります。</li> </ol> <p>次に、これらの男女兼用トイレを新設するための財源として、宿泊税を導入せずに既存の財源を活用する方法について考察します。宿泊税を導入することは、観光地の財政に対して一定の効果をもたらすことが期待されますが、その一方で観光客に対する負担が増加することを意味します。特に観光業が重要な地域においては、宿泊税を導入することで観光客の数が減少する懸念もあります。観光業の振興を目指す自治体としては、観光客の数を増加させるために、税の導入に頼らず、既存の財源を有効に活用する方法を模索することが重要です。</p> <p>例えば、観光地の管理運営費やインフラ整備費の一部を見直し、その中から男女兼用トイレの新設に必要な予算を確保することが考えられます。公共施設の維持管理においては、どのような施設にどれだけの予算を配分するかが重要なポイントとなりますが、観光地においては、観光客の快適な滞在をサポートするためにトイレ施設の整備は優先事項となるべきです。観光地に訪れる人々の数が多い地域では、トイレの整備は直接的に観光客の満足度に影響を与えるため、これを改善するための投資は非常に重要です。</p> <p>また、観光地における民間の協力を得る方法もあります。地域の観光業者や商業施設と連携して、男女兼用トイレの設置を進めることができれば、費用負担の一部を民間で分担することが可能です。自治体単独での財源だけでは賄えない場合でも、民間との協力によって、より多くの資源を投入することができます。さらに、観光地の魅力を高めるために、トイレ以外の施設整備にも投資を行い、観光資源全体の質を向上させることができます。観光地における施設の整備は、観光客の利便性を高めるだけでなく、地域全体の経済にも良い影響を与えることが期待されます。男女兼用トイレの新設により、観光地が多様性に対応した施設を整備していることがアピールされ、観光客の満足度向上につながります。これにより、観光業がさらに活性化し、地域経済の成長を促進することができます。以上のように、観光地に男女兼用トイレを新設することは、訪れる人々の利便性を向上させ、地域の社会的・文化的な価値を反映した施設整備となります。宿泊税の導入に頼らず、既存の財源や民間との協力を活用して、この施策を実現することが、観光地の魅力を高めるための最良の方法であると考えます。</p>	<p>観光地におけるトイレなどの環境整備は、観光地としての魅力の向上や市民の皆様の利便性の向上にもつながるものと考えており、快適な環境を提供することで旅行者等の満足度を高め、訪れた方に「また来たい」と思ってもらえることは、本市の観光振興の鍵となると考えております。いただいたご意見を参考にさせていただき、だれもが快適に観光を楽しめる環境づくりに努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
214	重点プロジェクト5	<p>観光地の和式トイレを洋式トイレに変える要望について、以下のように提案します。</p> <p>現在、特に公共施設や観光地などで見受けられる和式トイレに関して、多くの人々から利便性や快適さに対する不満が寄せられています。和式トイレは、伝統的な日本のトイレの形式として長い歴史を持っていますが、現代社会においては、特に観光客や外国人、また高齢者や体調に不安のある方々にとって、使用が困難である場合が多いのが現状です。これらの理由から、和式トイレを洋式トイレに変更することは、利用者の快適性を高め、より多くの人々に優しいトイレ環境を提供するために必要不可欠だと考えます。</p> <p>和式トイレの主な課題として、まず挙げられるのはその使いにくさです。特に、身体的な負担が大きいと感じる人々には、和式トイレは非常に難易度が高いとされています。高齢者や妊婦の方々、腰痛や膝に問題を抱える人々にとって、和式トイレでの用足しは体に大きな負担をかけ、長時間の使用が困難になることもあります。また、和式トイレは、特に観光地や公共施設で外国人観光客にとっては使い方がわからず戸惑う原因にもなります。言葉の壁だけでなく、文化の違いも影響し、外国人にとっては和式トイレの使用が非常に不便であると感じることが少なくありません。</p> <p>さらに、近年の社会的な背景として、より多くの施設がバリアフリー対応を進めていることが挙げられます。障がい者や体力に自信がない方々に配慮した施設整備が進んでいる中、和式トイレはその設置自体がバリアフリーとしては適していないという問題もあります。洋式トイレは、座って用を足す形式であり、体への負担が少なく、また補助具を使うこともできるため、バリアフリーの観点からも重要な役割を果たしています。</p> <p>和式トイレを洋式トイレに変更することには、次のような利点が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の快適性向上: 洋式トイレは座って使用できるため、体への負担が少なく、膝や腰に問題がある人々にとっては、利用しやすいという大きな利点があります。また、洋式トイレには、個別の便座があり、衛生面でも安心です。</li> <li>2. 外国人観光客の利便性: 和式トイレは、日本独特のものであり、外国から訪れる観光客には使い方がわからないことが多いです。洋式トイレに変更することで、観光地や公共施設を訪れるすべての人々が利用しやすくなり、観光地としての魅力も高まります。</li> <li>3. バリアフリー対応の充実: 高齢者や障がい者の利用に配慮した施設が求められている中で、洋式トイレの導入はバリアフリーの観点からも非常に重要です。特に、介助を必要とする人々にとって、洋式トイレは利用しやすく、快適に用を足すことができます。</li> <li>4. メンテナンスの簡易化: 洋式トイレは、和式トイレよりも清掃が容易であり、トイレの衛生状態を保ちやすいという点でも有利です。和式トイレは、特に清掃が難しく、使用後に清潔を保つための手間がかかりますが、洋式トイレはその設計上、掃除がしやすいとされています。</li> </ol> <p>これらの理由から、和式トイレを洋式トイレに変更することは、多くの利用者にとって非常に有益であると考えます。特に、観光地や公共施設では、利用者の快適性を最優先に考えた施設整備が求められており、洋式トイレへの切り替えはその重要な一歩となるでしょう。</p> <p>また、和式トイレを洋式トイレに変更するためには、一定の予算が必要です。しかし、この予算を捻出するためには、観光業の発展や地域の活性化を考慮した上で、既存の財源や新たな資金調達方法を検討することが重要です。観光地や公共施設の魅力を高めるためには、施設の整備に投資を行い、来訪者にとって快適で利用しやすい環境を提供することが不可欠です。</p> <p>和式トイレから洋式トイレへの切り替えは、単なる設備の変更ではなく、地域社会全体の利便性向上に繋がる重要なステップです。これは、利用者全体の満足度を高め、地域の魅力を一層引き出すための不可欠な改善策であると考えます。</p>	<p>観光地におけるトイレなどの環境整備は、観光地としての魅力の向上や市民の皆様の利便性の向上にもつながるものと考えており、快適な環境を提供することで旅行者等の満足度を高め、訪れた方に「また来たい」と思ってもらえることは、本市の観光振興の鍵となると考えております。いただいたご意見を参考にさせていただき、だれもが快適に観光を楽しめる環境づくりに努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
215	重点プロジェクト5	<p>観光地におけるトイレを観光の中心にする施策について、ここではいくつかの提案を行います。観光地でのトイレは、単なる用を足す場所ではなく、観光の体験の一部として位置づけることが重要です。トイレの質や清潔さはもちろん、デザインや機能性を地域に合わせて工夫することで、観光客にとって快適で印象深い体験を提供することができます。</p> <p>観光地におけるトイレは、まずその場所が持つ地域の特色を反映することで、観光客に地域の魅力をより深く感じてもらえる場所となります。例えば、トイレのデザインをその地域の文化や自然にちなんだものにするなど、観光客はトイレを利用するたびに地域の魅力に触れることができます。このようなデザインの工夫によって、観光地の一部としてのトイレが重要な役割を果たすことになります。</p> <p>また、トイレの質を向上させるためには清潔さを維持することが最も重要です。定期的な清掃とメンテナンスを行うことで、観光客が気持ちよく利用できる環境を提供することができます。観光地では多くの人々が訪れるため、混雑が予想される時間帯にも対応できるように、トイレの数や清掃の頻度を調整する必要があります。快適で清潔なトイレを提供することが、観光客の満足度を高め、その地域を訪れたことの良い印象を残すことにつながります。</p> <p>トイレの設備を快適にすることも、観光地の魅力を高めるために大切です。温水洗浄便座やエアコン、音楽など、快適な設備を整えることで、観光客が長時間観光地を歩き回った後にリラックスできる場所を提供できます。これにより、観光客が滞在時間をより快適に過ごせるようになり、その結果として観光地全体での滞在時間が増える可能性もあります。</p> <p>さらに、観光地でのトイレはバリアフリー対応を強化することが求められます。高齢者や障がいを持つ観光客に配慮したトイレを設置することで、誰でも安心して利用できる環境を整えることができます。広めのスペースや手すりの設置、車椅子対応のトイレなどがその一例です。これにより、より多くの人々が観光地を楽しめるようになり、地域全体の魅力が向上します。</p> <p>また、観光地においては、多機能トイレの導入も効果的です。子連れの観光客に配慮したおむつ交換台や授乳室を設置することで、家族連れの観光客が安心して観光を楽しむことができます。観光地を訪れる人々が誰でも快適に過ごせるようにすることで、地域全体の観光客満足度が向上します。</p> <p>トイレの評価システムを導入することで、観光客が自分の利用したトイレについて簡単に評価できる仕組みを作ることができます。これにより、観光地のトイレの質が向上し、より多くの観光客に満足してもらえるようになるでしょう。清潔さや設備、アクセスの良さなどに対する評価を集め、高評価を得たトイレは表彰することで、他の施設もその水準を目指すようになります。</p> <p>トイレを地域の特産品や観光地の魅力と結びつけることも有効です。トイレの近くに地域の特産品や工芸品を販売するスペースを設けることで、観光客はトイレを利用しながら地域の魅力を感じることができます。また、トイレ内に観光地の情報を提供する掲示板やQRコードを設置することで、観光地の他の名所やイベント情報を得ることができ、観光をさらに楽しむことができます。</p> <p>環境に配慮したエコトイレを導入することも、観光地の魅力を高めるためには欠かせません。節水型や省エネルギー型のトイレを設置することで、環境への負担を減らすと同時に、観光客に対してその地域の環境意識の高さをアピールすることができます。エコ意識の高い観光客には特に魅力的な施設となり、その結果として観光地のブランド力を強化することができます。</p> <p>観光地におけるトイレを観光の中心に据える施策は、地域の魅力を高め、観光業の発展に貢献することができます。トイレを単なる設備としてではなく、地域の文化や特色を反映させ、快適で便利な場所として整備することによって、観光客にとって印象に残る体験を提供できるようになります。このような施策を導入することで、観光地全体がより魅力的になり、観光業の活性化にもつながることでしょう。</p>	<p>観光地におけるトイレなどの環境整備は、観光地としての魅力の向上や市民の皆様の利便性の向上にもつながるものと考えており、快適な環境を提供することで旅行者等の満足度を高め、訪れた方に「また来たい」と思っていたくことは、本市の観光振興の鍵となると考えております。いただいたご意見を参考にさせていただき、だれもが快適に観光を楽しめる環境づくりに努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
216	重点プロジェクト5	<p>広瀬通の渋滞を解消し、観光客が快適に訪れるための具体的な対策をいくつか提案します。まず、観光客専用のシャトルバスを運行することです。主要な観光スポットを巡るシャトルバスを運行することで、観光客が個別に車を利用する必要を減らし、道路上の車両数を減少させることができます。シャトルバスの運行ルートを広瀬通を避けるように設計することで、渋滞の集中を防ぐことも可能です。次に、パークアンドライドの導入です。市外の大規模駐車場に車を止め、公共交通機関で市内にアクセスする仕組みを整えます。駐車場からは観光スポットへの直行バスを運行し、観光客が広瀬通を利用しなくても観光地にアクセスできるようにします。また、自転車シェアリングを推進することも有効です。観光客向けに自転車シェアリングサービスを拡充し、広瀬通周辺での自転車利用を促進します。自転車専用レーンを整備することで、自転車の利用を安全かつ快適に行えるようにし、自動車の利用を減らすことができます。さらに、歩行者天国の実施も検討できます。週末や祝日に広瀬通を歩行者天国にすることで、観光客が車を利用せずに歩いて観光を楽しむことができます。歩行者専用のイベントやマーケットを開催し、観光客にとって魅力的なエリアを作り出すことができます。リアルタイム交通情報の提供も重要です。観光客にリアルタイムで交通情報を提供し、渋滞を避けたルート案内するアプリやサービスを導入します。これにより、観光客が広瀬通を避けるように誘導し、渋滞を緩和する効果が期待できます。これらの対策を組み合わせることで、広瀬通の渋滞を解消し、観光客が快適に訪れることができる環境を整えることができます。観光客と地元住民が共に快適に過ごせる街を目指して、具体的な施策を実施することが重要です。</p>	<p>来訪者が快適に訪れることができる環境を整備することは、持続的な観光地域づくりに関して重要だと認識しております。観光客専用シャトルバスの運行や、パークアンドライドの推進、歩行者天国の実施、リアルタイム交通情報の提供といったご意見は、今後の観光施策の推進にあたり参考にさせていただきます。</p>
217	重点プロジェクト5	<p>これらの取組事例においては仙台市における時間・土地・環境を最大限活用し、魅力を伝えていくことが可能となるのと同時に、それらの事例がうまくいくことによってさらに仙台市の価値上昇や、様々な国籍・企業などの参入も見込めるのではないかと考えた。また、旅行そのものが楽しめるまちづくりにおいて移動を楽しむようにするのはもちろんのこと、それを目当てに観光する人の獲得や、仙台市における少々不便な場所をも観光しやすくすることにより、観光客の増加だけではなく、地元に住む人々においても魅力の再発見をすることが可能となり、それを人伝いに広めていくことも可能であるのではないかと考えることができた。</p>	<p>市民が地域に誇りや愛着を持ち、来訪者へその魅力を伝えたいとなるような環境を醸成することは、本市が選ばれる観光都市となるために重要な視点であると考えております。観光客へ訴求するためには、まず市民の皆様が体験し、楽しさや感動を感じることで、口コミやSNSでの発信が促され、さらなる誘客につながります。いただいたご意見は、今後の観光施策の参考にさせていただきます。</p>
218	重点プロジェクト5	<p>仙台市役所へ、観光業界からの要望をいくつか述べさせていただきます。まず、宿泊税の導入については慎重な検討をお願いいたします。宿泊税が観光客や宿泊業者に与える経済的な負担を考慮し、他の資金調達方法や支援策を模索していただければと思います。観光業が持続的に発展できるよう、市民や業界の声を反映させた透明性のあるプロセスが必要です。次に、観光インフラの整備を強化してください。観光地へのアクセスを向上させるため、公共交通機関の利便性を高めるとともに、多言語対応の案内板や観光マップの設置を進めていただきたいです。外国人観光客が増える中で、安心して仙台市を楽しめる環境を整えることが重要です。また、観光プロモーション活動の拡充もお願いいたします。デジタルプラットフォームやSNSを活用して仙台市の魅力を国内外に広く発信し、観光客を呼び込むためのキャンペーンを実施していただければと思います。特に、観光客が参加できるイベントや体験プログラムを増やし、仙台市ならではの魅力をアピールしてください。観光教育と人材育成にも力を入れていただきたいです。観光業に従事するスタッフのスキル向上や外国語教育を推進し、観光客に対するサービスの質を高めることが求められます。地元の大学や専門学校と連携して観光教育プログラムを提供し、専門知識を持つ人材を育成することで、観光業の競争力を強化できます。最後に、地域住民との連携を強化してください。観光業の発展には地域住民の理解と協力が不可欠です。観光客と地域住民が交流する機会を増やし、地域全体が一体となって観光業を支える体制を整えていただきたいです。地元の祭りやイベントに観光客を巻き込み、地域の魅力を体験してもらうことで、観光業の活性化につなげることができます。以上の要望を踏まえ、仙台市役所には観光業界の発展と地域経済の活性化に向けた取り組みを進めていただきたいと強く願っています。</p>	<p>一般財源を活用した既存の観光振興策に加え、新たな財源として宿泊税の活用や国補助金等の積極的な獲得を通して、観光を基軸とした地域経済の活性化を推進していく必要があると考えております。宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、その用途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。また、本市の観光業が持続的に発展していくためには、観光インフラの強化や専門人材の育成強化などといった環境の整備は重要な視点であると考えており、重点プロジェクト5「持続可能な観光地域の形成」に位置付けております。プロモーション活動の拡充や地域住民との連携強化など、観光施策の推進にあたり参考にさせていただきます。</p>
219	宿泊税の活用	<p>これまでの観光戦略は一般財源や国からの交付金などで行ってきたので、宿泊税の財源は、これまでの戦略強化の為に使うのではなく、新たな活動等に活用してほしい。秋保・作並温泉は地域の貴重な重要資源だと思うので、宿泊事業者が納得できるような活用方を期待します。</p>	<p>宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。また、秋保温泉・作並温泉エリアの面的な魅力向上に向けて、関係事業者と意見交換を行いながら、自然や街並みなどの風情を楽しむことができるハード・ソフトの整備を行うとともに、二次交通の充実を図ることで、エリア一体の賑わい創出を目指してまいります。</p>
220	宿泊税の活用	<p>宿泊税の活用について、具体的な使途が重要。</p>	<p>宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。例えば、仙台ゆかりの漫画・アニメの活用や、宿泊につながるナイトイベントの長期開催・常設化、観光の基盤である宿泊事業者支援など、毎年度の予算編成において具体的な活用事業をお示するとともに、使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
221	宿泊税の活用	宿泊税に関しては目的を決めて活用して欲しい。例えば市内WiFiの設置などは市民にも発揚範囲が広まると思う。宿泊税に関しては宿泊する側には「楽しんだ感」があれば何ともないと思う。市場などのベンチの設置や秋には小金色になる楓の並木道、桜通りを作ったりする工夫も必要だと思います。	宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の、3つの視点に基づいて活用していくこととしております。観光客の快適性、利便性の向上につながる環境整備も重要と考えており、いただいたご意見も踏まえつつ、具体的な施策の検討を進めてまいります。
222	宿泊税の活用	一般財源や、国補助金があるので、宿泊税は不要ではないか。 なぜ宿泊税が必要か説明がされていない。 何に使うのかや、金額も不明。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。その使途や効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、透明性のある制度の運用に努めてまいります。
223	宿泊税の活用	皆さん、本日は宿泊税導入に反対する立場からお話しさせていただきます。私は仙台市で観光業を営む事業者として、宿泊税が地域経済や観光業に及ぼす影響について深い懸念を抱いています。この制度が観光客の減少を招き、結果として仙台市全体の活力を奪う可能性があることを考えると、その導入には断固として反対せざるを得ません。以下に、その理由を述べさせていただきます。 まず、宿泊税の導入は観光客の負担を増加させることに直結します。観光客は旅費や食費、お土産などさまざまな費用を負担しており、そこにさらに税金が加わることで旅行をためらう人が増えるのは明らかです。仙台市は東北地方の玄関口であり、多くの観光客が訪れる重要な都市ですが、他の地域との競争も激しい状況にあります。そのような中、宿泊税を導入すれば、仙台市が「負担の多い観光地」として敬遠されるリスクが高まります。特に、観光予算に敏感な家族旅行や学生旅行の層にとって、少しの負担増が旅行先を変更するきっかけになるかもしれません。 また、観光客の減少は観光産業全体に波及し、負の連鎖を引き起こします。宿泊業者だけでなく、仙台市の飲食店や土産物店、交通事業者、さらには地元農産物を供給する農家に至るまで、観光客による消費に依存する業界は数多く存在します。仙台市に宿泊する観光客が減るといことは、これらの業界に直接的な打撃を与えることを意味します。観光業は仙台市の地域経済において大きな役割を果たしており、その衰退は地域全体の雇用や収入の減少につながるでしょう。宿泊税がもたらす税収では、この損失を補うことは難しいと考えます。 さらに、宿泊税の税収の使い道についての不透明さも問題です。宿泊税の収益は観光振興やインフラ整備に使われるとされていますが、その具体的な内容は十分に示されていません。仙台市の観光業者や関連事業者が本当にその恩恵を受けられるのか、明確な保証がない以上、宿泊税は単なる追加負担に過ぎません。むしろ、現場で必要とされる支援——たとえば観光プロモーション費用の助成や、老朽化した施設の改修補助——に直接的に資金を投じるべきです。仙台市が持つ観光資源を最大限に活用するためには、事業者の声をしっかりと反映させた政策が求められます。 宿泊税の導入が仙台市のイメージに与える影響も看過できません。仙台市は「杜の都」として知られ、歴史と自然が調和した観光地です。青葉城址や瑞鳳殿、そして周辺の秋保温泉や作並温泉といった観光スポットは、訪れる人々に安らぎと感動を与えています。しかし、宿泊税の導入によって「追加の税金を取られる」という印象が広まれば、仙台市のブランドイメージが損なわれる可能性があります。観光地の選択肢が多い現代において、税負担が軽い他地域へ観光客が流れることは十分に考えられます。仙台市が持つ魅力を十分に発信するためには、観光客に歓迎の姿勢を示すことが必要であり、負担感を与えるような施策は逆効果です。 地域住民にとっても、この問題は無関係ではありません。観光業は仙台市の重要な経済基盤の一つであり、観光による収益は地域住民の生活にも還元されています。観光業が衰退すれば、その負の影響は地域経済全体に波及し、最終的には地元住民の雇用や所得にも影響を及ぼします。観光業を維持し発展させることは、地域全体の未来にとっても重要な課題です。宿泊税の導入によって観光産業が弱体化すれば、その影響は長期的にわたって仙台市全体を覆うでしょう。 私たちが求めるのは、課税による財源確保ではなく、観光業そのものを成長させる施策です。たとえば、仙台市の特色ある食文化や伝統工芸を活かしたイベントを定期的で開催することで、観光客を引きつけることができず。また、デジタル技術を活用して国内外に仙台市の魅力を発信し、観光客を増やす仕組みを整えることも一つの方法です。これらの取り組みは、宿泊税に頼らずとも観光業を活性化し、結果として市全体の収益を増やすことにつながると考えます。 仙台市の観光業は、地域の魅力を伝えるだけでなく、地域住民と観光客をつなぐ大切な役割を果たしています。私たちが目指すべき未来は、宿泊税のような新たな負担を強いるのではなく、観光業を地域の成長エンジンとして強化することです。そのために、行政、事業者、そして地域住民が協力して観光業を支え、仙台市の魅力をさらに引き出す努力を続けるべきです。宿泊税の導入は、この目標に逆行するものであり、私は断固として反対します。 ご清聴、ありがとうございました。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。 既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。 宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。例えば、仙台ゆかりの漫画・アニメの活用や、宿泊につながるナイトイベントの長期開催・常設化、観光の基盤である宿泊事業者支援など、毎年度予算編成において具体的な活用事業をお示するとともに、税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでもいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
224	宿泊税の活用	増税反対。物価高で生活が大変なのに、また市民に税負担を求めるとは何事ですか。バスを減らして税を増やすのは理屈が通らない。	宿泊税は、今後、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。そのことにより、市民の皆様にとっても身近に観光を楽しめる環境づくりにつながるものと考えております。
225	宿泊税の活用	宿泊税を活用した主な取り組みは、宿泊事業者及び宿泊者の負担のもとで進めるものであるため、その内容は大変期待するものであるが、策定段階の想定というもので、それぞれ一つしかアイデアがないことが不安を感じる。負担以上の効果が期待できるように、想定レベルであれば数多くのアイデアを考えているという姿勢を見せた方がよい。ロングランは、時期限定という希少価値を下げることにのみならず、旅行者はかわらず、ただ期間内で分散しただけという結果にならないよう、コンテンツの選定は慎重に行っていたきたい。光のページェントや七夕はその最たるもののように思える。	宿泊税を活用した取り組みは、主な施策の一例としてお示ししたものであり、今回のパブリックコメントでいただいたご意見を踏まえ、より具体的な内容を掲載する予定です。また、毎年度の予算編成において具体的な活用事業をお示するとともに、その使途や効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、透明性のある制度の運用に努めてまいります。ナイトコンテンツなどのロングランの実施は、閑散期を含めた通年での誘客に向けて有効だと考えておりますが、いただいたご意見につきましては、今後の観光施策の推進にあたり参考にさせていただきます。
226	宿泊税の活用	農業は、収入保障が制度化されているが、観光業は不安定。宿泊税で、収入保障の仕組みがあると、観光業者安心するのではないかな？	宿泊・観光事業者の経営環境の向上にも貢献できるよう、具体的な施策を検討してまいります。いただいたご意見は、今後の観光施策の推進にあたり参考にさせていただきます。
227	宿泊税の活用	東北の魅力向上を宿泊税で賄うのは意味不明。税金ではなく職員が出せば良い。わ光のページェントの予算を増やす方が先(※原文のとおり)	仙台・東北一体となって旅行のモデルルートなどを構築していくことで、市内での滞在時間の延長や連泊にもつながるものと考えており、関係自治体等と連携を図りながら、国内外からの誘客を進めてまいりたいと考えております。宿泊税の使途については、SENDAI光のページェントのような宿泊につながるナイトコンテンツのロングランも活用事業として示しておりますが、毎年度の予算編成において具体的な活用事業をお示するとともに、その使途や効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、透明性のある制度の運用にさらに努めてまいります。
228	宿泊税の活用	宿泊税の導入に反対する理由は多岐にわたります。まず第一に、宿泊税は観光業全体に大きな負担を強いる可能性があります。観光業は多くの地域経済にとって重要な収入源であり、多くの雇用を生み出しています。しかし、宿泊税の導入は宿泊施設の利用コストを上昇させるため、観光客の数を減少させる可能性があります。特に、予算旅行者や家族連れの観光客にとって、追加の税金は旅行計画を再考させる要因となります。これにより、観光地の経済が打撃を受ける可能性が高まります。また、宿泊税の導入は宿泊施設の運営にも大きな影響を及ぼします。宿泊施設は既に高い運営コストを抱えており、さらに税金が加わることで、経営の持続可能性が脅かされることとなります。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は大きな負担となり、最悪の場合、事業の閉鎖を余儀なくされることもあります。これにより、地域の観光資源が減少し、観光業全体の魅力が損なわれることが懸念されます。さらに、宿泊税の導入は観光客の消費行動にも影響を与える可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減する可能性があります。例えば、観光地での食事、ショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが考えられます。観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も大きくなります。また、宿泊税の導入は行政の負担も増加させます。税の徴収、管理、運用に関するコストが発生し、行政のリソースを圧迫することとなります。特に小規模な自治体にとって、宿泊税の導入は財政的な負担を増やすだけでなく、効果的な運用が難しい可能性もあります。さらに、宿泊税の収益がどのように使用されるかについても議論が必要です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、透明性や公正性が確保されない場合、不正な利用や無駄な支出が懸念されます。宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。観光客にとって、旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。さらに、宿泊税の導入は地域間の競争において不利な立場に立たされる可能性があります。宿泊税が導入されていない地域や国と比較して、宿泊料金が高くなることで競争力が低下します。観光客は宿泊費用を重視するため、税金のない地域やより安価な地域を選ぶ傾向が強くなります。これにより、観光客の流れが変わり、宿泊税を導入した地域の観光業が衰退するリスクが高まります。(次ページへ続く)	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊客数の減少はないものと把握しています。宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないよう周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。また、オーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。宿泊税の使途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。体験コンテンツの造成や、地域の魅力発信のためのSNSを活用したプロモーション等についてのご意見については、今後の観光施策の推進にあたり参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
228	宿泊税の活用	<p>宿泊税の導入に伴う行政手続きの煩雑さも反対の理由の一つです。新しい税制の導入には、法律の整備、税率の設定、徴収方法の確立など、多くの手続きが必要となります。これにより、宿泊施設や旅行業界全体に対する管理負担が増加し、業務の効率性が低下する可能性があります。また、税務当局も新たな業務を抱えることになり、税の徴収や管理にかかるコストが増大します。このような負担は、宿泊税の導入を躊躇させる大きな要因となります。</p> <p>宿泊税の導入に対する地域住民の反発も無視できない要素です。地域住民は観光業から直接的な利益を享受するわけではなく、むしろ観光客の増加による交通渋滞や騒音、ゴミの増加など、生活環境への負担を感じる人が多いです。宿泊税の導入が観光業を支援するためのものであると説明されても、住民の理解と協力を得るのは容易ではありません。住民の反発が強まると、地域全体の観光施策に対する支持が得られず、観光業の発展が阻害される可能性があります。</p> <p>加えて、宿泊税が観光業の振興にどれだけ貢献するかは不透明です。宿泊税の収益が観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、その使途が明確でない場合、効果的な運用が行われない可能性があります。特に、税収が他の財政支出に流用されることがあると、宿泊税の導入目的が達成されず、観光業の振興にはつながらない恐れがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光業のイメージに与える影響も考慮すべきです。観光業は地域の魅力をアピールし、観光客を呼び込むためのものであるべきですが、宿泊税の導入は追加の費用負担を強調することで、旅行先としての魅力を損なう可能性があります。観光客にとって、追加の税金は旅行の楽しみを減少させる要因となり、旅行先の選択においてマイナスの要素となり得ます。</p> <p>これらの理由から、宿泊税の導入には多くの課題とリスクが伴います。観光業の持続可能な発展を目指すためには、宿泊税以外の方法での財源確保や観光業の振興策を検討する必要があります。例えば、観光業全体の収益を増やすためのプロモーション活動や、インフラ整備のための補助金制度の導入、地域資源を活用した新たな観光商品の開発など、多角的なアプローチが求められます。</p> <p>宿泊税に代わる具体的な対策としては、以下のようなものが考えられます。まず、観光客の消費を促進するためのインセンティブ制度の導入が挙げられます。例えば、観光客が地域内で一定額以上の消費を行った場合に、特典や割引を提供する制度を設けることで、観光客の消費意欲を高めることができます。これにより、観光業全体の収益が増加し、地域経済の活性化につながります。</p> <p>次に、観光業界全体のブランド力を高めるためのプロモーション活動が重要です。地域の魅力を効果的に発信し、国内外からの観光客を増やすために、マーケティング戦略を強化することが必要です。特に、デジタルマーケティングの活用やSNSを通じた情報発信は、現代の観光業において非常に効果的な手段です。観光地の魅力を広く知らしめることで、多くの観光客を引き寄せることができ、宿泊税に頼ることなく観光業の振興を図ることができます。</p> <p>また、地域資源を活用した新たな観光商品の開発も重要です。地域の自然環境や文化、歴史を活かした観光体験を提供することで、観光客にとって地域資源を活用した新たな観光商品の開発も重要です。地域の自然環境や文化、歴史を活かした観光体験を提供することで、観光客にとってユニークで魅力的な訪問先となり、滞在期間を延ばしたり再訪を促したりすることができます。例えば、地元の特産品を使ったワークショップや歴史的な建造物を巡るガイドツアー、自然を楽しむアクティビティなど、多様な体験プログラムを開発することが考えられます。</p> <p>また、地域のインフラ整備も重要なポイントです。観光客が快適に過ごせる環境を整えるためには、公共交通機関の整備や案内表示の多言語対応、Wi-Fiの整備などが重要です。これにより、観光客がストレスなく滞在できる環境を提供することで、満足度を高め、観光地としての評価を向上させることができます。</p> <p>さらに、地域コミュニティとの連携も欠かせません。観光業を支えるのは地元の人々であり、彼らの協力と理解があってこそ持続可能な観光が実現します。地域住民との対話を重視し、観光客との共存を図るための取り組みを進めることが大切です。例えば、観光客向けのマナー啓発活動や地元イベントへの参加を促進することで、観光客と地域住民が互いに理解し合い、良好な関係を築くことができます。</p> <p>観光業の振興には持続可能性の確保が求められます。短期的な利益を追求するだけでなく、長期的な視点で環境保護や地域社会の発展を考慮した観光施策を実施することが重要です。例えば、エコツーリズムの推進や地域の自然環境を活かした観光プログラムの開発は、環境保護と経済発展を両立させる一つの手段です。観光業界全体が持続可能な発展を目指すことで、観光地としての魅力を維持し続けることができます。</p> <p>宿泊税の導入が観光業界に与える影響は甚大であり、そのデメリットを軽減するための対策が不可欠です。しかし、税の導入そのものが地域経済にとって負担となることを考えると、他の手段を検討することが望ましいです。(次ページへ続く)</p>	(P57に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
228	宿泊税の活用	<p>観光業の振興と持続可能な地域発展を両立させるためには、多角的な視点からの施策が求められます。観光業の収益を最大化するための一つのアプローチとして、観光客の多様なニーズに応えることが挙げられます。例えば、高級志向の観光客向けのラグジュアリーサービスや、若年層をターゲットとしたアクティブな体験プログラム、家族連れに配慮したファミリー向けの施設整備など、ターゲットに応じたサービスを提供することで、観光客一人ひとりの満足度を高めることができます。</p> <p>また、観光業界全体の競争力を強化するための人材育成も重要です。観光業に従事するスタッフのサービススキルや外国語対応能力を向上させるためのトレーニングプログラムを導入することで、観光客に対するホスピタリティを向上させることができます。これにより、観光客が仙台市での滞在をより快適に感じ、再訪の意欲を高めることができます。</p> <p>さらに、地域の特産品や文化を活かしたお土産商品の開発も観光業の収益向上に寄与します。観光客にとって魅力的なお土産を提供することで、観光地での消費を促進し、地域経済の活性化につながります。地元の特産品を使ったオリジナル商品や、伝統的な工芸品を現代風にアレンジしたものなど、観光客が喜び商品を開発することが重要です。</p> <p>加えて、観光プロモーション活動の強化も不可欠です。地域の魅力を広く知ってもらうために、SNSやウェブサイトを活用した情報発信を行うことが効果的です。また、国内外の旅行博覧会や観光イベントに参加し、仙台市の魅力を直接アピールすることで、新たな観光客を呼び込むことができます。特に、ターゲットとなる市場を明確にし、その市場に向けた戦略的なプロモーションを展開することが重要です。</p> <p>宿泊税の導入に対して反対する立場から見れば、観光業の振興には多様なアプローチがあることを示すことが大切です。宿泊税に頼るのではなく、観光業全体の競争力を強化し、持続可能な発展を目指すための施策を積極的に実施することで、地域経済の活性化と観光業の振興を両立させることができます。</p> <p>観光業の発展には、地域全体が一体となって取り組むことが求められます。観光業者だけでなく、地元住民や行政、教育機関、企業など、さまざまなステークホルダーが協力し合い、共通の目標に向かって進むことが重要です。これにより、観光業が地域社会にとって真に利益をもたらす、持続可能な発展を実現することができると考えられます。</p> <p>最後に、宿泊税の導入に対する市民の理解と協力を得るためには、透明性と公正性が欠かせません。宿泊税の収益がどのように使用されるかについて、明確な説明と情報公開を行うことで、市民の信頼を得ることができます。また、宿泊税以外の財源確保の方法や観光業振興策についても、市民と対話を重ね、共に考える姿勢が求められます。</p> <p>このように、宿泊税の導入には多くの課題とリスクが存在し、その導入には慎重な検討が必要です。観光業の持続可能な発展を目指すためには、宿泊税以外の手段での財源確保や観光業の振興策を多角的に検討し、地域全体の協力と共に進めることが求められます。宿泊税の導入が観光業界に及ぼす影響を最小限に抑えつつ、地域経済の活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが重要です。</p>	(P57に記載)
229	宿泊税の活用	<p>仙台市が宿泊税を導入しようとしていることに対し、私は市民として強く反対します。この政策は、事業者の理解を得ることなく進められており、その影響を十分に考慮していないと言わざるを得ません。</p> <p>まず、宿泊税の導入は観光業界に大きな負担をかける可能性があります。観光業は地域経済にとって重要な収入源であり、多くの雇用を生み出しています。しかし、宿泊税の導入は宿泊施設の運営コストを増加させ、観光客の数を減少させる可能性があります。特に、予算旅行者や家族連れの観光客にとって、追加の税金は旅行計画を再考させる要因となり得ます。これにより、観光地の経済が打撃を受けるリスクが高まります。</p> <p>さらに、事業者の理解を得ていない状況での宿泊税導入は、経済的な混乱を招く恐れがあります。宿泊施設のオーナーや経営者たちは、既に高い運営コストと競争に直面しており、追加の税金はその負担をさらに増大させることとなります。特に、中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は大きな負担となり、最悪の場合、事業の継続が難しくなることもあります。このような状況では、観光地としての仙台市の魅力が低下し、地域全体の観光業が衰退するリスクが高まります。</p> <p>また、宿泊税の導入が観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。(次ページへ続く)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないように周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。</p> <p>また、オーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。</p> <p>宿泊税の使途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
229	宿泊税の活用	<p>観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。</p> <p>加えて、宿泊税の導入に伴う行政の負担も増加することが予想されます。税の徴収、管理、運用に関するコストが発生し、行政のリソースを圧迫することになります。特に、小規模な自治体にとって、宿泊税の導入は財政的な負担を増やすだけでなく、効果的な運用が難しい可能性もあります。さらに、宿泊税の収益がどのように使用されるかについても議論が必要です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、透明性や公正性が確保されない場合、不正な利用や無駄な支出が発生するリスクがあります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に、国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。</p> <p>地域住民の生活環境にも影響を与える可能性があります。観光客の増加は交通渋滞や騒音、ゴミの増加を引き起こし、地域住民の生活の質を低下させることがあります。宿泊税の導入が観光業を支援するためのものであると説明されても、住民の理解と協力を得るのは容易ではありません。住民の反発が強まると、地域全体の観光施策に対する支持が得られず、観光業の発展が阻害される可能性があります。</p> <p>宿泊税の収益が観光業の振興にどれだけ貢献するかも不透明です。税金が観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、その使途が明確でない場合、効果的な運用が行われない可能性があります。特に、税金が他の財政支出に流用されることがあると、宿泊税の導入目的が達成されず、観光業の振興にはつながらない恐れがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光業のイメージに与える影響も考慮すべきです。追加の費用負担を強調することで、旅行先としての魅力を損なう可能性があります。観光客にとって、追加の税金は旅行の楽しみを減少させる要因となり、旅行先の選択においてマイナスの要素となり得ます。これらの理由から、宿泊税の導入には多くの課題とリスクが伴います。</p> <p>仙台市が宿泊税を導入する際には、事業者の理解と協力が不可欠です。観光業の持続可能な発展を目指すためには、宿泊税以外の方法での財源確保や観光業の振興策を検討する必要があります。例えば、観光業全体の収益を増やすためのプロモーション活動や、インフラ整備のための補助金制度の導入、地域資源を活用した新たな観光商品の開発など、多角的なアプローチが求められます。</p> <p>また、観光客の多様なニーズに応えるためのサービス向上や、地域の魅力を効果的に発信するマーケティング戦略の強化も重要です。宿泊税に頼るのではなく、観光業全体の競争力を強化し、持続可能な発展を目指すための施策を積極的に実施することで、地域経済の活性化と観光業の振興を両立させることができます。</p> <p>以上の点を踏まえ、仙台市が宿泊税を導入する前に、事業者や地域住民との対話を重視し、共に考える姿勢が求められます。宿泊税の導入が観光業界に及ぼす影響を最小限に抑えつつ、地域経済の活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが重要です。事業者の理解と協力を得ることなく進められる宿泊税導入には強く反対します。観光業の持続可能な発展を目指すために、より多様で柔軟なアプローチを模索することが求められます。</p>	(P59に記載)
230	宿泊税の活用	<p>観光振興やまちづくりにおいては、エリマネ組織、DMO等には優秀な人材が必要不可欠だと思います。観光戦略の宿泊税の使途に、(優秀な)人材確保と育成を追究していただき、市が主導となって全市的に優秀な人材を確保していくべきだと思います。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、観光振興において、DMO等の人材確保や育成は重要な視点だと考えており、令和6年9月に登録DMOに登録された(公財)仙台観光国際協会の体制強化を進めていくなど、観光の専門人材の育成強化を図ってまいります。</p>
231	宿泊税の活用	<p>宿泊税で実際に宿泊してもらうためには、ホテルや旅館そのものを泊まりたくなるコンテンツとして磨き上げていくことが先決だと思います。漫画コンテンツもナイトコンテンツも宿泊に直結するとは言いきれませんが、38ページでもイルミネーションや聖地巡礼は観光目的の下位になっています。2022年に比べて割合が小さくなっているにもかかわらず、宿泊税をそれらのことに使うのは理解が得られないのではないのでしょうか。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。昨年に実施したゲームイベントなどは大きな経済効果をもたらしており、仙台ゆかりの漫画・アニメの活用も含め、仙台ならではの訴求力のあるコンテンツとなるよう取り組んでまいります。</p> <p>また、ナイトコンテンツについては、夜間の新たな過ごし方を提案することで、滞在時間が延び、宿泊につながることを効果として期待しております。宿泊税の税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
232	宿泊税の活用	宿泊税を活用した取り組みを示されたが、それらは本当に宿泊税がなければならぬものなのか？	人口減少が進む中、地域の持続的発展には、域外から人を呼び込む交流人口の拡大に向けた取り組みを強化する必要があり、ハード・ソフト両面の観光地としてのさらなる魅力向上を図っていくための財源として宿泊税の導入を進めております。訴求力のある新たなコンテンツの創出や受入環境の整備、インバウンドの新規市場開拓など、観光関係の事業者の皆様の知見やアイデアも活かしながら、観光振興を進めてまいります。
233	宿泊税の活用	宮城県ではなく宮崎県の画像が掲載されている。宮崎県と宮城県の違いも分からないとは情けない。ここは宮城県仙台市であるので、宮城県に直してください。	中間案P.15に掲載している、宮崎県日向市の馬ヶ背展望台「スケルツチャ」は、秋保大滝展望台のイメージ画像として、参考として掲載しているものです。
234	宿泊税の活用	宿泊税を目立たない一番下に小さい文字で書くなんで卑劣な行為をしないでください。後ろめたい気持ちがあると思うので宿泊税導入反対です。	宿泊税の活用については、中間案P.14に宿泊税の活用、P.15に宿泊税を活用した主な取り組みとして掲載しております。
235	宿泊税の活用	消費税があるので宿泊税は反対	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。
236	宿泊税の活用	宿泊税反対 宿泊税とかけまして、人気のない観光地と解きます。その心は、どちらも集客には工夫が必要です。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。宿泊税を活用して訴求力のあるコンテンツづくりなどを進め、交流人口のさらなる拡大に努めてまいります。
237	宿泊税の活用	宿泊税を使って市職員の給与が増えるだけとはひどすぎる。宿泊税反対です。また緑色が見にくいのと文字も小さく見づらいです。なぜ10億円という金額が出るのでしょうか。子供に10億円は使ってください。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。税収は、税率を200円、宿泊数を現観光戦略における2024年の目標値である650万人泊とし、免税点や課税免除などを考慮した想定額として10億円を見込んでおります。
238	宿泊税の活用	若手職員の給与が増えたとニュースを見た。それを補うための宿泊税のように思う。使い道が記載されていないということで反対します。増税せずに、給与を当てれば良い。我々庶民は物価高に苦しんである	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、これまでの一般財源を活用した施策に加え、宿泊税を財源とした新たな取り組みに活用していくものです。税収の使途や効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。
239	宿泊税の活用	宿泊税を活用して次のステップに進むことは重要。他の都市との差別化を図るためにも、ぜひ観光に力を入れて欲しい。3つの視点と6つのプロジェクトはこれで問題ないと思う。さらに具体化して、事業を進めてほしい。	宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の、大きく3つの視点に基づいて活用していくこととしております。また、3つの視点を踏まえた6つの重点プロジェクトに基づく各施策を展開することで、宿泊を含めた滞在時間の延長や関連消費の増大を図り、地域経済の発展につなげてまいります。
240	宿泊税の活用	宿泊税への反対意見が多いなど報道をみて思いますが、個人的には賛成です。はやめに導入しておかないと、思い切った取り組みがいつまでも実行できないと思います。また主な取り組みですが、アニメ漫画の活用やナイトコンテンツの取り組みにお金を使うのはとても良いことだと思います。訪れた人がお金を落としてくれるように、頑張ってください。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくために、安定的かつ継続的な財源を確保する必要があるという認識の下、仙台市の交流人口拡大という特定の目的にのみ使用される税として導入を進めているものです。宿泊税の税収を活用し、旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成として、漫画・アニメを活用したコンテンツ造成・拠点づくりや、宿泊・連泊を促進するための誘客強化として、ナイトコンテンツのロングランなどの取り組みを進めることで、さらなる交流人口拡大を図り、地域経済の活性化につなげてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
241	宿泊税の活用	<p>私は長年米作りに従事してきた農家として、宿泊税の導入に強く反対します。この政策は観光業を中心に地域経済全体に悪影響を及ぼし、結果として農業を含む多くの産業に深刻な影響を与える可能性があるからです。</p> <p>地方では、農業と観光業が密接に結びついています。観光客が地元を訪れることで、私たちが育てた米や農産物が旅館やレストランで提供され、それが私たち農家の収入源となります。しかし、宿泊税が導入されると、観光客に対する負担が増え、その結果として観光客数が減少する可能性があります。特に地方では観光資源が限られているため、観光客にとって少しでも費用がかさむことがその地域を避ける理由になりかねません。このような影響は観光業だけでなく、そこに依存する私たち農家や他の関連産業にも波及します。</p> <p>宿泊税は、観光地としての魅力を低下させる要因にもなります。地域を訪れる観光客の多くは、農家が直売所で提供する新鮮な農産物や、地元の食文化を楽しむことを目的としています。観光客が減れば、これらの産物を販売する機会も失われてしまいます。私たち農家が丹精込めて育てた米や野菜を楽しんでいただく場が減るということは、単なる経済的損失にとどまらず、地域の文化や伝統が衰退してしまう危険性を孕んでいます。</p> <p>また、宿泊税による財源が地域の発展に寄与するとの意見もありますが、その恩恵がどれほど公平に配分されるかは疑問が残ります。これまでの行政運営を振り返ると、農業や観光を基盤とする地方がこうした税収を直接的に活用できる場面は限られており、むしろ都市部への投資や特定のインフラ整備に偏るケースが見られます。地方が自らの力で経済を活性化させようとしている努力に水を差すような税制度は、地域の自立を妨げる要因にすらなりかねません。</p> <p>さらに、私たち農家にとって重要なのは、観光客と直接触れ合うことで地域の魅力を伝える機会を得ることです。農産物の直売や農村体験プログラムの実施などを通じて、観光客に地元の自然や農業の魅力を伝え、リピーターを増やす努力を続けています。宿泊税によって観光客数が減れば、こうした取り組みも大きく制約されるでしょう。これらの活動が制限されることは、単なる経済的損失にとどまらず、地域コミュニティの活力そのものを損なうことに直結します。</p> <p>宿泊税導入の背景には、自治体の財政問題があると理解しています。しかし、その解決策として観光客に負担を強いるのではなく、地域の活性化を通じて税収を増やす方法を模索するべきではないでしょうか。例えば、農業体験や地産地消を推進する新たな取り組みによって観光客を呼び込み、結果として宿泊数や消費額を増加させる方が、長期的には持続可能な解決策となるはずだと思います。</p> <p>私たち農家は、日々自然と向き合い、地域の発展に貢献することを誇りに感じています。しかし、宿泊税の導入はその努力を否定するようなものであり、地方の発展を阻害する政策であると言わざるを得ません。この地域の未来のために、宿泊税の導入を見直し、より公平で持続可能な施策を議論していただきたいと強く願っています。</p> <p>最後に、この反対意見は単に農業や観光業の利益を守るためだけのものではありません。私たちは、地域全体がともに発展していける社会を目指しているのです。そのために必要なのは負担を強いる税制度ではなく、地域の魅力をさらに引き出し、多くの人々に足を運んでもらえる仕組みを作ることだと確信しています。宿泊税の導入は、その目標に逆行するものであり、断固として反対します。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>観光業は裾野の広い産業であり、交流人口の拡大を図ることで、農業も含め、地域経済の活性化につなげることができるよう取り組んでまいります。</p> <p>税収の使途や効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>
242	宿泊税の活用	<p>宿泊税の導入に対して市民目線から反対する立場を述べるにあたって、そもそもこの制度が掲げる目的や、その目的が実際に果たされるかどうかという実効性の問題、さらには市民生活に与える影響という観点を重ねて考慮しなければならない。その上で、宿泊税が市民にとってどのような負担を強いる可能性があるのか、また地域社会の中でどのような摩擦や不利益が生じるのかについて、包括的に議論する必要があるが、その議論の場が十分に設けられていないという点も、この制度に対する懸念材料として挙げるべきであろう。</p> <p>まず、宿泊税が「観光振興のための財源確保」を目的として導入されるとする主張について、市民として感じる違和感を整理したい。この制度の根幹には、観光客に対して負担を求めることで地域経済を活性化しようという考え方があるようだが、観光振興の恩恵が果たして公平に地域全体へと還元されるのかという疑問は大いに残る。観光業界における利益の多くは、大規模な宿泊施設や観光資源を運営する一部の事業者に集中する傾向があり、地域全体に経済効果が及ぶ構造にはなっていない場合が多い。仮に宿泊税収入が観光振興策に充てられたとしても、その資金が特定の企業やプロジェクトに偏って使用される可能性が高い以上、税金を納める市民全体に直接的な利益が還元されるとは言い難い。特に観光業とは無縁の職業に従事する人々にとって、宿泊税の導入は単なる地域社会のリソースの再分配にしか見えず、恩恵を感じるところが負担だけが結果になりかねない。</p> <p>さらに、宿泊税が観光客に課される税であるにもかかわらず、市民生活における影響が見過ごされている点も問題である。(次ページへ続く)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けて、さらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>また、宿泊税の導入に際しましては、市民の皆様や宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様のご意見をいただきながら制度設計を行い、先の令和6年9月の市議会に条例案を提出し、お認め頂いたものでございます。</p> <p>観光業は裾野の広い産業であり、地域経済全体にとっても大きな波及効果をもたらすと、ともに、市民の皆様にとっても身近に観光や魅力ある祭り、イベントなど、楽しめる環境づくりにもつながるものです。</p> <p>また、オーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。</p> <p>税収の使途や効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
242	宿泊税の活用	<p>観光地に住む住民はすでに、観光客による混雑や騒音、環境負荷など、観光地ならではの課題に直面している。観光振興を名目とした宿泊税の導入によって観光客数がさらに増加すれば、これらの課題が一層深刻化する可能性がある。例えば、地域の交通機関が観光客で混雑し、市民の日常的な移動が不便になる、あるいは観光客向けの店舗やサービスが増加する一方で、地域住民が利用できる商店や施設が減少するという状況が考えられる。こうした影響を軽減するための対策が講じられていない段階で宿泊税を導入するのは、市民生活への配慮が欠けていると言わざるを得ない。</p> <p>また、宿泊税の導入によって観光客の数そのものが減少するリスクも無視できない。観光客にとって宿泊費用が増加することは、特に価格に敏感な層の観光客にとって心理的なハードルとなり得る。国内外の他地域との競争が激化する中で、宿泊税の存在が観光地としての競争力を削ぐ結果となれば、観光産業そのものの衰退につながる可能性がある。観光客の減少が地元経済に与える悪影響を考慮すれば、宿泊税が観光振興に寄与するどころか、むしろ逆効果をもたらすことが危惧される。特にコロナ禍の影響から完全に回復していない観光業界においては、このような負担増がさらなる経営困難を招くことも十分に予想される。</p> <p>さらに、市民目線で見えた場合、宿泊税の導入プロセスそのものにも問題があると感じざるを得ない。政策決定において地域住民の声がどれほど反映されているのかが不透明であり、自治体が観光業界や一部の経済団体と密接に連携する中で、市民の意見が軽視されているように見える。このような状況では、市民が宿泊税を自分たちの生活向上のための政策として受け入れるのは難しい。特に、宿泊税の使途が具体的に示されないまま、「観光振興」という抽象的な目的だけが強調されるのでは、市民にとって納得感のある説明にはならない。こうした説明責任の欠如は、政策への不信感を生むだけでなく、地域社会における分断を助長する可能性がある。</p> <p>宿泊税の導入に伴う具体的なメリットが市民生活に及ぶという明確な保証がない限り、この制度が地域全体のためになるとは言えない。観光振興が重要であることに異論はないが、その財源を宿泊税に頼る形で賄うことが最適な方法であるのかは疑問だ。むしろ、観光業界自体が効率的な経営や新たな収益モデルの構築を図る中で、持続可能な観光地運営を目指すべきではないだろうか。税収に依存せず、観光業界が自らの努力で収益を上げ、その利益を地域社会に還元する仕組みを構築することこそ、市民にとっても観光客にとっても最良の選択となるはずである。</p> <p>これらの点を踏まえれば、宿泊税は市民生活における不安定要素を増加させるだけでなく、地域社会の一体感を損なう結果となる可能性がある。このようなリスクを抱えた政策を性急に導入するのではなく、まずは地域住民や観光客、観光業界の三者間で十分な議論を行い、真に地域の発展につながる方策を模索すべきである。宿泊税導入の是非を問うには、そのメリットとデメリットを市民目線でしっかりと検証することが必要不可欠であり、現段階では導入に慎重な態度を取るべきであると言えよう。</p>	(P62に記載)
243	宿泊税の活用	<p>観光業の明るい展望と宿泊税不要論を論じるにあたり我々が最初に考慮しなければならないのは観光業の持つ無限の可能性である。現在観光業は世界的に急成長を遂げており多くの国々がその発展を経済の柱として位置づけている観光業がもたらす経済効果は想像以上に大きく特に地域経済への影響は計り知れない観光業の発展によって地域が活性化し雇用が生まれ地域の文化や伝統も次世代に継承されるこれらは観光業の発展がもたらす明るい未来でありその恩恵を享受できる地域社会にとって観光業の拡大はまさに希望の光である。しかしその一方で観光業の発展には多くの問題も伴っている観光地における過剰な観光客の流入は環境負荷を増大させ地域住民の生活に支障をきたすこともあるこうした問題に対処するために多くの都市や観光地では観光客の数を制限し観光インフラを整備することが求められているこのような課題を解決するためには観光業の持続可能な発展を目指すことが重要でありこれを達成するためには観光業の利益と環境保護のバランスを取るための取り組みが必要不可欠である。だが観光業が本来持っている可能性に目を向ければその未来には大きな希望が広がっている近年では観光のスタイルが多様化し観光客は単に観光地を訪れるだけでなく地域の文化を体験し地元の人々との交流を楽しむことを重視するようになってきているこのような観光のスタイルは地域経済の循環を生み出し観光業が地域の発展に貢献する方法として注目されている。地域の特性を活かした観光プログラムを提供することで観光客はより深い体験を得ることができ地域の文化や産業への理解も深まるこれにより観光業が単なる消費活動にとどまらず地域社会の発展に寄与する重要な役割を果たすようになるのだ。またテクノロジーの進展によって観光業の未来にはさらなる可能性が広がっている近年ではAIやビッグデータを活用した観光の最適化が進んでおりこれにより観光客のニーズを的確に捉え個別化されたサービスが提供されるようになってきている(次ページへ続く)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。今後も、宿泊事業者の皆様との意見交換を継続し、宿泊事業者様の徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおいてスムーズに観光客の皆様から宿泊税を徴収できるよう周知広報を徹底してまいります。</p> <p>ご提案いただいた、様々なデータや技術を用いた快適な周遊環境の整備等についてのご意見は、今後の観光施策の検討において参考にさせていただくとともに、それらの施策の推進のための財源としては、宿泊税も有効に活用してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
243	宿泊税の活用	<p>例えばAIを活用して観光地での混雑状況をリアルタイムで把握し観光客の動線を最適化することができるこれにより観光地の過剰な混雑を避けることができ観光客にとっても快適な体験を提供することが可能となるこれらの取り組みは観光業の効率化とともに環境負荷の軽減にも寄与するため観光業の持続可能な発展に向けた重要なステップとなるだろうこのように観光業の明るい展望は多くの要素に支えられており今後もその成長は続くと予測されるその一方で観光業の拡大を支えるためにはさまざまな課題への対応が必要であるその中でも宿泊税の導入については議論が分かれる問題の一つである宿泊税とは観光客が宿泊施設に宿泊する際に課される税金でありその目的は観光地のインフラ整備や地域振興に充てることが主な理由とされている宿泊税は観光業の発展を支えるための一つ的手段として導入されることが多いがその実施には賛否両論が存在する宿泊税不要論の立場から見るとこの税金は観光業に対して過剰な負担を強いるものであり観光業の発展に悪影響を及ぼす可能性がある指摘されているます宿泊税が観光客にとって直接的なコストとなるためその負担が観光客の来訪を妨げる可能性がある特に予算が限られている観光客にとっては宿泊税が旅行の選択肢に影響を与えることが考えられる宿泊税が高額であれば観光地の魅力が薄れ他の地域への観光客流出を招く可能性があるこれにより観光地の経済活動が停滞し最終的には地域の発展が阻害される恐れがあるまた宿泊税の導入が観光業に与える影響は観光事業者にも及び宿泊税を徴収するためには行政手続きが増えることになるため観光事業者はその対応に時間やコストをかけなければならない特に中小の宿泊施設や個人経営の施設にとっては負担が大きくなる可能性がありそのために観光業全体の成長を妨げる結果となることも考えられるさらに宿泊税を導入することによって観光地の魅力が低下する可能性もある観光地の魅力は多くの要素に支えられているがその中でもコストの面は大きな要素の一つである観光客はできるだけ費用を抑えつつ魅力的な体験を求めている宿泊税が加わることでその費用が増加し観光地の選択肢を狭めることになるこれは特に低価格帯の宿泊施設を利用する観光客にとっては大きな負担となりその結果観光地の競争力が低下することが懸念されるこのような観点から宿泊税不要論は観光業の健全な発展にとって重要な視点となる宿泊税を導入せずとも観光地の発展を支える方法は他にも存在するその一つが観光業の効率化でありテクノロジーを活用して観光業を最適化することが重要である先に述べたようにAIやビッグデータを活用することで観光業の効率化が進み観光客のニーズに応じたサービスを提供することができるこれにより観光業の競争力を高めながらも環境負荷を軽減し地域経済を活性化させることが可能となるまた観光業の効率化には観光インフラの整備が不可欠であり例えば公共交通機関の充実や観光地周辺の道路の整備などを進めることが観光客の利便性を高めるとともに地域住民にも恩恵をもたらさるだろうさらに観光業の発展を支えるためには観光客の消費を促すための取り組みが重要である観光地におけるショッピングや飲食、地域の特産品の販売など観光客が地域経済に貢献する手段を多様化することで観光地の収益を増加させることができるその際、観光客の満足度を高めるために質の高いサービスを提供することが求められる観光業の発展を支えるためには地域の魅力を最大限に引き出し観光客に対して魅力的な体験を提供することが不可欠であるこれらの取り組みを進めることで宿泊税を導入せずとも観光地の経済発展を実現することができるだろうこのように観光業には明るい展望が広がっておりその発展にはさまざまな可能性が秘められている宿泊税の導入についてはその必要性や影響を慎重に考慮し他の方法で観光業の健全な発展を支える取り組みを進めるべきである</p>	(P63に記載)
244	宿泊税の活用	<p>宿泊税導入に反対する立場を取りつつ、鎌倉幕府の滅亡に関する謎を掘り下げることは、一見すると異なるテーマのように見えるかもしれませんが、両者には一つの共通点があります。それは、どちらも歴史的な背景や社会構造の変化に深く関わっており、その解釈によって私たちがどのような未来を選ぶかに影響を与えるという点です。</p> <p>まず、宿泊税の導入に反対する理由から述べていきます。宿泊税の導入は観光地や地域経済を活性化させる目的で導入されることが多いですが、その効果については賛否があります。確かに、宿泊税を導入することで観光地のインフラ整備や地域振興に貢献できるとされていますが、それが本当に地元住民や観光客にとってプラスになるのでしょうか。宿泊税が導入されると、観光地の宿泊料金が上がり、観光客の負担が増えることとなります。特に、低価格な宿泊施設を利用している観光客にとっては、その負担が大きくなる可能性があります。</p> <p>また、宿泊税を導入することによって、観光地に対する訪問者の意欲が減少することも考えられます。観光客は、その旅行の目的が観光地での体験やリラクゼーションにあるため、宿泊税が加算されることで旅行費用が予想以上に高くなると感じるかもしれません。特に、観光業が競争激化している現代において、観光客は宿泊費用を安く抑えたいというニーズが強くなっており、宿泊税がそのニーズに逆行する可能性があるのです。</p> <p>さらに、宿泊税が導入されることで、地元住民の生活が圧迫されることも懸念材料となります。観光業に依存している地域では、観光業の収益が地域経済の重要な部分を占めているため、観光客からの収益を確保することは地域の発展にとって重要ですが、地元住民がそれを楽しむことができるかどうか問題です。宿泊税が導入されると、その収益が観光客のみに負担を強いる形になり、地域住民がその恩恵を実感できない可能性もあります。(次ページへ続く)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>また、低廉な宿泊料金の宿泊施設への配慮として、免税点を設定しております。税収の用途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただき官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p> <p>その他、鎌倉幕府の滅亡の謎に関するご意見として承ります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
244	宿泊税の活用	<p>観光地のインフラ整備は重要ですが、その資金を観光税や宿泊税で賄うという方法に偏ることは、地元住民の負担を増やす一方で、その税収がどのように使われるのかわからない部分もあります。</p> <p>次に、鎌倉幕府の滅亡についての謎に迫ります。鎌倉幕府は、1185年に源頼朝が創設した日本初の武家政権であり、約150年にわたって日本の支配体制を構築してきました。しかし、鎌倉幕府は1333年に滅亡し、その後、南北朝時代を経て、室町幕府が成立することとなります。では、なぜ鎌倉幕府は滅亡したのでしょうか。</p> <p>一つ目の原因は、内外の圧力によるものです。鎌倉幕府が成立した当初は、源頼朝の権力は強固でしたが、代々の将軍が続くにつれてその権力基盤は徐々に揺らいでいきました。特に、幕府内での権力闘争や、朝廷との関係の悪化が影響を与えました。また、外部の圧力も大きかったです。元寇に代表されるように、外敵の侵入が続き、鎌倉幕府はその対応に追われていました。しかし、元寇の後、幕府はその復興や防衛体制を整えることができず、次第に政治的な混乱が深刻化していきました。</p> <p>二つ目の要因は、幕府内での権力の集中化と不安定化です。鎌倉幕府は、源頼朝が築いた将軍と執権の体制を基盤にしていましたが、その後、将軍の権限が次第に弱まり、執権の権力が強くなっていきました。特に、北条氏が執権職を世襲することで、幕府内での政治的な対立が激化しました。権力が一部の家に集中し、他の有力武士たちとの対立が生じ、幕府内での不安定な状況が続くこととなります。</p> <p>三つ目は、民衆や地方の武士たちの不満の高まりです。鎌倉幕府はその成立当初から中央集権的な政治体制を敷いていましたが、地方の武士たちは次第に自らの権利を主張し始めました。特に、鎌倉幕府が地方に対して強硬な支配を行ったことに不満を抱く者が増えていきました。これにより、幕府の権威が失われ、反乱が起こるようになりました。特に、名將として知られる足利尊氏が反旗を翻したことが、鎌倉幕府の滅亡を加速させました。</p> <p>そして、四つ目の要因は、腐敗と経済的困窮です。鎌倉幕府は、幕府財政の悪化や農民の困窮、さらには武士層の生活苦から来る不満が蓄積し、その結果として幕府の指導力が弱体化しました。封建制度に基づく土地支配の制度が衰退し、武士たちの生活が困窮する中で、民衆の反乱や地方の豪族による独立志向が高まりました。</p> <p>これらの要因が絡み合い、最終的に鎌倉幕府は滅亡することとなったのです。その後、足利尊氏が新たに室町幕府を開くこととなり、日本は再び新たな政治体制のもとに移行していきました。</p> <p>このように、鎌倉幕府の滅亡には多くの要因が影響を与えました。内外の圧力、幕府内での権力の集中化、地方武士たちの反乱、そして経済的な困窮が複合的に作用した結果として、幕府はその支配を維持できなくなったのです。</p> <p>宿泊税の導入に反対する立場を取る私たちは、歴史的な教訓をもとに、地域や社会の変化に適応する方法を模索していかなければなりません。鎌倉幕府の滅亡が示すように、政治体制や社会構造の変化には多くの要因が絡み合っており、それを無視して一方的な施策を進めることは危険であると言えるでしょう。</p>	(P64に記載)
245	宿泊税の活用	<p>仙台市が事業者の理解を得ないまま宿泊税を導入しようとしていることに対して、私は市民として強く反対します。この政策は、多くの視点から見ても問題が多く、その影響を十分に考慮されていないと言わざるを得ません。まず、宿泊税の導入は観光業界に大きな負担をかける可能性があります。観光業は地域経済にとって重要な収入源であり、多くの雇用を生み出しています。しかし、宿泊税の導入は宿泊施設の運営コストを増加させ、観光客の数を減少させる可能性があります。特に、予算旅行者や家族連れの観光客にとって、追加の税金は旅行計画を再考させる要因となり得ます。これにより、観光地の経済が打撃を受けるリスクが高まります。</p> <p>さらに、事業者の理解を得ていない状況での宿泊税導入は、経済的な混乱を招く恐れがあります。宿泊施設のオーナーや経営者たちは、既に高い運営コストと競争に直面しており、追加の税金はその負担をさらに増大させることとなります。特に、中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は大きな負担となり、最悪の場合、事業の継続が難しくなることもあります。このような状況では、観光地としての仙台市の魅力が低下し、地域全体の観光業が衰退するリスクが高まります。</p> <p>観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。</p> <p>また、宿泊税の導入に伴う行政の負担も増加することが予想されます。税の徴収、管理、運用に関するコストが発生し、行政のリソースを圧迫することとなります。特に、小規模な自治体にとって、宿泊税の導入は財政的な負担を増やすだけでなく、効果的な運用が難しい可能性もあります。(次ページへ続く)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないよう周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。</p> <p>また、オーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。</p> <p>宿泊税の使途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
245	宿泊税の活用	<p>さらに、宿泊税の収益がどのように使用されるかについても議論が必要です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、透明性や公正性が確保されない場合、不正な利用や無駄な支出が発生するリスクがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に、国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。</p> <p>地域住民の生活環境にも影響を与える可能性が高いです。観光客の増加は交通渋滞や騒音、ゴミの増加を引き起こし、地域住民の生活の質を低下させることがあります。宿泊税の導入が観光業を支援するためのものであると説明されても、住民の理解と協力を得るのは容易ではありません。住民の反発が強まると、地域全体の観光施策に対する支持が得られず、観光業の発展が阻害される可能性があります。</p> <p>宿泊税の収益が観光業の振興にどれだけ貢献するかも不透明です。税金が観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、その用途が明確でない場合、効果的な運用が行われない可能性があります。特に、税金が他の財政支出に流用されることがあると、宿泊税の導入目的が達成されず、観光業の振興にはつながらない恐れがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光業のイメージに与える影響も考慮すべきです。追加の費用負担を強調することで、旅行先としての魅力を損なう可能性があります。観光客にとって、追加の税金は旅行の楽しみを減少させる要因となり、旅行先の選択においてマイナスの要素となり得ます。</p> <p>また、宿泊税が国際的な観光地競争において不利な要素となる可能性もあります。仙台市が宿泊税を導入すれば、他の宿泊税が導入されていない観光地と比較して料金が高くなるため、観光客はより安価な宿泊地を選択する傾向があります。これにより、観光客の流れが変わり、仙台市の観光業が衰退するリスクが高まります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は長期的な観光戦略においても問題を引き起こす可能性があります。宿泊税の収益が確保されたとしても、その収益が観光業の持続可能な発展にどれだけ寄与するかは不透明です。観光業の振興には、持続的な投資と戦略的な計画が必要ですが、宿泊税の導入が短期的な解決策に過ぎない場合、長期的な観光戦略が疎かにされるリスクがあります。</p> <p>観光業の振興には、宿泊税以外にも多様なアプローチが考えられます。例えば、観光プロモーション活動の強化や観光資源の開発、地域住民との協体制の構築など、多角的な取り組みが求められます。また、観光業の競争力を高めるためには、観光施設の品質向上やサービスの向上、インフラ整備の充実も欠かせません。</p> <p>事業者の理解と協力を得ないまま進められる宿泊税導入には、多くの問題とリスクが存在します。観光業の持続可能な発展を目指すためには、宿泊税以外の手段での財源確保や観光業の振興策を多角的に検討し、地域全体の協力と共に進めることが求められます。仙台市が宿泊税を導入する前に、事業者や地域住民との対話を重視し、共に考える姿勢が不可欠です。</p> <p>観光業の持続可能な発展を目指すためには、多様な視点からの議論と協力が求められます。宿泊税の導入が観光業界に及ぼす影響を最小限に抑えつつ、地域経済の活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが重要です。事業者の理解と協力を得ることなく進められる宿泊税導入には強く反対します。観光業の持続可能な発展を目指すために、より多様で柔軟なアプローチを模索することが求められます。</p>	(P65に記載)
246	宿泊税の活用	<p>観光客が減少すれば、地域の経済にも悪影響が及びます。観光業は多くの雇用を生み出し、地域経済の大きな柱となっています。特に小規模な宿泊施設や飲食店、土産物店など、観光客を主要な顧客とする事業者にとっては、入湯税の導入が大きな打撃となるでしょう。観光客が減れば、これらの事業者の売上が減少し、経営難に陥る可能性があります。また、入湯税の導入は地元住民にも負担を強いることになります。温泉は地元住民にとっても身近な存在であり、日常的に利用されている場所です。入湯税が導入されれば、地元住民の利用頻度が減少し、地域のコミュニティが希薄化する恐れがあります。特に高齢者や低所得者にとっては、温泉利用の経済的負担が増大し、健康維持やリフレッシュの機会が奪われることとなります。</p> <p>次に、宿泊税についても同様に反対の立場を取ります。宿泊税は宿泊施設の利用者から徴収されるもので、主に観光客を対象としています。しかし、宿泊税の導入は観光業界に大きな負担を強いるものであり、その影響は観光地全体に及びることになります。</p> <p>宿泊税の導入は、宿泊施設の料金を引き上げる要因となります。観光客にとって、宿泊費の増加は旅行の計画を見直す理由となり得ます。特に予算旅行者やファミリー層にとって、追加の税金は大きな経済的負担となります。これにより、観光客の数が減少し、地域の観光業が打撃を受けるリスクが高まります。観光客が減少すれば、宿泊施設だけでなく、観光地全体の経済が停滞することになります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は宿泊施設の運営にも影響を与えます。宿泊施設は既に高い運営コストを抱えており、追加の税金はその負担をさらに増大させます。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は経営の持続可能性を脅かす要因となります。(次ページへ続く)</p>	<p>入湯税は、温泉の利用者に課税される目的税であり、本市では昭和46年度より導入しております。納めていただいた税金は、観光施設、消防施設などの設備および観光の振興に要する費用に活用しています。具体の税収額や詳しい用途については下記ホームページで公開しておりますので、ご覧ください。</p> <p><a href="https://www.city.sendai.jp/shikin/shise/zaise/zaimu/zaise/sendashi/mokutekizei.html">https://www.city.sendai.jp/shikin/shise/zaise/zaimu/zaise/sendashi/mokutekizei.html</a></p> <p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないよう周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。</p> <p>宿泊税の用途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、用途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p> <p>いただいた観光事業者支援、プロモーション強化等の施策については、今後の観光振興の参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
246	宿泊税の活用	<p>経営難に陥れば、宿泊施設の閉鎖や従業員の解雇などが発生し、地域の雇用状況にも悪影響を及ぼすこととなります。</p> <p>また、宿泊税の導入は観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。観光客が少ない予算で楽しむとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。</p> <p>加えて、宿泊税の導入に伴う行政の負担も増加することが予想されます。税の徴収、管理、運用に関するコストが発生し、行政のリソースを圧迫することになります。特に小規模な自治体にとって、宿泊税の導入は財政的な負担を増やすだけでなく、効果的な運用が難しい可能性もあります。さらに、宿泊税の収益がどのように使用されるかについても議論が必要です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、透明性や公正性が確保されない場合、不正な利用や無駄な支出が発生するリスクがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。</p> <p>地域住民の生活環境にも影響を与える可能性があります。観光客の増加は交通渋滞や騒音、ゴミの増加を引き起こし、地域住民の生活の質を低下させることがあります。宿泊税の導入が観光業を支援するためのものであると説明されても、住民です。税収が観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、その使途が明確でない場合、効果的な運用が行われない可能性があります。特に、税収が他の財政支出に流用されることがあると、宿泊税の導入目的が達成されず、観光業の振興にはつながらない恐れがあります。</p> <p>宿泊税の導入が観光業のイメージに与える影響も考慮すべきです。追加の費用負担を強調することで、旅行先としての魅力を損なう可能性があります。観光客にとって、追加の楽しみを減少させる要因となり、旅行先の選択においてマイナスの要素となり得ます。</p> <p>また、宿泊税が国際的な観光地競争において不利な要素となる可能性もあります。仙台市が宿泊税を導入すれば、他の宿泊税が導入されていない観光地と比較して料金が高くなるため、観光客はより安価な宿泊地を選択する傾向があります。これにより、観光客の流れが変わり、仙台市の観光業が衰退するリスクが高まります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は長期的な観光戦略においても問題を引き起こす可能性があります。宿泊税の収益が確保されたとしても、その収益が観光業の持続可能な発展にどれだけ寄与するかは不透明です。観光業の振興には、持続的な投資と戦略的な計画が必要です。宿泊税の導入が短期的な解決策に過ぎない市内在住の高齢者として、長年この街で暮らしてきた私は、入湯税や宿泊税の導入に対して強く反対しています。私自身、この地で長い時間を過ごし、地域の発展や変化を見守ってきました。そして、これらの新たな税の導入がもたらす影響について深く入湯税についてです。この税は温泉地での宿泊者から徴収されるものであり、地域の財源確保を目的としています。しかし、この税が観光客や地元住民に与える影響を考えると、その導入には多くの問題があると考えます。温泉は地域の重要な観光資源であり、訪れる人々にとって癒しやリラクゼーションの場として親しまれています。入湯税の導入は、この貴重な資源へのアクセスを制限し、観光客の数を減少させる可能性が高いです。</p> <p>観光客が減少すれば、地域の経済にも悪影響が及びます。観光業は多くの雇用を生み出し、地域経済の大きな柱となっています。特に小規模な宿泊施設や飲食店、土産物店など、観光客を主要な顧客とする事業者にとっては、入湯税の導入が大きな打撃となるでしょう。観光客が減れば、これらの事業者の売上が減少し、経営難に陥る可能性があります。結果として、地域の経済が停滞し、雇用が減少することが懸念されます。</p> <p>また、入湯税の導入は地元住民にも負担を強いることとなります。温泉は地元住民にとっても身近な存在であり、日常的に利用されている場所です。入湯税が導入されれば、地元住民の利用頻度が減少し、地域のコミュニティが希薄化する恐れがあります。特に高齢者や低所得者にとっては、温泉利用の経済的負担が増大し、健康維持やリフレッシュの機会が奪われることとなります。</p> <p>次に、宿泊税についても同様に反対の立場を取ります。宿泊税は宿泊施設の利用者から徴収されるもので、主に観光客を対象としています。しかし、宿泊税の導入は観光業界に大きな負担を強いるものであり、その影響は観光地全体に及びることとなります。</p> <p>宿泊税の導入は、宿泊施設の料金を引き上げる要因となります。観光客にとって、宿泊費の増加は旅行の計画を見直す理由となり得ます。特に予算旅行者やファミリー層にとって、追加の税金は大きな経済的負担となります。これにより、観光客の数が減少し、地域の観光業が打撃を受けるリスクが高まります。観光客が減少すれば、宿泊施設だけでなく、観光地全体の経済が停滞することとなります。</p>	(P66に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
246	宿泊税の活用	<p>さらに、宿泊税の導入は宿泊施設の運営にも影響を与えます。宿泊施設は既に高い運営コストを抱えており、追加の税金はその負担をさらに増大させます。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は経営の持続可能性を脅かす要因となります。経営難に陥れば、宿泊施設の閉鎖や従業員の解雇などが発生し、地域の雇用状況にも悪影響を及ぼすこととなります。</p> <p>宿泊税の導入が観光業のイメージに与える影響も考慮すべきです。追加の費用負担を強調することで、旅行先としての魅力を損なう可能性があります。観光客にとって、追加の税金は旅行の楽しみを減少させる要因となり、旅行先の選択においてマイナスの要素となり得ます。また、宿泊税が国際的な観光地競争において不利な要素となる可能性もあります。仙台市が宿泊税を導入すれば、他の宿泊税が導入されていない観光地と比較して料金が高くなるため、観光客はより安価な宿泊地を選択する傾向があります。これにより、観光客の流れが変わり、仙台市の観光業が衰退するリスクが高まります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は長期的な観光戦略においても問題を引き起こす可能性があります。宿泊税の収益が確保されたとしても、その収益が観光業の持続可能な発展にどれだけ寄与するかは不透明です。観光業の振興には、持続的な投資と戦略的な計画が必要です。宿泊税の導入が短期的な解決策に過ぎないさらに、観光業界全体の競争力を強化するためには、観光業に従事するスタッフのサービススキルや外国語対応能力を向上させるためのトレーニングプログラムが重要です。観光客に対するホスピタリティを向上させることで、観光客が仙台市での滞在をより快適に感じ、再訪の意欲を高めることができます。</p> <p>また、地域の特産品や文化を活かしたお土産商品の開発も観光業の収益向上に寄与します。観光客にとって魅力的なお土産を提供することで、観光地での消費を促進し、地域経済の活性化につながります。地元の特産品を使ったオリジナル商品や、伝統的な工芸品を現代風にアレンジしたものなど、観光客が喜ぶ商品を開発することが重要です。</p> <p>加えて、観光プロモーション活動の強化も不可欠です。地域の魅力を広く知ってもらうために、SNSやウェブサイトを活用した情報発信を行うことが効果的です。また、国内外の旅行博覧会や観光イベントに参加し、仙台市の魅力を直接アピールすることで、新たな観光客を呼び込むことができます。特に、ターゲットとなる市場を明確にし、その市場に向けた戦略的なプロモーションを展開することが重要です。</p> <p>宿泊税の導入に対して反対する立場から見れば、観光業の振興には多様なアプローチがあることを示すことが大切です。宿泊税に頼るのではなく、観光業全体の競争力を強化し、持続可能な発展を目指すための施策を積極的に実施することで、地域経済の活性化と観光業の振興を両立させることができます。</p> <p>観光業の発展には、地域全体が一体となって取り組むことが求められます。観光業者だけでなく、地元住民や行政、教育機関、企業など、さまざまなステークホルダーが協力し合い、共通の目標に向かって進むことが重要です。これにより、観光業が地域社会にとって真に利益をもたらす、持続可能な発展を実現することができるでしょう。</p> <p>また、観光業の収益を最大化するための一つのアプローチとして、観光客の多様なニーズに応えることが挙げられます。例えば、高級志向の観光客向けのラグジュアリーサービスや、若年層をターゲットとしたアクティブな体験プログラム、家族連れに配慮したファミリー向けの施設整備など、ターゲットに応じたサービスを提供することで、観光客一人ひとりの満足度を高めることができます。</p> <p>さらに、観光業界全体の競争力を強化するための人材育成も重要です。観光業に従事するスタッフのサービススキルや外国語対応能力を向上させるためのトレーニングプログラムを導入することで、観光客に対するホスピタリティを向上させることができます。これにより、観光客が仙台市での滞在をより快適に感じ、再訪の意欲を高めることができます。</p> <p>また、地域の特産品や文化を活かしたお土産商品の開発も観光業の収益向上に寄与します。観光客にとって魅力的なお土産を提供することで、観光地での消費を促進し、地域経済の活性化につながります。地元の特産品を使ったオリジナル商品や、伝統的な工芸品を現代風にアレンジしたものなど、観光客が喜ぶ商品を開発することが重要です。</p> <p>加えて、観光プロモーション活動の強化も不可欠です。地域の魅力を広く知ってもらうために、SNSやウェブサイトを活用した情報発信を行うことが効果的です。また、国内外の旅行博覧会や観光イベントに参加し、仙台市の魅力を直接アピールすることで、新たな観光客を呼び込むことができます。特に、ターゲットとなる市場を明確にし、その市場に向けた戦略的なプロモーションを展開することが重要です。</p> <p>宿泊税の導入に対して反対する立場から見れば、観光業の振興には多様なアプローチがあることを示すことが大切です。宿泊税に頼るのではなく、観光業全体の競争力を強化し、持続可能な発展を目指すための施策を積極的に実施することで、地域経済の活性化と観光業の振興を両立させることができます。</p> <p>観光業の発展には、地域全体が一体となって取り組むことが求められます。観光業者だけでなく、地元住民や行政、教育機関、企業など、さまざまなステークホルダーが協力し合い、共通の目標に向かって進むことが重要です。これにより、観光業が地域社会にとって真に利益をもたらす、持続可能な発展を実現することができるでしょう。</p>	(P66に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
246	宿泊税の活用	<p>また、観光業の収益を最大化するための一つのアプローチとして、観光客の多様なニーズに応えることが挙げられます。例えば、高級志向の観光客向けのラグジュアリーサービスや、若年層をターゲットとしたアクティブな体験プログラム、家族連れに配慮したファミリー向けの施設整備など、ターゲットに応じたサービスを提供することで、観光客一人ひとりの満足度を高めることができます。</p> <p>さらに、観光業界全体の競争力を強化するための人材育成も重要です。観光業に従事するスタッフのサービススキルや外国語対応能力を向上させるためのトレーニングプログラムを導入することで、観光客に対するホスピタリティを向上させることができます。これにより、観光客が仙台市での滞在をより快適に感じ、再訪の意欲を高めることができます。</p> <p>また、地域の特産品や文化を活かしたお土産商品の開発も観光業の収益向上に寄与します。観光客にとって魅力的なお土産を提供することで、観光地での消費を促進し、地域経済の活性化につながります。地元の特産品を使ったオリジナル商品や、伝統的な工芸品を現代風にアレンジしたものなど、観光客が喜ぶ商品を開発することが重要です。</p> <p>加えて、観光プロモーション活動の強化も不可欠です。地域の魅力を広く知ってもらうために、SNSやウェブサイトを活用した情報発信を行うことが効果的です。また、国内外の旅行博覧会や観光イベントに参加し、仙台市の魅力を直接アピールすることで、新たな観光客を呼び込むことができます。特に、ターゲットとなる市場を明確にし、その市場に向けた戦略的なプロモーションを展開することが重要です。</p> <p>宿泊税の導入に対して反対する立場から見れば、観光業の振興には多様なアプローチがあることを示すことが大切です。宿泊税に頼るのではなく、観光業全体の競争力を強化し、持続可能な発展を目指すための施策を積極的に実施することで、地域経済の活性化と観光業の振興を両立させることができます。</p> <p>観光業の発展には、地域全体が一体となって取り組むことが求められます。観光業者だけでなく、地元住民や行政、教育機関、企業など、さまざま、宿泊税の導入は観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。</p> <p>加えて、宿泊税の導入に伴う行政の負担も増加することが予想されます。税の徴収、管理、運用に関するコストが発生し、行政のリソースを圧迫することになります。特に小規模な自治体にとって、宿泊税の導入は財政的な負担を増やすだけでなく、効果的な運用が難しい可能性もあります。さらに、宿泊税の収益がどのように使用されるかについても議論が必要です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、透明性が確保されない場合、不正な利用や無駄な支出が発生するリスクがあります。宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。</p> <p>地域住民の生活環境にも影響を与える可能性が高いです。観光客の増加は交通渋滞や騒音、ゴミの増加を引き起こし、地域住民の生活の質を下げます。住民の反発が強まると、地域全体の観光施策に対する支持が得られず、観光業の発展が阻害される可能性があります。</p> <p>宿泊税の収益が観光業の振興にどれだけ貢献するかも不透明です。税収が観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるべきですが、その使途が明確でない場合、効果的な運用が行われない可能性があります。特に、税収が他の財政支出に流用されることがあると、宿泊税の導入目的が達成されず、観光業の振興にはつながらない恐れがあります。(※原文のとおり)</p>	(P66に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
247	宿泊税の活用	<p>仙台市における宿泊税の導入に対して、ホテル業界の視点から反対する意見を述べたいと思います。現在の厳しい経済状況と物価高騰の影響を踏まえると、この政策はホテル業界に大きな打撃を与えることが懸念されます。</p> <p>まず、宿泊税の導入はホテルの料金に直接的な影響を与えます。ホテル業界は既に多くのコスト上昇に直面しており、特にエネルギー費や人件費、食材費の高騰が続いています。これに加えて宿泊税が導入されると、宿泊料金を引き上げざるを得ない状況に陥ります。料金の引き上げは、特に予算に限りのある観光客やビジネス旅行者にとって、仙台市を訪れる動機を削ぐ結果となります。結果として、宿泊客数の減少が予想され、ホテル業界全体の売上が低下する可能性が高まります。</p> <p>次に、宿泊税が導入されると、ホテルの経営に大きな負担がかかります。中小規模のホテルや家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は経営の持続可能性を脅かす要因となります。宿泊税による負担増加に伴い、施設の維持管理やサービスの質の向上に必要な投資が困難になる可能性があります。この結果、ホテルの魅力や競争力が低下し、さらに宿泊客数の減少を招く悪循環に陥る恐れがあります。</p> <p>また、宿泊税の導入が観光客の消費行動にも悪影響を及ぼすことが考えられます。宿泊費の増加に伴い、観光客は他のサービスやアクティビティに費やす予算を削減することが予想されます。これにより、レストランやショップ、観光施設など、ホテル以外の地域経済にも負の影響が波及します。観光客が少ない予算で楽しむこととすることで、地域全体の経済効果が低下するリスクがあります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入はホテル業界における経営戦略にも影響を及ぼします。ホテル業界は競争が激しく、料金設定やサービス内容の最適化が求められます。宿泊税の導入により、料金の引き上げが避けられない場合、競争力の低下が懸念されます。特に、宿泊税が導入されていない他の地域や国との比較において、仙台市の宿泊施設が選ばれにくくなる可能性があります。これにより、仙台市の観光業全体が衰退するリスクが高まります。</p> <p>宿泊税の収益がどのように使用されるかについても透明性が求められます。観光業の振興や地域のインフラ整備に充てられるべきですが、その用途が明確でない場合、効果的な運用が行われない可能性があります。税金が観光業の振興に寄与しない限り、宿泊税の導入はホテル業界にとって一方的な負担となり、地域経済の発展にも繋がりません。</p> <p>また、宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も無視できません。追加の費用は旅行の楽しさや魅力を損なう要因となり、旅行先の選択において仙台市を避ける理由となり得ます。これにより、観光客が他の地域や国を選択することで、仙台市の観光業が打撃を受けるリスクが高まります。</p> <p>物価高騰の影響も大きく感じられる現在、ホテル業界は既に多くの課題に直面しています。食品やエネルギー、労働力などのコストが上昇する中で、追加の税金負担はホテル業界にさらなる圧力をかけることになります。このような状況下で宿泊税を導入することは、ホテル業界の経営を一層困難にし、結果として地域全体の経済に悪影響を及ぼす可能性が高いです。</p> <p>宿泊税以外にも、観光業を振興するための多様なアプローチが考えられます。例えば、観光プロモーションの強化や観光資源の開発、地域住民との協働体制の構築などです。特に、観光施設の品質向上やサービスの向上、インフラ整備の充実、観光客の満足度を高め、再訪を促すために重要です。</p> <p>また、地域の特産品や文化を活かした新たな観光商品の開発も重要です。地元の特産品を使ったワークショップや歴史的建造物を巡るガイドツアーなど、ユニークで魅力的な体験を提供することで、観光客の滞在期間を延ばし、消費を促進することができます。</p> <p>観光業の発展には、地域全体が一体となって取り組むことが求められます。観光業者だけでなく、地元住民や行政、企業など、さまざまなステークホルダーが協力し合い、共通の目標に向かって進むことが重要です。これにより、観光業が地域社会にとって真に利益をもたらす、持続可能な発展を実現することができるでしょう。</p> <p>宿泊税の導入は、ホテル業界にとって多くの課題とリスクを伴います。物価高の影響が深刻な現状において、追加の税金負担は経営を一層困難にする要因となります。観光業の持続可能な発展を目指すためには、宿泊税以外の手段での財源確保や観光業の振興策を多角的に検討し、地域全体の協力で共に進めることが求められます。宿泊税の導入が観光業界に及ぼす影響を最小限に抑えつつ、地域経済の活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが重要です。</p>	<p>宿泊税の導入に際しましては、市民の皆様や宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様のご意見をいただきながら制度設計を行い、先の令和6年9月の市議会に条例案を提出し、お認め頂いたものでございます。</p> <p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊客数の減少はないものと把握しています。宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混雑が生じないよう周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。</p> <p>宿泊税の使途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
248	宿泊税の活用	<p>宿泊税に反対の立場です。</p> <p>まず、宿泊税の導入は観光業の価格弾力性に大きな影響を与えます。価格弾力性とは、価格の変動に対する需要の反応度を測る指標です。観光業においては、特に宿泊施設の料金が上昇することにより、需要の減少が顕著に現れることがあります。これは、旅行者が旅行先を選択する際の価格感受度が高いためです。宿泊税による料金の上昇は、観光客の旅行先選定の際に大きな阻害要因となり、結果として観光客数の減少を招く可能性があります。観光客が減少すれば、観光業全体の収益が減少し、持続可能な発展に寄与するための資金が確保できなくなります。</p> <p>次に、宿泊税の導入は観光業におけるキャパシティ制約を引き起こします。キャパシティ制約とは、供給能力が需要に対応しきれない状況を指します。宿泊税が導入されることで宿泊施設の料金が上昇し、宿泊客が減少する一方で、施設自体の運営コストは変わらないか、むしろ増加することがあります。これにより、宿泊施設はキャパシティの最大限を發揮できなくなり、経済効率性の低下を招きます。経済効率性が低下すれば、観光業全体の競争力も低下し、持続可能な発展を阻害する要因となります。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は外部不経済を助長する可能性があります。外部不経済とは、経済活動が第三者に対して負の影響を及ぼすことを指します。宿泊税が導入されることで、宿泊施設の料金が上昇し、宿泊客の減少が予想されます。これにより、観光客が他の宿泊地を選択することが増え、観光業の集中による環境負荷が他地域に移転する可能性があります。また、観光業が衰退することで、地域の経済活動が停滞し、失業率の上昇や地域コミュニティの崩壊といった社会的問題が生じるリスクもあります。</p> <p>持続可能な発展を実現するためには、経済的、社会的、環境的な側面がバランスよく考慮される必要があります。宿泊税の導入はこれらのバランスを崩す可能性があります。まず、経済的な側面では、宿泊税が観光業の収益を減少させ、地域経済の活性化を妨げる可能性があります。観光客が減少すれば、観光地での消費も減少し、地元の商店や飲食店、観光施設の収益が低下します。これにより、地域の経済成長が停滞し、持続可能な発展が困難になります。</p> <p>社会的な側面では、宿泊税の導入が地域住民と観光客との間に摩擦を生む可能性があります。観光業が地域住民の生活に直接的な利益をもたらすわけではなく、むしろ観光客の増加による交通渋滞や騒音、ゴミの増加など、生活環境への負担が増えることが多いです。宿泊税の導入が観光業を支援するためのものであると説明されても、住民の理解と協力を得るのは容易ではありません。住民の反発が強まると、地域全体の観光施策に対する支持が得られず、観光業の発展が阻害される可能性があります。</p> <p>環境的な側面でも、宿泊税の導入は持続可能な発展に対する貢献度が疑問視されます。観光業は環境に対して多大な影響を与えることがあり、特に過度な観光開発は自然環境の破壊や生態系の乱れを引き起こす可能性があります。宿泊税が導入されることで、観光業の収益が減少し、環境保護のための投資が削減されるリスクがあります。これにより、地域の自然環境が劣化し、持続可能な観光業の発展が困難になる可能性があります。</p> <p>宿泊税が持続可能な発展に貢献しない理由を総合的に考えると、経済的なデメリット、社会的な摩擦、環境への影響など、多くの課題が浮かび上がります。持続可能な発展を実現するためには、宿泊税以外の方法での財源確保や観光業の振興策を検討する必要があります。例えば、観光業全体の収益を増やすためのプロモーション活動や、インフラ整備のための補助金制度の導入、地域資源を活用した新たな観光商品の開発など、多角的なアプローチが求められます。</p> <p>観光業の競争力を高めるためには、観光施設の品質向上やサービスの向上、インフラ整備の充実も欠かせません。また、観光客の多様なニーズに応えるためのサービス向上や、地域の魅力を効果的に発信するマーケティング戦略の強化も重要です。これにより、観光客の満足度を高め、再訪を促すことで、持続可能な発展が実現できるでしょう。</p> <p>結論として、宿泊税の導入は持続可能な発展に貢献するとは言えません。経済的、社会的、環境的な側面から見ても、多くの課題とリスクが伴います。持続可能な発展を目指すためには、宿泊税以外の手段での財源確保や観光業の振興策を多角的に検討し、地域全体の協力で共に進めることが求められます。宿泊税の導入が観光業界に及ぼす影響を最小限に抑えつつ、地域経済の活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが重要です。</p>	<p>宿泊税の導入に際しましては、市民の皆様や宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様のご意見をいただきながら制度設計を行い、先の令和6年9月の市議会に条例案を提出し、お認め頂いたものでございます。</p> <p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないよう周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。</p> <p>また、オーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。</p> <p>宿泊税の用途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、用途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
249	宿泊税の活用	<p>宿泊税が導入されるという話を聞いて、正直とても不安です。私たちがただこの街に住んでいるだけで宿泊税を支払わなければならないなんて、本当に納得できません。まず、私たちが普段から税金を支払っているにもかかわらず、さらに宿泊税を支払う必要があるというのは、過度な負担だと感じます。物価が上昇して生活費が増えている中で、さらに税金の負担が増えるなんて、とても耐えられないです。私たちの生活は既に厳しい状況にあります。毎日の食費や公共料金、住宅費など、多くの出費があります。そこに新たな税金が加わることで、経済的な余裕がさらに奪われてしまいます。また、宿泊税がどのように私たちに適用されるのかもよくわかりません。普段の生活で宿泊施設を利用することはほとんどありませんが、それでも住んでいるだけで宿泊税を払う必要があるのでしょうか。これでは、私たちが旅行に出かけるたびに余計な費用がかかるだけでなく、家にいるだけでも負担が増えることになります。全く理不尽です。さらに、この宿泊税がどのように使われるのかも不透明です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるといいですが、その具体的な使途が明確でない限り、私たちが納得できるわけがありません。私たちの税金がどのように使われるのか、透明性が確保されなければ信頼できません。また、宿泊税が導入されることで観光客が減少し、地域の経済が停滞することも懸念されます。観光客が減れば、観光地の飲食店や小売店、宿泊施設が大きな打撃を受けることになります。観光業が地域経済の大きな柱である中で、宿泊税の導入がその成長を阻害することは避けなければなりません。私たちが住んでいるだけで宿泊税を支払う必要があるというこの政策には強く反対します。</p> <p>生活費が増え続ける中で、これ以上の税金負担は受け入れられません。宿泊税の導入が私たちの生活に与える影響を十分に考慮し、より公正で透明性のある政策を求めます。私たちの声を無視せず、慎重な判断をお願いしたいです。宿泊税が導入されるという話を聞いて、正直とても不安です。私たちがただこの街に住んでいるだけで宿泊税を支払わなければならないなんて、本当に納得できません。まず、私たちが普段から税金を支払っているにもかかわらず、さらに宿泊税を支払う必要があるというのは、過度な負担だと感じます。物価が上昇して生活費が増えている中で、さらに税金の負担が増えるなんて、とても耐えられないです。私たちの生活は既に厳しい状況にあります。毎日の食費や公共料金、住宅費など、多くの出費があります。そこに新たな税金が加わることで、経済的な余裕がさらに奪われてしまいます。物価高が続く現状では、日々の生活がますます大変ななっています。特に食品や生活必需品の価格が上昇しているため、私たちの家計は圧迫されています。生活費の負担が増加する中で、宿泊税の導入は私たちにさらなる経済的な重荷となります。高齢者や低所得者層にとって、この追加の負担は特に深刻です。日々の生活を切り詰めている中で、さらに税金を払わなければならないなんて、本当に耐え難いです。また、宿泊税がどのように私たちに適用されるのかもよくわかりません。普段の生活で宿泊施設を利用することはほとんどありませんが、それでも住んでいるだけで宿泊税を払う必要があるのでしょうか。これでは、私たちが旅行に出かけるたびに余計な費用がかかるだけでなく、家にいるだけでも負担が増えることになります。全く理不尽です。さらに、この宿泊税がどのように使われるのかも不透明です。観光業の振興や地域のインフラ整備に使われるといいですが、その具体的な使途が明確でない限り、私たちが納得できるわけがありません。私たちの税金がどのように使われるのか、透明性が確保されなければ信頼できません。また、宿泊税が導入されることで観光客が減少し、地域の経済が停滞することも懸念されます。観光客が減れば、観光地の飲食店や小売店、宿泊施設が大きな打撃を受けることになります。観光業が地域経済の大きな柱である中で、宿泊税の導入がその成長を阻害することは避けなければなりません。私たちが住んでいるだけで宿泊税を支払う必要があるというこの政策には強く反対します。生活費が増え続ける中で、これ以上の税金負担は受け入れられません。宿泊税の導入が私たちの生活に与える影響を十分に考慮し、より公正で透明性のある政策を求めます。私たちの声を無視せず、慎重な判断をお願いしたいです。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。そのことにより、市民の皆様にとっても身近に観光を楽しむ環境づくりにつながるものと考えております。</p> <p>宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしており、例えば、仙台ゆかりの漫画・アニメの活用や、宿泊につながるナイトイベントの長期開催・常設化、観光の基盤である宿泊事業者支援など、毎年度の予算編成において具体の活用事業をお示ししてまいります。</p> <p>税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
250	宿泊税の活用	<p>私は市民の一人として、仙台市に対して一般財源の範囲内で行える事業に注力するよう意見したいと思います。特に、宿泊税の導入を避けるべきであると強く訴えます。宿泊税の導入は観光業界に大きな負担をかける可能性があり、地域全体の経済に悪影響を及ぼすことが懸念されます。それに対して、一般財源を活用することで市民や観光客に過度な負担をかけることなく、持続可能な発展を実現できると考えます。まず、一般財源を活用して行える事業の一つとして、地域のインフラ整備があります。道路や公共交通機関の整備、公園や公共施設の改修など、住民や観光客が利用しやすい環境を整えることは非常に重要です。これにより、観光客が快適に過ごせる環境が整備され、地域の魅力が向上します。特に、公共交通機関の整備は観光客にとって重要であり、観光地へのアクセスが向上することで観光客の増加が期待できます。また、地域住民にとっても利便性が向上し、生活の質の向上にもつながります。次に、地域の魅力を発信するためのプロモーション活動も一般財源で実施可能です。観光地の魅力を広く知ってもらうために、SNSやウェブサイトを活用した情報発信を行うことが効果的です。国内外の旅行博覧会や観光イベントに参加し、仙台市の魅力を直接アピールすることで、新たな観光客を呼び込むことができます。特に、ターゲットとなる市場を明確にし、その市場に向けた戦略的なプロモーションを展開することが重要です。これにより、観光客の数を増やし、地域経済の活性化につなげることができます。さらに、地域資源を活用した新たな観光商品の開発も重要です。地元の特産品を使ったワークショップや歴史的な建造物を巡るガイドツアー、自然を楽しむアクティビティなど、多様な体験プログラムを開発することで、観光客にとってユニークで魅力的な訪問先となり、滞在期間を延ばしたり再訪を促したりすることができます。これにより、観光客の消費を促進し、地域経済の活性化に寄与することができます。</p> <p>また、一般財源を活用して地域住民との協力的体制を強化することも重要です。観光業は地域住民の協力があってこそ成り立つものであり、地域住民と観光客が互いに理解し合い、良好な関係を築くことが必要です。地域住民が観光業に参加することで、地域の魅力がさらに高まり、観光業の持続可能な発展が実現します。例えば、地元のイベントや祭りに観光客を巻き込むことで、地域の文化や伝統を広く知ってもらうことができます。地域住民が観光客に対してホスピタリティを提供することで、観光客の満足度が向上し、再訪を促す効果も期待できます。加えて、観光業界全体の競争力を強化するための人材育成も一般財源で行うことができます。観光業に従事するスタッフのサービススキルや外国語対応能力を向上させるためのトレーニングプログラムを導入することで、観光客に対するホスピタリティを向上させることができます。これにより、観光客が仙台市での滞在をより快適に感じ、再訪の意欲を高めることができます。観光業の持続可能な発展を目指すためには、多角的なアプローチが求められます。宿泊税に頼るのではなく、一般財源を活用して地域全体の協力を共に進めることが重要です。宿泊税の導入が観光業界に及ぼす影響を最小限に抑えつつ、地域経済の活性化を図るための具体的な施策を考えていくことが必要です。宿泊税の導入は観光業界に大きな負担を強いるものであり、その影響は観光地全体に及びこととなります。観光客にとって、宿泊費の増加は旅行の計画を見直す理由となり得ます。特に、予算旅行者やファミリー層にとって、追加の税金は大きな経済的負担となります。これにより、観光客の数が減少し、地域の観光業が打撃を受けるリスクが高まります。観光客が減少すれば、宿泊施設だけでなく、観光地全体の経済が停滞することになります。さらに、宿泊税の導入は宿泊施設の運営にも影響を与えます。宿泊施設は既に高い運営コストを抱えており、追加の税金はその負担をさらに増大させます。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、追加の税金は経営の持続可能性を脅かす要因となります。経営難に陥れば、宿泊施設の閉鎖や従業員の解雇などが発生し、地域の雇用状況にも悪影響を及ぼすこととなります。宿泊税の導入が観光客の消費行動にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊費が増加することで、観光客は他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。一般財源の活用は、これらの問題を解決するための有効な手段です。地域全体の利益を考え、持続可能な観光業の発展を目指すために、一般財源を活用した事業を進めるべきです。観光業の振興や地域経済の活性化のためには、多角的なアプローチが必要であり、宿泊税に頼らない解決策を模索することが求められます。観光業の収益を最大化するための一つのアプローチとして、観光客の多様なニーズに応えることが挙げられます。例えば、高級志向の観光客向けのラグジュアリーサービスや、若年層をターゲットとしたアクティブな体験プログラム、家族連れに配慮したファミリー向けの施設整備など、ターゲットに応じたサービスを提供することで、観光客一人ひとりの満足度を高めることができます。さらに、観光業界全体の競争力を強化するための人材育成も重要です。観光業に従事するスタッフのサービススキルや外国語対応能力を向上させるためのトレーニングプログラムを導入することで、観光客に対するホスピタリティを向上させることができます。これにより、観光客が仙台市での滞在をより快適に感じ、再訪の意欲を高めることができます。また、地域の特産品や文化を活かしたお土産商品の開発も観光業の収益向上に寄与します。観光客にとって魅力的なお土産を提供することで、観光地での消費を促進し、地域経済の活性化につながります。地元の特産品を使ったオリジナル商品や、伝統的な工芸品を現代風にアレンジしたものなど、観光客(※原文のとおり)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないように周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。</p> <p>また、観光予算は、施策を毎年度細かく見直しを行いながら予算編成を行い、一般財源はおよそ15億円程度を確保していますが、市全体の現行の予算の中でさらに増額して、観光への期待に応える新たな取り組みを実施するための財源を確保することは難しい状況です。宿泊税の使途につきまして、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p> <p>いただいたインフラの整備やプロモーションに関するご意見については、今後の観光施策の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
251	宿泊税の活用	<p>私は、市民として強い懸念を抱いています。なぜなら、最近明らかになった情報によれば、仙台市が透明性のない会議で宿泊税の導入を密かに決定しようとしているという実態があるからです。これは、市民の信頼を裏切るものであり、透明性や公平性が全く確保されていないことを強く非難します。</p> <p>まず、宿泊税の導入が市民に大きな影響を与える政策であるにもかかわらず、その決定が不透明な会議で行われていること自体が問題です。私たち市民は、この地域に住む上で影響を受ける政策について知る権利があります。特に、宿泊税の導入は観光業だけでなく、地域経済全体に及ぼす影響が大きいため、その決定プロセスには最大限の透明性が求められるはずです。しかし、実際には市民への説明や意見聴取が行われておらず、一部の関係者だけで密かに決められています。</p> <p>また、宿泊税の導入に関する会議が公開されていないことも重大な問題です。公開されない会議では、公平な議論が行われる保証がありません。特定の利害関係者の意見が優先され、市民全体の利益が無視されるリスクが高まります。このような不透明なプロセスでは、市民の意見や懸念が反映されず、政策決定が偏ったものとなる恐れがあります。市民の信頼を得るためには、会議の内容や議論の経過を公開し、透明性を確保することが不可欠です。</p> <p>さらに、宿泊税の導入が市民生活に与える影響についても十分な議論が行われていないと考えられます。宿泊税は観光業に直接影響を与えるだけでなく、地域全体の経済に波及する影響があります。例えば、宿泊料金の上昇は観光客の減少を招き、地域経済が停滞する可能性があります。また、観光業者や宿泊施設の経営に対する負担も増大し、地域全体の活力が失われる恐れがあります。</p> <p>これらの影響について十分に議論せずに決定が行われることは、市民に対する背信行為と言えます。宿泊税の導入に関するプロセスが透明性を欠いていることは、市民の信頼を大きく損なうものです。透明性のない決定プロセスでは、市民の意見や利益が軽視され、政策の正当性が疑われることとなります。特に、宿泊税のような重要な政策については、市民全体の意見を反映させるための十分な議論と説明が求められます。しかし、現状ではそのような透明性が確保されていないため、宿泊税の導入を強く非難します。</p> <p>私は、この透明性のない会議の実態を暴露し、宿泊税の導入に反対します。市民が政策決定プロセスに参加し、意見を述べる機会が確保されるべきです。市民の声が反映されない政策は、市民の信頼を失い、地域全体の発展を阻害する要因となります。私は、市民の意見を尊重し、透明性と公平性を確保した政策決定プロセスを強く求めます。</p> <p>宿泊税の導入を進めるのであれば、その決定プロセスは透明性があり、市民に対して公開されるべきです。会議の内容や議論の経過を公開し、市民がその決定に対して意見を述べる機会を提供することが必要です。また、宿泊税の導入が地域経済や市民生活にどのような影響を与えるかについて、十分な調査と説明が行われるべきです。市民の信頼を取り戻すためには、政策決定プロセスの透明性と公平性を確保することが最も重要です。</p> <p>私は、市民としての権利を主張し、宿泊税の導入に反対するだけでなく、その決定プロセスにおいて透明性と公平性が確保されることを強く求めます。市民の意見を尊重し、公開された形での議論を通じて、地域全体の利益を最大限に反映した政策を策定することが、地域社会の持続可能な発展につながると信じています。透明性のない会議で勝手に宿泊税を導入することは、市民の信頼を裏切る行為であり、これを強く非難します。市民の声を無視せず、透明性と公平性を確保した政策決定プロセスを求めます。</p>	<p>宿泊税の導入に際しましては、市内の宿泊事業者団体の代表者などで構成された「交流人口拡大推進検討会議」を令和2年から令和6年にかけて9回開催し、議論を重ねてまいりました。検討会議は公開で開催しており、その資料や議事録は下記の仙台市ホームページでも公表しているほか、その様子はテレビや新聞でも報道いただいております。  <a href="https://www.city.sendai.jp/kankokikaku/zaigennkenntou.kaisaijoukyou.html">https://www.city.sendai.jp/kankokikaku/zaigennkenntou.kaisaijoukyou.html</a></p> <p>また、第8回検討会議までの議論を「今後の交流人口拡大施策及び財源確保の方向性(案)」として取りまとめ、パブリックコメントを実施したほか、宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様のご意見をいただきながら宿泊税の制度設計を行い、先の令和6年9月の市議会に条例案を提出し、お認め頂いたものでございます。税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
252	宿泊税の活用	<p>入湯税や宿泊税の支払いが観光客に義務付けられる一方で、彼らがそのメリットを感じる事が少ないという問題は、観光業界全体にとって重要な課題です。以下に、この問題について詳しく論じ、税金の負担が観光客にどのように影響を与え、その結果として生じる課題について詳述します。</p> <p>まず、入湯税や宿泊税とは何かについて説明します。入湯税は、温泉地や入浴施設を利用する際に課される税金であり、通常は宿泊料金に含まれて徴収されます。一方、宿泊税は、ホテルや旅館などの宿泊施設を利用する際に課される税金であり、地域によってその税率や徴収方法は異なります。これらの税金は、地域の観光振興やインフラ整備に使われることが多いですが、観光客にとっては追加の費用負担となります。</p> <p>観光客が入湯税や宿泊税を支払うことに対してメリットを感じられない理由の一つは、税金の使途が明確に示されていないことです。観光客にとって、支払った税金が具体的にどのように使われるのかが分かなければ、その支払いに対する納得感が得られません。例えば、温泉地や宿泊施設の改善や地域の観光インフラ整備に使われると言われても、その具体的な成果が見えにくい場合、観光客は税金の支払いに対する価値を感じる事が難しくなります。この問題を解決するためには、税金の使途を透明にし、その成果を観光客に分かりやすく示すことが必要です。</p> <p>次に、税金の負担が観光客の旅行計画に与える影響について考えます。観光客が旅行先を選ぶ際には、宿泊費や入浴料などの総費用を考慮します。追加の税金が課されることで、旅行の総費用が増加し、結果として旅行先の選択に影響を与えることがあります。特に、予算に限りのある観光客にとっては、税金の負担が旅行先の決定に大きく影響する要因となります。これにより、税金が導入されていない他の地域や国を選ぶ観光客が増加する可能性があります。その結果、地域の観光業が衰退し、観光収入が減少するリスクがあります。</p> <p>さらに、税金の負担が観光客の消費行動に与える影響も無視できません。観光客が宿泊費や入浴料に追加の税金を支払うことで、他の活動や体験に費やす予算を削減することが考えられます。例えば、観光地での食事やショッピング、アクティビティへの支出が減少することで、地域全体の経済効果が低下することが懸念されます。観光客が少ない予算で楽しもうとすることで、地域の飲食店や小売業者、観光施設に対する影響も無視できません。このように、税金の負担が観光地全体の経済に与える影響は大きく、慎重に考慮する必要があります。</p> <p>さらに、入湯税や宿泊税の導入が観光客に与える心理的な影響も重要です。旅行先での追加費用は計画外の支出となり、旅行全体の満足度を下げる要因となります。特に、国際的な観光客にとって、異なる税制に対応することは混乱を招き、旅行先としての魅力が低下する可能性があります。これにより、観光客が他の地域や国を選択する動機となり、結果として観光収益の減少につながる恐れがあります。観光客が快適で満足度の高い旅行を楽しむためには、追加の費用負担を最小限に抑えることが重要です。</p> <p>この問題に対処するためには、いくつかのアプローチが考えられます。まず、税金の使途を透明にし、その成果を観光客に分かりやすく示すことが必要です。例えば、税金を使ってどのようなインフラ整備が行われたのか、観光施設の改善がどのように行われたのかを具体的に示すことで、観光客に対する納得感を高めることができます。また、観光客に対して税金の使途に関する情報を提供するパンフレットやウェブサイトを作成し、情報の透明性を確保することが重要です。</p> <p>次に、税金の負担を軽減するための措置を講じることも考えられます。例えば、一定の条件を満たす観光客に対して税金の減免措置を適用することで、観光客の負担を軽減することができます。また、地域住民や長期滞在者に対して税金の負担を軽減する措置を講じることで、地元経済の活性化にもつながります。このように、税金の負担を柔軟に調整することで、観光客の旅行意欲を高めることができます。</p> <p>さらに、観光客に対して税金の支払いに対するメリットを感じてもらうための施策も重要です。例えば、税金を支払った観光客に対して特典やサービスを提供することで、支払いに対する満足度を高めることができます。具体的には、税金を支払った観光客に対して割引クーポンや特別な体験プログラムを提供することで、観光客がその支払いに対する価値を感じられるようにします。このように、税金の支払いに対するメリットを明確に示すことで、観光客の納得感を高めることができます。</p> <p>また、税金の使途に関する情報を観光客に提供するだけでなく、その成果を実際に感じてもらうための取り組みも重要です。例えば、税金を使って整備された観光施設やインフラを積極的にPRし、観光客にその成果を体験してもらうことで、税金の支払いに対する理解と納得感を高めることができます。また、観光客に対して地域の観光振興に対する貢献を実感してもらうためのイベントやキャンペーンを開催することで、税金の支払いに対するポジティブなイメージを形成することができます。</p> <p>最後に、観光客とのコミュニケーションを強化し、税金に対する理解を深めることが重要です。観光客に対して税金の使途やその成果について丁寧に説明することで、観光客の理解と納得感を高めることができます。例えば、観光案内所や宿泊施設で税金に関する情報を提供するパンフレットを配布し、観光客がその情報にアクセスしやすい環境を整えることが考えられます。また、観光客からのフィードバックを積極的に受け付け、その意見を反映させることで、税金の使途に対する透明性と信頼性を高めることができます。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。</p> <p>宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。条例においては、一人一泊素泊まりで6,000円未満の宿泊料金には課税しないことや、学校の教育活動に伴う宿泊に対しては課税免除とすることとしており、税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p> <p>宿泊客の皆様に対する周知・広報を徹底していくとともに、宿泊税の毎年の税収や使途については、仙台市ホームページなどでわかりやすくお伝えしてまいります。</p> <p>なお、入湯税の具体的な税収額や詳しい使途については下記ホームページで公開しておりますので、ご覧ください。  <a href="https://www.city.sendai.jp/shikin/shise/zaise/zaimu/zaise/sendaiishi/mokutekize.html">https://www.city.sendai.jp/shikin/shise/zaise/zaimu/zaise/sendaiishi/mokutekize.html</a></p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
253	宿泊税の活用	<p>私が旅行者として宿泊税を徴収することに反対する理由をお伝えします。</p> <p>まず、旅行者としては、旅先での宿泊費用が上昇することは非常に負担になります。旅行には多くの費用がかかりますが、特に宿泊費は大きな割合を占めます。宿泊税が導入されることで、その費用がさらに増えることは、旅行計画全体に影響を与えます。予算を考慮して旅行先を選ぶ際に、宿泊税がかかる場所を避ける傾向が強まります。</p> <p>次に、旅行者としては、宿泊税の導入によって得られるメリットが見えにくいという点も問題です。宿泊税が観光地のインフラ整備や観光振興に使われると言われても、その効果が実感できるまでには時間がかかります。旅行者にとっては、宿泊税を支払っても、その対価として直ちに感じられるメリットがほとんどないため、不満が募るばかりです。</p> <p>さらに、宿泊税の導入は旅行者の選択肢を狭めることにもつながります。特に予算に限りがある旅行者や学生、ファミリー層にとっては、宿泊税の負担が重くのしかかります。これにより、旅行先を選ぶ際に宿泊税のかからない地域や国を選ぶ傾向が強まり、結果として宿泊税を導入した地域の観光業が打撃を受ける可能性があります。</p> <p>また、宿泊税は観光客の消費行動にも影響を及ぼします。宿泊費が増加することで、旅行者は他のアクティビティや食事、ショッピングに費やす予算を削減することになります。これにより、地元の飲食店や小売業者、観光施設への支出が減少し、地域経済全体に悪影響を及ぼす恐れがあります。</p> <p>最後に、旅行者としては、透明性のない宿泊税の導入プロセスにも不満を感じます。宿泊税がどのように決定され、どのように使われるのかが明確でない場合、旅行者はその正当性に疑問を抱きます。旅行者が納得できるような透明なプロセスがない限り、宿泊税に対する反発は続くでしょう。</p> <p>以上の理由から、私は旅行者として宿泊税を徴収することに反対します。宿泊税が導入されることで旅行者が感じる負担や不満を十分に考慮し、旅行者にとってメリットが感じられる形の施策を検討していただきたいと強く願います。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。</p> <p>宿泊税の導入に際しましては、市民の皆様や宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様のご意見をいただきながら制度設計を行い、先の令和6年9月の市議会に条例案を提出し、お認め頂いたものでございます。</p> <p>宿泊客の皆様に対しては、リーフレットやポスターなどの広報物を作成するほか、各交通機関の主要な駅などに広告を掲載するなどにより、周知を徹底していくとともに、税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>
254	宿泊税の活用	<p>宿泊税を徴収することについて旅行者の立場から反対する理由をいくつかの視点で述べたいと思います。</p> <p>旅行者として、宿泊税が旅行費用を増加させることで、旅行計画全体に影響を与えることが非常に大きな負担になります。旅行先を選ぶ際に宿泊税がかかる場所を避ける傾向が強まり、結果として観光地の宿泊施設の収益が低下する可能性があります。また、宿泊税の導入によって得られるメリットが見えにくいことも問題です。宿泊税が観光地のインフラ整備や観光振興に使われると言われても、その効果が実感できるまでには時間がかかり、旅行者にとっては直ちに感じられるメリットがほとんどないため、不満が募るばかりです。次に、宿泊業者の視点から見ても宿泊税の導入は経営に直接的な負担を与える可能性があります。宿泊料金を引き上げざるを得ない場合、そのコストはお客様に転嫁され、結果として宿泊客数の減少を招く可能性があります。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとって、宿泊税の負担は経営の持続可能性を脅かす要因となり、宿泊客数の減少が売上の減少を意味し、最終的には従業員の解雇や施設の閉鎖といった深刻な問題を引き起こす恐れがあります。地元住民の視点からも宿泊税の導入は観光業に及ぼす影響について懸念があります。観光客が減少すれば、観光地全体の経済が停滞する可能性があります。観光業は地域経済の重要な柱であり、多くの雇用を生み出していますが、観光客が減少することで地元の飲食店や小売店、観光施設も打撃を受けることになります。宿泊税の収益が地域のインフラ整備や観光振興に使われるとされても、その具体的な使途や効果が明確でない場合、地元住民の理解と支持を得ることは難しいでしょう。環境保護の観点から見ると、宿泊税の導入が持続可能な観光にどう貢献するのか疑問です。(次ページへ続く)</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。</p> <p>また、宿泊税の税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
254	宿泊税の活用	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けて強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。また、宿泊税の税収の用途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>	(P76に記載)
255	宿泊税の活用	<p>宿泊税の導入には多くの懸念があります。まず、旅行者としては、宿泊費の増加が予算に大きな影響を与え、旅行先を選ぶ際に負担が増すため不公平です。また、宿泊税の具体的なメリットが見えにくく、支払うことに対する納得感がありません。宿泊業者にとっても、宿泊税の負担は経営の持続可能性を脅かし、顧客離れを引き起こす可能性があります。さらに、観光業全体に悪影響を及ぼし、地域経済の活性化を妨げる恐れがあります。環境保護の観点からも、宿泊税の効果が明確でないため、その収益がどのように活用されるのかが不透明です。宿泊税の導入は、全体として旅行者や地域社会にとって多くの問題を引き起こす可能性が高いため、慎重に検討する必要があります。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないように周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。宿泊税の用途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、用途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>
256	宿泊税の活用	<p>仙台市が検討している宿泊税の導入に対し、強く反対する理由を述べます。特に、用途不明な宿泊税の徴収は、市民および旅行者に対して不透明かつ不公平であると考えます。まず、宿泊税の具体的な用途が明確に示されていないことは大きな問題です。税金は市民や旅行者から集められるものであり、その使い道が不透明であれば納税者の信頼を得ることはできません。宿泊税がどのように利用されるのか、具体的な計画や目的が明確にされない限り、その導入には賛同できません。次に、宿泊税は旅行者にとって追加の経済的負担を強いるものです。観光を楽しむために訪れる旅行者に対して、用途不明な税金を課すことは、公正性に欠けると感じます。旅行者はすでに宿泊費、交通費、食費など多くの費用を負担しており、さらに宿泊税を加えることで旅行の魅力が減少し、観光客が減少する恐れがあります。また、宿泊税の導入が地域経済に及ぼす影響も懸念されます。特に、中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊業者にとって、追加の税金負担は経営の持続可能性を脅かす要因となります。宿泊客数の減少は、地域全体の経済に悪影響を及ぼし、観光業が停滞する可能性があります。さらに、宿泊税の徴収プロセスが不透明であることは、市民および旅行者の信頼を損なう要因となります。透明性が確保されていない状況では、税金の適正な利用に対する懸念が生じ、納税者からの支持を得ることは困難です。市民や旅行者に対して信頼を取り戻すためには、税金の用途を明確にし、透明なプロセスを確立することが必要です。以上の理由から、用途不明の宿泊税の導入には強く反対します。市民および旅行者が納得できるような具体的な用途を示し、透明性を確保した上で政策の再検討を求めます。観光業の持続可能な発展と地域経済の活性化を目指し、市民および旅行者の利益を最優先に考えた施策を実施していただきたいです。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。また、宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないように周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。宿泊税の用途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるよう施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、用途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
257	宿泊税の活用	<p>たとえ宿泊税の使途が明確になったとしても、宿泊税の導入にはいくつかの理由で反対します。まず、宿泊税の導入は観光客に対して追加の経済的負担を強いるものであり、観光地としての競争力を低下させるリスクがあります。観光客は宿泊費用が増えることで旅行の予算を見直さざるを得なくなり、その結果として他の観光地を選ぶ傾向が強まる可能性があります。特に、予算を重視する旅行者や学生、家族連れの旅行者にとって、宿泊税は大きな負担となり得ます。次に、宿泊税の収益がどのように使われるかが明確であっても、その効果が直ちに感じられるわけではありません。観光地のインフラ整備や観光振興に使われるとしても、その成果が観光客にとって実感できるまでには時間がかかります。短期間で効果が見えない場合、観光客は納得感を得られず、税金の負担を不公平に感じる可能性があります。さらに、宿泊税の導入は宿泊業者にも大きな影響を与えます。宿泊費が上昇することで予約が減少し、特に中小規模の宿泊施設や家族経営の宿泊施設にとっては経営の持続可能性が脅かされるリスクがあります。宿泊業者が経営難に陥れば、従業員の解雇や施設の閉鎖が相次ぎ、地域経済全体に悪影響を及ぼす恐れがあります。地域住民の視点からも、宿泊税の導入には慎重な検討が必要です。観光客が減少することで地域の飲食店や小売店、観光施設が打撃を受ける可能性があり、地域経済の活性化が阻害されるリスクがあります。宿泊税の収益が地域のために使われるとしても、その効果が実感できなければ住民の理解と支持を得ることは難しいでしょう。環境保護の観点から見ても、宿泊税の効果が十分に発揮されるかどうかは不透明です。観光地の環境保護や保全活動に使われるとしても、その収益がどれだけ効果的に使われるかが問題となります。観光収益が減少すれば、環境保護プロジェクトへの資金が不足し、結果として自然環境が劣化するリスクもあります。持続可能な観光を実現するためには、宿泊税以外にも資金を確保する方法を考える必要があります。宿泊税の導入には多くの課題があり、その効果や影響を十分に考慮しなければなりません。宿泊税以外にも観光地の発展や環境保護に資金を充てる方法を模索し、地域全体の利益を考慮した施策を実施することが求められます。宿泊税の導入が観光客や地域社会に与える影響を最小限に抑え、持続可能な発展を目指すための具体的な対策を講じることが重要です。宿泊税が導入されることで負担が増える現状では、旅行者にとってのメリットが感じられる形での施策を再検討し、より公平で納得のいく方法を探ることが必要です。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。宿泊税の税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>
258	宿泊税の活用	<p>宿泊税反対します。宿泊税の導入が少子高齢化を加速させる可能性について考えてみましょう。まず、宿泊税は観光業界やその関連産業に大きな影響を与える可能性があります。観光客が減少すれば、地元の経済に悪影響が及び、特に若年層の雇用機会が減少する恐れがあります。若者が仕事を求めて都会に移動することが増え、地方の過疎化が進む可能性があります。地方の若者の流出は、地域の少子高齢化を一層深刻化させる要因となります。さらに、観光収入が減少することで、地域のインフラや公共サービスへの投資が減少し、住みやすい環境が失われることも考えられます。これにより、家族を持つ若い世代が他の地域に移住する動機が強まり、地域の出生率が低下する可能性があります。高齢者の割合が増加し、地域全体の人口構造が高齢化するリスクも高まります。また、宿泊税の負担が増すことで、観光客が減少し、地元の経済活動が停滞すると、高齢者の生活にも直接的な影響が出るかもしれません。例えば、観光業に依存している地域では、宿泊税の導入により観光客が減少し、地元の経済が悪化することで、高齢者向けのサービスや施設の維持が困難になることがあります。これにより、高齢者の生活の質が低下し、地域全体の活力が失われる可能性があります。宿泊税の導入が少子高齢化を加速させるリスクを十分に考慮し、地域の実情に即した政策の検討が必要です。観光業の発展と地域経済の活性化を両立させるためには、宿泊税以外の手段で資金を確保する方法を模索し、地域全体の利益を考慮した施策を実施することが求められます。宿泊税の導入が観光業と地域社会に与える影響を最小限に抑え、持続可能な発展を目指すための具体的な対策を講じることが重要です。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。また、宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。例えば、仙台ゆかりの漫画・アニメの活用や、宿泊につながるナイトイベントの長期開催・常設化、観光の基盤である宿泊事業者支援など、毎年度の予算編成において具体的な活用事業をお示するとともに、税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
259	宿泊税の活用	私はホテルのフロントスタッフとして、宿泊税の導入がもたらす影響についてお話しさせていただきます。宿泊税の導入は、単に追加の費用が発生するだけでなく、私たちスタッフにとって多くの新たな事務作業をもたらします。まず、宿泊税を導入することで、チェックインおよびチェックアウトの手続きが複雑になります。通常の宿泊料金に加えて、宿泊税を正確に計算し、請求書に反映させる必要があります。これには、各宿泊客の滞在日数や宿泊プランに応じた税額を算出するための時間と労力がかかります。特に、繁忙期には多くの宿泊客が訪れるため、これらの手続きに追われることとなります。また、宿泊税の徴収と管理は、フロントスタッフの日常業務に追加の負担をかけます。宿泊税の収益を正確に記録し、適切な当局に報告するための書類作成やデータ管理が必要です。これには、収益の詳細な記録と、定期的な報告書の作成が含まれます。これにより、本来の業務であるお客様へのサービス提供や、施設の運営管理に割く時間が減少してしまいます。さらに、宿泊税に関する質問や疑問に対応する必要もあります。お客様が宿泊税について理解していない場合、フロントスタッフはその説明を行わなければなりません。これには、税金の理由や使途、計算方法などについて詳しく説明することが求められます。お客様に納得していただくためには、丁寧でわかりやすい説明が必要ですが、これもまた時間と労力を要します。宿泊税の導入は、私たちフロントスタッフにとって多くの新たな事務作業と負担をもたらします。これにより、お客様へのサービスの質が低下し、ホテル全体の運営にも悪影響を及ぼす可能性があります。宿泊税の導入は、観光業界全体にとっても慎重に検討すべき課題であり、私はその導入に反対の立場を取ります。宿泊税がもたらす負担を最小限に抑えつつ、お客様に対して最高のサービスを提供できるような施策を考えていただきたいと思います。	宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。今後も、宿泊事業者の皆様との意見交換を継続し、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないよう周知広報を徹底してまいります。税収の使途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そごでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性のある制度の運用に努めてまいります。
260	宿泊税の活用	宿泊税をかけると、旅行する人が泊まるたびにお金を多く払わなくてはならなくなります。そうすると、旅行する人はお金を節約するために、他の町や国を選ぶかもしれません。結果として、仙台市に来る人が少なくなり、お店やホテルもお客さんが減って困ることになります。簡単に言うと、宿泊税をかけると、旅行に来る人が減って、町がさびしくなってしまうかもしれません。	既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。
261	宿泊税の活用	生活保護を受けている者として、宿泊税や入湯税の導入に反対する理由を述べさせていただきます。現在の生活状況では、毎日の生活費を賄うのも精一杯であり、余裕のある生活を送ることはできません。宿泊税や入湯税が導入されると、旅行や温泉の利用がさらに困難になり、少しの余暇やリフレッシュの機会が奪われてしまいます。生活保護を受けている身として、余分な税金を支払う余裕はありません。さらに、宿泊税や入湯税が導入されることで、観光業全体に悪影響が及び、地域経済が停滞する可能性があります。観光業が盛んになることは、地域の活性化につながり、私たち生活保護を受けている者にも間接的に利益をもたらす重要な要素です。税金によって観光客が減少し、観光業が衰退することは、地域全体にとっても良くない影響を及ぼします。私たち生活保護を受けている者にとっては、より多くの支援が必要です。生活の基盤を安定させるためには、余分な税金の負担を避けるとともに、地域経済の活性化に向けた施策が重要です。宿泊税や入湯税を導入する前に、もっと生活保護受給者を支援する政策を検討していただければ幸いです。生活の質を向上させるためにも、私たちに対する支援を拡充し、余裕のある生活を送ることができるようにご配慮をお願いいたします。	既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できるような施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。https://www.city.sendai.jp/shikin/shise/zaise/zaimu/zaise/sendai/mokutekizei.html
262	宿泊税の活用	仙台市役所へ、入湯税と宿泊税の廃止を求める理由を述べさせていただきます。まず、入湯税と宿泊税は観光客にとって追加の経済的負担となり、旅行の魅力を減少させる要因となります。観光客が増えることで地域経済が活性化する一方で、これらの税金が導入されることで観光客が他の地域を選ぶ可能性が高まります。結果として、観光客数の減少が地域の宿泊業や観光業全体に悪影響を及ぼす恐れがあります。次に、宿泊業者や温泉施設にとっても、これらの税金は経営の負担となります。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の温泉施設にとって、税金の負担は経営の持続可能性を脅かす要因となり得ます。宿泊客数の減少は売上の減少を意味し、最終的には従業員の解雇や施設の閉鎖といった深刻な問題を引き起こす可能性があります。また、地域住民にとっても、観光業の衰退は地元経済に悪影響を及ぼします。観光客が減少することで、地元の飲食店や小売店、観光施設も打撃を受けることとなります。観光業は地域経済の重要な柱であり、多くの雇用を生み出していますが、観光客が減少することで地域全体の経済が停滞するリスクがあります。さらに、入湯税と宿泊税の収益がどのように使われるかが明確でない場合、納税者の理解と支持を得ることは難しいです。税金の使途が不透明であると、納税者はその負担を不公平に感じることも多くなります。税金の収益が地域のインフラ整備や観光振興に使われるとしても、その効果が実感できるまでには時間がかかります。以上の理由から、入湯税と宿泊税の廃止を強く求めます。観光業の発展と地域経済の活性化を目指し、観光客にとって魅力的な環境を整えるためには、これらの税金を廃止し、他の方法で資金を確保する施策を検討していただきたいと思います。どうぞよろしく願いたします。	既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。また、宿泊施設への負担軽減策としては、宿泊事業者の皆様からのご意見も踏まえ、レジシステムの改修への補助など、宿泊施設での徴収事務に係る負担軽減を図るとともに、フロントなどにおける混乱が生じないよう周知広報を徹底してまいります。今後も継続的に宿泊事業者の皆様のご意見を伺いながら、円滑に徴収いただけるよう努めるとともに、行政においても効率的に制度の運用を図ってまいります。宿泊税の使途につきましては、納税者である宿泊者や徴収していただく宿泊事業者の皆様が効果を実感できるような施策として還元するとともに、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、使途や効果を検証しながら、透明性のある制度の運用に努めてまいります。https://www.city.sendai.jp/shikin/shise/zaise/zaimu/zaise/sendai/mokutekizei.html

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
263	宿泊税の活用	<p>私たちは、仙台市が検討している宿泊税の導入について、強い懸念を表明いたします。宿泊税の導入に対して、私たちの声が十分に反映されていないまま、強行的に実施されようとしている現状を深く憂慮しております。宿泊税の導入は、観光業全体に多大な影響を及ぼす重要な政策です。そのため、宿泊事業者の意見や懸念を十分に聴取し、それを反映させた上で慎重に決定されるべきであると考えます。しかし、現時点で私たちの声が無視されていることは、透明性に欠け、公正性を欠いた手続きであると言わざるを得ません。宿泊税の導入によって、私たち宿泊事業者は大きな経済的負担を強いられるだけでなく、観光客の減少を招く可能性が高まります。特に、中小規模の宿泊施設にとっては、その影響は甚大であり、経営の持続可能性を脅かしかねません。観光業の発展と地域経済の活性化を目指す仙台市において、宿泊税の導入が逆効果となるリスクを無視することはできません。私たちは、宿泊税の導入を今すぐ停止し、宿泊事業者や他の関係者との真摯な対話と協議を通じて、最善の解決策を見出すことを強く求めます。観光業界全体が一丸となって地域の発展に貢献できるよう、私たちの声を尊重し、共に最良の道を模索していただきたいと願っております。仙台市役所の皆様には、公正で透明性のあるプロセスを重んじ、宿泊事業者の声に耳を傾けることを切にお願い申し上げます。</p>	<p>宿泊税の導入に際しましては、市民の皆様や宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様のご意見をいただきながら制度設計を行い、先の令和6年9月の市議会に条例案を提出し、お認め頂いたものでございます。収収の用途やその効果については、宿泊業をはじめとする観光関連事業者の皆様にもご参画いただく官民連携の協議体を設置し、そこでいただいたご意見を踏まえて、次年度以降の施策に反映させていくなど、透明性の高い制度の運用に努めてまいります。</p> <p>また、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大につながる施策として還元していくとともに、旅行者の皆様に対して、ご納得して納税いただけるよう丁寧な説明を行ってまいります。</p>
264	宿泊税の活用	<p>仙台市における宿泊税の導入は高齢者にとって多大な影響を及ぼすものであり生活の質を低下させる要因となります。高齢者は固定収入に限られて旅行や観光に対する支出が厳しくなります。宿泊税の導入により宿泊費が増加すると旅行先での滞在期間が短くなり地域経済への貢献が減少します。また高齢者にとっての旅行は健康維持や心のリフレッシュにとって重要な活動でありその機会が奪われることで生活の質が低下します。さらに宿泊税は地域の観光業全体にも悪影響を及ぼす可能性があります。観光客が減少すれば宿泊施設だけでなく飲食店や土産物店観光施設なども売上が減少し地域経済全体が停滞するリスクがあります。特に中小規模の宿泊施設や家族経営の店にとっては経営が厳しくなり閉店を余儀なくされることも考えられます。このような状況は地域の雇用にも影響を及ぼし若年層の雇用機会が減少することで地域の過疎化が進むリスクもあります。一方で高齢者にとって路線バスの利用は日常生活において欠かせないものであり地域の移動手段として重要な役割を果たしています。現在のバスの本数では通院や買い物などの移動が不便であり特に高齢者にとっては負担が大きくなっています。路線バスの増便は高齢者の移動の利便性を高め地域での生活を快適にするために必要不可欠です。また路線バスの増便は観光客にとってもメリットがあります。観光客がバスを利用することで交通渋滞が緩和され環境負荷も減少します。バスを利用することで観光地へのアクセスが容易になり観光客の満足度も向上します。高齢者にとって路線バスの利用は生活の質を向上させるための重要な手段であり増便を求める声は切実です。宿泊税の導入を見直しその資金を路線バスの増便に充てることで地域全体の利便性を向上させることが求められます。</p> <p>特に高齢者にとっては移動の自由が生活の質に直結するため地域の公共交通機関の充実喫緊の課題です。さらに高齢者の意見として宿泊税の導入による観光客の減少が地域の魅力を損なうことも懸念されています。観光客が減少することで地域の活気が失われ観光資源の維持管理が困難になるリスクもあります。宿泊税の収益がどのように使われるかが不透明な場合納税者の理解と支持を得ることは難しく税金の使途が明確であってもその効果が実感できるまでには時間がかかります。そのため宿泊税の導入前に地域全体での合意形成が必要であり高齢者の意見を含む多様な視点から検討することが重要です。また路線バスの増便により高齢者の移動の自由が確保されることで地域の社会参加が促進されます。高齢者が積極的に外出することで健康維持や孤立防止にもつながり地域社会全体の活力が向上します。特に高齢者にとっては医療機関や福祉施設へのアクセスが重要でありバスの増便はこれらの施設へのアクセスを容易にするための有効な手段です。加えて路線バスの増便は観光客に対する利便性向上にも寄与します。観光地へのアクセスが向上することで観光客の満足度が高まりリピーターの増加が期待されます。これにより地域の観光業が活性化し経済的な効果が期待できます。したがって宿泊税の導入を見直し路線バスの増便を実施することは地域全体の利益に繋がる重要な施策です。高齢者の声に耳を傾け彼らが安心して暮らせる環境を整えることが地域の発展に寄与するのです。宿泊税の廃止と路線バスの増便を強く求めます。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。宿泊税を活用した取り組みにより、宿泊者数や関連消費の増大など、事業者の皆様が効果を実感できる施策を推進してまいります。</p> <p>また、市内の各観光エリアにおける二次交通の強化については本市としても重要であると認識しており、宿泊税の収収も活用しながら、回遊性の向上に向けた検討を行ってまいります。その他、路線バスの増便に対するご意見として承ります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
265	宿泊税の活用	宿泊税の導入に対して強く反対いたします。宿泊税の導入は観光業だけでなく、地域住民の生活にも多大な影響を及ぼします。まず、宿泊税は旅行費用を増加させるため、多くの観光客が旅行計画を再考せざるを得ません。この結果、観光客数の減少が予想され、宿泊施設、レストラン、その他の観光関連サービスの収益に直接影響を及ぼします。ベトナムでは、旅行費用の増加が国際観光客数の減少を招き、観光業界全体に大きな影響を与えた例があります。さらに、宿泊税の導入は中小規模の観光事業者にとって経済的な負担を増加させます。多くの事業者がCOVID-19の影響で既に厳しい経営状況にあり、追加の税負担は経営をさらに困難にします。これにより、事業の継続が危がまれ、経済の回復が妨げられます。また、ベトナムのような発展途上国では、税政策の慎重な検討が求められます。ベトナムの住民と同様に、仙台市の住民も、生活費の増加に伴う圧力を感じることなく、快適な生活環境を享受したいと考えています。宿泊税の導入は、コミュニティの不満を引き起こし、市の発展を阻害するリスクがあります。仙台市には、宿泊税の導入を再考し、住民と事業者の意見を十分に聞いた上で、より合理的な観光促進策を見つけ出すことを強く求めます。どうぞよろしくお願いいたします。	既に宿泊税を導入している自治体の例をみても、宿泊者数の減少はないものと把握しています。本市における令和5年の市内宿泊者数は約600万人泊となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の96.2%まで回復いたしました。そうした中で、宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものであり、税収を活用して各般の施策を講じ、交流人口のさらなる拡大に努めてまいります。
266	推進体制	来年の4月からは、新たな観光戦略のもとスタートすることになると思います。今後も、今回のようなシンポジウムを開催したり、市民や地元の宿泊事業者、観光に関わる多くの方々の意見を聞きながら、全員が一丸となって680万人という目標の達成を目指してほしいです。	令和7年度以降も、市民や観光関連事業者をはじめとした、幅広い関係者の方々と連携しご意見を伺いながら、戦略の進捗や効果等の検証を行い、観光施策を推進してまいります。
267	参考資料	懇話会の参加者が少なすぎる。なんのために市民税を徴収しているのか。税金だけ取って、意見を取らないのは座布団上げられません。	戦略の策定にあたり、合計3回懇話会を開催し、テーマごとに参加者を変えて、学識関係者や観光・宿泊関係者、経済関係団体代表などの様々な関係者にお声がけし、意見交換を実施しました。また、懇話会でいただいたご意見を踏まえ作成した観光戦略の素案のもとに、ワークショップを開催し意見交換を行いました。そして、12月1日(日)には、本観光戦略の内容を参加者と考えるため、シンポジウムを開催し、今後の観光振興について意見交換を行っております。
268	参考資料	カラーコンテンツとは何か。具体的なものをあげてほしい	本観光戦略において、「カラーコンテンツ」と記載している文面はございませんが、「キラーコンテンツ」であれば、他と差別化された、強い魅力や価値を持ち、来訪者を引きつけるコンテンツのことを意味しております。
269	参考資料	東京から90分で行けるという根拠を示してほしい。特急や高速バス等でくる人のことを考えていない。	東北新幹線の「はやぶさ」を利用した場合の最短所要時間に基づき、90分と表現しております。時間帯や移動手段によって差がございしますが、利便性やアクセスの良さを強調するため、この表現を使用しております。
270	参考資料	各実績の数字の根拠が示されていない。またブランディングとはどういう意味か。PVやCVとはどういう意味かわかりません。	本観光戦略は全体の方向性を示すものとして、分かりやすさや読みやすさを重視して構成しており、現観光戦略の事業の実績について数値を掲載しておりますが、根拠となる詳細なデータまでは掲載しておりません。また、PVとはページビューのことであり、ウェブサイト内の特定のページが閲覧された回数を指します。CVはコンバージョンのことであり、ウェブサイトを閲覧した後具体的に行動に移した回数を指します。
271	参考資料	緑色のグラフ内の数字が見切れている。サイズを直してほしい。また下部の網の数字も2018年の20.4が右に寄っている等、大変見苦しいものになっている。緑と黄色の組み合わせも色覚障害に合っていない。グラフの作り方を学んでから作ってほしいです。こんな精度のものを外に出さないでください。	いただいたご意見を参考にさせていただきながら、文字のサイズなどを含めて見やすい観光戦略となるよう努めてまいります。
272	参考資料	白黒で見づらいし表がわかりづらい。もっとシンプルでわかりやすいものを作ってほしい。またWB前や後と言われても何かさっぱりわからない。	いただいたご意見を参考にさせていただきながら、文字のサイズなど見やすい観光戦略となるよう努めてまいります。また、P.40やP.45に掲載している、本市の観光の実態データにおいて、「WB前」「WB後」と記載しております。WBは「ウエイバック」の略で、調査で回収したサンプル数を、仙台への来訪者数全体に占める居住地構成比へ割り戻す作業をいいます。この結果、調査における回収数に偏りがあっても、実際の市場構成に近い形で分析が可能となります。
273	参考資料	参考資料の文字が大きすぎる。もっと小さくて良い	いただいたご意見を参考にさせていただきながら、文字のサイズなどを含めて見やすい観光戦略となるよう努めてまいります。
274	参考資料	なぜ宿泊者が一定ではなく、夏季がピークで、冬期が閑散期となっているのか説明が必要。なぜ仙台市はそういうことをするのか。	夏季期間は仙台七夕まつりをはじめとする東北のまつりがあることで、宿泊者数が増加していることが考えられます。一方で1,2月の冬季は、イベント等が不足していることから閑散期となっていることが考えられます。いただいたご意見を、観光戦略策定の参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
275	参考資料	<p>延べ宿泊者数がコロナ前の水準に達していないのはなぜか。なにをしたらそのような事態に陥るのか説明が欲しい。なんでもかんでもコロナのせいにするのはナンセンス。</p>	<p>本市の2023年の宿泊者数は、約600万人泊であり、2019年の624万人泊には達しておりません。一方で、インバウンドは過去最高となる33万8,000人泊を記録しております。コロナ前の水準に達しなかった理由として、1,2月の冬季等において国内の宿泊者数が伸び悩んだことであると本市では考えております。そのため、本観光戦略では、新たな財源も活用しながら、訴求力のあるコンテンツの創出や、ナイトコンテンツの強化などを通して、国内外からの宿泊者数の底上げを図ってまいります。</p>
276	参考資料	<p>飲食業界で「本格グルメ」と「B級グルメ」を区別する意見に対して、私は強く反論します。このような二分法は、単なる食文化のカテゴリに過ぎず、本質的な価値を見落とすものです。食の世界には、確かに高級な料理もあれば、庶民的な料理もありますが、どちらもそれぞれに独自の魅力があり、必要不可欠な存在であることを理解する必要があります。食文化は人々の生活に密接に関わっており、どちらのカテゴリーが「優れている」かを判断すること自体が無意味であると私は考えます。</p> <p>まず、食の本質において重要なのは、どれほど「手間暇をかけて作られたか」ではなく、食べる人々がその料理に対してどれだけ愛情を持っているか、またはその料理がもたらす満足感や幸福感です。食はその土地の文化や歴史、そしてその土地の人々の生活に根ざしたものです。高級料理が必ずしも「正しい食文化」や「本物の食文化」であるとは限らず、逆に庶民的な料理こそがその土地の真髄を映し出している場合も多々あります。</p> <p>「本格グルメ」とされる料理が持つ特別な魅力は、確かにその技術や素材にあります。それを楽しむ人々にとって、その料理はまさに芸術のように感じられることでしょう。しかし、そこに至る過程は「選ばれし者」だけが享受できるものであり、一般の人々にとってはアクセスが困難であることも多いのが現実です。これに対して、「B級グルメ」として分類される料理は、誰もが手軽に楽しめるものであり、その自由度と敷居の低さが魅力となっているのです。</p> <p>たとえば、ある地方の名物ラーメンや、屋台で提供される串焼き、お祭りでお好み焼きなど、それらは確かに「高級感」や「本格的な調理法」を意識していないかもしれませんが、だからこそ多くの人々に愛され、広く浸透しているのです。これらの料理には、作り手の技術や工夫、地域の食材が活かされており、それが食べる人々にとっては「本物」と感じられるのです。「本格」とは必ずしも高級さや手間を意味するわけではないのです。</p> <p>さらに、「本格グルメ」と「B級グルメ」を無理に区別すること自体が、食文化の多様性を否定しているとも言えます。食には、豪華さや繊細さだけでなく、庶民的で素朴な魅力も存在します。料理を愛し、食を楽しむという行為には、格式やステータスが関係するわけではなく、最も重要なのは食べる人の心の中に生まれる満足感と幸福感です。それを重視するべきであり、単なるカテゴリー分けに囚われることがいかに無意味であるかを理解しなければなりません。</p> <p>そして、食文化には「時と場所」が大きく影響します。ある料理が一見シンプルであっても、その料理が提供される場の環境や、その場に集まる人々の情熱によって、まるで高級料理のような価値を持つこともあります。例えば、家族や友人と一緒に食べる手作りの料理、その温かみや親しみやすさには、「本格的な調理法」に勝るとも劣らない魅力があります。これが「B級グルメ」の魅力でもあり、食が単なる「技術」や「素材」だけで成り立つものではないという証明です。</p> <p>また、食の世界では、職人の手がける本格的な料理にも欠点は存在します。あまりに高級志向になりすぎて、食べること自体が義務感や過度な礼儀作法に縛られることがあります。そんな中で「B級グルメ」は、もっと自由で、気軽に楽しめるものとして、食文化を豊かにする重要な役割を果たしているのです。食事は決して堅苦しくあるべきではなく、楽しむものであるべきです。だからこそ、「本格」と「B級」を区別してしまうことは、食の自由さを奪い、食の多様性を狭める結果につながるのです。</p> <p>「本格グルメ」とされる料理が特別であることは理解しますが、それが「全て」であるとは限りません。確かに、緻密に計算された調理法や高級な食材を使った料理には価値がありますが、庶民的でシンプルな料理にも、それに匹敵する価値があるのです。どちらが「優れている」と一概に言うことはできません。それぞれが持つ価値を尊重し、楽しむことこそが、食文化の本当の豊かさを引き出す鍵となります。</p> <p>そして、最も重要なのは、「本格」と「B級」といったラベルをつけることで、どちらか一方が疎外されてしまうような状況を作り出すことは避けなければならないという点です。食文化は、すべての人々が楽しめるものであり、誰もがその魅力を感じることができるとあるべきです。どんなに素晴らしい高級料理でも、それが一部の人がしか届かないものであれば、文化としての広がりを持つことができません。一方で、B級グルメが全世界に広がり、多くの人々に愛されているのも、まさにその普遍的な魅力によるものです。</p> <p>そのため、私は「本格グルメ」と「B級グルメ」を区別し、それぞれに優劣をつけることに強い反対の立場を取ります。食の多様性を尊重し、それぞれが持つ魅力や価値を理解し合うことこそが、健全な食文化の形成に繋がるのです。食べ物を評価する際には、その料理が持つ背景や歴史、または食べる人々の感情を考慮することが最も重要です。料理にラベルをつけることで、その本質を見失うことなく、より豊かな食の世界を楽しんでいきましょう。</p>	<p>参考資料としている仙台市観光実態調査では、豊富な本市の観光資源をすべて調査するのではなく、観光消費額の増加や満足度向上等につなげる目的で、牛たん焼き等の高価格帯のグルメコンテンツと、地域で生まれたいわゆるB級グルメコンテンツに分類し、本市を訪れる観光客等が観光の目的とする要素を調査しました。どちらもそれぞれに独自の魅力があり、必要不可欠な存在であることは理解しており、そのうえで、観光の目的となっている度合いに応じて、それぞれが持つ価値を尊重し、本市の多様なグルメコンテンツを楽しめるようなプロモーション等を検討してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
277	参考資料	通常時と比較してなぜ2倍しか増えていないの？	中間案P.42に掲載している、「Pokémon GO Fest 2024:仙台」期間中のハピナ名掛丁商店街の通行量は通常時と比較して約2倍の人流となっております。イベントの開催により来訪者が増加したことが考えられます。
278	参考資料	03.仙台市民においても観光は何もないと答える事が多いが観光客が観光地を訪れる目的は、04(39頁)のように観光地では散策を楽しんだりして食べ歩きが主流です。そしてショッピングをするというのは観光客においては普通の観光です。その街の観光回線が短ければ、他の近くの都市へも足を延ばします。私自身は観光案内所から大まかな地図を貰い、歴史的な建物や美術館、お寺や神社などを見て回ります。その際には、そこにつながるバス路線なども重要だと思っています。団体客と個人客では大きな違いがあります。個人客は新幹線や飛行機など公共機関を使って散策しますので駅前など歩きやすい所に宿を取ると思う。	「街歩き・街並み散策」「ショッピング」は、本市の観光目的・テーマにおいて上位にあがっており、アクセス手段の整備は重要な視点だと認識しております。中心部エリアをはじめとしたウォーカブルなまちの魅力の発信や、二次交通の整備など検討を進めてまいります。
279	参考資料	ダイバーシティのまちづくりの視点に、ユニバーサルデザインの考え方を含めることはできないのでしょうか。関連して、20ページに「バリアフリーの視点をもって」とありますが、バリアフリーより広い意味でユニバーサルデザインまたはユニバーサルツーリズムの方が、実現性は高いのではないかと思います。	すべての人が利用しやすい環境やサービスを提供するユニバーサルデザインの考え方は、重要な視点だと考えており、いただいたご意見を観光戦略策定の参考にさせていただきます。
280	参考資料	ゲートウェイとはどういう意味でしょうか。仙台城の門を作らないということ？	ゲートウェイとは「入り口」や「玄関口」のことを意味するといわれております。
281	参考資料	参考資料にきちんとデータや策定までの過程が書いてあるため、なぜこの戦略を導き出したのかがわかる。宿泊税に反対する意見も多いが、個人的には観光施策のためだけに使う税であれば問題ないと思う。活用の仕方の記載があるが、これらに力をいれて、他の都市よりも一歩リードしたとりくみを実現して欲しい。	中間案P.5「現戦略の振り返りとデータから見る本市の現状の整理」やP.17～46「参考資料」により、現行戦略の実績と課題を分析し、データを活用して、新たな観光戦略を策定しております。宿泊税の収収を活用し、旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成や、宿泊・連泊を促進するための誘客強化などを進めることで、さらなる交流人口拡大を図り、地域経済の活性化につなげてまいります。
282	その他	###ダイバーシティの意義とその影響 ダイバーシティ(多様性)は、現代社会において非常に重要な概念であり、企業、教育機関、政府、コミュニティなど、さまざまな場面で取り上げられています。ダイバーシティの推進は、新しいアイデアや革新を促進し、組織や社会全体のパフォーマンスを向上させるとされています。しかし、ダイバーシティにはメリットとデメリットの両方が存在し、それぞれの視点から考えることが重要です。 ###メリット 1.**創造性と革新の向上** ダイバーシティがある環境では、異なる背景や経験を持つ人々が集まるため、さまざまな視点から問題を解決することができます。これにより、新しいアイデアが生まれやすくなり、革新が促進されます。例えば、企業においては、多様なチームがより革新的な製品やサービスを開発することが多いとされています。 2.**社会的公正の促進** ダイバーシティを推進することは、社会的公正を実現するための重要なステップです。歴史的に不平等や差別を受けてきたグループに対して、平等な機会を提供することができます。これにより、社会全体の公平性が向上し、包括的な社会を築くことができます。(次ページへ続く)	ダイバーシティのメリット・デメリットを踏まえた意義やその影響についてのご意見として、参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
282	その他	<p>3.**組織のパフォーマンス向上**            研究によると、ダイバーシティのある組織はより高いパフォーマンスを発揮する傾向があります。多様な人材が集まることで、異なる視点やスキルが組み合わさり、効果的なチームワークが可能となります。また、多様性を尊重する企業は、従業員の満足度やエンゲージメントも高まるとされています。(次ページへ続く)            ## # # デメリット            1.**コミュニケーションの課題**            ダイバーシティがある環境では、異なる文化やバックグラウンドを持つ人々の間でコミュニケーションが難しくなることがあります。言語の違いや価値観の違いが原因で、誤解や摩擦が生じることがあります。これにより、チームワークやプロジェクトの進行に支障をきたすことがあります。            2.**コンフリクトの増加**            多様な意見や視点が存在することで、意見の対立やコンフリクトが増える可能性があります。これは必ずしも悪いことではありませんが、適切に管理されない場合、職場の雰囲気が悪化し、生産性が低下することがあります。コンフリクトを解消するためには、リーダーシップやコミュニケーションスキルが重要です。</p> <p>3.**トレーニングや管理のコスト**            ダイバーシティを推進するためには、組織内でのトレーニングや管理が必要となります。これには時間とコストがかかることがあります。例えば、多文化研修やアンチハラスメント研修など、従業員が多様性を尊重し、適切に対応できるようにするためのプログラムが必要です。            ## # # まとめ            ダイバーシティは、創造性の向上や社会的公正の実現、組織のパフォーマンス向上など、多くのメリットをもたらす一方で、コミュニケーションの課題やコンフリクトの増加、トレーニングや管理のコストなどのデメリットも存在します。したがって、ダイバーシティを推進する際には、これらのメリットとデメリットをバランスよく考慮することが重要です。            ダイバーシティを効果的に実現するためには、リーダーシップの役割が非常に重要です。リーダーは、多様性を尊重し、包括的な環境を作るためのビジョンを持ち、それを組織全体に浸透させる必要があります。また、従業員一人ひとりが多様性を尊重し、チームとして協力し合うことが求められます。            多様性を受け入れることで、より豊かで強固なコミュニティや組織を築くことができるでしょう。そのためには、継続的な努力とコミットメントが必要です。あなたの意見はどうでしょうか？</p>	(P83に記載)
283	その他	<p>市役所のある場所にドーム球場を建ててほしい。            市役所の建物なんていない。</p>	<p>市役所は市民の皆様の日常生活を支える行政の中心拠点として不可欠な施設です。また、ドーム球場の建設について、ご意見として承ります。</p>
284	その他	<p>田中さん:こんにちは、佐藤さん。仙台市に外国人観光客を呼び込むことについて、どう思いますか？メリットもたくさんあると思いますが、デメリットも気になりますね。            佐藤さん:こんにちは、田中さん。確かにメリットはありますが、デメリットも多く存在します。まず、交通インフラへの負担が増えることが懸念されます。観光客が増えると、公共交通機関や道路の混雑が増し、地元住民の生活に影響を及ぼします。            田中さん:そうですね。特に観光シーズン中はかなり混雑しそうです。インフラの整備にも莫大な費用がかかりそうですし、地元の税収にも影響が出るでしょうね。            佐藤さん:その通りです。そして、観光地が過密状態になることで、自然環境や歴史的建造物の保護が難しくなる可能性があります。観光客が多く訪れることで、自然景観が破壊されるリスクや文化遺産が損傷するリスクが高まります。            田中さん:確かに。自然や文化遺産が損なわれてしまったら、仙台市の魅力が減ってしまいますね。それに、観光地化が進むことで地域の本来の文化や伝統が商業化されるのも問題です。            佐藤さん:その点も重要ですね。また、観光客の増加に伴い、ゴミの量が増加し、その処理が課題となります。観光客が多い季節には特にゴミの問題が顕著になり、地域の環境に悪影響を及ぼす可能性があります。            田中さん:ゴミの問題は深刻ですね。さらに、観光客と地元住民の間で摩擦が生じることもあります。文化や言語の違いから誤解が生じ、地域社会の調和が乱れることが考えられます。(次ページへ続く)</p>	<p>本市の外国人宿泊者数は、2023年に過去最高となる33万8,000人泊を記録したものの、東北六県の外国人宿泊者のシェアは1.3%であり、日本全国と比較すると少ない現状があります。            一方で外国人が多く来訪している日本の各観光地では、住民の交通や環境などに影響を及ぼすオーバーツーリズムが発生しております。本市においてオーバーツーリズムが発生する懸念がある際は、引き続き民間事業者とも連携を図りながら、対策を講じ、市民の皆様も楽しめる観光地づくりを目指してまいります。            また、地域全体が恩恵を享受することができるような持続可能な観光地域づくりを目指すとともに、他分野との連携や、多様な関係者の声を取り入れながら、地域が一体となった観光振興を推進してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
284	その他	<p>佐藤さん:そうですね。観光客が地元の習慣や文化を理解していないと、摩擦が起きやすいです。さらに、観光業に依存することは経済的リスクを伴います。観光業は景気や国際情勢の変動に敏感であり、突発的な災害やパンデミックなどによって急激に収入が減少する可能性があります。</p> <p>田中さん:観光業に過度に依存するのは確かにリスクが大きいですね。観光業が不安定になると、市の経済全体が影響を受けやすくなります。</p> <p>佐藤さん:その通りです。また、観光地の物価や地価が上昇し、地元住民の生活が困難になる可能性もあります。観光客が多く訪れることで地元の生活コストが上昇し、地元住民が住み続けることが難しくなることがあります。</p> <p>田中さん:生活コストの上昇は深刻な問題ですね。それに、観光業の成長が地域の小規模店舗に影響を及ぼし、地元の商店が経営難に陥ることも懸念されます。</p> <p>佐藤さん:そうですね。観光業の成長が地域に本当に利益をもたらすかどうかは慎重に検討する必要があります。さらに、観光業の拡大は環境にも重大な影響を及ぼします。大量の観光客が訪れることで、自然環境や文化遺産が損なわれるリスクが高まります。</p> <p>田中さん:環境保護も重要です。観光客の増加による自然景観の破壊や、生態系への影響は避けたいですね。それに加えて、交通量の増加やゴミの処理問題もありますね。</p> <p>佐藤さん:はい、観光業が持続可能であるためには、環境保護と経済発展のバランスを取ることが重要です。しかし、短期的な経済利益を優先するあまり、環境への配慮が後回しにされるケースが多々あります。これにより、地域の自然資源が枯渇し、観光業自体の存続が危がまれる事態にもなりかねません。</p> <p>田中さん:そうですね。観光を基軸とした都市の成長戦略は、一見すると多くのメリットをもたらすように見えますが、その裏には多くの課題とリスクが存在します。少子高齢化や増税の問題、地元文化や生活への影響、環境への影響など、多様な視点から総合的に評価する必要があります。</p> <p>佐藤さん:観光業に依存するだけではなく、持続可能な経済基盤を築くためには、多角的な成長戦略が求められます。これには、教育や福祉、技術革新、環境保護など、幅広い分野での取り組みが必要です。観光業はその一部であり、バランスの取れた政策が不可欠です。</p> <p>田中さん:そうですね。地域社会の持続可能な発展を目指すためには、観光業のみに頼ることなく、包括的なアプローチが必要です。これにより、現代社会が直面する様々な課題に対処しつつ、豊かで安定した未来を築いていくことができるでしょう。</p> <p>佐藤さん:以上の点を踏まえると、仙台市が観光を基軸とした成長戦略を採用することには慎重な検討が必要であり、現在の提案には反対せざるを得ません。皆さんはどう思われますか？観光業と地域の持続可能な発展について、どのような意見をお持ちでしょうか？</p>	(P84に記載)
285	その他	<p>序</p> <p>仙台市——その地名を耳にするだけで、かつてこの地を治めた伊達政宗公の風貌や、東北の中心地としての繁栄が思い浮かぶ。この地は、古き伝統と新しき時代が調和し、人々を魅了する光と影を織りなしてきた。しかし、現代において、観光地としての存在感をさらに高め、より多くの旅人を引き寄せるためには、緻密なる戦略が必要不可欠である。ここに、仙台市が歩む誘客戦略の全貌を、まるで神話を語るが如く紡いでいこう。</p> <p>第一章 緑の都、杜の奇跡</p> <p>仙台は「杜の都」として知られ、その名のごとく緑豊かな都市景観が特徴だ。この緑こそが仙台の原点であり、誘客の太いなる宝である。戦国の世を経て伊達政宗が築いた仙台城から眺めれば、街並みを彩る緑と青葉山の雄大さが視界を支配する。ここに訪れる者は、ただ都市を訪れるのではなく、自然と歴史が交差する異界に足を踏み入れるのだ。この自然資源を基盤とした誘客戦略は、四季の変化を最大限に活かすものである。春には広瀬川のほとりで桜が咲き誇り、夏には新緑が街路を埋め尽くし、秋には紅葉が山々を染め上げ、冬には一面の雪が静寂をもたらす。それぞれの季節ごとの景観を観光の核とし、「四季の杜を巡る旅」というテーマを掲げ、訪れる者がその時々魅力を存分に堪能できるような体験型のプログラムを構築する。</p> <p>第二章 歴史の息吹、伝承を紡ぐ旅路</p> <p>仙台が誇る伊達文化は、歴史を愛する者たちの心を強く惹きつける。かの政宗公が築き上げた城下町には、東北の地に繁栄をもたらした誇りが脈々と受け継がれている。政宗ゆかりの青葉城跡、瑞鳳殿、あるいは仙台藩ゆかりの寺社仏閣——これらの遺産は、訪れる者に「時間を超える旅」を体験させる。</p> <p>しかし、ただ観光資源としてこれらの史跡を提示するだけでは、現代の観光客にとっては単調である。(次ページへ続く)</p>	<p>四季折々の自然資源の活用や、伊達文化をはじめとする歴史資源の活用、まつりの魅力、仙台ならではの食の魅力の発信は、本市の観光振興に欠かせない視点であり、6つの重点プロジェクトにそれぞれ位置付けております。</p> <p>また、「訪れる者が再び帰りたい場所」の視点も重要であると考えており、本観光戦略では3つの視点の1つとして「また来てもらう」に位置付けております。いただいた具体的なご意見を参考にさせていただき、持続可能な観光地域づくりを推進してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
285	その他	<p>ここで仙台市は、物語性を付加する戦略を講じる。例えば、夜の瑞鳳殿では「伊達政宗公の影絵絵巻」と題し、プロジェクションマッピングを活用したナイトイベントを展開する。歴史の表層だけでなく、その裏に隠された逸話を視覚と音声で再現することで、観光客により深い感動を与えるのだ。</p> <p>また、地元の語り部による歴史ツアーの開催も検討されている。「政宗がなぜ『独眼竜』と呼ばれるようになったのか」「仙台がどのように東北の中心地となったのか」——これらの問いに答えるストーリーテリング型のガイドツアーは、仙台市の歴史的価値を新たな角度で解釈し、訪れる者に学びと興奮を与えるだろう。</p> <p>第三章祭りと灯火、人々を繋ぐ絆</p> <p>仙台を語る上で、祭りの存在は欠かせない。中でも仙台七夕祭りは、全国的にも名高い行事である。夜空を彩る七夕飾りは、人々の願いと祈りを象徴し、夏の仙台を明るく照らす。その美しさに魅了され、毎年多くの観光客が足を運ぶ。</p> <p>この祭り文化をさらに発展させ、年間を通じて訪問客を引き寄せる戦略が仙台市には必要である。例えば、冬の光のページェント「SENDAI光のフェスティバル」は、クリスマスの街を温かい光で包み込み、人々の心を癒すイベントだ。このような季節ごとの祭りを多角的にプロモーションし、地元住民と観光客が共に楽しめる場を創出することで、仙台は「祭りの都」としての地位を確立する。</p> <p>さらに、祭りの際に訪れる観光客の消費行動を分析し、地元産品や伝統工芸品のマーケティング強化にも注力する。「仙台七夕限定グッズ」「光のページェント特製土産」など、イベントと地域産業を結びつけた企画は、観光収益の向上に直結するだろう。</p> <p>第四章食の饗宴、味覚の神殿</p> <p>仙台といえば、牛たんや笹かまぼこが広く知られている。しかし、仙台の魅力はそれだけに留まらない。広大な東北地方の中心地として、周辺地域から集まる新鮮な食材が、仙台の食文化を豊かにしている。秋田からは米、山形からは果物、宮城沿岸部からは新鮮な魚介類——これらが一堂に会し、仙台の食卓を彩るのだ。食を中心とした誘客戦略の一環として、「杜の都フードフェスティバル」のような大型イベントを開催する案が挙げられる。市内外から料理人を招き、地元食材を活用した創作料理や郷土料理を提供する場を設ける。さらに、料理教室や地産地消マーケットを併設することで、観光客が仙台の「食」に直接触れる機会を増やす。また、仙台の居酒屋文化を楽しむ「杜の都夜のグルメツアー」を企画し、夜の仙台を歩きながら地元の味を堪能できるプランも魅力的だろう。こうしたプログラムは、「食」という共通言語を通じて仙台の良さを体感させ、再訪意欲を高める役割を果たす。</p> <p>第五章未来へ紡ぐ都市観光の夢 仙台市が目指すべき未来は、「訪れる者が再び帰りたくなる場所」である。そのためには、地域住民と観光客が共に歩む「共生型観光」の理念を取り入れる必要がある。観光は単なる収益向上の手段ではなく、地域社会の活性化と文化の継承を同時に実現する手段でもある。</p> <p>例えば、仙台市内の大学や研究機関と連携し、「観光教育プログラム」を策定することで、地元の若者が観光産業に興味を持ち、主体的に関わる仕組みを作ることができる。また、観光業界と地域住民の双方が恩恵を受けるための「地域観光パートナーシップ制度」を導入することで、持続可能な観光モデルを構築する。加えて、デジタル技術を活用した観光サービスの強化も不可欠だ。仙台市内の観光地を一元的に案内するスマートフォンアプリや、AR(拡張現実)を使ったバーチャルツアーの提供など、テクノロジーの力を借りて訪問者体験を進化させることが可能である。</p> <p>結び 仙台は、古き良き文化を継承しつつ、新たな可能性を模索する都市である。その誘客戦略は、まるで神話のように壮大で、訪れる者の心に深い感銘を残すものでなければならない。杜の都の未来に続く旅路は、いまここに生きる人々の手で紡がれるのだ。</p>	(P85に記載)
286	その他	古き良きものを大切に新しいものを取り入れる任んでいて良かった・また来たいと思える街横浜らしさを楽しめるイベント・サプライズを！	横浜市に対するご意見かと存じますので、回答は控えさせていただきます。
287	その他	<p>説明会がなぜ動画でないのか。</p> <p>全く理解に苦しむ。</p> <p>市民に公開してほしい</p>	12月に開催した宿泊税の導入に関する説明会は、参加対象者を限定せず、市民の皆様も含めどなたでもご参加いただける形式とした上で、各報道機関にも公開いたしました。今後は、より多くの方にご出席いただけるよう、開催日程や回数について検討してまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
288	その他	<p>今後の展望について語るには、私たちが直面するさまざまな課題と、それに対する解決策をどのように模索し、どのように進化させていくかを深く掘り下げる必要がある。今後の社会、経済、環境、そして技術の進展を考慮した上で、持続可能な発展を遂げるための方法を示すことが重要だ。これらのテーマにおいて、私たちが迎えるであろう未来は、単なる予測にとどまらず、私たちの行動が直接的にその結果を形作るものとなるだろう。</p> <p>まず、社会のあり方について触れる。今後、世界はますますグローバル化が進み、国境を越えたつながりが強化されていくだろう。インターネットの普及や、AI(人工知能)の進化、交通機関の発展により、時間と空間の壁がどんどん低くなり、国際的な協力と競争が激化していく。しかし、同時にそのグローバル化には課題も伴う。国際的な格差、移民問題、貧困、不平等などがますます顕在化する中で、これらの問題をいかに解決していくかが、今後の社会において最も重要なテーマとなるだろう。グローバル化が進む中でも、各地域の文化や価値観を尊重し、地域の特色を大切にしながら、持続可能な経済と社会の構築が求められる。</p> <p>次に、経済の進展に関して。これまでの経済成長モデルが限界に達しているという認識は広まりつつあり、今後は「成長」だけを目指すのではなく、「持続可能な成長」や「質の高い成長」を追求する方向へとシフトしていくと予想される。特に、環境への配慮が強化される中で、企業の社会的責任(CSR)がますます重要な位置を占めるようになるだろう。環境負荷の少ない製品やサービスの開発が競争優位性を決定する要因となり、企業はより効率的でエコフレンドリーなビジネスモデルへと変革を余儀なくされるだろう。</p> <p>また、テクノロジーの進化が経済に与える影響は計り知れない。AIやロボット技術がますます高度化し、仕事の自動化が進んでいく中で、従来の労働市場が大きく変わることは避けられない。これに伴い、新たな職業が生まれ、また一部の職業は姿を消す可能性がある。しかし、この変化に対して適応できる人々と、適応できない人々との間に新たな格差が生まれる危険性も孕んでいる。そのため、教育のあり方、社会保障制度、職業訓練のシステムが重要な役割を果たすことになるだろう。特にデジタルスキルやAIに関連した教育の充実が、個人と社会全体の競争力を支える基盤となるだろう。</p> <p>さらに、環境問題に関して。地球温暖化、資源の枯渇、生物多様性の減少など、環境問題は今後も私たちの生活に重大な影響を与えるだろう。これらの問題を解決するためには、再生可能エネルギーの利用拡大、エネルギー効率の改善、循環型経済の推進など、さまざまな取り組みが必要とされる。しかし、これらの取り組みを進めるためには、個人、企業、政府が丸一つとなって協力し、積極的に行動する必要がある。また、環境問題を解決するための技術革新も期待される。クリーンエネルギーの開発や、CO2の排出を削減する技術、さらには新しい環境保護技術が次々と生まれる可能性がある。しかし、その技術が普及し、広く利用されるためには、政策的な支援と社会的な理解が不可欠である。</p> <p>今後、環境保護と経済発展を両立させるためには、「グリーンニューディール」や「環境経済学」に基づく政策が重要になるだろう。企業の環境負荷を減らすために、政府が適切な規制を設け、インセンティブを提供することが必要だ。また、環境負荷を減らすためには、市民一人一人の意識改革も欠かせない。リサイクルの促進、エネルギーの節約、公共交通機関の利用促進といった個人レベルでの取り組みが、地球全体の環境負荷軽減に寄与する。</p> <p>社会全体の健康や福祉においても、今後の課題は多い。高齢化社会が進行する中で、福祉サービスや医療体制の充実が求められ、また、精神的な健康を支える取り組みも重要となるだろう。生活習慣病やメンタルヘルスに対する関心が高まる中で、予防医学やライフスタイルの改善を促進するための政策が必要だ。また、健康的な都市づくり、バリアフリーの環境整備、地域コミュニティの強化といった取り組みも、より充実した社会を作るために重要となる。</p> <p>技術革新においては、AIやロボティクス、量子コンピュータなどが社会を大きく変えると同時に、新たな課題も生まれるだろう。AIの進化による仕事の自動化や、ロボット技術を活用した介護や医療の現場での変革が進む中、これにどう対応するかが大きな課題となる。また、技術によって生まれる倫理的な問題、プライバシーの保護、セキュリティの強化なども、今後注力すべき重要な分野である。</p> <p>未来の社会において、私たちが求めるべきは「持続可能な発展」だ。そのためには、単に経済成長を追求するのではなく、環境を守り、社会全体の幸福を実現するためのバランスを取る必要がある。これからの展望において、私たち一人一人がその一翼を担うことが求められている。政府、企業、市民が一体となって、持続可能な社会を作るための取り組みを進めていくことが、私たちの未来を決定づける鍵となるだろう。</p> <p>技術や社会の進展、そしてそれに伴う課題に適切に対応し、持続可能な発展を遂げるための道筋を描くことが、今後の社会の方向性を決定づける。そのためには、私たちがどのような価値観に基づいて行動するかが最も重要であり、その価値観に沿った社会づくりを進めることが、次の世代への責任となるだろう。</p>	<p>社会、経済、環境、技術が直面する課題に対応し、解決策を模索しながら持続可能な発展を目指すことは、本市の経済成長において重要な視点だと考えております。地域資源の活用や環境負荷の低減、新たな技術への適応方法等について、他分野との連携や、多様な関係者の声を取り入れながら、地域全体が恩恵を享受することができるような、持続可能な発展を目指してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
289	その他	<p>観光客誘致の施策を考える際、自治体はまず自らの現状や強みを正確に把握する必要があります。地域の魅力を過大評価することなく、他の観光地との違いや独自性を分析することが重要です。例えば、美しい自然景観が魅力であっても、それが他の地域と大差ないものであれば、差別化が難しくなります。これを補うためには、単なる自然の美しさをアピールするのではなく、訪問客がその自然を活用してどのような体験を得られるかを考慮したコンテンツを提供することが重要です。具体例として、ただ「紅葉が美しい」だけではなく、「地元ガイドが案内する紅葉のライトアップツアー」や「紅葉を背景にした伝統文化体験」など、自然と地域の文化や産業を組み合わせた具体的なプランが求められます。</p> <p>また、観光資源の情報発信においては、地元住民の協力を得ることも欠かせません。観光客は地元の人々との交流を通じて地域の真の魅力を体感したいと考えることが多いため、住民自身が観光の一端を担うような取り組みが必要です。一例として、住民が自宅の庭や地元の農地で観光体験を提供する「ホームステイ型農村体験」や、町全体が観光客をもてなす「おもてなしプロジェクト」などがあります。しかし、これらの施策を進めるにあたっては、住民が観光客を受け入れることへの負担感を抱かないよう、地域全体で合意形成を行い、適切なサポート体制を構築することが大切です。</p> <p>一方で、観光施策の失敗例として、地元の魅力やストーリー性を欠いたコンテンツの発信が挙げられます。たとえば、多額の予算を投じて豪華な観光施設を建設したものの、地域の特性を無視していたために、結局観光客が増えず、自治体の財政負担だけが増加してしまうケースです。このような「箱物行政」的な施策は、地域の特色を生かした戦略とは程遠いものと言えます。その代わりに、小規模でも地域の特性を活かした魅力的な観光コンテンツを作り上げることで、観光客にとって「ここでしかできない体験」を提供することが可能です。</p> <p>さらに、SNSやウェブサイトを活用した効果的な情報発信も欠かせません。観光地としての魅力を発信する際、若年層をターゲットにするのであれば、InstagramやTikTokなどのビジュアル重視のプラットフォームが有効です。一方で、中高年層をターゲットとする場合は、旅行系ブログやFacebook、さらには観光雑誌などの媒体が有効です。ただし、どの媒体を使用するにせよ、発信する内容に一貫性がなければ、観光客にとって混乱を招き、信頼を失うこととなります。過去には、自治体ごとにバラバラのメッセージやデザインで観光パンフレットを作成したため、観光客が地域のイメージをつかみづらくなった例もあります。そのため、デザインやメッセージに統一感を持たせることが、観光地のブランド構築に繋がります。</p> <p>地域の文化や特産品を観光資源として活用する施策も有効ですが、これには地域住民との協働が欠かせません。例えば、伝統的な祭りを観光コンテンツ化する際には、観光客向けにアレンジしすぎることで、本来の祭りの趣旨が失われる場合があります。その結果、地元住民の反感を買い、祭りそのものが衰退してしまうこともあります。こうした失敗を避けるためには、地域の文化を守りつつ観光資源として活用する方法を住民とともに模索し、双方が納得できる形を目指す必要があります。具体的には、観光客用のエリアやプログラムを祭りの本体とは切り離して設定するなどの工夫が考えられます。</p> <p>また、観光地の持続可能性を考慮した取り組みも重要です。観光客が増える一方で、環境への負荷が増大し、地域住民の生活環境が悪化する事例は少なくありません。例えば、観光名所でのゴミ問題や交通渋滞の悪化、騒音問題などが発生した場合、観光客が増えることが逆に地域の魅力を損なう結果を招くことがあります。こうした問題を防ぐためには、観光客に対して地域のルールを分かりやすく伝えるサインの設置や、環境に配慮した観光の啓発活動を行う必要があります。また、観光客数を一定の範囲内に抑えるための予約制ツアーの導入や、オフシーズンに観光客を誘導する施策も効果的です。</p> <p>観光施策の成功例としては、北海道ニセコ町の事例が挙げられます。この地域では、地元の自然資源を活用したアウトドア体験や、外国人観光客向けの高級宿泊施設を整備することで、冬のスキーシーズンだけでなく夏場にも観光客を誘致することに成功しました。一方で、悪い例としては、多額の費用を投じてテーマパークを建設したものの、アクセスの悪さやコンセプトの曖昧さから集客に失敗し、廃墟化してしまったケースが挙げられます。このような例から学べることは、観光施策を立案する際には、ターゲット層を明確にし、そのニーズに合った体験を提供することが不可欠であるという点です。</p> <p>最後に、観光施策は一度実施して終わりではなく、定期的な見直しと改善が必要です。観光客のニーズやトレンドは日々変化しており、それに対応する柔軟性が求められます。たとえば、近年ではコロナ禍を経て「密を避けた観光」や「サステナブルツーリズム」が注目されており、これに対応した施策を取り入れる必要があります。オンライン予約システムの導入や、仮想現実(VR)を用いた観光地のプロモーションなど、テクノロジーを活用した取り組みも重要な要素となっています。</p> <p>このように、自治体が観光客を誘致するためには、自地域の強みを活かした独自のコンテンツを提供しつつ、地元住民や環境との共存を図ることが重要です。そして、失敗例から学び、柔軟かつ持続可能な戦略を継続的に展開していくことで、地域の観光地としての価値を高めることができるのです。</p>	<p>地域の強みや独自性を把握し、差別化を図ることや、観光資源を活用する際に地域との協働や環境への配慮が欠かせないという視点は重要であると認識しております。重点プロジェクト1「心弾むエモーショナル都市の創造」では、仙台ゆかりの漫画・アニメを活用した、本市ならではのコンテンツの集積を進めるほか、重点プロジェクト2「Sendai Urban Resortの推進」では、西部や東部ならではの自然を活用した新たなコンテンツの創出を通して、「ここでしかできない」価値を提供する施策を進めてまいります。また、DMOである(公財)仙台観光国際協会とともに、地域と一体となった観光地域づくりを推進してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
290	その他	<p>宿泊税は、多くの国や地域で導入されている税制であり、観光客が宿泊施設に泊まる際に課される税金です。これは、観光業による地域経済の恩恵を自治体がより効果的に享受し、観光インフラの維持・整備に充てるという目的で設けられることが多いです。しかし、この税制が本当に適切に機能しているのか、特にエジプトのような観光立国を例にとると、その効果や課題について深く考える必要があります。また、宿泊税の導入やその影響を考察する上で、意外な関連性を持つ「万有引力」という概念を用いることで、新たな視点を提供することができるでしょう。</p> <p>エジプトは古代文明の象徴とも言えるピラミッドやスフィンクス、さらにはナイル川を中心とした豊かな歴史的・文化的遺産を有し、世界中から観光客を引き寄せています。しかし、観光業はその恩恵を受ける一方で、多くの課題を抱えています。その一つが、宿泊税のような形で課される負担が観光客に与える影響です。エジプトでは、観光客からの収入が国の重要な財源であるにもかかわらず、宿泊税が導入されることで観光の魅力を減少させる可能性があります。</p> <p>まず、宿泊税の導入が観光客の選択にどのように影響を与えるのかを考えてみましょう。万有引力の法則では、物体同士が引き寄せ合う力は、それらの質量に比例し、距離の二乗に反比例します。この法則を観光に当てはめると、観光地の魅力(質量)が大きければ大きいほど、観光客を引き寄せる力が強くなります。しかし、宿泊税は観光客と観光地の間に「負担」という形の摩擦を生み出します。これは、観光客と目的地の距離を拡大させる要因となり、引力を弱めてしまうのです。</p> <p>エジプトは観光資源の「質量」が極めて大きい国ですが、それでも宿泊税のような追加コストが観光客の意欲を削ぐ可能性があります。例えば、観光客がエジプトへの旅行を計画する際、宿泊費用が高くなることで、他の競合する観光地(トルコやギリシャなど)を選ぶ可能性が高まります。これは、エジプトが本来持つ観光地としての引力を減少させることにつながります。つまり、宿泊税が観光客にとっての経済的な「距離」を広げてしまうのです。</p> <p>さらに、宿泊税がどのように使用されるかも問題です。エジプトのような発展途上国では、税収が必ずしも観光インフラや文化遺産の保護に適切に使われるとは限りません。腐敗や不透明な運営によって、宿泊税が本来の目的とは異なる用途に流用されるケースも少なくありません。このような状況は、観光客にとっての「信頼感」を損なう結果となり、観光地としての引力をさらに弱めることとなります。</p> <p>また、宿泊税は地域住民にとっても問題を引き起こします。宿泊税の導入が観光業界全体のコストを押し上げることで、地元の中小規模の宿泊施設が大手チェーンと競争する際に不利になる可能性があります。これは、観光収益が地元経済に広く分配されるのではなく、一部の大手企業に集中してしまう結果を招きます。観光業が地域経済を活性化するどころか、格差を広げる要因になってしまうのです。</p> <p>ここで、万有引力の法則をもう一度考えてみましょう。ニュートンの法則が示すように、引力は常に物体間の距離をゼロにしようとする方向に働きます。観光地と観光客の「引力」を強めるには、宿泊税という摩擦要因をできるだけ小さくすることが重要です。観光客が負担を感じることなく旅行を楽しめる環境を整えることで、観光地の魅力が最大限に発揮されるのです。</p> <p>エジプトのような国が宿泊税を導入する代わりに、観光資源の持続可能性を高めるための別の方法を模索することができます。例えば、入場料の値上げや、寄付型のクラウドファンディングを活用して文化遺産の保護資金を調達する方法があります。また、観光客に対して環境保護や文化遺産の保存に関する啓発活動を行うことで、観光地としての価値を高めることも可能です。</p> <p>結論として、宿泊税は観光地の財政を支える一つの方法ではありますが、エジプトのような観光立国においては、その効果を慎重に評価する必要があります。万有引力の法則を観光の文脈で考えると、宿泊税は観光客と観光地の間の「引力」を弱める要因となり得ます。観光地が本来持つ魅力を最大限に引き出すためには、宿泊税のような摩擦要因を減らし、観光客が自由に引き寄せられる環境を整えることが求められるのです。この視点を通じて、エジプトの観光施策や宿泊税に対する批判的な検討を続けるべきでしょう。</p>	エジプトを例とした、宿泊税の導入に対するご意見として、参考にさせていただきます。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
291	その他	<p>男女別姓に賛成する観光客を優遇するという施策について、その効果や問題点を述べる前に、まずこの施策が観光地で注目される背景を考える必要があります。近年、社会的な価値観やライフスタイルの変化に伴い、男女別姓を支持する声が高まっています。特に都市部や若い世代を中心に、個人の自由や選択の重要性が強調されており、この価値観に賛同する観光客は少なくありません。観光地側としては、こうした価値観を支持する顧客層に向けて優遇措置を取ることで、訪れる人々の満足度を高め、観光地の経済効果を上げようとする動きが見られます。しかし、この施策がもたらす影響には、観光地の持続可能性を脅かす側面もあることを考慮しなければなりません。特に、観光地におけるゴミ問題が顕著になる可能性があることに焦点を当て、その理由と対策を深掘りしていきます。</p> <p>男女別姓賛成者の優遇施策の背景と意図 観光地が男女別姓賛成者を優遇するというアイデアは、近年の社会的な流れを反映したものです。特に結婚における姓に対する考え方は、従来の「夫婦別姓」に反対する意見もありますが、近年では「選択的夫婦別姓」を支持する声が強まっています。個人の自由を尊重し、伝統的な価値観を超えて多様性を受け入れる社会が求められる中で、観光地側もそのような価値観を共有する顧客をターゲットにすることは自然な流れともいえます。観光地がこのような施策を打ち出す目的は、男女別姓に賛成する層が一定の支持を持ち、そのニーズに応えることで観光業を活性化させるためです。この施策が成功すれば、観光地への集客を促進し、地域経済を活性化させるという期待があります。観光業は地域経済に与える影響が大きく、特に観光地では訪れる観光客の満足度やリピート率を高めることが成功の鍵となります。そうした観光地において、このような施策が一つの販売戦略として位置づけられることは、観光業における最新のトレンドの一つといえます。</p> <p>観光客の増加によるメリットと課題 男女別姓賛成者を優遇する施策が成功すれば、観光地における訪問者数は増加すると予測されます。観光客が増加すること自体は地域経済にとって大きなプラス要素です。増えた観光客が観光地の飲食店、宿泊施設、土産物店、観光施設などにお金を使うことにより、地域の経済活動は活発化し、観光業に従事している地元住民の雇用も増えるでしょう。</p> <p>さらに、訪れる観光客が地域に対する理解を深め、文化的な交流が進むことも、観光地としての魅力を高める要因となります。社会的に多様性を尊重する価値観に賛同する観光客が集まり、観光地自身がその価値観を発信する拠点として認知されることは、観光地のブランド力向上に寄与する可能性があります。</p> <p>しかし、観光客が増加する一方で、問題も発生する可能性があります。その一つが、観光地で発生するゴミ問題です。観光地が訪れる人々の数を受け入れるためのインフラや施設の整備が急務となり、それに伴いゴミの量も増加することが予想されます。観光客が増えると、自然とその消費活動に伴ってゴミが多く発生し、適切な処理や管理が求められます。</p> <p>ゴミ問題の発生メカニズム 観光地におけるゴミ問題は、単なる「ゴミが増える」という問題だけにとどまりません。観光客が増加すると、ゴミの種類や処理方法に対するニーズも多様化します。例えば、食事やお土産を購入した観光客が使う包装材、プラスチック製品、使い捨ての容器などが問題となります。特に、使い捨ての容器や包装材は非常に大量に出るため、その廃棄方法に苦慮する観光地が増加しています。また、観光客が訪れる施設周辺にゴミが放置されることも少なくありません。</p> <p>さらに、観光地の環境に対する意識が低い一部の観光客によって、ゴミのポイ捨てや不法投棄が行われることも懸念されます。ゴミの不法投棄は、観光地の美観を損ねるだけでなく、環境にも悪影響を及ぼすため、対策が急務となります。このような問題は観光客が増えることで顕在化し、地域や行政にとって対応策を講じる負担が増えることとなります。</p> <p>ゴミ問題の影響と対策 観光客の増加に伴ってゴミ問題が深刻化すると、観光地のイメージや魅力が損なわれる可能性があります。自然や環境が観光地の大きな魅力の一つである場合、その美しい景観がゴミで覆われることは致命的です。また、地域住民の生活環境にも悪影響を及ぼす可能性があるため、観光地における持続可能な発展には十分な配慮が求められます。このような問題に対する対策としては、観光客に対する啓発活動が重要です。ゴミを捨てずに持ち帰ること、リサイクルを推進すること、ゴミの分別を徹底することなど、観光客に対する環境意識を高める取り組みが求められます。また、観光地側ではゴミ箱の設置場所や清掃スタッフの増員、リサイクル可能な容器の導入など、実際にゴミを処理するインフラを整備する必要があります。</p> <p>さらに、観光地で発生するゴミの種類を見極め、リサイクルや再利用を促進する仕組みを作ることも大切です。観光業界全体で持続可能な観光を推進し、環境負荷を最小限に抑えるための努力が求められます。結論 男女別姓賛成者を優遇する施策は、観光業の新たなアプローチとして注目されていますが、その影響を広く考慮する必要があります。観光客の増加によって地域経済の活性化が期待される一方で、ゴミ問題などの環境負荷が増大する可能性もあります。これらの問題に対処するためには、観光地側が戦略的に環境保護やゴミ管理を強化することが必要です。持続可能な観光を実現するためには、観光客、地域住民、行政が協力して環境に配慮した取り組みを進めることが不可欠です。</p>	<p>観光客の増加に伴うゴミ問題について、関係局や関連事業者と連携を図りながら、対策を講じ、快適な受入環境の整備など、旅行者と地元住民の双方が快適に過ごすことができ環境づくりに努めてまいります。また、男女別姓賛成者を優遇する施策について、ご意見として承ります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
292	その他	<p>青葉城と仙台城という呼び名の違いについて、理解を深めるためには歴史的背景や地域的な特徴を踏まえて考察することが重要です。仙台城は、現在の宮城県仙台市に位置しており、特にその歴史的意義や文化的価値が高く評価されています。青葉城という呼び名もこの場所に関連していますが、どちらの呼び名が使用されるかには一定の背景や理由があります。それでは、両者の呼び名についての違い、そしてその背景を詳しく解説していきます。</p> <p>仙台城とは  仙台城は、16世紀末から17世紀初頭にかけて築かれた城で、伊達政宗の命によって建てられました。政宗は、江戸時代初期の仙台藩の藩主であり、仙台城はその拠点として重要な役割を果たしました。仙台城は、もともと「青葉山」に築かれ、これが後に「仙台城」と呼ばれるようになったのです。</p> <p>仙台城の築城には、当時の政治的背景が大きく影響しており、政宗が東北地方の統治を強化するための拠点としてこの城を築きました。仙台城は、その後の江戸時代における藩主の居城となり、長い間地域の支配の中心となりました。</p> <p>城自体は、戦国時代の建築様式を取り入れた堅固な構造を有し、周囲には堀や土塁が設けられ、侵入者から城を守るための防御力を高めていました。しかし、仙台城は明治時代以降、廃城となり、現在のような形で遺構が残っているのは、その後の発掘調査と復元活動によるものです。</p> <p>青葉城という呼び名  一方で、青葉城という名前は、仙台城が位置している「青葉山」に由来しています。青葉山は、仙台市内でも目立つ地形の一つであり、その自然景観の美しさから、山そのものを指して青葉城という呼び名が使われるようになったのです。</p> <p>青葉城という呼び名が使われる背景には、仙台城を築いた伊達政宗の意向や、仙台の人々にとつての親しみやすさがあると考えられます。地元の人々は、この城を「青葉城」と呼ぶことが一般的であり、また観光地としての「青葉城」も有名です。特に、青葉城跡が観光名所として多くの人々に親しまれているため、「青葉城」という名前が定着したと言えるでしょう。</p> <p>青葉城という名前には、仙台の自然景観との結びつきや、地域の人々との密接なつながりを感じさせる要素が強く反映されています。城の歴史や役割を学ぶだけでなく、仙台の風景や文化を深く知るための入り口としても青葉城という名前は象徴的な意味を持っています。</p> <p>呼び名の違いが生じた背景  では、なぜ「仙台城」と「青葉城」と呼び名が異なるのでしょうか。実際、両者の呼び名は、同じ城に対して異なる視点を反映していることが分かります。「仙台城」という名前は、都市としての仙台の存在や、政治的な意義を強調する意味で使われることが多いのに対し、「青葉城」という呼び名は、自然や地域に根ざした親しみを表現するために使用されることが多いと考えられます。</p> <p>また、仙台城という名称は、公式な場や歴史的な文脈でよく使用される一方で、青葉城という名称は、観光や地域の住民が日常的に使用する名前として親しまれてきました。青葉城という呼び名が生まれた背景には、地元の人々の記憶や地域に根差した文化が大きく影響しています。</p> <p>仙台城という名前は、特に城を支配していた伊達政宗の存在と結びついており、外部の人々に向けてその歴史的な価値を示すために使用されることが多くなっています。対して、青葉城という名前は、仙台の人々にとって身近な場所として感じられ、より愛着が込められた呼び名だと言えるでしょう。</p> <p>観光地としての役割  観光地としての仙台城や青葉城は、その呼び名がもたらすイメージに大きな影響を与えています。観光客にとって、どちらの呼び名が使われるかは、訪れる際の心象にも関わってきます。仙台城として訪れる場合、どちらかと言えば歴史的な背景を重視した観光が行われる傾向にあり、青葉城として訪れる場合は、より自然や景観を楽しむ要素が強くなる傾向があります。</p> <p>観光業の視点では、青葉城という呼び名が、観光客にとってより身近で親しみやすい印象を与え、訪れることが積極的に促進されることとなります。観光地としての評価が高い青葉城は、歴史的価値を持ちながらも、自然との調和を大切にした場所として、地域の魅力を最大限に引き出すことができます。</p> <p>一方で、仙台城という呼び名は、より正式な歴史的な意味合いを持ち、歴史愛好者や学術的な研究の対象となることが多いです。仙台城という名称を用いることにより、訪れる人々にその歴史的背景や政治的な意味合いを伝えることができます。</p> <p>まとめ  仙台城と青葉城という呼び名には、それぞれ異なる背景や意図が込められています。仙台城はその歴史的な価値や政治的な意味を強調するために使われ、青葉城は地域の自然景観や住民とのつながりを大切にしたい親しみやすい呼び名として使われています。どちらの呼び名が使われるかは、その文脈によって異なり、観光客にとつては地域の魅力を感じるための重要な手がかりとなります。</p> <p>このように、仙台城と青葉城の呼び名の違いは、地域の歴史、文化、そして人々の感情に深く結びついており、それぞれの呼び名が持つ意味や役割は、仙台の魅力伝えるために大切な要素となっています。</p>	<p>青葉城と仙台城の呼び名の違いに関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
293	その他	<p>宇和島伊達藩についても、伊達家の重要な一部として外国人観光客に理解してもらうことが大切です。宇和島藩は、伊達政宗の血を引く伊達家の分家であり、四国地方の愛媛県に位置していました。政宗の実父、伊達輝宗が宇和島に領地を持っていたことから、伊達家はその後宇和島を重要な拠点として治めてきました。</p> <p>宇和島伊達藩の歴史的背景  宇和島伊達藩は、戦国時代から江戸時代にかけて、伊達家の血を引く人物が支配していた藩です。もともとは、政宗の父である輝宗が、仙台から遠く離れた四国の宇和島に土地を与えられ、その後、政宗の死後も続きました。伊達政宗の子孫である伊達家の一族は、仙台藩とは独立した宇和島藩を治め、地域の発展に貢献しました。宇和島藩は、もともと地理的に隔たっていたため、仙台藩との間には一定の距離感があったものの、伊達家の家系としては非常に重要な存在でした。</p> <p>宇和島伊達藩の特色としては、藩主がそれぞれの時代で試みた文化的な発展や、地域の経済を支えるための努力が挙げられます。特に藩主たちは、商業や農業、技術の発展に力を入れ、藩内の安定を保ちながら、その領土を繁栄させました。</p> <p>宇和島伊達藩の観光的魅力  宇和島伊達藩の歴史を外国人観光客に伝えることは、日本の歴史と文化を深く知る上で非常に有益です。観光ガイドツアーを通じて、宇和島に関連する史跡を巡ることで、伊達家の地域ごとの特徴を学ぶことができます。例えば、宇和島には伊達家の歴史を象徴する宇和島城があり、ここで伊達家がどのようにして地域を治め、発展させていったのかを知ることができます。宇和島城は、伊達家の藩主が住んだ城として非常に重要な文化遺産であり、外国人観光客にとっても魅力的な観光地となるでしょう。</p> <p>また、宇和島藩主が行った様々な文化的活動についても触れることができます。例えば、藩主たちは積極的に文芸や芸術に触れ、その文化的な影響を宇和島にもたらしました。これらの歴史的背景を伝えることで、観光客はただの観光地としてだけでなく、その土地の文化や歴史的背景を深く感じることができるようになります。</p> <p>さらに、宇和島地域には地元の伝統や文化を支える工芸品や食文化もあり、観光客にとってその土地の特色を知ることができる貴重な体験になります。これらの要素を観光ガイドツアーに組み込むことで、伊達家の歴史を学びながら、地域の現代文化にも触れることができる、非常に充実した体験を提供することが可能です。</p> <p>宇和島伊達藩と他の伊達家との関係  宇和島伊達藩と仙台伊達藩の関係についても、観光ガイドツアーを通じて触れるべき重要なポイントです。仙台藩は、伊達政宗の本拠地であり、伊達家の中心的な家系であったのに対し、宇和島藩はその分家として独立した存在でした。しかし、両者は伊達家の血を引いており、長い間相互に影響を与え合いながらも、各地でそれぞれの発展を遂げました。観光ガイドツアーを通じて、このような家系間のつながりを解説することは、外国人観光客にとって非常に興味深い内容となるでしょう。</p> <p>宇和島伊達藩の観光ガイドツアーの設置の重要性  観光ガイドツアーを設置することにより、外国人観光客は伊達家に関する深い知識を得ることができ、また、その地域における歴史や文化について理解を深めることができます。宇和島伊達藩の観光地を巡るツアーは、伊達家の一族に関する知識を提供し、観光客にとって充実した歴史的な体験を提供します。</p> <p>伊達家の家系に興味がある観光客にとって、宇和島は非常に魅力的な場所であり、その歴史的な重要性を伝えるためのガイドツアーは、観光業における新しい市場を開拓する手段ともなります。観光ガイドツアーを通じて、宇和島伊達藩の魅力を伝えることは、日本の歴史や文化をより深く理解してもらうために欠かせない要素です。</p> <p>まとめ  伊達家の家系に関連する観光地は、日本の歴史を学ぶ上で非常に価値があります。仙台の伊達政宗の歴史に加え、宇和島伊達藩もその家系の重要な一部であり、その地域の文化や歴史を外国人観光客に伝えることが求められます。観光ガイドツアーを設置することで、観光客は伊達家の歴史をより深く学ぶことができ、またその地域の文化に触れることができます。伊達家に関する観光ガイドツアーは、日本の歴史と文化を深く理解するために必要不可欠な要素であり、日本の観光業をさらに発展させるために重要な役割を果たします。</p>	<p>歴史的な価値や魅力を活用した観光施策に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
294	その他	<p>みかんは、観光地によく見かける果物のひとつであり、その歴史は日本の文化や農業に深く根ざしています。特に日本におけるみかんの歴史は、地域の発展と密接に関連しており、観光資源としても大きな役割を果たしてきました。以下に、観光におけるみかんの歴史を詳しく解説します。</p> <p><b>みかんの日本への伝来</b> みかんは、もともと中国をはじめとする東アジア原産の果物です。日本には、平安時代から江戸時代にかけて、さまざまな形で伝来しましたが、特にみかんの栽培が本格化したのは江戸時代です。最初に日本に伝わったみかんは、主に温暖な地域で栽培されました。特に、紀伊半島や四国地方の温暖な気候がみかんの栽培に適していたため、これらの地域がみかんの名産地となりました。日本におけるみかんの栽培は、次第に広がりを見せ、江戸時代には庶民にも親しまれる果物となり、また江戸時代の食文化にも多大な影響を与えました。</p> <p><b>みかんの観光資源としての発展</b> 日本の観光業における「みかん」の存在感が増してきたのは、20世紀初頭から中期にかけてです。特にみかんの名産地である和歌山県、愛媛県、静岡県などの地域では、みかん農園の見学やみかん狩りといった観光施設が整備され、観光客に人気のスポットとなりました。これらの観光地では、みかんの栽培が重要な農業活動として経済を支える一方で、観光資源としても利用されてきました。</p> <p>みかん狩りは、観光地で特に人気のアクティビティです。観光客は、実際にみかんを収穫する体験を通じて、地域の農業や伝統的な生活に触れることができるため、学びの場ともなり、地域とのつながりを深めることができます。これにより、農業と観光がうまく融合し、観光地の活性化が進むとともに、地域経済にも貢献してきました。</p> <p><b>みかんを通じた地域文化の発信</b> みかんが観光資源として発展していく中で、地域の文化や歴史をみかんに関連付けて発信する取り組みが広がりました。例えば、和歌山県の「紀州みかん」や愛媛県の「温州みかん」など、それぞれの地域には独自のブランドが生まれ、観光客はそのブランドを求めて訪れるようになりました。みかんは単なる果物にとどまらず、その土地の風土や気候、農業技術などを象徴する存在となり、その土地ならではの文化を紹介するための重要な要素となっています。</p> <p>また、みかんの旬や収穫時期に合わせて観光イベントが開催されることもあります。みかんを使った料理やスイーツ、ジュースなどが登場することで、観光客はその地域ならではの食文化も楽しむことができ、みかんを通じて地域の特色をより深く理解することができます。</p> <p><b>観光資源としての課題と未来</b> みかんの観光資源としての魅力は確かに大きいですが、一方でその課題もあります。例えば、みかんの栽培においては、気候変動や害虫・病害の影響を受けることが多く、これが農家の生産量や品質に大きな影響を与えることがあります。また、観光地としての施設が増えることで、観光客の過剰な訪問やマナーの問題が発生することもあり、地域の住民とのバランスを取ることが求められます。</p> <p>しかし、みかんを観光資源として活用するための取り組みは、これからも進化していくと考えられます。例えば、みかんの栽培に関する教育プログラムや、農業と観光を結びつけた新しい形態のツアーが増えることが予想されます。また、地元の伝統文化や食文化とのコラボレーションにより、観光客にとって魅力的な体験を提供することが可能です。</p> <p><b>みかん観光の未来</b> みかんの観光地としての未来は、地域の農業や文化と密接に関わりながら、観光業の発展を支える重要な要素として位置づけられています。みかん狩りや果樹園の見学は、自然や農業に触れる貴重な体験として、多くの観光客に支持されています。さらに、みかんを使った新しい商品やイベントの開発が進むことで、観光地としての魅力をさらに高めることができるでしょう。</p> <p>観光業の発展において、みかんが果たす役割は今後ますます重要になり、地域経済の活性化に貢献し続けることでしょう。そのためには、農業の持続可能性を確保しつつ、観光と農業の連携を強化し、地域全体での取り組みを進めることが求められます。</p> <p><b>まとめ</b> みかんは、日本の観光地における重要な果物であり、その歴史と地域文化を通じて観光業を活性化させる貴重な資源です。みかん狩りや地域の特色を生かした観光イベントなどを通じて、観光客はみかんと共に地域の魅力を感じることができ、今後も、みかんを使った新しい観光の形が生まれることで、観光業がさらに発展することが期待されます。</p>	ご意見として承ります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
295	その他	<p>仙台市は、歴史的な名所や豊かな自然、美しい街並みなど、多くの魅力を持つ都市です。しかし、その魅力を十分に楽しむためには、市内の各エリアへのアクセスをより便利にする必要があります。そこで提案したいのは、路線バスの充実と料金無料化です。これにより、市内の回遊性が大幅に向上し、観光客や市民にとってより快適で魅力的な都市となるでしょう。</p> <p>まず、路線バスの充実について考えてみましょう。現在、仙台市内には多くのバス路線が存在していますが、観光客にとっては分かりにくい場合があります。特に初めて訪れる人々にとって、路線図や時刻表を理解するのは容易ではありません。そのため、バスの運行情報をより分かりやすく提供することが重要です。例えば、多言語対応の案内板やアプリを導入することで、外国人観光客にも使いやすい環境を整えることができます。また、バス停の増設や路線の拡充も検討すべきです。これにより、観光地や商業施設へのアクセスが向上し、利用者が増えることでしょう。</p> <p>さらに、バスの運行頻度を増やすことも重要です。現在、バスの運行間隔が長い時間帯や路線があるため、利用者にとって不便な状況が生じています。特に朝夕のラッシュ時や週末など、混雑する時間帯には運行本数を増やすことで、利用者のストレスを軽減することができます。また、観光地を巡る専用のシャトルバスを運行することで、観光客が効率的に観光スポットを回るできるようになります。このような取り組みは、観光客の満足度を高め、再訪を促す効果も期待できます。</p> <p>次に、バス料金の無料化について考えてみます。バス料金が無料になることで、多くの人々が気軽にバスを利用するようになります。これにより、公共交通機関の利用が促進され、自家用車の利用が減少することが期待されます。結果として、市内の交通渋滞が緩和され、環境負荷の軽減にもつながります。また、バス料金無料化は観光客にとっても大きな魅力となります。観光地を訪れる際の交通費が削減されることで、観光客の滞在期間が延び、観光地での消費が増加することが見込まれます。</p> <p>さらに、バス料金無料化は地域経済の活性化にも寄与します。バスの利用が増えることで、観光地や商業施設へのアクセスが向上し、これに伴って地域全体の経済活動が活発化します。特に地元の商店や飲食店への訪問が増えることで、売上の増加が期待されます。また、観光客の増加によって宿泊施設の稼働率が向上し、観光業全体が潤うこととなります。これにより、地域の雇用が増え、経済的な安定がもたらされるでしょう。</p> <p>もちろん、バス料金無料化に伴うコストの問題も無視できません。しかし、長期的な視点で見れば、バス料金無料化による経済効果は十分に大きいと考えられます。観光業の振興や地域経済の活性化によって得られる利益を考慮すれば、公共交通機関の維持・運営にかかる費用は賄えるでしょう。また、地方自治体や企業との連携によって、資金調達や運営の効率化を図ることも可能です。例えば、観光地や商業施設への広告掲載を通じて収益を得ることや、運営効率を高めるための新技術の導入など、さまざまな方法が考えられます。</p> <p>さらに、バス料金無料化は社会的な意義も持っています。公共交通機関の利用が促進されることで、交通弱者である高齢者や障がい者、子育て世代などにとっても利便性が向上します。特に、高齢化が進む現代社会において、高齢者が安心して外出できる環境を整えることは重要です。バス料金が無料になることで、経済的な負担が軽減され、高齢者や障がい者も積極的に外出するようになります。これにより、社会全体の活力が向上し、地域コミュニティの結束も強まるでしょう。</p> <p>また、バス料金無料化は観光振興にも大きな効果をもたらします。観光客にとって、無料の交通手段が提供されることで、観光地を巡る際のハードルが低くなります。これにより、観光客はより多くの場所を訪れ、観光地全体の魅力を満喫できるようになります。特に、観光地が点在する仙台市においては、バス料金無料化は観光客の回遊性を高める大きな要因となります。</p> <p>さらに、バス料金無料化は地域住民の生活の質の向上にもつながります。通勤や通学、買い物など、日常生活における移動の利便性が向上することで、市民の生活がより快適になります。特に、経済的に厳しい状況にある家庭にとって、交通費の負担が軽減されることは大きなメリットです。これにより、地域全体の幸福度が向上し、住みやすい街づくりが進むでしょう。</p> <p>以上のように、仙台市内の各エリアの回遊性を高めるためには、路線バスの充実と料金無料化が非常に効果的です。観光客や地域住民にとって利便性が向上し、地域経済の活性化や社会的な意義も大きいです。バス料金無料化にはコストの問題もありますが、長期的な視点で見れば、経済効果や社会的な利点が上回ることが期待されます。仙台市の発展と市民の生活の質向上のために、ぜひこの提案を検討していただきたいと思います。</p>	<p>公共交通機関の利便性向上は、観光振興や市民の皆様の生活の質の向上において重要な課題であると認識しており、ご意見として承ります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
296	その他	<p>私は市民の一人として、観光業の発展よりもまず生活保護費の増額を優先してほしいと強く訴えたいです。経済の発展や観光業の振興も確かに重要ですが、私たちの社会の基本は、すべての市民が安全で健康的な生活を送ることができることにあります。特に、現在の物価高騰の状況において、生活保護を受けている人々は非常に厳しい状況に置かれています。まず、物価の上昇により、日々の生活費が増加しています。食品、日用品、公共料金、住宅費など、生活の基本となる支出がすべて増えている現状では、生活保護を受けている方々は必要な物を購入するのに苦労しています。特に、食品の価格上昇は深刻です。健康的な食事を取るためには、新鮮な野菜や果物、バランスの取れた食材が必要ですが、これらの価格が高騰しているため、十分な食事を摂ることが難しい状況にあります。このままでは、生活保護を受けている人々の健康状態が悪化し、医療費の増加など、さらなる問題を引き起こす恐れがあります。また、住居費の増加も見逃せません。家賃や光熱費が上昇する中で、生活保護費だけでは必要な住居費を賄うことが困難になっています。多くの生活保護受給者が、家賃の支払いに苦しみ、住居を維持することが難しくなっています。住む場所を失うことは、生活全体を不安定にし、さらに困難な状況に追い込むこととなります。安全で安定した住居は、人々が自立した生活を送るための基盤です。そのため、生活保護費の増額は、住居の安定確保に直結する重要な施策となります。さらに、医療費や教育費も生活保護受給者にとって大きな負担となっています。健康を維持するためには定期的な医療ケアが必要ですが、医療費の負担が大きいため治療を受けることを躊躇する人も少なくありません。特に、高齢者や慢性疾患を抱える人々にとって、医療費の負担は大きな問題です。教育費も同様で、子どもたちが適切な教育を受けるためには一定の費用がかかります。しかし、生活保護費だけではこれらの費用を賄うことが難しく、子どもたちが教育の機会を逃してしまう恐れがあります。教育は将来の自立を支える重要な要素であり、子どもたちが適切な教育を受けるためにも、生活保護費の増額が必要です。観光業の発展は経済の活性化に寄与しますが、それは一部の企業や個人にとっての利益に過ぎません。一方で、生活保護を必要とする人々は、社会の中で最も弱い立場にある人々です。彼らの生活を支えることは、社会全体の安定と公正を実現するために欠かせないことです。生活保護費の増額は、彼らが最低限の生活を営むための基本的な権利を保障するものであり、社会の一員としての尊厳を守るためにも必要不可欠です。また、生活保護受給者の生活が安定することで、社会全体の医療費や福祉費用の削減にもつながります。生活保護費が十分でないために健康状態が悪化し、医療機関を頻りに利用することになれば、結果的に社会全体の医療費が増加します。逆に、生活保護費を増額し、受給者が健康的な生活を送ることができれば、医療費の削減に寄与することができます。同様に、教育費の支援を強化することで、子どもたちが適切な教育を受け、将来の自立が可能になるため、長期的には福祉費用の削減にもつながります。さらに、生活保護費の増額は地域経済の活性化にも寄与します。生活保護受給者が生活費を増額された場合、そのお金は地元の商店やサービス業に使われることが多いです。これにより、地域の経済活動が活発化し、地元の商品やサービスの売上が増加します。観光業の発展も地域経済の活性化に寄与しますが、その恩恵を受けるのは観光地や大企業が中心です。一方、生活保護費の増額は、地域全体に均等に利益をもたらすことができます。また、生活保護費の増額は社会的な公正を実現するためにも重要です。私たちの社会は、すべての人々が基本的な生活を営む権利を持つという理念に基づいています。しかし、現在の生活保護費では、その理念を実現することが難しい状況にあります。物価の上昇や経済的な不安定さが続く中で、生活保護受給者の生活がさらに厳しくなることは避けられません。彼らの生活を支えるためには、生活保護費の増額が不可欠です。観光業の発展も重要ですが、それ以上に優先されるべきは、すべての市民が安心して生活できる環境を整えることです。特に、生活保護を受けている人々は、日々の生活において多くの困難を抱えています。彼らが安心して生活できるようにするためには、生活保護費の増額が必要です。社会全体が共に支え合い、公正な社会を実現するために、まずは最も弱い立場にある人々を支援することが求められます。以上の理由から、私は観光業の発展よりも先に、生活保護費の増額を優先することを強く訴えます。物価の上昇や経済的不安が続く中で、生活保護を必要とする人々の生活を支えることは、社会全体の安定と公正を実現するために不可欠です。すべての市民が安心して生活できる社会を築くために、生活保護費の増額を検討し、実現していただきたいと思います。</p>	ご意見として承ります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
297	その他	<p>宿泊税の導入には反対し、観光以外の方法で地域経済を活性化させるために、以下の三つの手法を提案します。これらの方法は、地域の強みを活かし、持続可能な経済成長を促進するものです。</p> <p><b>## #1. 地域の農業と農産物のブランド化</b>  地域経済を活性化させるための一つの方法は、地域の農業を強化し、農産物のブランド化を推進することです。地域独自の農産物をブランド化し、高付加価値の商品として市場に提供することで、農業の収益を向上させ、地域経済の発展を図ります。</p> <p>まず、地域の特産品を洗い出し、それらの品質向上や生産技術の改善を図ります。例えば、有機農法の導入や最新の農業技術を活用することで、品質の高い農産物を生産します。また、地元の気候や土壌に適した品種を選定し、地域固有の特産品を育てることが重要です。</p> <p>次に、農産物のブランド化を進めるために、マーケティング戦略を強化します。特産品の魅力を広く知ってもらうために、地域の特産品に関する情報を発信するウェブサイトやSNSを活用します。また、地元の農産物を使った料理コンテストや試食イベントを開催し、消費者に直接触れてもらう機会を増やします。これにより、特産品の認知度を高め、市場での競争力を向上させることができます。</p> <p>さらに、地域農産物の流通ネットワークを整備し、地元だけでなく、広域市場への進出を図ります。地元の農産物を販売する直売所やオンラインショップを設立し、消費者に直接販売することで、中間コストを削減し、生産者の収益を向上させます。また、地元の飲食店やホテルと連携し、地域農産物を使用した料理を提供することで、地域の魅力をアピールします。</p> <p><b>## #2. 地域の中小企業支援とスタートアップの促進</b>  地域経済を活性化させるためのもう一つの方法は、中小企業支援とスタートアップの促進です。地域の中小企業やスタートアップは、地域経済の重要な担い手であり、これらの企業が成長することで、地域全体の経済が活性化します。</p> <p>まず、中小企業への支援を強化します。中小企業が直面する課題として、資金調達や販路の拡大が挙げられます。これらの課題を解決するために、地域の金融機関と連携して、中小企業向けの低利子融資や補助金制度を設けます。また、ビジネスマッチングイベントや展示会を開催し、中小企業が新たなビジネスパートナーや顧客と出会う機会を提供します。</p> <p>次に、スタートアップの促進を図ります。スタートアップは革新的なビジネスモデルや技術を持ち、地域経済に新たな活力をもたらします。地域の大学や研究機関と連携し、スタートアップの創業支援プログラムを実施します。例えば、ビジネスプランコンテストを開催し、優れたプランには資金や技術支援を提供します。また、インキュベーション施設を整備し、スタートアップに必要なオフィススペースやネットワーキングの場を提供します。</p> <p>さらに、スタートアップの成長を支援するために、地域内外の投資家との連携を強化します。地域のスタートアップが資金調達を円滑に行えるように、ピッチイベントを開催し、投資家とのマッチングを図ります。また、地域内外の企業や自治体と連携し、スタートアップの新しいビジネスモデルや技術の実証実験を行う場を提供します。これにより、スタートアップの成長を促し、地域経済の活性化を図ります。</p> <p><b>## #3. 教育と人材育成の強化</b>  地域経済を持続可能に活性化させるための三つ目の方法は、教育と人材育成の強化です。優れた人材は地域の発展に不可欠であり、教育の充実と人材育成を通じて、地域の競争力を高めることができます。</p> <p>まず、地域の教育機関と連携し、地域に根ざした教育プログラムを開発します。例えば、地域の産業や特産品に関連したカリキュラムを導入し、地元の歴史や文化を学ぶ機会を提供します。また、地域の企業と連携して、インターンシップや職業訓練プログラムを実施し、実践的なスキルを身につける場を提供します。これにより、地域の若者が地域内での就職を希望し、地域に定着することが期待できます。</p> <p>次に、生涯学習の機会を提供し、全世代のスキルアップを図ります。地域の図書館や公民館、コミュニティセンターなどを活用し、多様な学びの場を提供します。例えば、ITスキルやビジネススキル、語学など、さまざまなスキルを身につけるための講座を開設します。また、地域の専門家や講師を招いて、実務に役立つ知識や技術を学ぶ機会を提供します。これにより、地域の労働力の質を向上させ、地域経済の競争力を高めることができます。</p> <p>さらに、地域の魅力を伝えるための観光ガイドや通訳、文化講師などの専門人材を育成します。観光業だけでなく、地域の文化や歴史を伝える人材の育成は、地域のアイデンティティを強化し、地域全体の魅力を向上させることにつながります。これにより、地域内外からの評価が高まり、地域経済の発展に寄与することが期待できます。</p> <p>以上の三つの方法を通じて、観光以外の分野でも地域経済を活性化させることが可能です。地域の強みを活かし、持続可能な発展を目指すために、これらの施策を積極的に推進することが求められます。宿泊税の導入に頼らず、多角的なアプローチで地域経済を活性化させる努力が重要です。</p>	<p>宿泊税は、交流人口の拡大に向けてさらに強化すべき施策を推進していくための財源として導入を進めているものです。</p> <p>宿泊税は、「旅行者を呼び込むための観光コンテンツの造成」、「宿泊・連泊を促進するための誘客強化」、「観光の基盤である宿泊事業者への支援」の3つの視点に基づいて活用していくこととしております。</p> <p>また、地域経済の活性化に向けた具体的な方策や多角的なアプローチについてのご意見について、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
298	その他	<p>私はインドネシアから来た留学生として、毎週のように東京に観光に行くことを楽しんでいます。仙台市には魅力があるものの、私は東京を選び続ける理由がいくつかあります。</p> <p>まず、東京は観光名所の数と多様性が圧倒的です。仙台市も美しい自然や文化的な場所がありますが、東京は歴史的な寺院や神社、最先端のショッピングエリア、テーマパーク、そして数々の博物館や美術館など、無数の観光スポットがあります。例えば、浅草の雷門や明治神宮、お台場のヴィーナスフォートや東京ディズニーランドなど、一日では回りきれないほどのスポットがあり、毎回新しい発見があるのが魅力です。</p> <p>次に、東京はアクセスの良さが魅力です。新幹線や地下鉄、バスなどの交通手段が非常に発達しており、どこへ行くにも便利です。仙台市も公共交通機関が整っていますが、東京の交通網の複雑さと利便さにはかないません。特に、観光客にとっては、複数の移動手段があることで計画を柔軟に変更できるのは大きなメリットです。</p> <p>また、東京はエンターテインメントの選択肢が豊富です。仙台市にも映画館やコンサートホールがありますが、東京はそれ以上に多くの劇場やライブハウス、イベントスペースがあります。最新の映画やミュージカル、ライブパフォーマンスを楽しむことができ、常に新しいエンターテインメントが提供されています。これにより、毎回違った楽しみ方ができるのが魅力です。</p> <p>最後に、東京はグルメの天国です。仙台市も美味しい食べ物がたくさんありますが、東京のグルメシーンは世界的に有名で、多様な料理が楽しめます。ミシュランガイドに掲載されているレストランや、地元の居酒屋、国際色豊かなカフェやレストランなど、食の選択肢が豊富です。特に、新鮮な寿司やラーメン、和菓子など、日本の伝統的な料理から最新のフードトレンドまで楽しむことができます。</p> <p>以上の理由から、私は仙台市よりも毎週東京を選んで観光を楽しんでいます。東京は常に新しい発見や楽しみがあり、観光客として飽きることがありません。もちろん、仙台市も美しい場所であり、特有の魅力がありますが、観光の選択肢と利便性を考えると、東京をお勧めします。</p>	<p>本観光戦略では、旅行者が訪れる度にワクワクする、魅力あふれる過ごし方を提案することで、観光を基軸とした仙台の成長を目指しております。ご例示の東京とは異なる、魅力ある観光コンテンツの創出や、仙台ならではのコアとなる観光資源の磨き上げを図り、訪れたい都市を目指してまいります。</p>
299	その他	<p>仙台市とインドネシアの観光戦略を比較すると、インドネシアは多様な観光資源と戦略的なプロモーション活動を展開している点で非常に参考になると考えます。仙台市が観光を促進し、より多くの観光客を引き付けるためには、インドネシアの成功例を参考にすることが有効です。以下に具体例を挙げながら、インドネシアの観光戦略を真似るための提言を行います。インドネシアは豊富な自然資源と文化遺産を有し、多様な観光商品を展開しています。例えば、バリ島のビーチリゾートやウブドの文化体験、ポロブドゥールの仏教遺跡など、観光客の興味やニーズに応じた多様な観光商品を提供しています。このように、仙台市も多様な観光資源を活かし、観光商品を多様化することが重要です。仙台市は美しい自然や歴史的な名所が多くありますが、それらを組み合わせた多様な観光商品を開発し、観光客の興味を引きつけることが求められます。例えば、松島の景観を楽しむクルーズツアーと、瑞巖寺の歴史探訪ツアーを組み合わせたパッケージツアーを提供することで、観光客に一度に複数の魅力を体験してもらうことができます。また、インドネシアは観光プロモーション活動にも力を入れています。インターネットやソーシャルメディアを活用し、世界中の観光客に向けて魅力的な情報を発信しています。仙台市も同様に、デジタルプラットフォームを活用した観光プロモーションを強化する必要があります。具体的には、仙台市内の観光スポットやイベント情報、地元の特産品などをSNSやウェブサイトで積極的に発信することが考えられます。また、観光客が撮影した写真や動画をシェアするためのハッシュタグキャンペーンを展開し、ユーザー生成コンテンツを活用して仙台市の魅力を広めることができます。インドネシアはまた、観光インフラの整備にも積極的に取り組んでいます。観光地へのアクセスを改善し、観光客が快適に移動できる環境を整えることが観光振興に重要です。仙台市も、観光インフラの整備を進めることで観光客の利便性を向上させることができます。(次ページへ続く)</p>	<p>インドネシアの観光戦略について、今後の観光施策の推進にあたり、参考にさせていただきまます。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
299	その他	<p>例えば、観光地への直行バスやシャトルバスを運行し、公共交通機関を利用しやすくすることが考えられます。また、観光地の案内板や観光マップを多言語対応にし、外国人観光客が安心して観光を楽しむことができる環境を整えることが重要です。さらに、インドネシアは地域住民との協力を重視し、観光振興に取り組んでいます。地域住民が観光業に参加し、地域全体で観光客を受け入れる体制を整えています。仙台市も、地域住民との連携を強化する必要があります。例えば、地域住民がガイドとして観光客を案内するプログラムを導入し、地元の知識や文化を直接伝えることで観光客の満足度を高めることができます。また、地元イベントや祭りに観光客を巻き込み、地域の魅力を体験してもらうことで、地域住民と観光客との交流を促進することが考えられます。インドネシアはまた、観光教育と人材育成にも注力しています。観光業に従事するスタッフのスキル向上や外国語教育を推進し、観光客に対するサービスの質を高めることを目指しています。仙台市も、観光教育と人材育成に力を入れることで、観光業の競争力を強化することができます。具体的には、観光ガイドや宿泊施設のスタッフに対するトレーニングプログラムを実施し、接客スキルや外国語能力を向上させることが考えられます。また、観光に関する専門知識を持つ人材を育成するために、地元の大学や専門学校と連携して観光教育プログラムを提供することも重要です。さらに、インドネシアは観光資源の持続可能な利用にも配慮しています。観光地の環境保護や文化遺産の保存に努め、観光客と地元住民の双方にとって持続可能な観光を推進しています。仙台市も、持続可能な観光を実現するための取り組みを強化する必要があります。例えば、観光地の環境保護活動を推進し、ゴミの分別やリサイクルの徹底を図ることが考えられます。また、歴史的建造物や文化遺産の保存活動に地域住民や観光客が参加できるプログラムを導入し、持続可能な観光の重要性を広く啓発することが重要です。インドネシアは観光情報の提供にも工夫を凝らしています。観光客が必要とする情報を分かりやすく提供し、観光プランを立てやすくしています。仙台市も、観光情報の提供方法を改善し、観光客が情報を容易に取得できるようにすることが必要です。例えば、市内の観光案内所やインターネットを通じて、多言語対応の観光ガイドや地図を提供し、観光客がスムーズに移動できるようにすることが考えられます。また、観光情報をスマートフォンアプリやQRコードを使って提供することで、観光客がリアルタイムで最新情報を入手できるようにすることも有効です。</p> <p>インドネシアは観光地のブランディングにも成功しています。バリ島やジョグジャカルタなど、地域ごとの独自の魅力を強調し、観光客に対して明確なイメージを提供しています。仙台市も、地域ごとの魅力を際立たせるブランディング戦略を展開することで観光客の関心を引きつけることができます。例えば、松島の美しい景観や蔵王の温泉、瑞巖寺の歴史的価値など、地域ごとの特色を強調したプロモーションを行い、観光客に対して具体的な訪問先としてアピールすることが重要です。</p> <p>インドネシアは観光資源のデジタル化にも積極的に取り組んでいます。バーチャルツアーやオンラインイベントを通じて、観光地の魅力を世界中に発信しています。仙台市も、観光資源のデジタル化を進めることで、より多くの人々に仙台の魅力伝えることができます。例えば、バーチャルツアーを通じて松島や瑞巖寺の魅力を紹介し、オンラインイベントを開催して地元の文化や特産品を広めることが考えられます。また、観光客が自宅にいながら仙台市を体験できるデジタルコンテンツを提供し、訪問の意欲を高めることが重要です。</p> <p>インドネシアの観光戦略には多くの成功例があり、仙台市が観光を促進するための参考となる要素が豊富にあります。インドネシアの戦略を参考にしつつ、仙台市の観光資源を最大限に活用し、多様な観光商品やプロモーション活動、観光インフラの整備、人材育成、持続可能な観光の推進など、多角的なアプローチで観光を振興することが求められます。これにより、仙台市は観光地としての魅力を高め、国内外から多くの観光客を引き付けることができるでしょう。</p>	(P97に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
300	その他	観光コンテンツとして、以下の方法を提案いたします。まず、旅行者が年末調整のために旅行先で税務相談を受けることができるサービスを提供します。例えば、専門の税理士が宿泊施設や観光案内所で無料の税務相談ブースを設け、旅行者が滞在中に年末調整に関する質問や手続きのサポートを受けられるようにします。次に、観光地や宿泊施設が提供する特定のサービスや商品を、税金控除の対象とするキャンペーンを実施します。例えば、旅行中に購入したお土産や利用したツアー、温泉施設などの利用料金が一定額以上の場合、確定申告の際に控除できる特典を提供することで、旅行者の興味を引き、旅行の目的に付加価値を持たせることができます。さらに、観光地での消費を促進するために、一定金額以上の支出をした旅行者に対して、所得税控除の適用を受けられるようなインセンティブを提供します。例えば、観光地での宿泊費や食事代、アクティビティ費用が一定金額を超えた場合、その一部を税金の控除対象とすることで、旅行者にとっての経済的負担を軽減し、観光地での消費を増やすことが期待できます。また、地元の企業や自治体と連携し、旅行者向けに税務教育セミナーを開催します。セミナーでは、年末調整や確定申告の基礎知識から、具体的な手続き方法までを学ぶことができ、旅行者が自己の税務処理に自信を持って取り組めるよう支援します。これにより、旅行先での学びと体験を一体化させ、観光地としての魅力を高めることができます。これらの施策を通じて、旅行と税務処理を組み合わせた新しい観光コンテンツを創出し、旅行者にとって有益な体験を提供することができます。税務関連のサービスを充実させることで、旅行の目的や楽しみを広げ、観光地としての競争力を向上させることが期待できます。	ご意見として承ります。
301	その他	ガストロノミーは、食文化や料理の芸術を指す言葉です。簡単に言うと、「料理の芸術」として表現できます。これは、単に食べ物を作るだけでなく、味、見た目、香り、そして食事全体の体験を含むものです。例えば、美しい盛り付けや、食材の組み合わせによって生まれる新しい味わい、そしてそれを楽しむための雰囲気やサービスなど、すべてがガストロノミーの一部です。料理の芸術は、食べることを通じて、五感を満たし、心地よい体験を提供することを目指しています。	ご意見として承ります。
302	その他	仙台市役所へ一つお願いがございます。宿泊税の導入を検討する前に、市中心部の廃墟の改善に取り組んでいただきたいです。廃墟が存在することで、市の景観が損なわれ、観光客に対して良くない印象を与えてしまいます。また、地元住民にとっても安全性や生活環境の面で問題が生じています。廃墟を取り壊し、再開発や活用することで、仙台市の魅力を高め、観光客を呼び込むことができると考えます。例えば、新たな商業施設や文化施設、公共スペースを作ることで、地元の活性化にもつながるでしょう。これにより、観光客だけでなく、市民にとっても住みやすい環境が整うと期待できます。観光業の発展には、まず地域の魅力を最大限に引き出すことが重要です。市中心部の廃墟をどうにかしていただき、仙台市全体のイメージアップを図る施策を優先的に進めいただけると幸いです。どうぞよろしく願いいたします。	中心部の廃墟が市の景観や安全性などに与える影響について、重要な課題であると認識しております。関係局と連携を図りながら、本市の魅力向上や地域の活性化、安心・安全なまちづくりに努めてまいりたいと考えております。
303	その他	観光客が増えることによってゴミ問題が深刻化するため、観光振興策に反対する理由を具体的に説明します。観光地におけるゴミ問題は、環境や地域住民の生活に多大な影響を及ぼします。ここでは、バルセロナの事例を交えながら、その影響について詳しく述べます。まず、観光客の増加によって、観光地では大量のゴミが発生します。観光客は多くの消費活動を行い、食事やショッピング、レジャーを楽しむ中で多くのゴミを出します。特に、食べ歩きやピクニックなどのアウトドア活動が盛んな場所では、ペットボトルや食品包装、使い捨て食器などのゴミが大量に発生します。これにより、観光地周辺のゴミ箱がすぐにいっぱいになり、ゴミがあふれ出す状況が頻繁に見られます。ゴミが放置されると、衛生問題が発生し、地域住民の生活環境にも悪影響を及ぼします。次に、観光客が増えることでゴミの収集や処理にかかるコストも増大します。観光地では、通常の住民のゴミに加えて観光客のゴミも処理しなければならないため、地方自治体や清掃業者の負担が大きくなります。ゴミの収集回数を増やす必要があるため、人員や車両の増強が求められ、これに伴うコストも増加します。さらに、観光客の多くが一時的に滞在するため、ゴミの分別が徹底されないことも多く、リサイクル率が低下し、焼却処理や埋め立て処理にかかるコストが増大する傾向にあります。バルセロナの事例を見てみましょう。バルセロナは観光都市として非常に人気が高く、年間を通じて多くの観光客が訪れます。しかし、この観光客の増加により、ゴミ問題が深刻化してきました。特に、バルセロナの中心部やビーチエリアでは、観光客が大量のゴミを出し、その処理に苦慮しています。観光客が持ち込む使い捨てのプラスチック容器や、食べ残し、飲み残しなどが街中やビーチに散乱し、景観が損なわれるだけでなく、衛生環境の悪化にもつながっています。(次ページへ続く)	観光客の増加に伴うゴミ問題については、本市としても重要な課題であると認識しており、ご例示いただいたバルセロナなど、他都市の事例などを踏まえ、快適な受入環境の整備など、旅行者と地元住民の双方が快適に過ごすことができる環境づくりに努めてまいります。

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
303	その他	<p>バルセロナ市当局は、ゴミ問題に対処するために多くの対策を講じていますが、それでもなお問題は解決されていません。ゴミの収集回数を増やし、清掃スタッフの数を増やすなどの対策を取っているものの、観光客の数が増え続ける限り、ゴミの量も増え続けます。これにより、市の予算がゴミ処理に多く割かれ、本来であれば他の公共サービスに使われるべき資金が不足する状況が続いています。また、バルセロナの住民からも観光客によるゴミ問題に対する不満の声が上がっています。観光客が多いエリアでは、ゴミが散乱しているため住民の生活環境が悪化し、健康被害のリスクも増加しています。さらに、ゴミの悪臭や害虫の発生など、生活の質に直接的な影響を及ぼす問題が生じています。このように、観光客の増加は地域社会にとって大きな負担となり、ゴミ問題を解決しない限り観光振興策には反対せざるを得ません。具体的な対策としては、まず観光客に対するゴミの分別と持ち帰りの意識啓発が重要です。観光地の各所に多言語対応の分別案内板やゴミ箱を設置し、観光客に正しいゴミの処理方法を伝えることで、ゴミの発生を抑制することができます。また、使い捨てプラスチックの使用を減らすために、観光施設や飲食店でのリユース容器の利用を促進することも有効です。さらに、観光地の清掃活動に地域住民やボランティアを巻き込むことで、地域全体でゴミ問題に取り組む姿勢を示すことが重要です。定期的な清掃活動やゴミ拾いイベントを開催し、観光客にも参加を呼びかけることで、ゴミ問題への関心を高め、地域全体で解決策を見つけることができます。バルセロナの事例から学ぶべき教訓は、観光客の増加に伴うゴミ問題に対処するためには、観光客の意識を変える取り組みと地域全体での協力が重要であるということです。ゴミ問題を解決しない限り、観光振興策の推進には大きなリスクが伴います。仙台市においても、観光客の増加に伴うゴミ問題に十分な対策を講じることが求められます。観光客が増えることによってゴミ問題が深刻化し、地域住民の生活環境や地域経済に悪影響を及ぼすことを避けるため、観光振興策の前にゴミ問題への対策を徹底していただきたいと強く願います。</p>	(P99に記載)
304	その他	<p>ゴミ税を導入することにはいくつかのメリットがあります。ここでは、その具体的な利点について述べます。まず、ゴミ税は観光客だけでなく、地域住民にも適用されるため、公平性があります。宿泊税は主に観光客が負担するものであるため、観光客にとっての負担が大きくなり、観光地としての魅力を低下させる可能性があります。一方、ゴミ税は全ての人が平等に支払う税金であり、公平性が保たれます。次に、ゴミ税は環境保護に直接的な影響を与えることが期待できます。ゴミ税を導入することで、ゴミの排出量を減らすインセンティブが働きます。ゴミの分別やリサイクルが促進され、結果として廃棄物の処理コストが削減され、環境負荷が軽減されます。また、ゴミ税の収益を環境保護活動やリサイクルシステムの改善に充てることで、持続可能な社会の実現に貢献することができます。さらに、ゴミ税は収集や処理のためのコストを賄うことができます。観光客や地域住民から収集されたゴミは、適切に処理される必要がありますが、そのコストは地方自治体にとって大きな負担となります。ゴミ税を導入することで、これらのコストをカバーし、効率的なゴミ収集・処理システムを維持することができます。最後に、ゴミ税は観光客がゴミ問題の重要性を認識するきっかけとなります。旅行中にゴミ税を支払うことで、自分たちが出すゴミがどれだけ地域社会に影響を与えるかを意識するようになります。これにより、観光客のゴミの削減意識が高まり、観光地の清潔さを保つことが期待されます。以上のように、ゴミ税を導入することには多くのメリットがあります。環境保護の促進やコストのカバー、公平性の確保など、多岐にわたる利点を考慮し、ゴミ税の導入を検討する価値があると言えます。</p>	ご意見として承ります。
305	その他	<p>地域の路線バスに乗れなくなるため、観光誘致に反対する理由を述べさせていただきます。特に、京都の事例を用いて具体的に説明いたします。観光誘致は地域経済の活性化を図るための重要な施策ですが、観光客の増加がもたらす問題点も無視できません。その中でも、公共交通機関、特に路線バスの利用に関する問題は深刻です。以下に、京都の事例を参考にしながら、観光誘致に伴う問題点とそれに対する懸念を述べます。まず、京都市は日本を代表する観光都市であり、年間を通じて多くの国内外の観光客が訪れます。観光地としての魅力は非常に高く、観光客数の増加は地元経済に大きな恩恵をもたらしています。しかし、その一方で、観光客の増加がもたらす交通機関への負荷は無視できない問題です。特に、京都市内の路線バスは観光客によって非常に混雑することが多く、地元住民の日常生活に大きな影響を及ぼしています。具体的な問題点として、まず挙げられるのはバスの混雑です。観光客が多く訪れる観光シーズンや週末、祝日には、京都市内の主要な観光スポットを巡るバス路線が非常に混雑します。観光客は大きな荷物を持っていることが多く、バスの中が狭く感じられるだけでなく、乗り降りにも時間がかかります。これにより、バスの遅延が発生しやすくなり、地元住民が日常的に利用している通勤通学の足としての機能が損なわれることがあります。特に、高齢者や体の不自由な人々にとって、混雑したバスに乗ることは非常に困難であり、移動の自由が制約されることとなります。さらに、観光客の増加に伴う交通渋滞も深刻な問題です。観光客が増えるとともに、観光バスやタクシー、レンタカーなどの車両も増加します。(次ページへ続く)</p>	<p>観光客の増加に伴う路線バスの混雑や交通渋滞に関する懸念は、重要な課題であると認識しており、ご例示いただいた京都など、他都市の事例などを踏まえ、地元住民と観光客が共存できる持続可能な観光地域づくりを推進してまいります。</p>

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
305	その他	<p>これにより、京都市内の主要な観光スポット周辺の道路は常に渋滞し、バスの運行にも遅延が生じます。観光バスが停車する場所が限られているため、違法駐車が増え、さらに渋滞を悪化させることもあります。このような状況では、路線バスの運行スケジュールが乱れ、地元住民が予定通りに移動できないことが頻繁に発生します。また、観光客が増えることによって、バスの運行コストも増加します。バスの運行回数を増やす必要があるため、運転手や車両の増強が求められます。しかし、これに伴うコスト増加は地方自治体やバス会社にとって大きな負担となります。さらに、観光客の利用が一時的であるため、観光シーズン以外の期間には収益が減少し、経営の安定性が損なわれることも懸念されます。観光客による混雑の影響は、バスの利用者だけでなく、地域全体にも及びます。観光客が多く訪れるエリアでは、商店街や飲食店も混雑し、地元住民が日常的に利用する店のサービス品質が低下することがあります。特に、地元の中小企業や個人経営の店にとっては、観光客の対応に追われ、本来の顧客である地元住民へのサービスが疎かになることが懸念されます。これにより、地域住民の生活の質が低下し、観光地としての魅力が減少するリスクがあります。京都市の事例から学ぶべき教訓は、観光客の増加が地域の公共交通機関や日常生活に与える影響を十分に考慮しなければならぬということです。観光誘致によって地域経済が活性化する一方で、地元住民の生活環境が悪化するような事態は避けるべきです。観光地としての魅力を維持しつつ、地元住民の生活を守るためには、観光客と地元住民が共存できるような仕組みを構築することが重要です。具体的な対策としては、まず観光客専用のシャトルバスの運行を検討することが考えられます。観光地周辺の主要なスポットを巡る専用のシャトルバスを運行することで、観光客が通常の路線バスに乗ることを減らし、地元住民の利用を優先することができます。また、シャトルバスの運行に伴うコストは、観光税や観光客からの寄付金を活用することで賄うことができます。次に、観光客に対する交通マナーの啓発も重要です。観光地のバス停や車内に多言語対応の案内板を設置し、観光客がスムーズに乗り降りできるようにすることで、バスの遅延を防ぐことができます。また、観光客がバスの利用方法やルールを理解しやすくするために、事前に観光情報として配布することも有効です。例えば、ホテルや観光案内所で観光客向けの交通ガイドブックを提供し、バスの利用方法やマナーについて詳しく説明することで、観光客が適切に行動するよう促すことができます。さらに、観光客が増えるエリアの交通インフラを整備することも必要です。観光地周辺の道路を拡張したり、駐車場を増設したりすることで、交通渋滞を緩和し、バスの運行がスムーズに行えるようにすることが重要です。特に、観光バスの停車場所を確保し、違法駐車を防ぐための対策を講じることで、交通混雑を防ぐことができます。また、観光地にアクセスするための公共交通機関を強化し、観光客が車を使わずに移動できる環境を整えることも有効です。地域住民の視点を重視し、観光客と地元住民が共存できるような観光振興策を実施することが求められます。観光客の増加によって路線バスが利用しづらくなることで、地元住民の日常生活に悪影響が及ぶことは避けるべきです。観光誘致は地域経済の活性化に寄与する一方で、その影響を最小限に抑えるための対策を講じることが重要です。観光客と地元住民が共に快適に過ごせる環境を整えるために、観光客専用の交通手段の導入や交通マナーの啓発、交通インフラの整備など、具体的な施策を実施することが求められます。京都市の事例を参考にし、地域の路線バスが利用しやすく、地元住民の生活を守るための観光振興策を考慮することが重要です。観光客の増加が地域全体に及ぼす影響を十分に理解し、バランスの取れた施策を実施することで、観光地としての魅力を維持しつつ、地元住民の生活環境を守ることができます。観光誘致に際しては、地域の公共交通機関への影響を考慮し、地元住民と観光客が共存できる仕組みを構築することが求められます。観光客の増加に伴うゴミ問題や交通渋滞のリスクを最小限に抑えるための対策を講じることで、地域全体の発展を目指すことができます。地域住民の生活を第一に考えた観光振興策を進めることが重要です。観光客の増加が地元住民にとって負担とならないよう、バスの混雑や交通渋滞、ゴミ問題に対する具体的な対策を講じる必要があります。具体的には、観光客専用の交通手段の導入を検討することが挙げられます。例えば、観光シーズンや週末に限定して観光専用のシャトルバスを運行し、観光スポットを効率的に巡ることができるようにします。これにより、観光客が通常の路線バスを利用することを減らし、地元住民の通勤通学の足としてのバス利用を確保することができます。また、観光専用バスの運行コストは、観光税や観光客からの寄付金などを活用して賄うことができます。さらに、観光地周辺の交通インフラを整備することで、交通渋滞を緩和することも重要です。観光バスの停車場所を増設したり、駐車場を拡充したりすることで、違法駐車を減らし、バスの運行スムーズにすることができます。(次ページへ続く)</p>	(P100に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
305	その他	<p>また、観光地へのアクセスを公共交通機関で充実させ、観光客が車を使わずに移動できる環境を整えることも有効です。これにより、観光地周辺の交通渋滞を緩和し、バスの運行が遅延しないようにすることができます。また、観光客に対する交通マナーの啓発も重要です。観光地のバス停や車内に多言語対応の案内板を設置し、観光客がスムーズに乗り降りできるようにすることで、バスの遅延を防ぐことができます。また、観光客がバスの利用方法やルールを理解しやすくするために、事前に観光情報として配布することも有効です。例えば、ホテルや観光案内所で観光客向けの交通ガイドブックを提供し、バスの利用方法やマナーについて詳しく説明することで、観光客が適切に行動するよう促すことができます。地域住民の視点を重視し、観光客と地元住民が共存できるような観光振興策を実施することが求められます。観光客の増加によって路線バスが利用しづらくなることで、地元住民の日常生活に悪影響が及ぶことは避けるべきです。観光誘致は地域経済の活性化に寄与する一方で、その影響を最小限に抑えるための対策を講じることが重要です。観光客と地元住民が共に快適に過ごせる環境を整えるために、観光客専用の交通手段の導入や交通マナーの啓発、交通インフラの整備など、具体的な施策を実施することが求められます。京都市の事例を参考にし、地域の路線バスが利用しやすく、地元住民の生活を守るための観光振興策を考慮することが重要です。観光客の増加が地域全体に及ぼす影響を十分に理解し、バランスの取れた施策を実施することで、観光地としての魅力を維持しつつ、地元住民の生活環境を守ることができます。観光誘致に際しては、地域の公共交通機関への影響を考慮し、地元住民と観光客が共存できる仕組みを構築することが求められます。観光客の増加に伴うゴミ問題や交通渋滞のリスクを最小限に抑えるための対策を講じることで、地域全体の発展を目指すことができます。地域住民の生活を第一に考えた観光振興策を実施し、観光客と地元住民が共に快適に過ごせる環境を整えるためには、観光客専用のシャトルバスの運行、交通マナーの啓発、交通インフラの整備など、具体的な施策を実施することが不可欠です。さらに、地域住民の視点から見た観光振興策の検討も重要です。観光客の増加が地域住民の日常生活にどのような影響を及ぼすかを十分に考慮し、観光客と地元住民が共存できるような対策を講じる必要があります。例えば、観光地周辺のゴミ問題に対処するため、観光客向けのゴミ箱を増設し、ゴミの分別を促進するための案内板を設置することが考えられます。また、観光客が利用する公共施設やトイレの清掃を徹底し、清潔な環境を維持することも重要です。京都市の事例から学ぶべき教訓は、観光客の増加が地域の公共交通機関や日常生活に与える影響を十分に考慮しなければならないということです。観光誘致によって地域経済が活性化する一方で、地元住民の生活環境が悪化するような事態は避けるべきです。観光地としての魅力を維持しつつ、地元住民の生活を守るためには、観光客と地元住民が共存できるような仕組みを構築することが重要です。具体的な対策としては、まず観光客専用のシャトルバスの運行を検討することが考えられます。観光地周辺の主要なスポットを巡る専用のシャトルバスを運行することで、観光客が通常の路線バスに乗ることを減らし、地元住民の利用を優先することができます。また、シャトルバスの運行に伴うコストは、観光税や観光客からの寄付金を活用することで賄うことができます。次に、観光客に対する交通マナーの啓発も重要です。観光地のバス停や車内に多言語対応の案内板を設置し、観光客がスムーズに乗り降りできるようにすることで、バスの遅延を防ぐことができます。また、観光客がバスの利用方法やルールを理解しやすくするために、事前に観光情報として配布することも有効です。例えば、ホテルや観光案内所で観光客向けの交通ガイドブックを提供し、バスの利用方法やマナーについて詳しく説明することで、観光客が適切に行動するよう促すことができます。地域住民の視点を重視し、観光客と地元住民が共存できるような観光振興策を実施することが求められます。観光客の増加によって路線バスが利用しづらくなることで、地元住民の日常生活に悪影響が及ぶことは避けるべきです。観光誘致は地域経済の活性化に寄与する一方で、その影響を最小限に抑えるための対策を講じることが重要です。観光客と地元住民が共に快適に過ごせる環境を整えるためには、観光客専用の交通手段の導入や交通マナーの啓発、交通インフラの整備など、具体的な施策を実施することが求められます。観光誘致によって地域の公共交通機関や日常生活に悪影響が及ぶことがないよう、地元住民と観光客が共存できる環境を整えるための具体的な対策を講じることが重要です。観光地としての魅力を維持しつつ、地元住民の生活環境を守るために、観光客専用の交通手段の導入や交通マナーの啓発、交通インフラの整備など、具体的な施策を実施することが求められます。観光客の増加（※原文のとおり）</p>	(P100に記載)

No.	分類	観光戦略(中間案)に対する意見	仙台市の考え方
306	その他	観光客を増やす1.美味しいアイスクリームのお店をたくさん作る2.楽しい遊園地をもっと増やす3.おもしろいお化け屋敷を作る4.大きなプールを作る5.人気のあるキャラクターのショーをする6.きれいな花畑を作る7.自然がたっぷりの公園を作る8.特別なイベントやお祭りを開催する9.かわいい動物とふれあえる場所を作る10.海で遊べるアクティビティを増やす11.ホテルが見られる場所を作る12.大きな観覧車を作る13.有名なランドマークを作る14.歴史を学べる博物館を作る15.大きな図書館を作る16.子どもたちが楽しめるワークショップを開催する17.おもしろいサイエンスショーをする18.コンサートを開催する19.スポーツイベントを開催する20.手作り体験ができる場所を作る21.美味しいレストランを増やす22.大きな水族館を作る23.きれいなキャンプ場を作る24.星がよく見える場所を作る25.山登りが楽しめる場所を作る26.きれいな温泉を増やす27.ジャングルジムや滑り台がある公園を作る28.ゲームセンターを作る29.おもしろいミニゴルフ場を作る30.ドローンで遊べる場所を作る31.ビーチパーティーを開催する32.釣りができる場所を作る33.ゴーカート場を作る34.おしゃれなカフェを作る35.バーベキューができる場所を増やす36.おいしいスイーツフェスティバルを開催する37.素敵な景色が見られる場所を作る38.やさしいガイドツアーをする39.クイズラリーを開催する40.キッズクラフトを開催する41.かっこいい自転車レンタルをする42.昔ながらの遊びを体験できる場所を作る43.おもしろい迷路を作る44.夜にライトアップする場所を作る45.スケートリンクを作る46.楽しいお土産屋さんを増やす47.おしゃれなフードトラックを増やす48.ハイキングコースを作る49.自然の中でピクニックできる場所を作る50.きれいな写真が撮れる場所を増やす	ご意見として承ります。
307	その他	混浴風呂を増やすことで、地域の交流人口を拡大させる提案をさせていただきます。まず、混浴風呂は観光客や地元住民と一緒に楽しむことができる貴重な場所です。異なる世代や文化背景の人々が同じ空間でリラックスしながら交流する機会を提供します。これにより、地域全体のつながりが強まり、人と人との絆が深まります。次に、混浴風呂の増設は観光地としての魅力を高める要素となります。他の地域にはないユニークな体験を提供することで、多くの観光客を引き寄せることができます。特に、自然に囲まれた温泉地での混浴風呂は、訪れる人々にとって特別な思い出となり、リピーターを増やす効果も期待できます。さらに、混浴風呂を通じて地域経済の活性化が図れます。観光客の増加に伴い、宿泊施設や飲食店、地元のショップの利用が増え、経済効果が波及します。また、混浴風呂の運営に関わる雇用も生まれ、地域全体の雇用創出にも寄与します。また、混浴風呂は外国人観光客にも魅力的です。日本の温泉文化を体験することができる場所として、海外からの観光客にも人気があります。観光客が増えることで、地域の国際的な知名度が向上し、さらなる観光振興につながるでしょう。最後に、混浴風呂の増設は地域の伝統文化や自然資源を保護・活用する一環としても重要です。地域の特色を生かした観光資源として混浴風呂を整備することで、持続可能な観光地づくりを推進することができます。以上の理由から、混浴風呂を増設し、地域の交流人口を拡大させることを強く提案いたします。この施策により、観光地としての魅力を高め、地域全体の発展とつながりを促進することが期待されます。どうぞよろしく願いいたします。	ご意見として承ります。
308	その他	観光していく中で移動というものは時間がかかり、なんの変哲もないものだととても退屈してしまうものであります。この取組はつい退屈してしまうような移動も観光の一つとして取り入れており、ロープウェイや歩行者にも感動を与えられる花や緑、海と施設との爽快感抜群な景色など人の心を掴んでいるのでとても素晴らしいと思います。車の方でも千代大橋といった綺麗で大きな橋がかかっており、移動している全ての人を思っていると感じました。	いただいたご意見は、今後の観光振興の参考にさせていただきます。
309	その他	仙台市寒いのでアーケードの無い部分もアーケードにし、暖房もつけてください。 また、ドーム球場にしてください。	ご意見として承ります。